板橋区障がい者実態調査

調査報告書

令和５年３月

板　橋　区

目　次

第１章　調査の概要 ･･ 1

１　調査目的 ･･ 3
２　調査対象 ･･ 3
３　調査期間 ･･ 3
４　調査方法 ･･ 3
５　回収状況 ･･ 3
６　調査結果を見る上での注意事項 ･･････････････････････････････････ 4

第２章　調査結果の詳細 ･･ 5

Ⅰ．障がい者 ･･ 7
１　基本属性 ･･ 7
（１）回答者 ･･ 7
（２）性別 ･･ 8
（３）年齢 ･･ 9
（４）居住形態 ･･･ 10
２　あなたの障がいの状況について ･････････････････････････････････ 11
（１）障がい種別 ･･･ 11
（２）高次脳機能障がいの関連障がい ･･･････････････････････････････ 12
（３）障がい手帳の種別 ･･･ 13
（４）「障害支援（程度）区分」の認定の有無 ･････････････････････････ 17
（５）障がいについての相談のきっかけ ･････････････････････････････ 19
３　介助・支援の状況について ･････････････････････････････････････ 20
（１）日常生活での介助・支援の有無 ･･･････････････････････････････ 20
（２）主な介助・支援者 ･･･ 21
（３）主な介助・支援者不在の際の代理者 ･･･････････････････････････ 22
（４）医療的ケアの必要性の有無 ･･･････････････････････････････････ 23
４　相談や情報入手の状況について ･････････････････････････････････ 24
（１）悩みや心配事の相談先 ･･･････････････････････････････････････ 24
（２）相談先の認知状況 ･･･ 25
（３）気軽に相談するために必要なこと ･････････････････････････････ 26
（４）障がい支援に関する情報の入手先 ･････････････････････････････ 27
（５）相談でのコミュニケーションや情報取得の際の困りごと ･････････ 28
５　障がい福祉サービスについて ･･･････････････････････････････････ 29
（１）障がい福祉サービスの利用の有無 ･････････････････････････････ 29

（２）障がい福祉サービスが必要な状況 ･･ 30
（３）相談支援事業所への相談経験 ･･ 31
（４）サービス等利用計画の満足度 ･･ 32
（５）相談支援事業所を利用していない理由 ･･････････････････････････････････････ 33
（６）障がい福祉サービスの利用状況・利用意向 ･･････････････････････････････････ 34
（７）介護保険サービスの利用の有無 ･･ 36
（８）該当する支援・介護度 ･･ 37
６　日中の過ごし方について ･･ 38
（１）平日の日中の過ごし方 ･･ 38
（２）園や学校生活での困りごと ･･ 39
（３）学校教育に望むこと ･･ 40
（４）今後３年以内に希望する暮らし ･･ 41
（５）希望する暮らしのために必要な支援 ･･････････････････････････････････････ 42
７　就労の状況について ･･ 43
（１）収入を伴う仕事の状況 ･･ 43
（２）仕事の形態 ･･ 44
（３）仕事上での困りごと ･･ 45
（４）仕事をしていない理由 ･･ 46
（５）障がいのある人の就労支援として必要なこと ･･････････････････････････････ 47
８　外出や余暇の過ごし方について ･･ 48
（１）１週間の外出頻度 ･･ 48
（２）外出する際の主な同伴者 ･･ 49
（３）一人で外出できない場合の外出手段 ･･････････････････････････････････････ 50
（４）外出する目的 ･･ 51
（５）外出の際の困りごと ･･ 52
（６）地域の人との交流 ･･ 53
９　災害時の避難などについて ･･ 54
（１）災害時に一人での避難の可否 ･･ 54
（２）一人でいるときの近所の支援者の有無 ････････････････････････････････････ 55
（３）災害時の困りごと ･･ 56
10　差別や権利擁護などについて ･･ 57
（１）障がい者差別の経験 ･･ 57
（２）差別を受けた場面（具体的内容） ･･ 58
（３）障がいのある人への区民の対応や理解度 ･･････････････････････････････････ 61
（４）「障害者差別解消法」の認知度 ･･ 62
（５）共生社会の実現のために力を入れるべきこと ･･････････････････････････････ 63
（６）「成年後見制度」の認知度 ･･ 64
（７）自由意見 ･･ 65

Ⅱ．障がい児 …… 73
1　基本属性 …… 73
（1）回答者 …… 73
（2）性別 …… 74
（3）年齢 …… 75
（4）居住形態 …… 76
2　あなたの障がいの状況について …… 77
（1）障がい種別 …… 77
（2）高次脳機能障がいの関連障がい …… 78
（3）障がい手帳の種別 …… 79
（4）重症心身障がいの認定の有無 …… 83
（5）「障害支援(程度)区分」の認定の有無 …… 84
（6）障がいについての相談のきっかけ …… 86
3　介助・支援の状況について …… 87
（1）日常生活での介助・支援の有無 …… 87
（2）主な介助・支援者 …… 88
（3）主な介助・支援者不在の際の代理者 …… 89
（4）医療的ケアの必要性の有無 …… 90
4　相談や情報入手の状況について …… 91
（1）悩みや心配事の相談先 …… 91
（2）相談先の認知状況 …… 92
（3）気軽に相談するために必要なこと …… 93
（4）障がい支援に関する情報の入手先 …… 94
（5）相談でのコミュニケーションや情報取得の際の困りごと …… 95
5　障がい福祉サービスについて …… 96
（1）障がい福祉サービスの利用の有無 …… 96
（2）障がい福祉サービスが必要な状況 …… 97
（3）相談支援事業所への相談経験 …… 98
（4）サービス等利用計画の満足度 …… 99
（5）相談支援事業所を利用していない理由 …… 100
（6）障がい福祉サービスの利用状況・利用意向 …… 101
6　日中の過ごし方について …… 103
（1）平日の日中の過ごし方 …… 103
（2）園や学校生活での困りごと …… 104
（3）学校教育に望むこと …… 105
（4）今後３年以内に希望する暮らし …… 106
（5）希望する暮らしのために必要な支援 …… 107
7　就労の状況について …… 108
（1）障がいのある人の就労支援として必要なこと …… 108

８　外出や余暇の過ごし方について ･･ 109
（１）１週間の外出頻度 ･･ 109
（２）外出する際の主な同伴者 ･･ 110
（３）一人で外出できない場合の外出手段 ･･････････････････････････････････････ 111
（４）外出する目的 ･･ 112
（５）外出の際の困りごと ･･ 113
（６）地域の人との交流 ･･ 114
９　災害時の避難などについて ･･ 115
（１）災害時に一人での避難の可否 ･･ 115
（２）一人でいるときの近所の支援者の有無 ･･････････････････････････････････････ 116
（３）災害時の困りごと ･･ 117
10　差別や権利擁護などについて ･･ 118
（１）障がい者差別の経験 ･･ 118
（２）差別を受けた場面（具体的内容） ･･ 119
（３）障がいのある人への区民の対応や理解度 ･･････････････････････････････････ 121
（４）「障害者差別解消法」の認知度 ･･ 122
（５）共生社会の実現のために力を入れるべきこと ･･････････････････････････････ 123
（６）「成年後見制度」の認知度 ･･ 124
（７）自由意見 ･･ 125

Ⅲ．一般区民 ･･ 132
１　基本属性 ･･ 132
（１）性別 ･･ 132
（２）年齢 ･･ 132
（３）職業 ･･ 133
２　障がい福祉への関心について ･･ 133
（１）障がいのある知り合いの有無 ･･ 133
（２）障がいのある人との活動経験 ･･ 134
（３）一緒に活動した際に感じたこと ･･ 135
（４）福祉ボランティア活動への関心度 ･･ 137
（５）福祉ボランティア活動経験の有無 ･･ 137
（６）福祉ボランティア活動の内容 ･･ 138
（７）福祉ボランティア活動をしていない理由 ･･････････････････････････････････ 138
（８）共生社会の実現のために力を入れるべきこと ･･････････････････････････････ 139
３　障がいのある人への教育・就労などについて ･･････････････････････････････････ 139
（１）障がいのある児童・生徒の教育に必要なこと ･･････････････････････････････ 139
（２）障がいのある人の就労に必要な条件 ･･････････････････････････････････････ 140
４　障がいのある人に対する理解について ･･ 140
（１）「障害者虐待防止法」の認知度 ･･ 140

（２）「障害者差別解消法」の認知度 ･･･ 141
（３）差別や偏見の見聞きの有無 ･･･ 141
（４）障がいのある人への区民・地域の対応や理解度 ･････････････････････････････ 142
（５）障がいなどに関する法律や条例の認知度 ･････････････････････････････････ 143
（６）手話を学ぶ意欲の有無 ･･･ 143
（７）手話の学習方法 ･･･ 144
（８）手話を学びたいと思わない理由 ･･･ 144
５　まちの環境や福祉施策について ･･･ 145
（１）障がい者施策において区に求めること ･･･････････････････････････････････ 145
（２）自由意見 ･･･ 146

第１章　調査の概要

１　調査目的

令和６年度を計画始期とする板橋区障がい者計画・板橋区障がい福祉計画（第７期）・障がい児福祉計画（第３期）の策定に先立ち、障がい者の生活実態、生活自立度、障がいサービスの利用状況、障がいサービスに対する認知度・意識等を調査し、基礎資料とするため、調査を実施しました。

２　調査対象

板橋区在住の障がい者、障がい児の方を中心に、区民の方を無作為抽出6,000件

＜対象者内訳＞

① 身体障がい者(医療的ケア児含む)　：　2,250 件
② 知的障がい者(児)　：　1,050 件
③ 精神障がい者(児)　：　800 件
④ 難病患者　：　700 件
⑤ 発達障がい者支援センター
（あいポート）利用者　：　100 件
⑥ 児童発達支援事業所利用者　：　100 件
⑦ 一般区民　：　1,000 件

３　調査期間

令和４年９月７日（水）～９月30日（金）

４　調査方法

郵送及びインターネットによるアンケート調査

５　回収状況

調査区分	標本数(件)	有効回収数(件)		有効回収率
障がい児・者	5,000	2,148	（内訳）郵　送：1,618 Ｗｅｂ：530	43.0%
一般区民	1,000	338	（内訳）郵　送：243 Ｗｅｂ：95	33.8%

６　調査結果を見る上での注意事項

①本調査の回答者として取り扱う障がい者及び障がい児については、以下の回答をもとに抽出しています。

①障がい者……年齢を 18 歳以上と回答　かつ　障がい種別を回答した対象者 1,751 名
②障がい児……年齢を 17 歳以下と回答　かつ　障がい種別を回答した対象者 359 名

②本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数です。
③百分率（％）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示しました。したがって、単数回答（１つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合があります。
④複数回答（２つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合があります。
⑤本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
⑥グラフにおいて、結果が0.0％のものは非表示としています。
⑦回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中ではふれていない場合があります。
⑧本文中では、調査結果の数値は「％」、比較によるパーセントの差は「ポイント」という単位で表記をしています。
⑨統計数値を考察するにあたっては、傾向をまとめて表現する場合には、おおむね以下のとおりにしています。

例	表現
17.0～19.9％	約２割
20.0～20.9％	２割
21.0～22.9％	２割を超える
23.0～26.9％	２割台半ば
27.0～29.9％	約３割

⑩本報告書内では、幼稚園・保育施設・認定こども園のことを総称して「園」といいます。
⑪本報告書内で表記する「障がい種別」は以下のとおりです。

身体障がい	視覚、聴覚、平衡機能、音声・言語・そしゃく機能、肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）、内部（内臓など）の障がい
知的障がい	知的発達の遅れによる社会生活上の適応行動の障がい
発達障がい	自閉スペクトラム症、学習障がい（ＬＤ）、注意欠陥・多動症（ＡＤＨＤ）などの脳機能障がい
精神障がい	精神機能の障がいや精神疾患による障がい
高次脳機能障がい	事故や病気などにより脳に損傷を受けた後遺症による記憶、注意、社会的行動といった認知機能の障がい
難病（特定疾病）	治し方がわからないなど、治療研究等を国が主導で進める必要がある難治性の疾病

第２章　調査結果の詳細

Ⅰ．障がい者

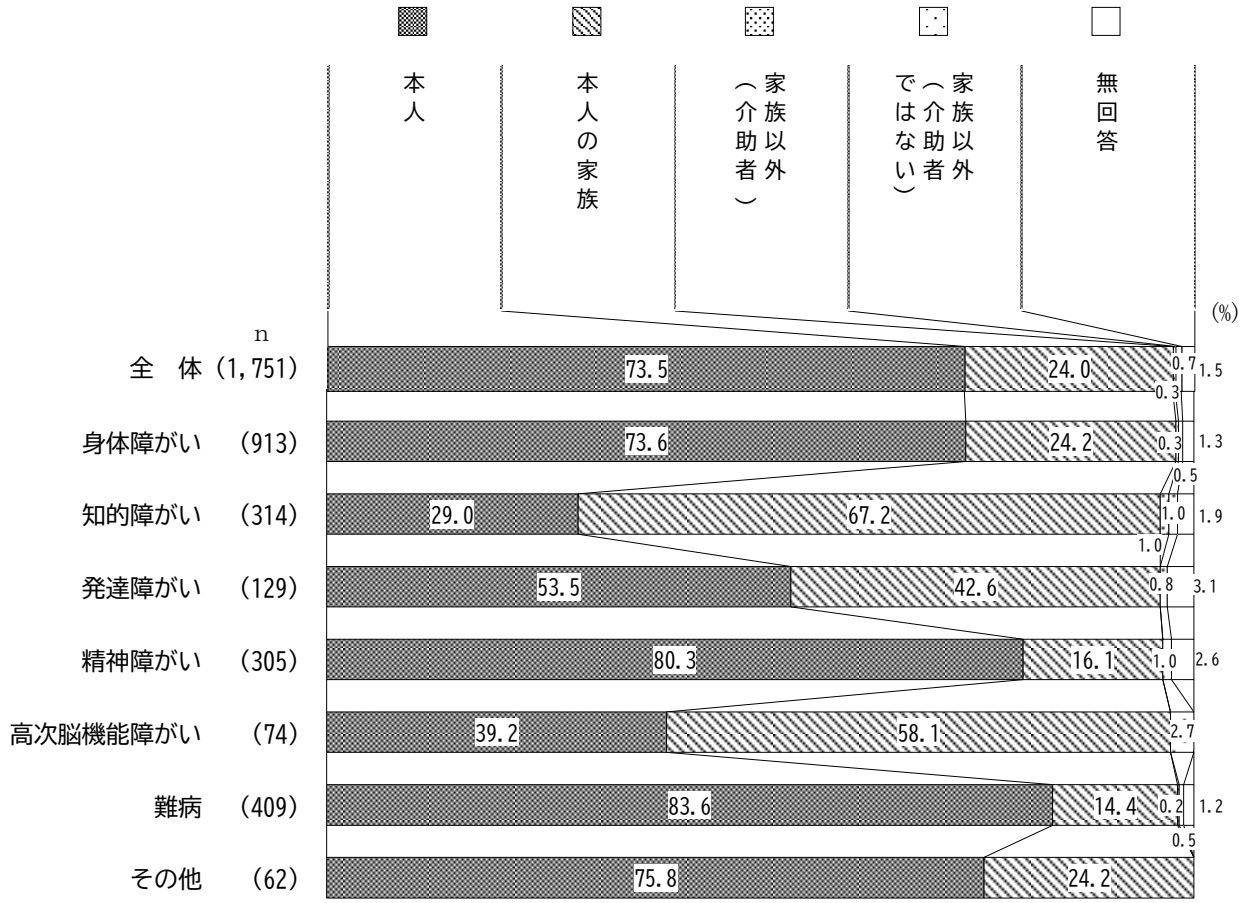
１　基本属性

（１）回答者

問１　お答えいただくのはどなたですか。（○は１つ）

調査票の回答者は、全体で「本人」が最も高く73.5％となっています。

障がい種別でみると、「本人」は難病（83.6％）、精神障がい（80.3％）が８割台、身体障がいが73.6％、発達障がいが53.5％となっています。一方、「本人の家族」は知的障がいが67.2％と最も高く、次いで高次脳機能障がいが58.1％となっています。

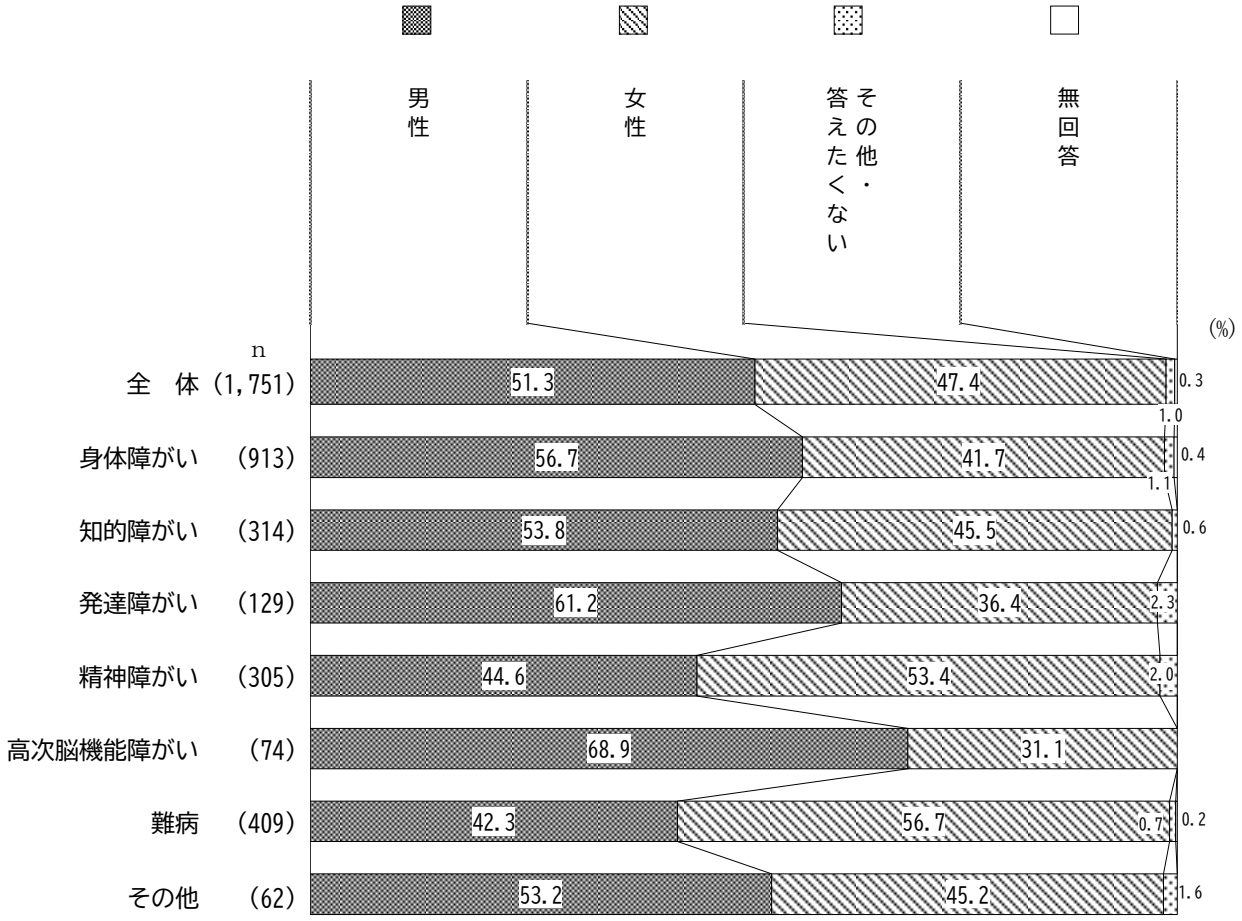


（２）性別

問２　あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

性別は、全体で「男性」が51.3%、「女性」が47.4%となっています。

障がい種別で全体と比較すると、「男性」は高次脳機能障がい（68.9%）と発達障がい（61.2%）と身体障がい（56.7%）と知的障がい（53.8%）、「女性」は難病（56.7%）と精神障がい（53.4%）が高くなっています。

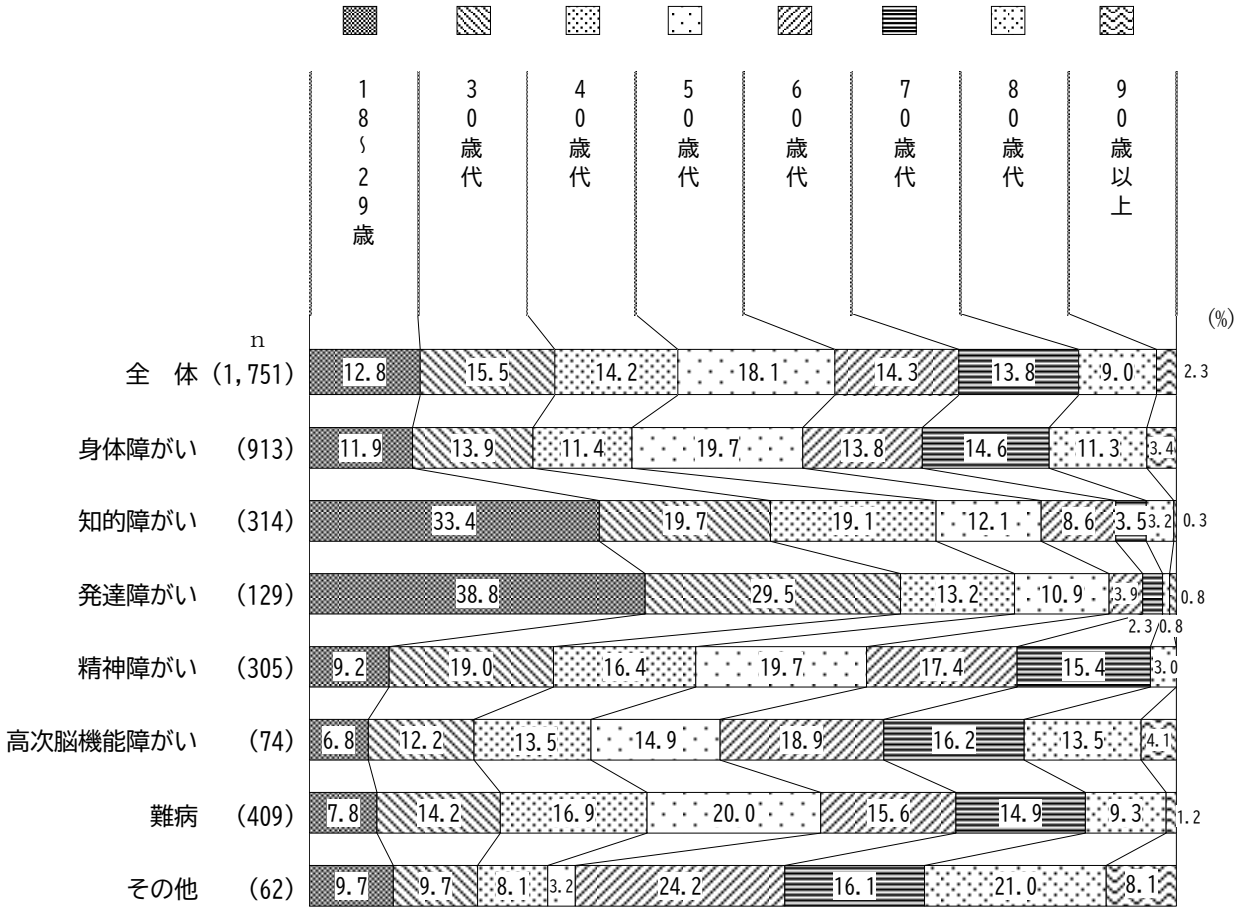


（３）年齢

問３　あなたの年齢（令和４年９月１日時点）をお答えください。（○は１つ）

年齢は、全体で「50歳代」が18.1％と最も高く、次いで「30歳代」が15.5％となっています。

障がい種別でみると、身体障がいでは「50歳代」が19.7％と高く、50歳以上を足すと62.8％と過半数になります。知的障がいと発達障がいでは「18～29歳」「30歳代」の若年層、精神障がいでは30歳以上、難病では40歳以上、高次脳機能障がいでは60歳以上の年齢層が高くなっています。

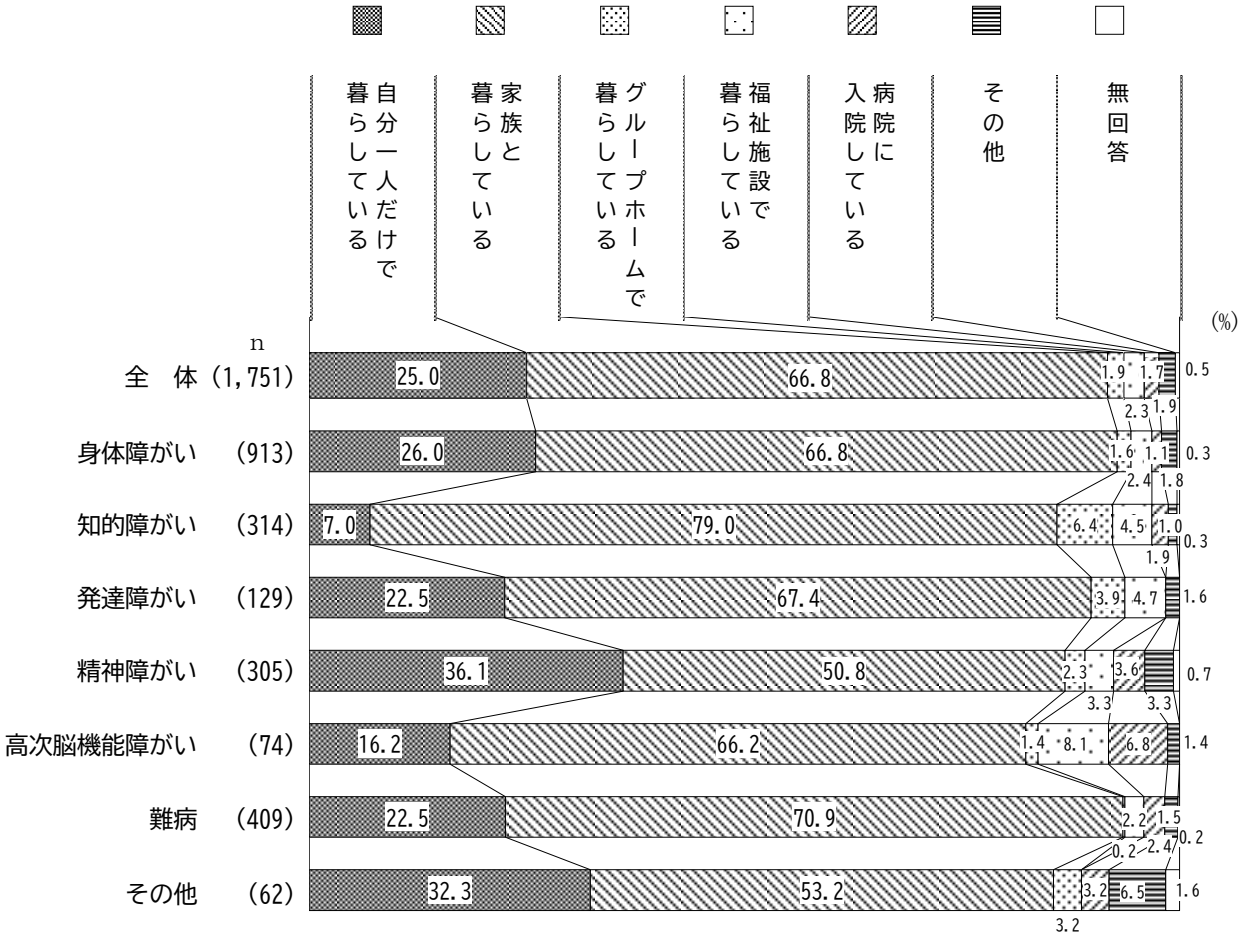


（４）居住形態

問４　あなたは現在、どのように暮らしていますか。（○は１つ）

居住形態は、全体で「家族と暮らしている（配偶者、子ども、父母、兄弟姉妹など）」が66.8％と最も高く、次いで「自分一人だけで暮らしている」が25.0％となっています。

障がい種別でみると、「家族と暮らしている（配偶者、子ども、父母、兄弟姉妹など）」はいずれの障がい種別でも５割以上と高く、特に知的障がいでは79.0％を占めています。一方、「自分一人だけで暮らしている」は精神障がいで36.1％と３分の１を超えています。



２　あなたの障がいの状況について

（１）障がい種別

問５　あなたの障がいは何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

障がい種別は、全体で「身体障がい」の「肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）」が24.8％と最も高く、次いで「難病」が23.4％、「知的障がい」が17.9％、「精神障がい」が17.4％となっています。

複数の障がいがあると回答した人で、「身体障がい」、「発達障がい」があると回答した人では、「知的障がい」もある人の割合が高くなっています。「知的障がい」、「高次脳機能障がい」、「難病」があると回答した人では、「身体障がい」もある人の割合が高くなっています。「精神障がい」があると回答した人では、「発達障がい」もある人の割合が高くなっています。

(%)

障がい種別 ＼ 複数の障がい種別とその内訳	調査数（n）	身体障がい	（内訳）視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）	内部障がい（内臓などの障がい）	知的障がい	発達障がい	精神障がい	高次脳機能障がい	難病（特定疾病）	その他
全　体	1,751 100.0	52.1	5.7	6.7	1.7	3.2	24.8	17.2	17.9	7.4	17.4	4.2	23.4	3.5
身体障がい	913 100.0		11.0	12.9	3.2	6.1	47.6	33.1	11.3	2.7	3.9	5.9	10.7	1.3
知的障がい	314 100.0	32.8	5.1	3.8	1.6	6.4	25.8	2.2		17.2	10.8	2.2	4.5	2.5
発達障がい	129 100.0	19.4	6.2	3.9	3.1	7.0	13.2	3.1	41.9		30.2	3.1	7.0	－
精神障がい	305 100.0	11.8	3.0	2.0	1.6	2.0	5.9	2.3	11.1	12.8		2.3	6.2	2.3
高次脳機能障がい	74 100.0	73.0	9.5	12.2	12.2	20.3	45.9	8.1	9.5	5.4	9.5		17.6	－
難病	409 100.0	24.0	3.9	2.4	2.4	2.4	12.2	7.3	3.4	2.2	4.6	3.2		0.7
その他	62 100.0	19.4	－	－	－	3.2	12.9	4.8	12.9	－	11.3	－	4.8	

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（２）高次脳機能障がいの関連障がい

【問５で「高次脳機能障がい」と答えた方におうかがいします。】
問６　その関連障がいをお答えください。（あてはまるものすべてに〇）

高次脳機能障がいの関連障がいは、全体で「肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）」が54.1％と最も高く、次いで「認知障がい」が41.9％、「音声・言語・そしゃく機能障がい」が36.5％となっています。

（％）

	調査数（ｎ）	視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）	内部障がい（内臓などの障がい）	認知障がい	その他	無回答
全　　体	74 100.0	12.2	10.8	16.2	36.5	54.1	5.4	41.9	2.7	－

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（３）障がい手帳の種別

問７　あなたがお持ちの手帳の種類と等級はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

持っている障がい手帳の種別は、全体で「身体障害者手帳」が57.3％と最も高く、次いで「愛の手帳（療育手帳）」が18.9％、「精神障害者保健福祉手帳」が16.6％となっています。一方、「手帳は持っていない」は14.0％となっています。

障がい種別でみると、身体障がいは「身体障害者手帳」の保持に加え「愛の手帳（療育手帳）」が11.3％となっています。

知的障がいは「愛の手帳（療育手帳）」の保持に加え「身体障害者手帳」が35.0％となっています。

発達障がいは「愛の手帳（療育手帳）」と「精神障害者保健福祉手帳」がそれぞれ47.3％と高くなっています。

精神障がいは「精神障害者保健福祉手帳」の保持に加え「身体障害者手帳」（13.8％）、「愛の手帳（療育手帳）」（12.8％）が１割強となっています。

高次脳機能障がいは「身体障害者手帳」が83.8％と高い一方、難病は「手帳は持っていない」と答えた人が過半数となっています。

（％）

障がい種別＼手帳の種別	調査数（n）	身体障害者手帳	愛の手帳（療育手帳）	精神障害者保健福祉手帳	手帳は持っていない	無回答
全　　体	1,751 100.0	57.3	18.9	16.6	14.0	1.8
身体障がい	913 100.0	95.5	11.3	3.3	1.6	1.0
知的障がい	314 100.0	35.0	92.7	6.1	0.3	0.6
発達障がい	129 100.0	17.1	47.3	47.3	3.9	0.8
精神障がい	305 100.0	13.8	12.8	80.0	2.0	1.0
高次脳機能障がい	74 100.0	83.8	13.5	17.6	4.1	－
難病	409 100.0	35.9	3.7	3.2	56.0	5.1
その他	62 100.0	77.4	17.7	11.3	8.1	1.6

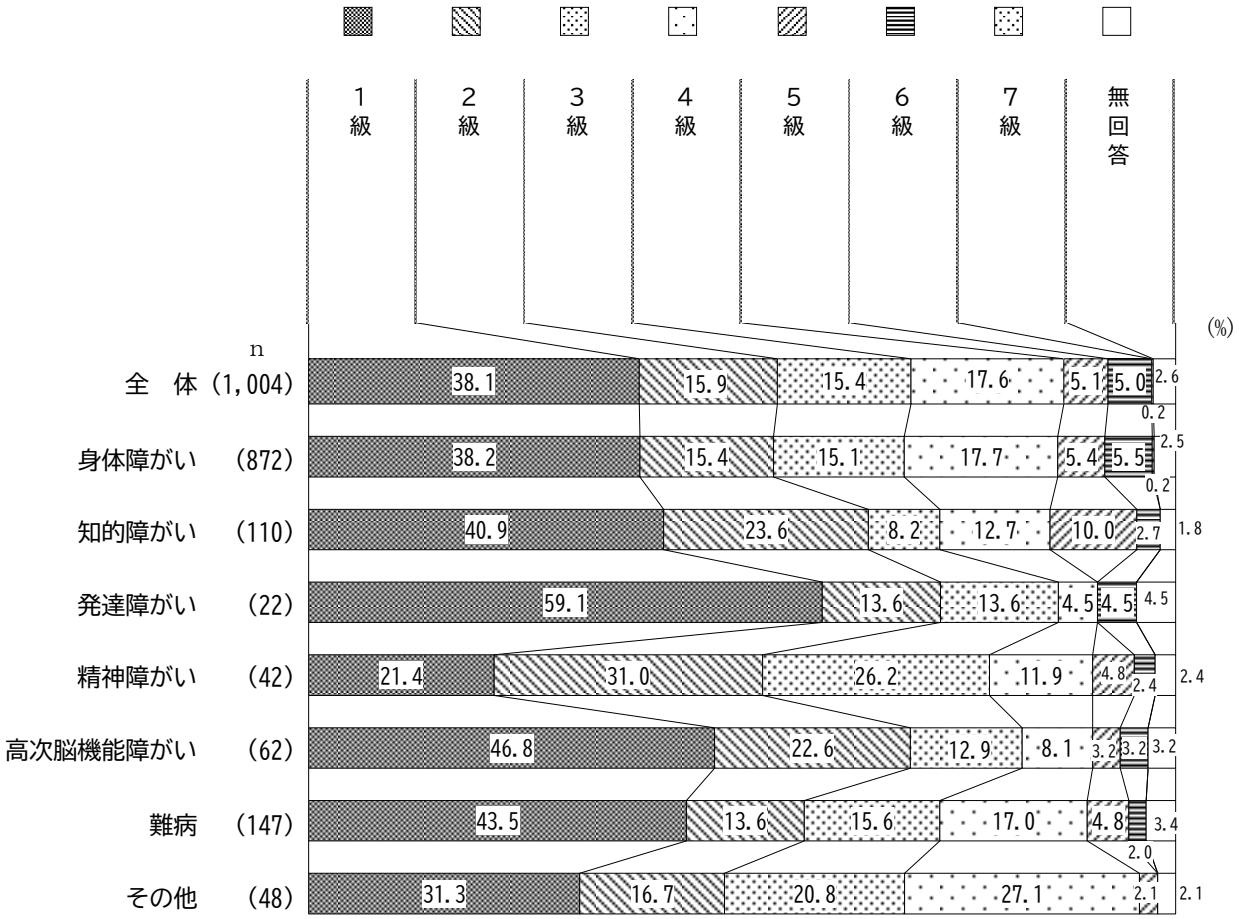
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

身体障害者手帳の等級

身体障害者手帳の等級は、全体で「１級」が38.1％と最も高く、次いで「４級」が17.6％、「２級」が15.9％、「３級」が15.4％となっています。

障がい種別でみると、高次脳機能障がい（46.8％）、難病（43.5％）、知的障がい（40.9％）、身体障がい（38.2％）では「１級」、精神障がいでは「２級」が31.0％と最も高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、発達障がいでも「１級」が高い傾向にあります。



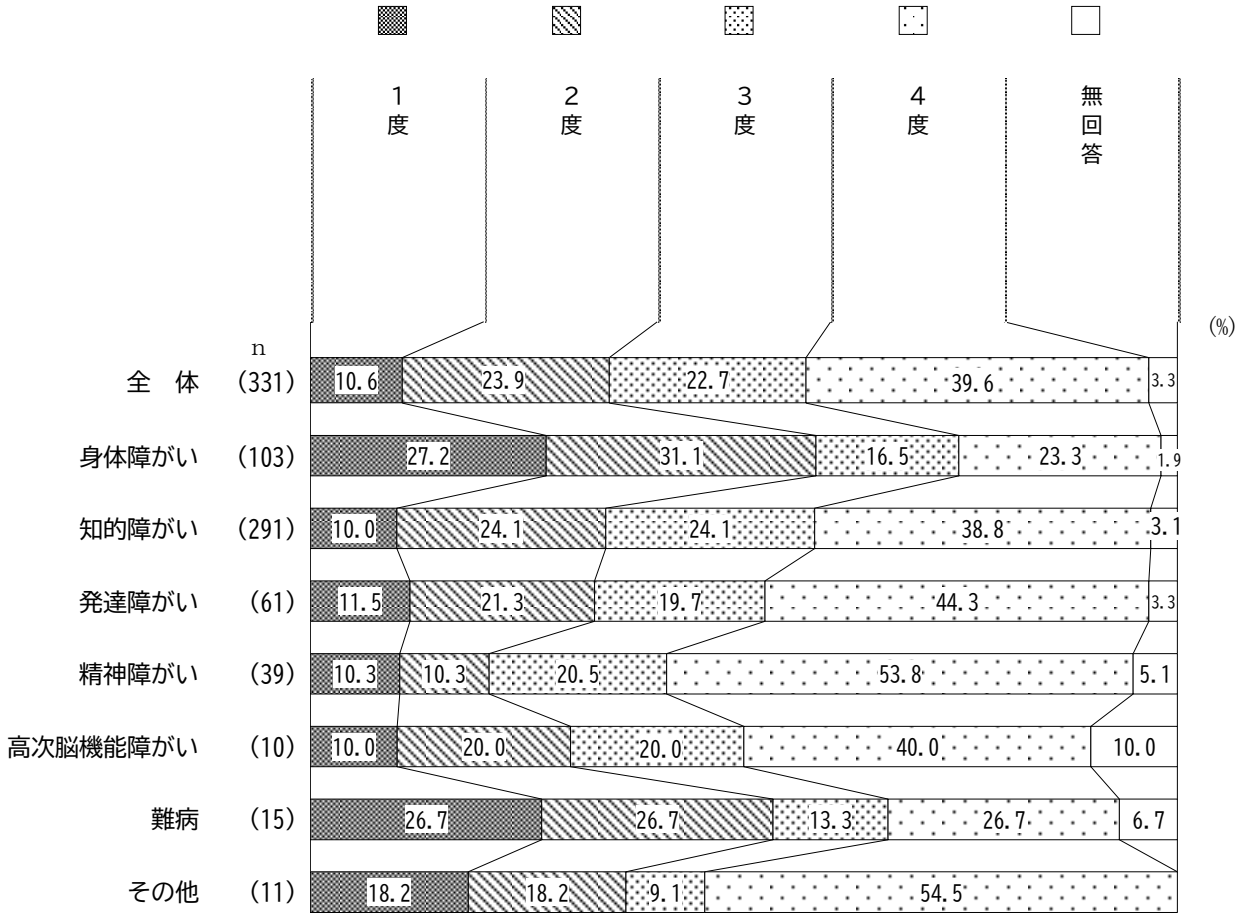
用語の説明

身体障害者手帳	身体上の障がいのある方に交付されるもので、1級から7級の等級に分類されています。等級は、1級に近いほど障がいの程度が重く、7級に近いほど障がいの程度が軽くなります。

愛の手帳（療育手帳）の等級

愛の手帳（療育手帳）の等級は、全体で「４度」が39.6％と最も高く、次いで「２度」が23.9％、「３度」が22.7％となっています。

障がい種別でみると、精神障がい（53.8％）、発達障がい（44.3％）、知的障がい（38.8％）では「４度」、身体障がいでは「２度」が31.1％と最も高くなっています。



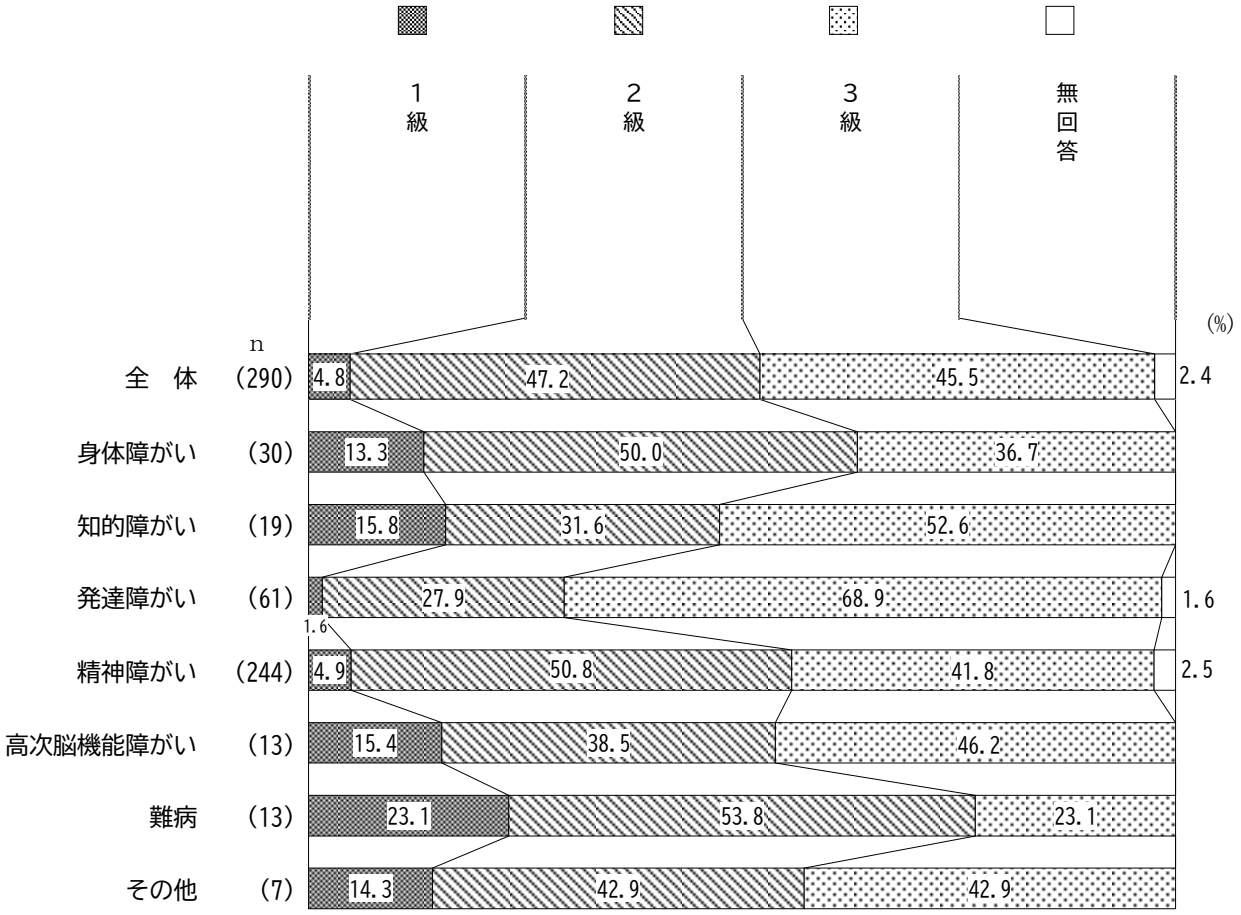
用語の説明

愛の手帳（療育手帳）	知的障がいのある方に交付されるもので、東京都の判定基準に該当する方に、障がいの程度によって1度から4度の等級に分類されます。等級は、1度に近いほど障がいの程度が重く、4度に近いほど障がいの程度が軽くなります。

精神障害者保健福祉手帳の等級

精神障害者保健福祉手帳の等級は、全体で「２級」が47.2％と最も高く、次いで「３級」が45.5％となっています。

障がい種別でみると、精神障がい（50.8％）、身体障がい（50.0％）では「２級」、発達障がいでは「３級」が68.9％と最も高くなっています。



用語の説明

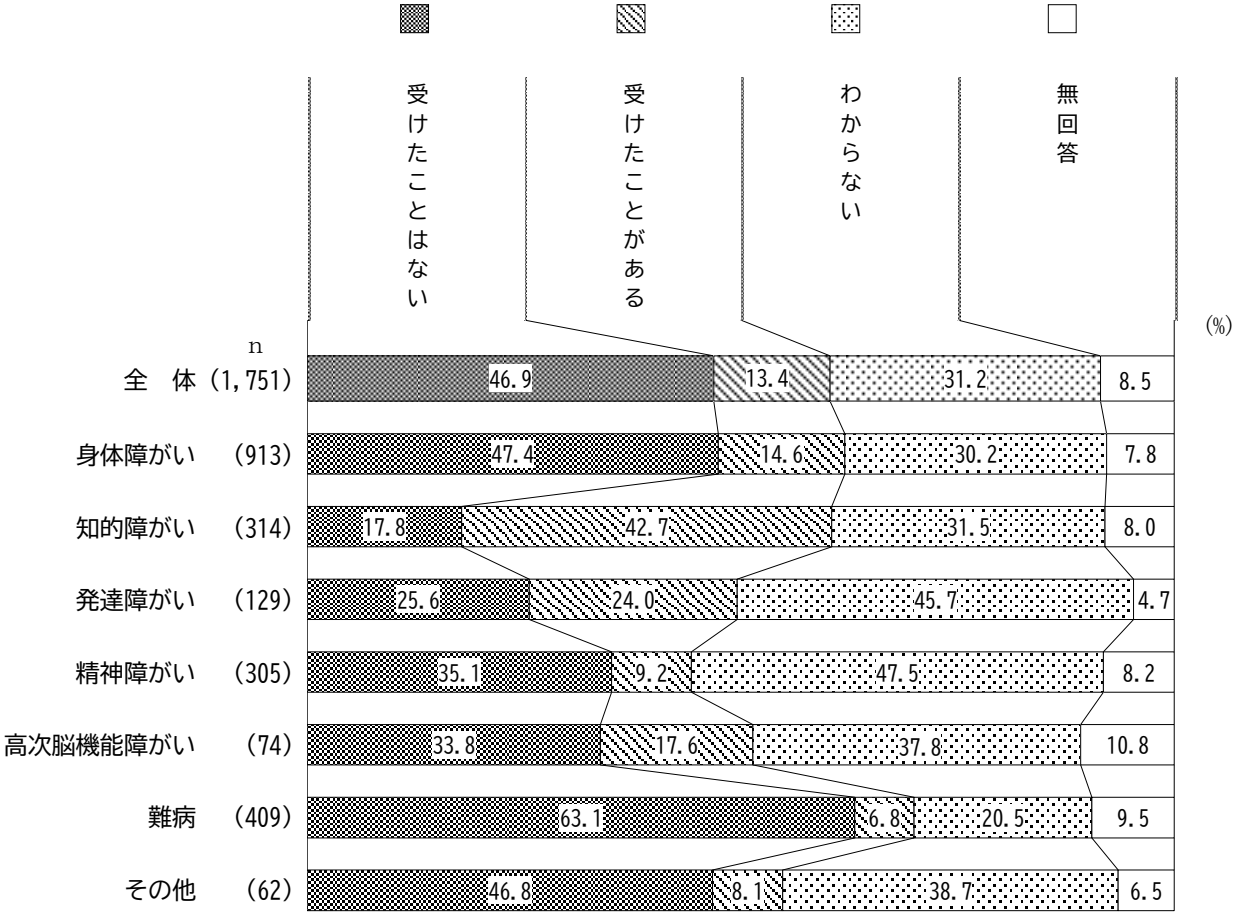
精神障害者保健福祉手帳	精神障がいのある方に交付されるもので、1級から3級の等級に分類されます。等級は、1級に近いほど障がいの程度が重く、3級に近いほど障がいの程度が軽くなります。

（４）「障害支援(程度)区分」の認定の有無

問９　あなたは、「障害支援(程度)区分」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、一番直近で受けていた認定区分にも○をつけてください。（○は１つまたは２つ）

「障害支援(程度)区分」の認定は、全体で「受けたことはない」が46.9％と最も高く、「受けたことがある」は13.4％なっています。一方、「わからない」は31.2％となっています。

障がい種別でみると、知的障がいでは「受けたことがある」が42.7％と最も高く、次いで発達障がいが24.0％、それ以外の障がい種別はいずれも１割前後となっています。一方、難病では「受けたことはない」が63.1％と最も高く、身体障がいも47.4％と高くなっています。

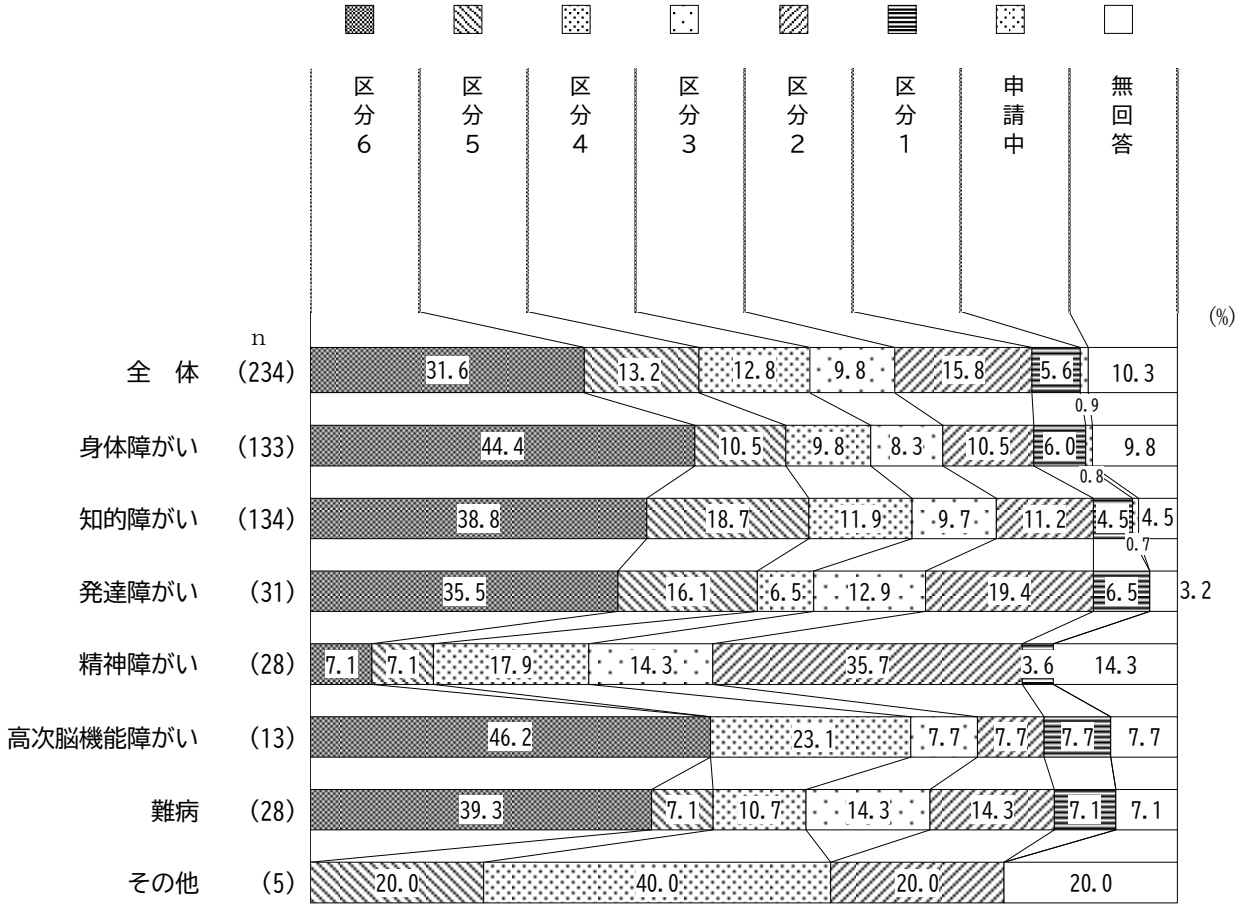


障害支援(程度)区分

「障害支援(程度)区分」は、全体で「区分６」が31.6%と最も高く、次いで「区分２」が15.8%、「区分５」が13.2%となっています。

障がい種別でみると、身体障がい（44.4%）、知的障がい（38.8%）、発達障がい（35.5%）は「区分６」が最も高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、高次脳機能障がい、難病でも「区分６」が、精神障がいでは「区分２」が高い傾向にあります。



用語の説明

障害支援（程度）区分	障がいの多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すものとして、区分1から区分6までの6段階の区分で示されるものです。必要とされる支援の軽いものから区分1、区分2、区分3、区分4、区分5、区分6となります。障害支援(程度)区分に応じて障がい福祉サービスを受けることができます。

（５）障がいについての相談のきっかけ

【問10は、ご本人が40歳以下で同居されている保護者の方におうかがいします。】
問10　保護者がご本人の障がいや発達、行動などについて相談された直接のきっかけは何でしたか。（○は３つまで）

障がいについての相談のきっかけは、全体で「子どもを見て違和感を感じたから」が18.1％と最も高く、次いで「医療機関からのアドバイスがあったから」が16.9％となっています。

障がい種別でみると、発達障がい（35.2％）、知的障がい（28.7％）では「子どもを見て違和感を感じたから」が高く、知的障がい（31.7％）、身体障がい（20.8％）では「医療機関からのアドバイスがあったから」が高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、高次脳機能障がいでは「相談していない」が21.4％と高い傾向にあります。

（％）

障がいについての相談のきっかけ ＼ 障がい種別	調査数（ｎ）	兄弟やほかの子どもとの違いを感じたから	子どもを見て違和感を感じたから	健康診査で声をかけられたから	区が作成したハンドブックなどを見たから	医療機関からのアドバイスがあったから	幼稚園、保育施設、認定こども園、学校の先生からのアドバイスがあったから	障がいに関する情報を見て子どもと似ていると思ったから	その他	相談していない	無回答
全　　体	497 100.0	8.7	18.1	9.3	0.2	16.9	9.1	2.0	10.3	8.7	40.4
身体障がい	236 100.0	5.9	14.4	8.9	0.4	20.8	3.0	0.4	15.3	8.9	39.4
知的障がい	167 100.0	16.2	28.7	16.8	－	31.7	15.0	4.2	18.0	3.0	9.0
発達障がい	88 100.0	13.6	35.2	14.8	－	13.6	21.6	5.7	5.7	2.3	31.8
精神障がい	86 100.0	4.7	16.3	1.2	－	11.6	7.0	3.5	8.1	10.5	54.7
高次脳機能障がい	14 100.0	7.1	7.1	7.1	－	14.3	7.1	－	21.4	21.4	28.6
難病	90 100.0	6.7	13.3	2.2	－	8.9	2.2	2.2	2.2	10.0	64.4
その他	12 100.0	8.3	8.3	16.7	－	16.7	8.3	8.3	33.3	－	41.7

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

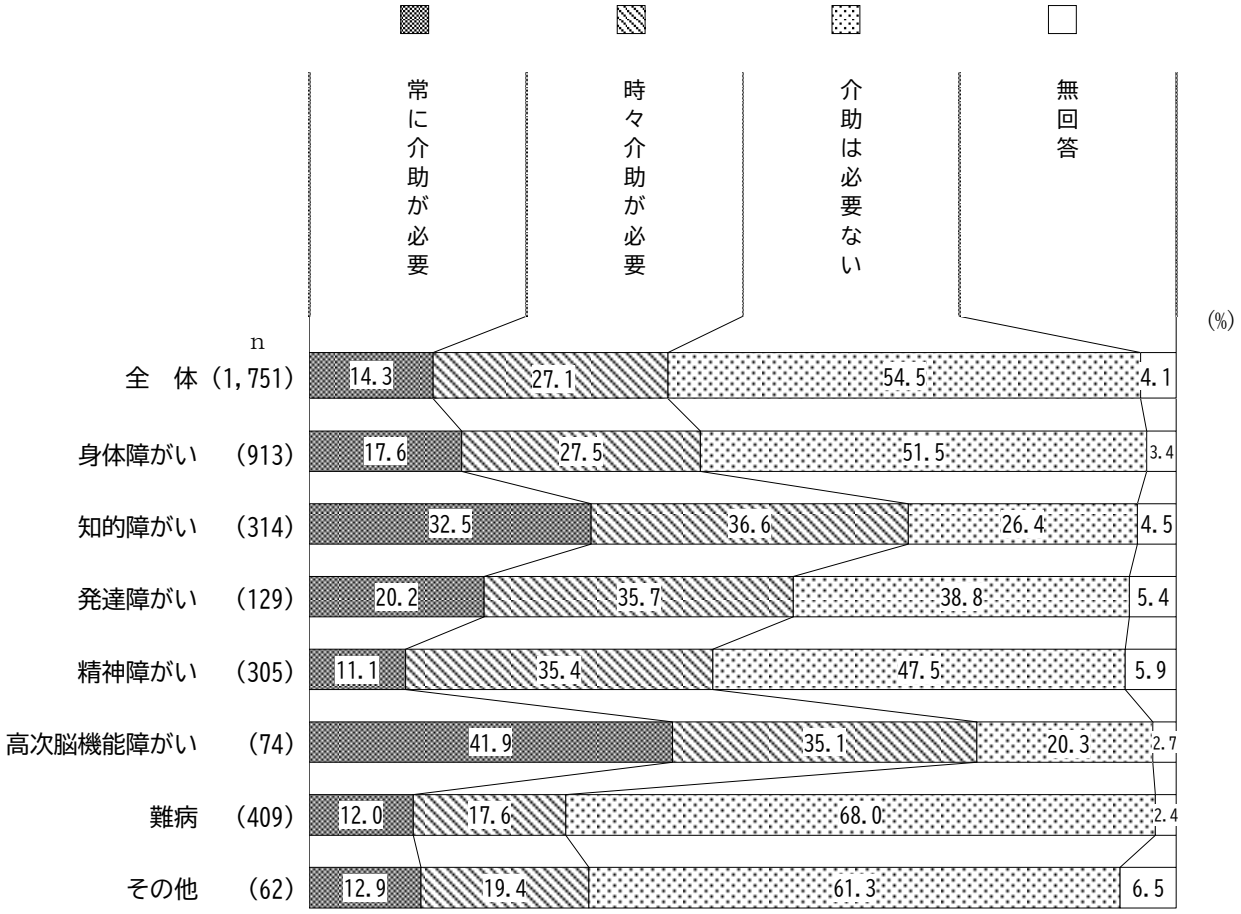
３　介助・支援の状況について

（１）日常生活での介助・支援の有無

問11　あなたは日常生活で介助・支援が必要ですか。（○は１つ）

日常生活での介助・支援は、全体で「介助は必要ない」が54.5％と最も高く、次いで「時々介助が必要」は27.1％、「常に介助が必要」は14.3％となっています。

障がい種別でみると、高次脳機能障がいでは「常に介助が必要」が41.9％と最も高く、知的障がいでは「時々介助が必要」が36.6％と最も高くなっています。一方、難病（68.0％）、身体障がい（51.5％）、精神障がい（47.5％）、発達障がい（38.8％）では「介助は必要ない」が最も高くなっています。

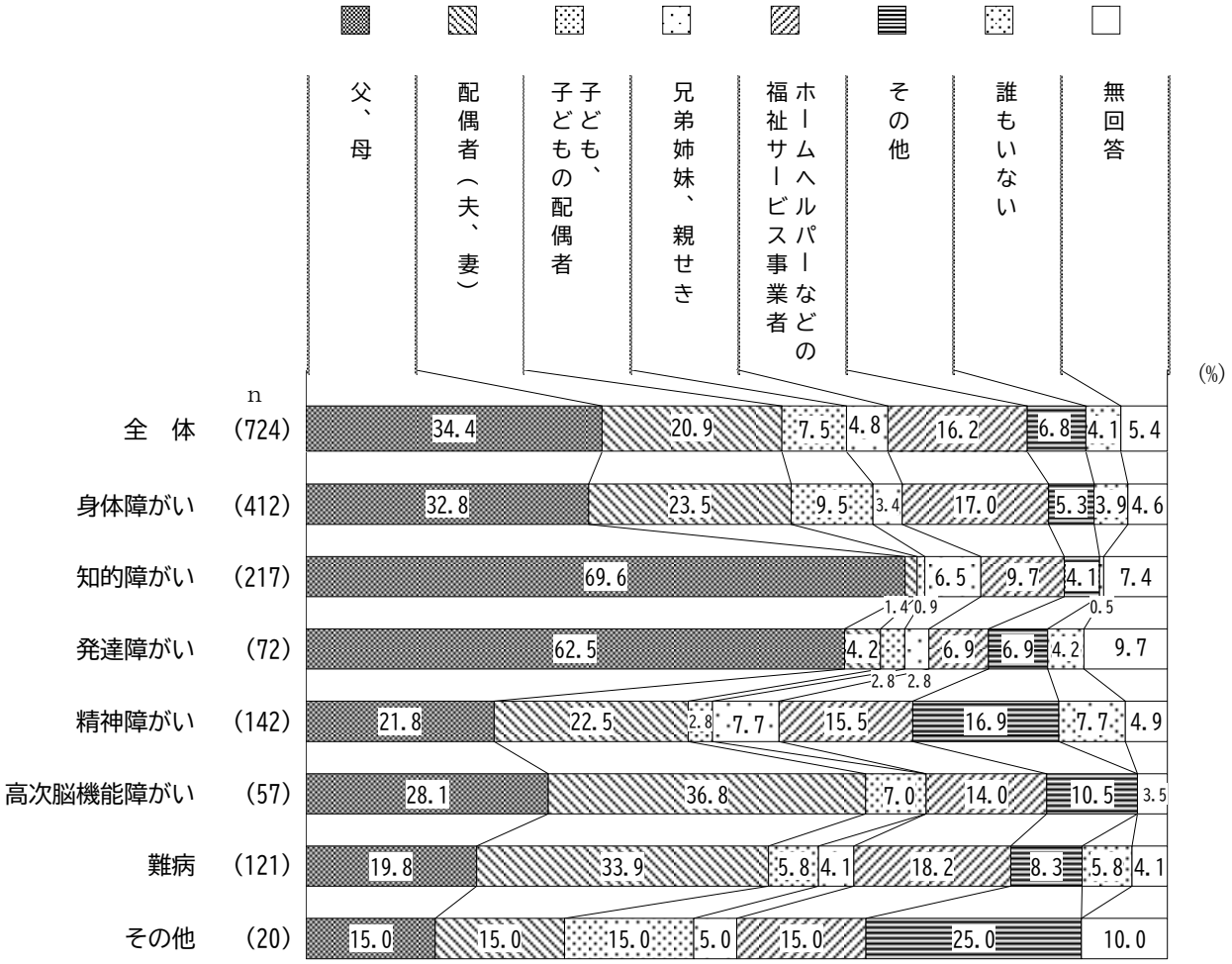


（２）主な介助・支援者

【問11で「常に介助が必要」又は「時々介助が必要」と答えた方におうかがいします。】
問12　普段、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。（○は１つ）

主な介助・支援者は、全体で「父、母」が34.4％と最も高く、次いで「配偶者（夫、妻）」が20.9％、「ホームヘルパーなどの福祉サービス事業者」が16.2％となっています。

障がい種別でみると、知的障がい（69.6％）、発達障がい（62.5％）では「父、母」が６割台とほかの障がい種別より高くなっています。高次脳機能障がい（36.8％）、難病（33.9％）では「配偶者（夫、妻）」が３割台と高くなっています。



（３）主な介助・支援者不在の際の代理者

問13　あなたを主に介助・支援している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助・支援していますか。（○は３つまで）

主な介助・支援者が不在の際の代理者は、全体で「同居している家族」が25.5％と最も高く、次いで「同居していない家族や親せき」が14.4％となっています。一方、「介助・支援してくれる人がいない」は20.3％となっています。

障がい種別でみると、知的障がい（42.4％）、発達障がい（39.5％）、高次脳機能障がい（27.0％）、難病（26.2％）、身体障がい（25.4％）では「同居している家族」が最も高くなっています。知的障がいと高次脳機能障がいでは「施設に短期間入所して介助・支援を受ける」と「ホームヘルパー」がほかの障がい種別よりやや高くなっています。精神障がいは「介助・支援してくれる人がいない」が30.5％と最も高くなっています。

（％）

障がい種別＼主な介助・支援者不在の際の代理者	調査数（n）	同居している家族	同居していない家族や親せき	近所の人や友人・知人	ボランティア	ホームヘルパー	施設に短期間入所して介助・支援を受ける	その他	介助・支援してくれる人がいない	無回答※
全　　体	1751 100.0	25.5	14.4	3.1	0.7	6.4	5.0	8.1	20.3	26.7
身体障がい	913 100.0	25.4	15.0	3.3	0.8	7.1	6.4	8.5	19.8	26.0
知的障がい	314 100.0	42.4	15.9	2.5	1.3	10.8	16.2	8.3	10.8	15.0
発達障がい	129 100.0	39.5	7.8	2.3	0.8	5.4	7.0	10.1	27.1	13.2
精神障がい	305 100.0	15.7	12.1	2.6	0.7	6.9	3.0	10.5	30.5	24.6
高次脳機能障がい	74 100.0	27.0	17.6	2.7	－	10.8	14.9	13.5	14.9	16.2
難病	409 100.0	26.2	14.9	3.7	0.2	4.2	2.0	5.9	20.5	29.1
その他	62 100.0	17.7	12.9	6.5	－	8.1	6.5	11.3	11.3	35.5

※問11において「介助は必要ない」と回答した人にも調査しているため、無回答が多くなっています。
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

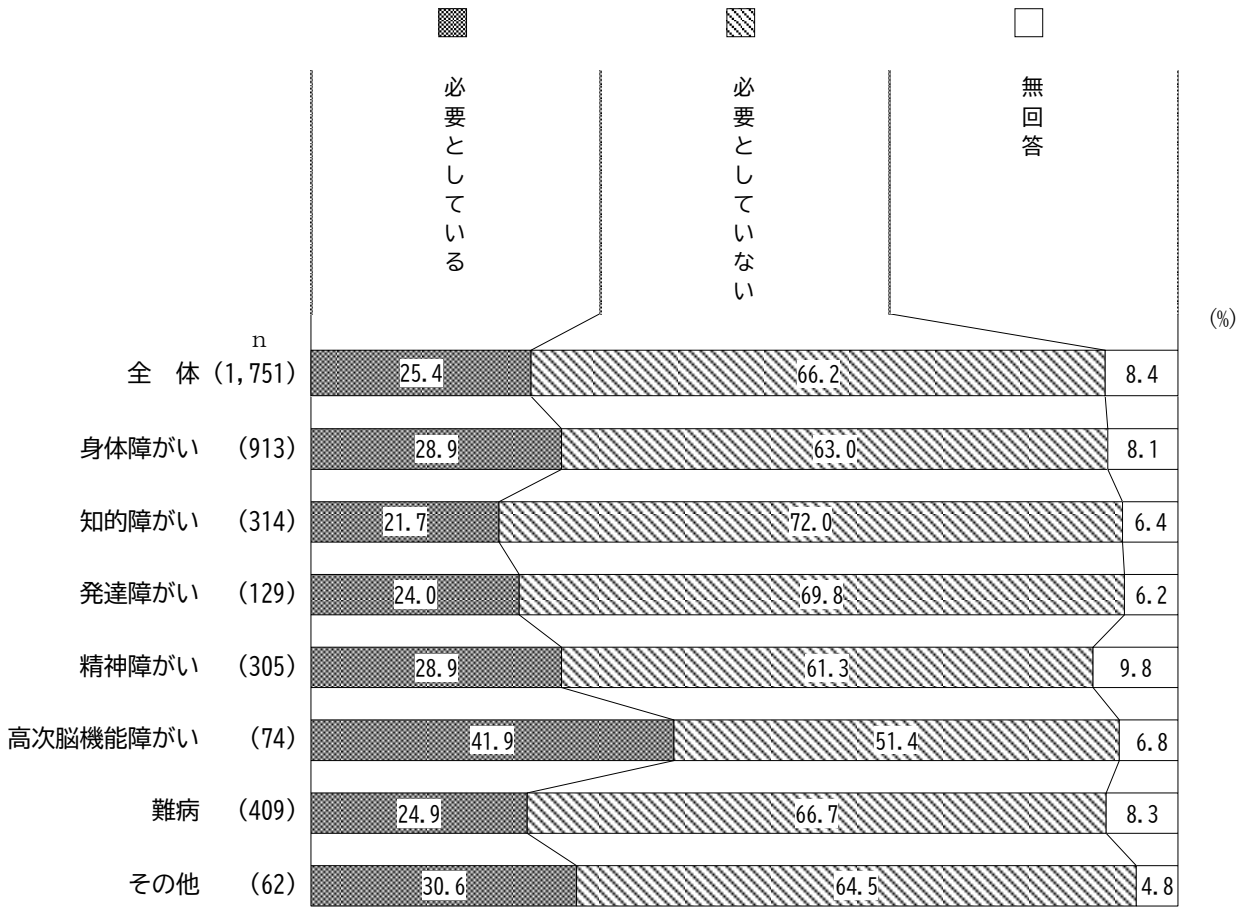
（４）医療的ケアの必要性の有無

問14　あなたは、普段の生活で医療的なケア※を必要としていますか。必要としている場合は、具体的な内容もお書きください。（○は１つ）
※医療的なケアとは、人工透析や胃ろう、ストマや服薬管理などのことを指します。

普段の生活での医療的ケアは、全体で「必要としている」が25.4％、「必要としていない」は66.2％となっています。

障がい種別でみると、高次脳機能障がいでは「必要としている」が41.9％と最も高く、それ以外の障がい種別は２割台となっています。

一方、いずれの障がいにおいても「必要としていない」と回答した人が５割を超えています。



医療的なケアの具体的な内容
透析、経管(経鼻・胃ろう含む)、ストーマ装具、吸引、導尿（カテーテルの使用)、人工呼吸器、気管内挿管・気管切開、酸素吸入、中心静脈栄養、腸ろう・腸管栄養　　など

４　相談や情報入手の状況について

（１）悩みや心配事の相談先

問15　あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、まず相談するところはどこですか。
（○はいくつでも）

悩みや心配事の相談先は、全体で「家族、親せき」が65.2％と最も高く、次いで「医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）」が45.7％、「友人・知人」が24.4％となっています。

障がい種別でみると、難病（69.7％）、知的障がい（68.2％）、発達障がい（66.7％）、身体障がい（64.5％）、高次脳機能障がい（59.5％）では「家族、親せき」が最も高くなっています。精神障がいは「医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）」が62.0％と最も高くなっています。

(%)

障がい種別＼悩みや心配事の相談先	調査数（n）	家族、親せき	友人・知人	医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）	医療機関（専門病院）	幼稚園・保育施設・認定こども園・学校の先生	スクールカウンセラー	教育支援センター・教育相談室	職場の上司・同僚（作業所などを含む）	福祉事務所・健康福祉センター	子ども家庭総合支援センター（児童相談所）	子ども発達支援センター	発達障がい者支援センター（あいポート）	障がい者福祉センター	（身体・知的）障がい者相談員	民生委員・児童委員	障がい者団体・患者団体	その他	相談できるところは特にない	誰かに相談することはまれである	無回答
全　体	1751 100.0	65.2	24.4	45.7	10.9	0.9	0.2	0.3	8.1	12.2	0.1	－	1.4	4.6	1.4	0.7	1.4	7.0	5.6	4.7	2.5
身体障がい	913 100.0	64.5	23.4	42.6	10.6	0.8	0.2	0.2	7.0	11.8	－	－	0.2	4.8	1.4	0.8	2.0	5.4	7.1	5.3	3.0
知的障がい	314 100.0	68.2	15.6	40.4	9.2	2.5	0.6	0.6	17.8	18.5	－	－	2.9	7.6	6.1	0.3	3.8	11.1	4.5	3.5	3.2
発達障がい	129 100.0	66.7	27.1	51.9	16.3	3.9	0.8	0.8	12.4	12.4	－	－	16.3	9.3	3.9	1.6	2.3	14.0	0.8	3.9	1.6
精神障がい	305 100.0	56.4	23.0	62.0	18.7	0.7	－	－	6.2	19.0	－	－	1.6	5.2	0.3	1.3	1.0	15.1	2.3	2.6	1.0
高次脳機能障がい	74 100.0	59.5	16.2	48.6	12.2	－	－	－	4.1	14.9	－	－	－	6.8	1.4	－	－	14.9	4.1	4.1	4.1
難病	409 100.0	69.7	30.8	52.1	11.7	0.2	－	0.2	5.9	8.3	0.2	－	－	2.0	－	0.7	0.7	3.7	5.4	4.2	2.0
その他	62 100.0	58.1	24.2	51.6	12.9	－	－	1.6	8.1	12.9	－	－	－	6.5	1.6	－	3.2	8.1	4.8	6.5	3.2

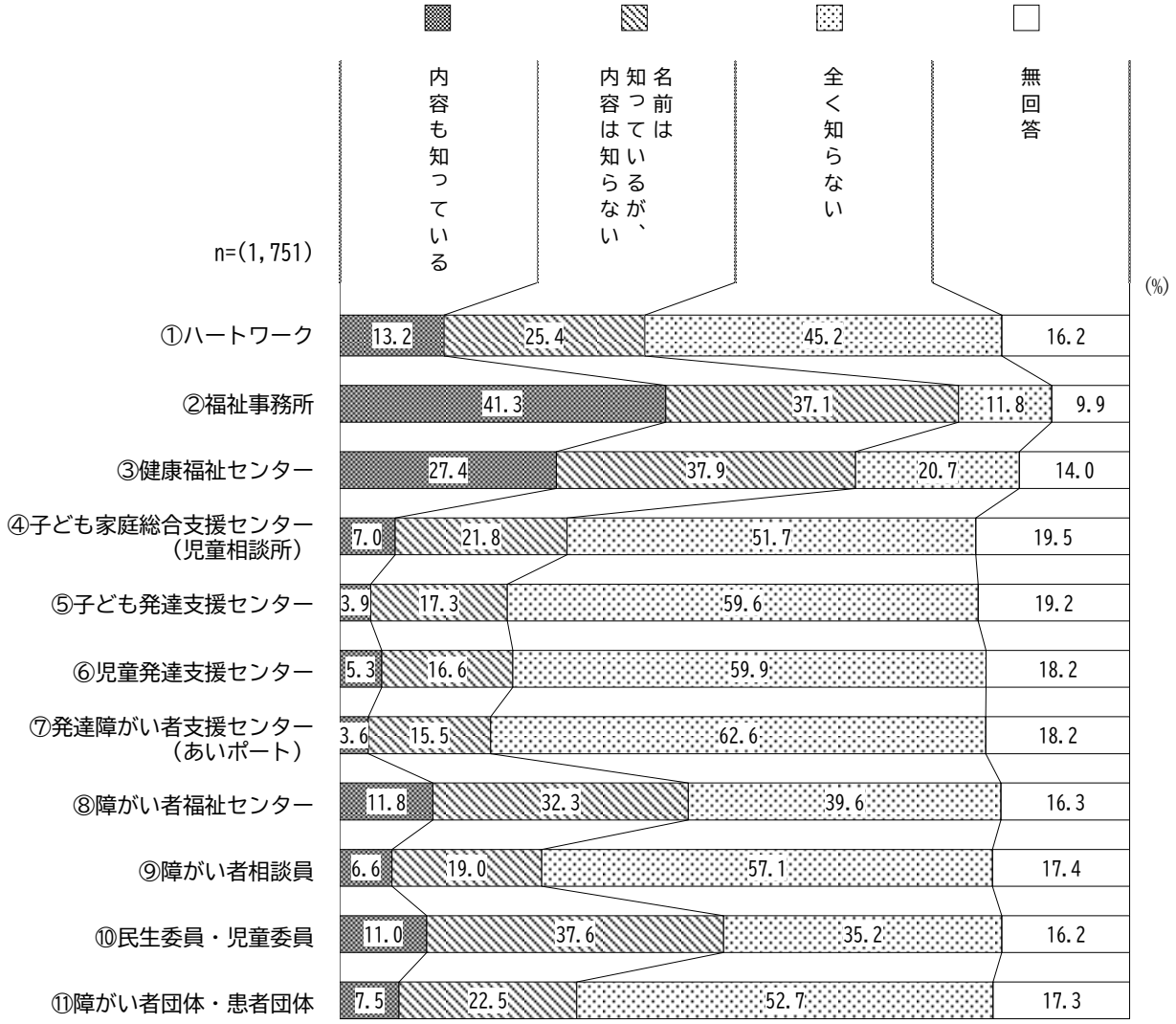
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（２）相談先の認知状況

問16　悩みごとや心配ごとを相談する場として、知っているものはどれですか。
（①～⑪ごとに１つずつお答えください。）

相談先の認知状況は、「内容も知っている」では②福祉事務所が41.3％と最も高く、次いで③健康福祉センターが27.4％、①ハートワーク（13.2％）、⑧障がい者福祉センター（11.8％）、⑩民生委員・児童委員（11.0％）で約１割となっています。

「全く知らない」では⑦発達障がい者支援センター（あいポート）が62.6％と最も高く、次いで⑥児童発達支援センター（59.9％）、⑤子ども発達支援センター（59.6％）、⑨障がい者相談員（57.1％）、⑪障がい者団体・患者団体（52.7％）、④子ども家庭総合支援センター（児童相談所）（51.7％）は５割台となっています。

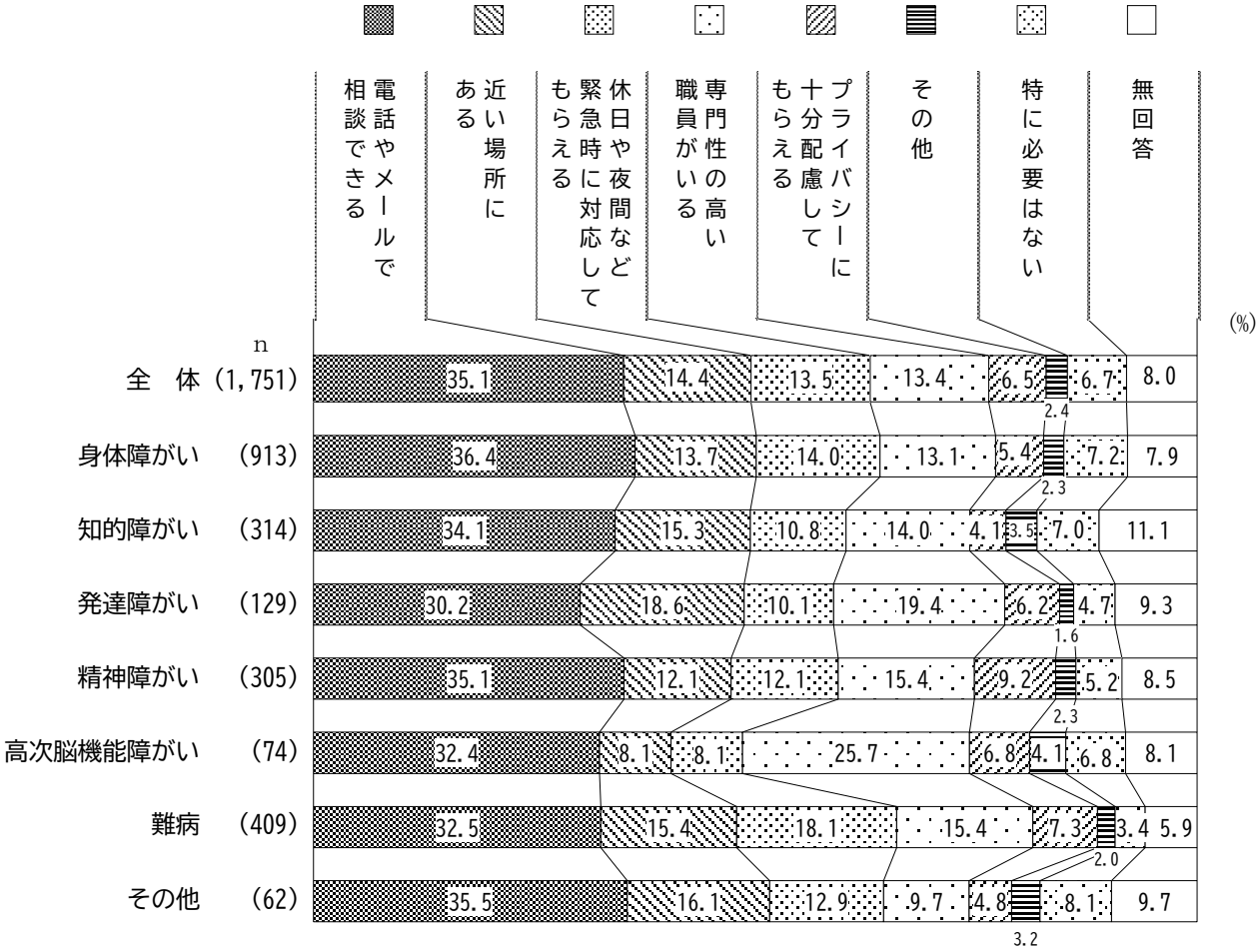


（３）気軽に相談するために必要なこと

問17　必要なときに気軽に相談するためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。
（○は１つ）

気軽に相談するために特に必要なことは、全体で「電話やメールで相談できる」が35.1％と最も高く、次いで「近い場所にある」が14.4％、「休日や夜間など緊急時に対応してもらえる」が13.5％、「専門性の高い職員がいる」が13.4％となっています。

障がい種別でみると、すべての障がい種別で「電話やメールで相談できる」が最も高くなっています。なお、高次脳機能障がいでは「専門性の高い職員がいる」が25.7％と４分の１を占め、２番目に高くなっています。



（４）障がい支援に関する情報の入手先

問18　障がい支援に関する情報を主にどこから得ていますか。（○はいくつでも）

障がい支援に関する情報の入手先は、全体で「障がい者福祉のしおり（区で作成した冊子、点字版・録音版を含む）」（28.6％）、「区や都の広報紙」（23.8％）、「病院、診療所」（23.4％）、「区や都のホームページ」（21.8％）が２割台で高くなっています。

障がい種別でみると、身体障がい（36.5％）、高次脳機能障がい（33.8％）では「障がい者福祉のしおり」が３割台、精神障がい（39.0％）、難病（31.5％）では「病院、診療所」が３割台、知的障がい（35.7％）、発達障がい（31.8％）では「家族、友人・知人などの口コミ」が３割台とそれぞれ高くなっています。

（％）

障がい種別＼障がい支援に関する情報の入手先	調査数（ｎ）	障がい者福祉のしおり（区で作成した冊子、点字版・録音版を含む）	区や都の広報紙	区や都のホームページ	テレビ、ラジオ、新聞	障がい者団体	学校、職場、施設	病院、診療所	民生委員・児童委員	家族、友人・知人などの口コミ	その他	わからない	無回答
全　　体	1,751 100.0	28.6	23.8	21.8	9.5	6.3	6.9	23.4	1.4	18.9	7.0	16.7	4.6
身体障がい	913 100.0	36.5	25.5	23.3	9.7	7.1	5.7	19.2	1.5	18.0	6.8	15.4	4.3
知的障がい	314 100.0	36.6	25.2	13.1	7.0	15.9	22.6	15.6	1.3	35.7	5.4	16.9	6.7
発達障がい	129 100.0	27.1	14.7	19.4	6.2	12.4	18.6	27.9	2.3	31.8	14.7	13.2	3.1
精神障がい	305 100.0	21.0	16.7	22.6	7.9	3.3	6.6	39.0	2.3	21.0	11.5	16.1	4.3
高次脳機能障がい	74 100.0	33.8	27.0	9.5	6.8	8.1	6.8	24.3	－	16.2	5.4	17.6	8.1
難病	409 100.0	20.0	24.9	25.9	11.0	3.4	3.2	31.5	0.2	16.9	6.8	16.9	3.7
その他	62 100.0	25.8	21.0	12.9	11.3	1.6	3.2	22.6	－	12.9	6.5	22.6	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（５）相談でのコミュニケーションや情報取得の際の困りごと

問19　相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。
（○はいくつでも）

相談でのコミュニケーションなどで困ることは、全体で「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」（19.6%）、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」（19.2%）が約２割と高くなっています。一方、「特に困ることはない」が35.6%と最も高くなっています。

障がい種別でみると、知的障がい、発達障がい、精神障がいでは「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」、「複雑な文章表現がわかりにくい」がそれぞれ高くなっています。身体障がい、高次脳機能障がい、難病では「特に困ることはない」が最も高くなっています。

（%）

障がい種別＼相談でのコミュニケーションなどで困ること	調査数（ｎ）	案内表示がわかりにくい	音声情報が少ない	文字情報が少ない	問い合わせ先の情報にＦＡＸ番号やメールアドレスの記載がない	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	複雑な文章表現がわかりにくい	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	自分の伝えたいことを代弁してくれる支援者が少ない	パソコン、携帯電話、スマートフォンなどをうまく使いこなせない	その他	特に困ることはない	無回答
全　　体	1,751 100.0	12.7	3.6	5.8	5.9	19.6	18.2	19.2	9.0	16.4	5.5	35.6	9.8
身体障がい	913 100.0	12.5	4.8	6.1	7.3	14.3	15.1	16.8	7.1	16.2	6.7	37.9	9.9
知的障がい	314 100.0	12.7	3.2	4.5	2.9	35.4	31.5	29.3	19.4	20.1	9.2	17.2	14.0
発達障がい	129 100.0	14.7	3.1	6.2	5.4	45.7	34.9	38.0	22.5	14.7	7.8	18.6	7.0
精神障がい	305 100.0	14.1	2.6	8.9	8.2	34.4	25.2	29.5	16.7	21.3	6.2	25.2	7.5
高次脳機能障がい	74 100.0	9.5	4.1	5.4	5.4	24.3	17.6	25.7	6.8	25.7	8.1	27.0	16.2
難病	409 100.0	13.0	2.0	5.1	5.1	10.5	17.1	13.7	5.6	14.7	4.4	44.7	8.1
その他	62 100.0	12.9	4.8	1.6	4.8	16.1	12.9	17.7	8.1	27.4	4.8	32.3	14.5

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

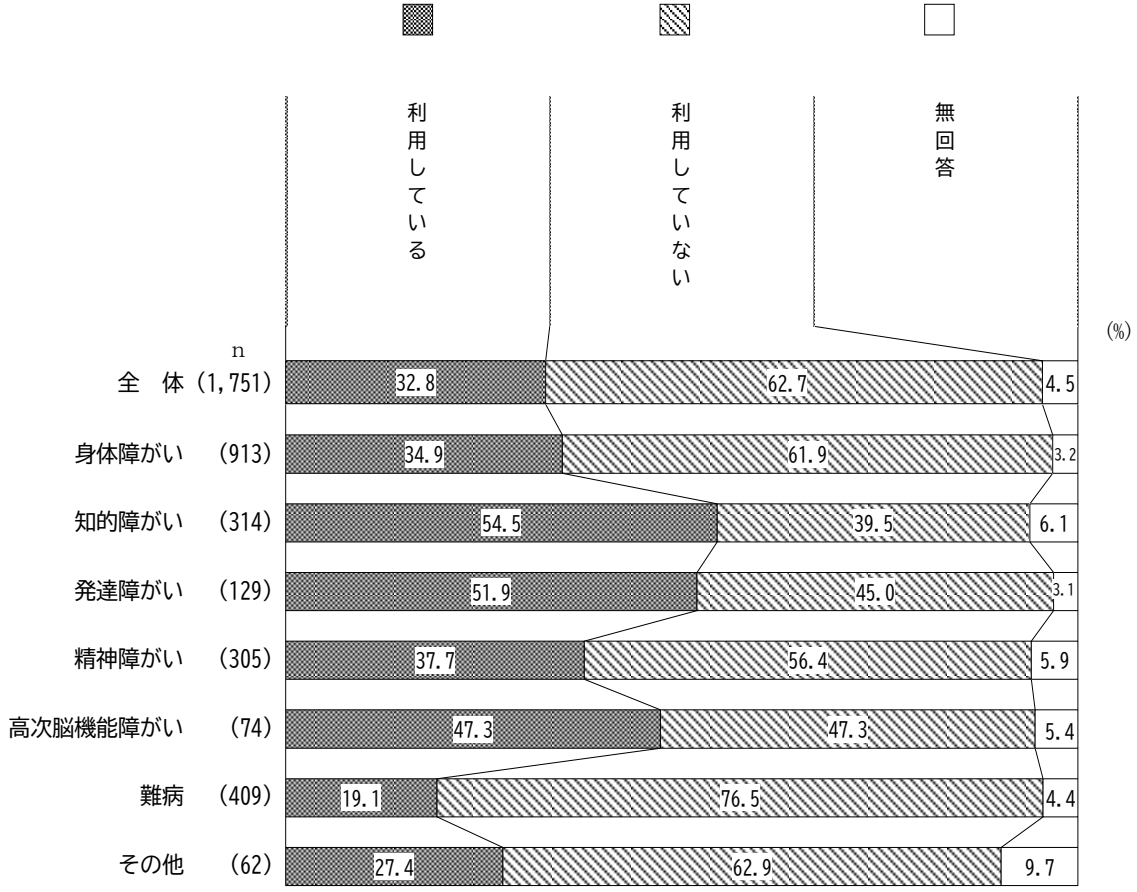
５　障がい福祉サービスについて

（１）障がい福祉サービスの利用の有無

問20　あなたは、障がい福祉サービスを利用していますか。（○は1つ）

現在、障がい福祉サービスを全体で「利用している」と答えた人は32.8%、「利用していない」と答えた人は62.7%となっています。

障がい種別でみると、知的障がい（54.5%）、発達障がい（51.9%）では５割台、高次脳機能障がいが47.3%と「利用している」が高くなっています。一方、難病では「利用していない」と答えた人が76.5%を占め、身体障がいも61.9%と高くなっています。



（２）障がい福祉サービスが必要な状況

【問20で「利用していない」と答えた方におうかがいします。】

問21　どのような状況になったら障がい福祉サービスを利用したい、または必要になると考えていますか。（○はいくつでも）

障がい福祉サービスが必要な状況は、全体で「自身の身体状態が変化したら」が68.1％と最も高く、次いで「身近に介助してくれる人がいなくなったら」が31.0％となっています。

障がい種別でみると、難病（82.1％）、身体障がい（71.2％）、高次脳機能障がい（51.4％）、精神障がい（48.8％）では「自身の身体状態が変化したら」が高くなっています。知的障がい（49.2％）、発達障がい（48.3％）では「身近に介助してくれる人がいなくなったら」が高くなっています。

（％）

障がい種別 ＼ 障がい福祉サービスが必要な状況	調査数（n）	自身の身体状態が変化したら	身近に介助してくれる人がいなくなったら	使いたいサービスの空きが出たら	使いたい事業所や施設がみつかったら	その他	無回答
全　　体	1,098 100.0	68.1	31.0	2.8	12.9	8.3	5.1
身体障がい	565 100.0	71.2	31.9	3.2	11.2	6.5	4.6
知的障がい	124 100.0	39.5	49.2	5.6	22.6	12.1	8.9
発達障がい	58 100.0	43.1	48.3	5.2	24.1	12.1	6.9
精神障がい	172 100.0	48.8	33.1	3.5	23.3	16.9	5.2
高次脳機能障がい	35 100.0	51.4	31.4	－	11.4	20.0	2.9
難病	313 100.0	82.1	24.9	0.6	7.3	6.7	3.2
その他	39 100.0	64.1	25.6	－	5.1	15.4	12.8

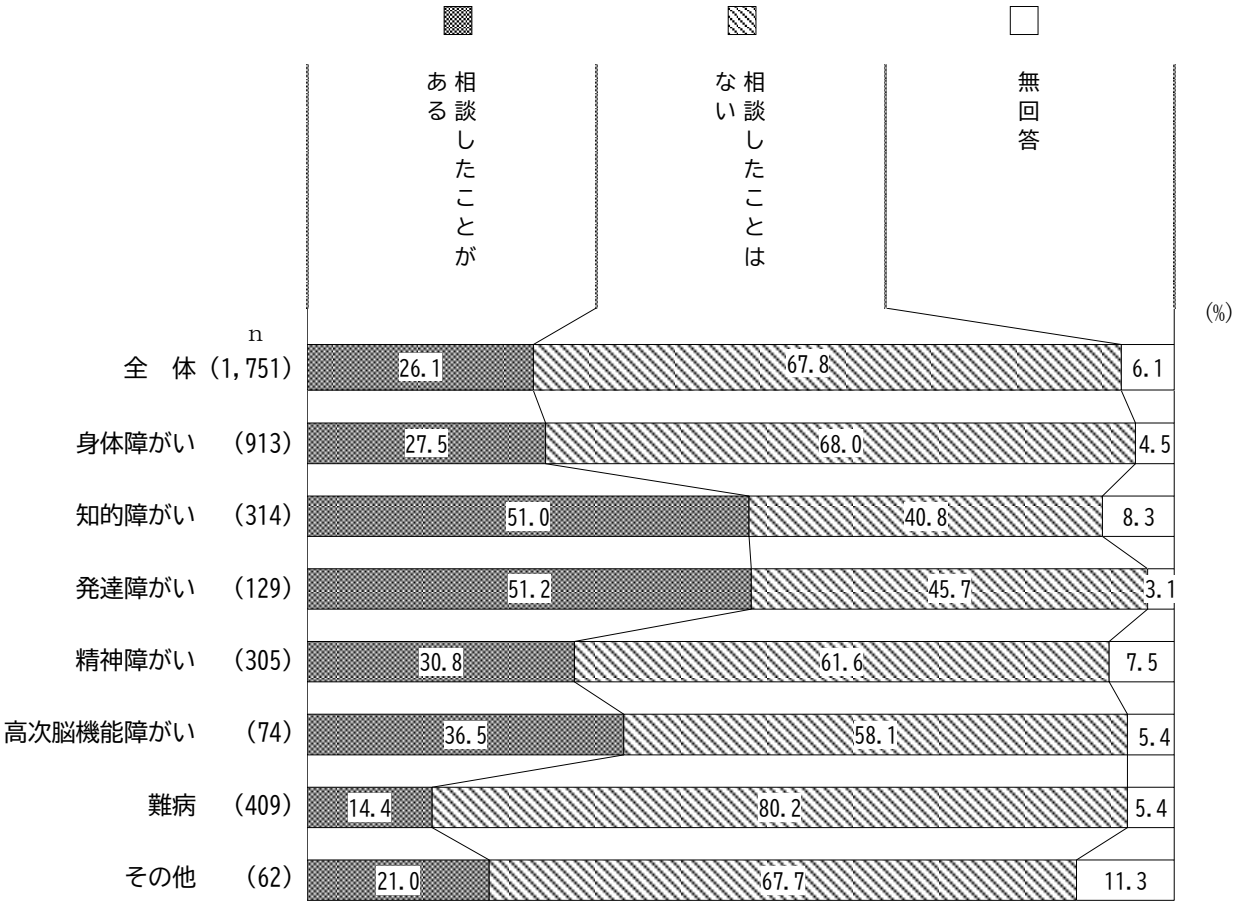
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（３）相談支援事業所への相談経験

問22　あなたは、障がい福祉サービスの利用に関して相談支援事業所に相談したことはありますか。（○は1つ）

相談支援事業所への相談経験は、全体で「相談したことがある」と答えた人が26.1%、「相談したことはない」と答えた人は67.8%となっています。

障がい種別でみると、発達障がい（51.2%）、知的障がい（51.0%）では「相談したことがある」と答えた人が５割台と高くなっています。一方、難病では「相談したことはない」と答えた人が80.2%を占め、身体障がい（68.0%）、精神障がい（61.6%）は６割台となっています。

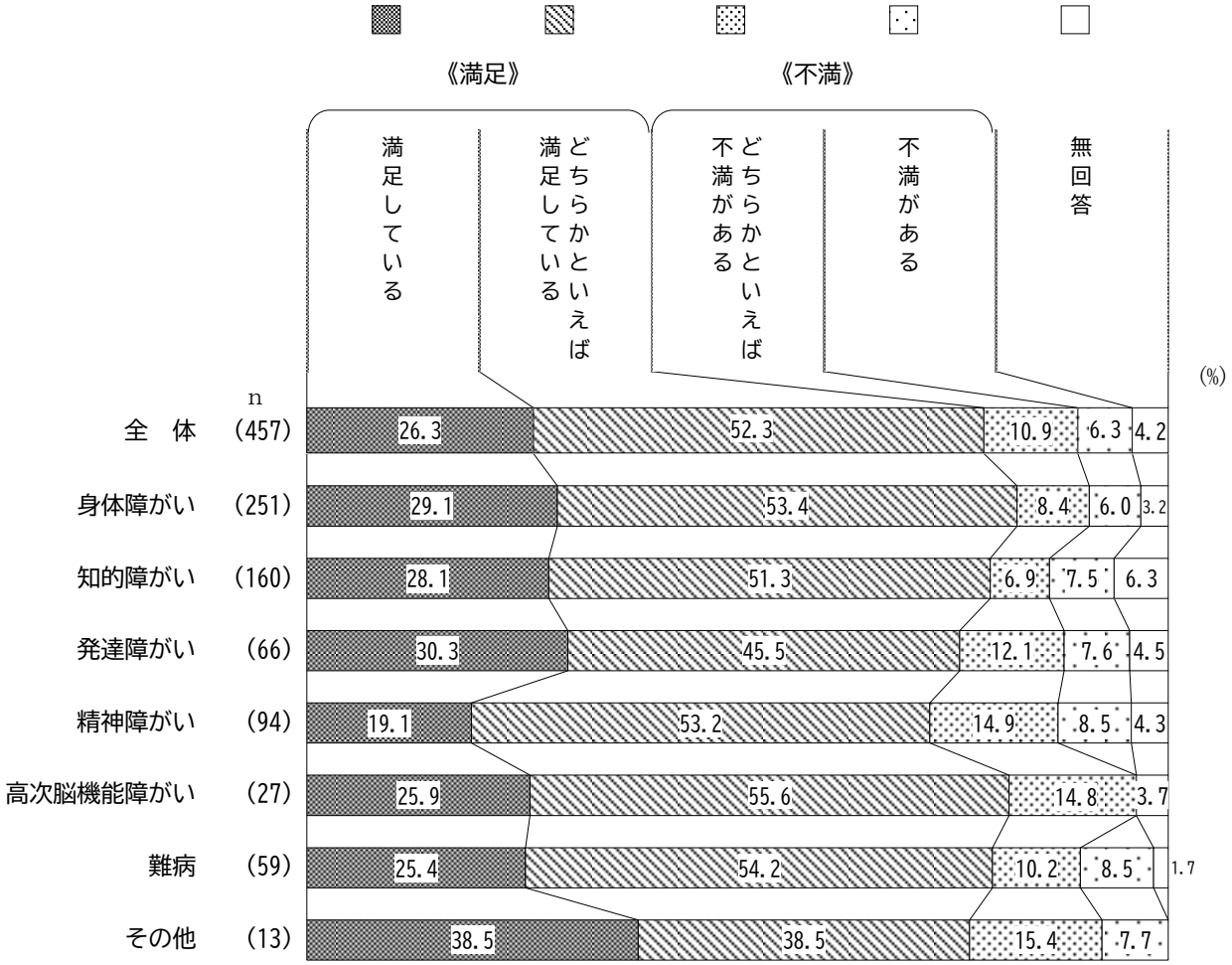


（４）サービス等利用計画の満足度

【問22で「相談したことがある」と答えた方におうかがいします。】
問23　サービス等利用計画の満足度はどうですか。（○は１つ）

サービス等利用計画の満足度は、全体で「満足している」（26.3%）、「どちらかといえば満足している」（52.3%）をあわせた「満足」は78.6%となっています。「不満がある」（6.3%）、「どちらかといえば不満がある」（10.9%）をあわせた「不満」は17.2%となっています。

障がい種別でみると、「満足」はいずれの障がい種別でも７割以上となっており、身体障がいでは82.5%となっています。「不満」は精神障がいが23.4%とほかの障がい種別よりやや高くなっています。



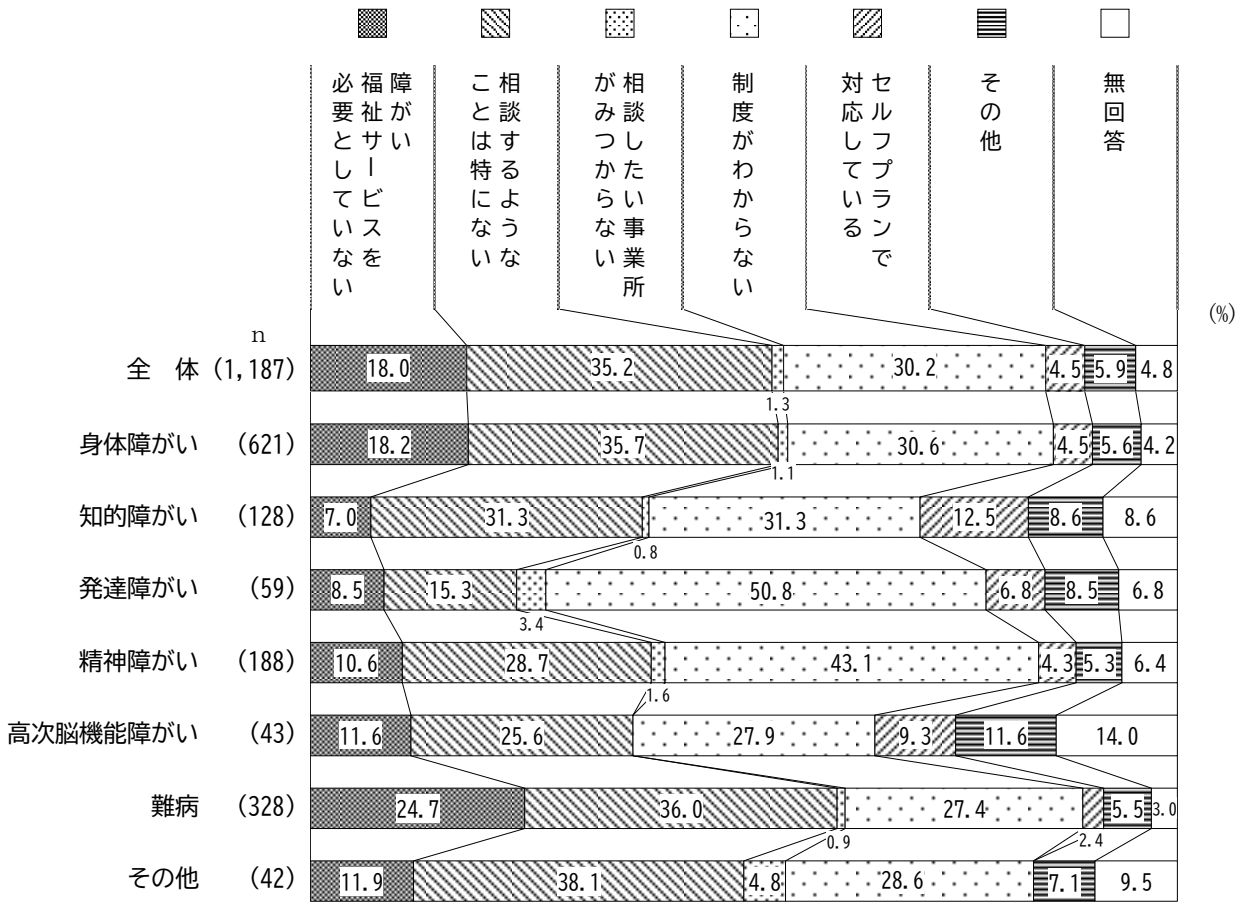
（５）相談支援事業所を利用していない理由

【問22で「相談したことはない」と答えた方におうかがいします。】
問24　相談支援事業所を利用していない理由は何ですか。（○は１つ）

相談支援事業所を利用していない理由は、全体で「相談するようなことは特にない」（35.2%）、「制度がわからない」（30.2%）が３割台と高くなっています。

障がい種別でみると、発達障がい（50.8%）、精神障がい（43.1%）では「制度がわからない」が最も高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、難病では「障がい福祉サービスを必要としていない」が24.7%、知的障がいでは「セルフプランで対応している」が12.5%とほかの障がい種別より高くなっています。



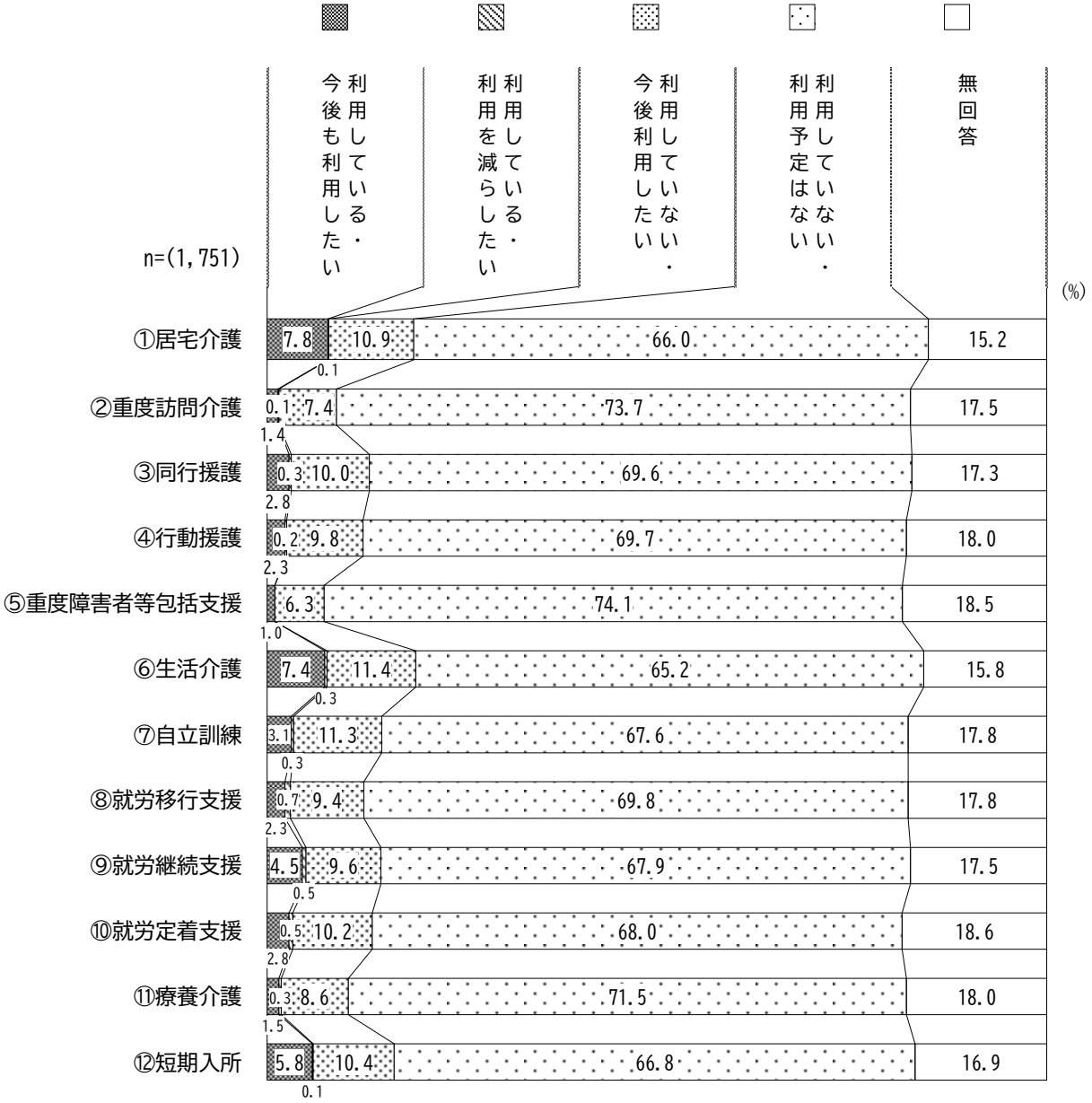
（６）障がい福祉サービスの利用状況・利用意向

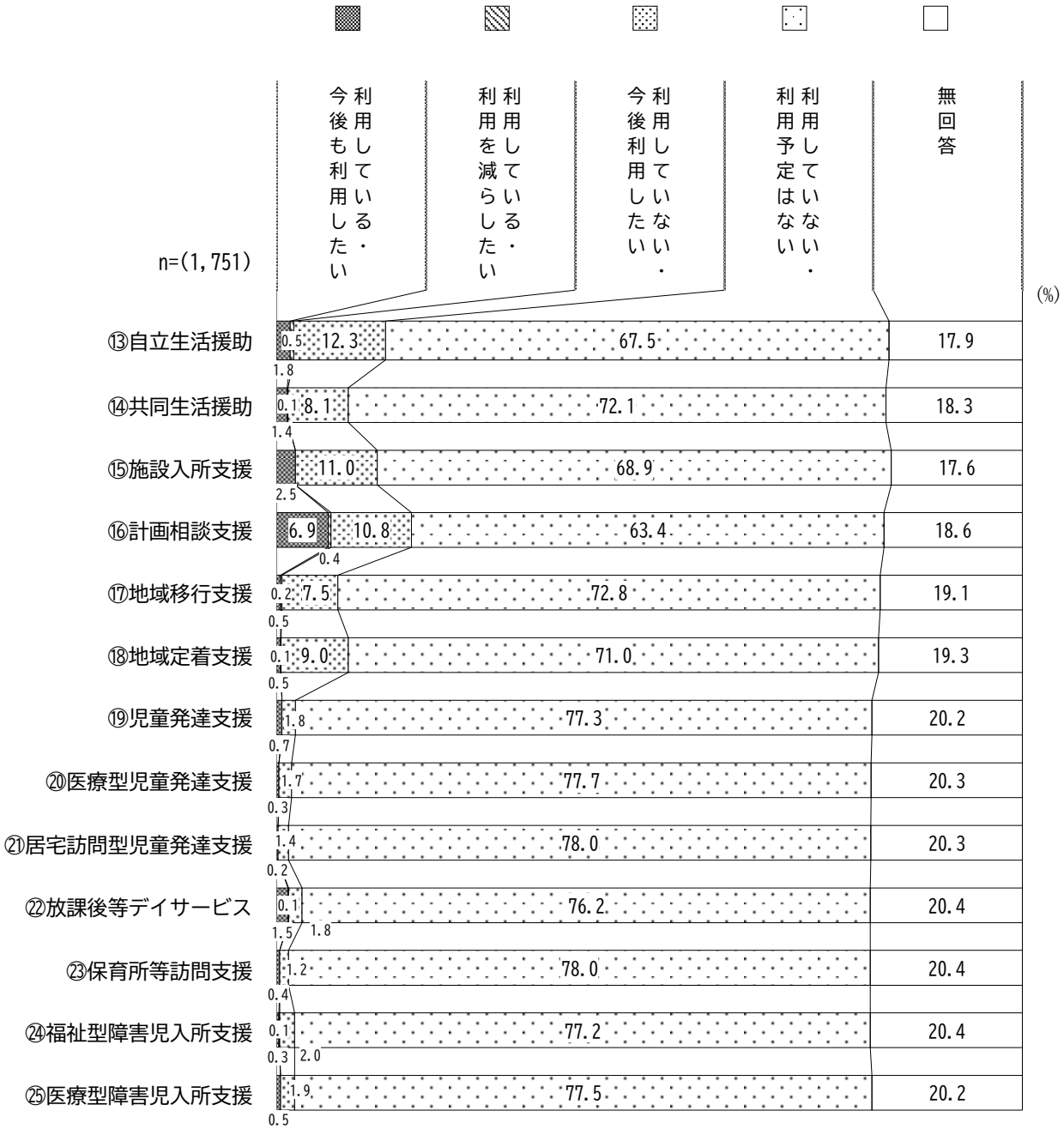
問25　あなたは、次のような障がい福祉サービスを利用していますか。また、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。（①～㉕のサービスごとに１つずつお答えください。）

障がい福祉サービスの利用状況をみると、いずれのサービスでも「利用していない・利用予定はない」が６～７割を占めています。

「利用している・今後も利用したい」では①居宅介護（7.8%）、⑥生活介護（7.4%）、⑯計画相談支援（6.9%）が他の障がい福祉サービスよりやや高くなっています。

「利用していない・今後利用したい」では⑬自立生活援助が12.3%と最も高く、⑥生活介護（11.4%）、⑦自立訓練（11.3%）、⑮施設入所支援（11.0%）、①居宅介護（10.9%）、⑯計画相談支援（10.8%）、⑫短期入所（10.4%）、⑩就労定着支援（10.2%）、③同行援護（10.0%）が約１割となっています。



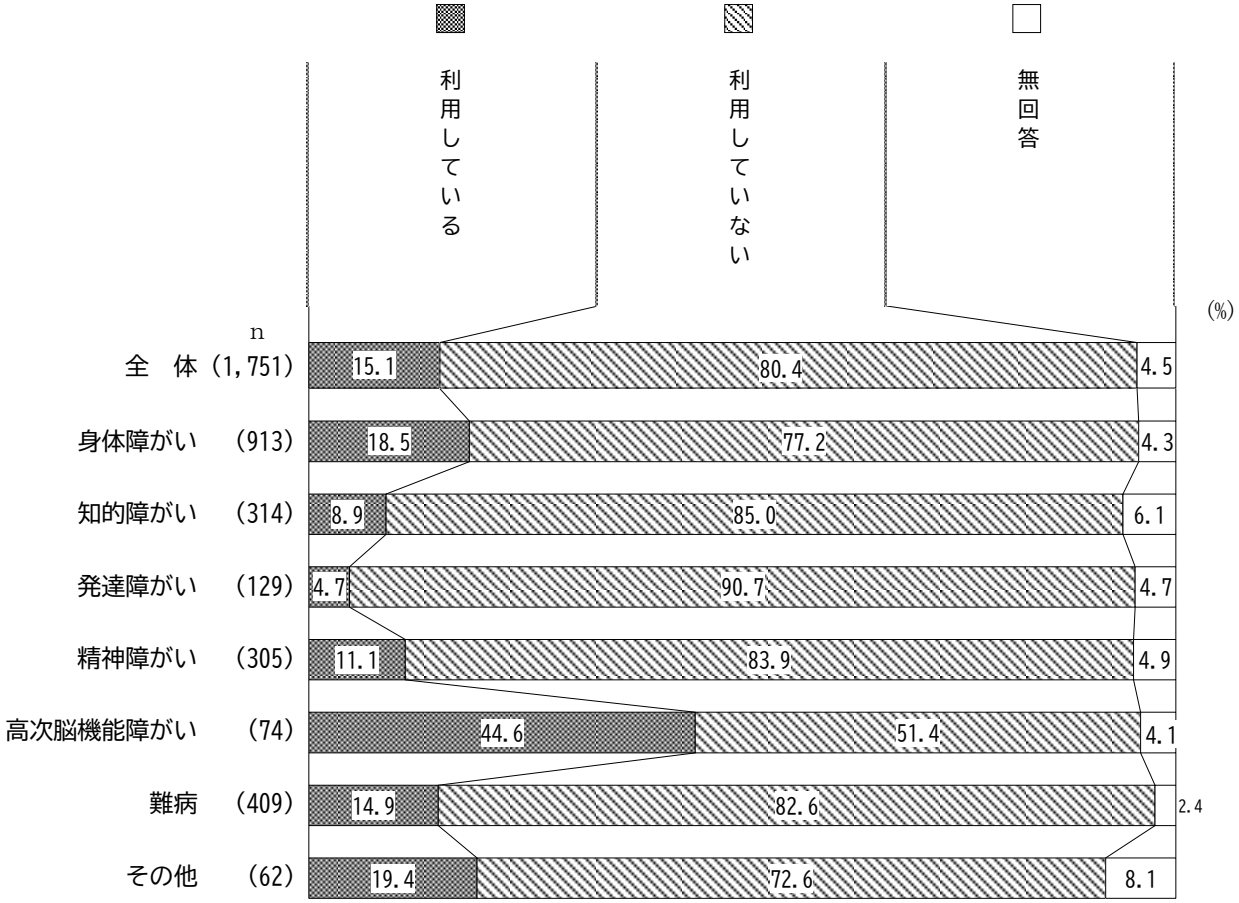

n=(1,751)
利用している・今後も利用したい
利用している・利用を減らしたい
利用していない・今後利用したい
利用していない・利用予定はない
無回答
(%)
⑬自立生活援助 0.5 12.3 1.8 67.5 17.9
⑭共同生活援助 0.1 8.1 1.4 72.1 18.3
⑮施設入所支援 11.0 2.5 68.9 17.6
⑯計画相談支援 6.9 10.8 0.4 63.4 18.6
⑰地域移行支援 0.2 7.5 0.5 72.8 19.1
⑱地域定着支援 0.1 9.0 0.5 71.0 19.3
⑲児童発達支援 1.8 0.7 77.3 20.2
⑳医療型児童発達支援 1.7 0.3 77.7 20.3
㉑居宅訪問型児童発達支援 1.4 0.2 78.0 20.3
㉒放課後等デイサービス 0.1 1.5 1.8 76.2 20.4
㉓保育所等訪問支援 1.2 0.4 78.0 20.4
㉔福祉型障害児入所支援 0.1 0.3 2.0 77.2 20.4
㉕医療型障害児入所支援 1.9 0.5 77.5 20.2

（７）介護保険サービスの利用の有無

問26　あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。（○は１つ）

介護保険サービスは、全体で「利用している」と答えた人は15.1％、「利用していない」と答えた人は80.4％となっています。

障がい種別でみると、高次脳機能障がいでは「利用している」と答えた人が44.6％と特に高くなっています。

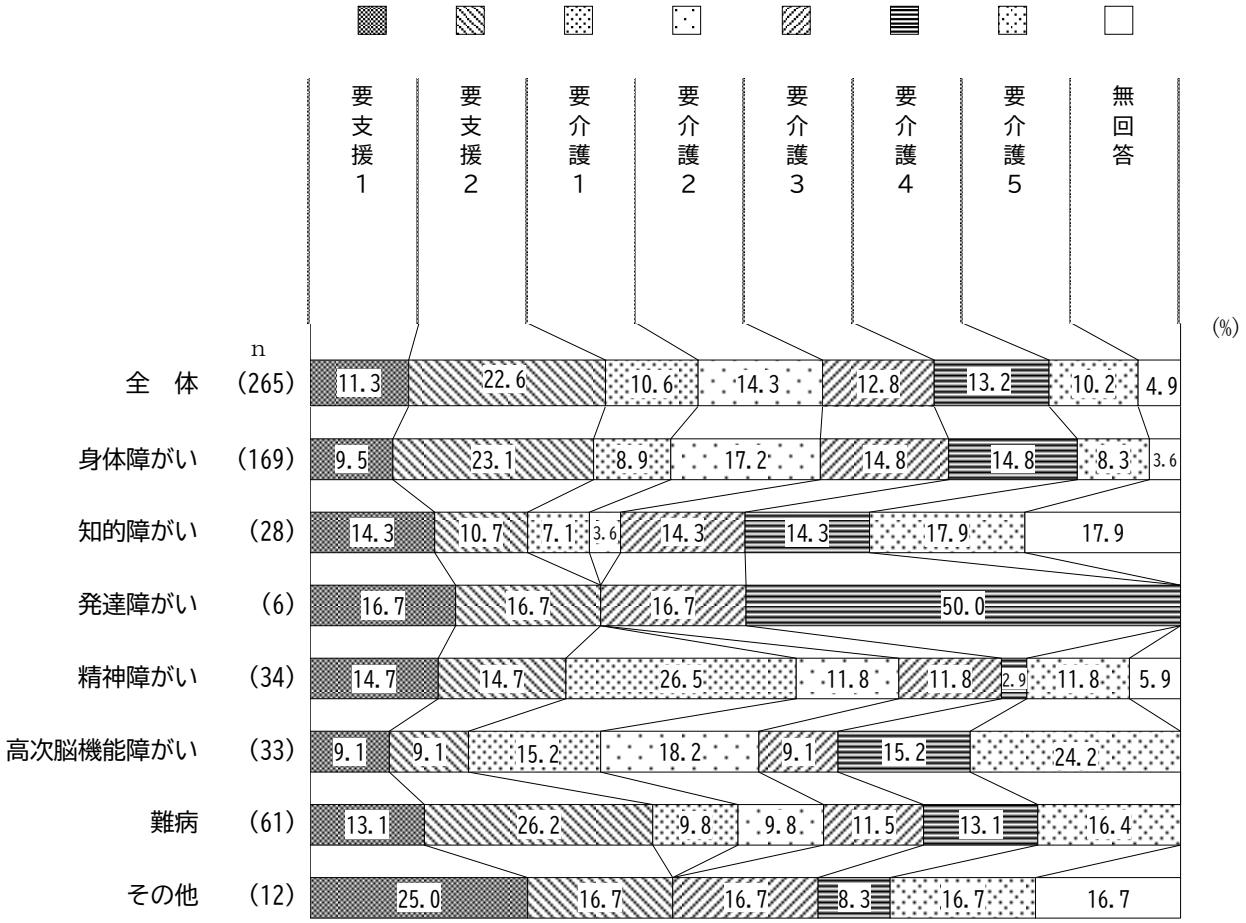


（８）該当する支援・介護度

問26で「利用している」と答えた方におうかがいします。】
問27　該当する介護度はどれですか。（○は１つ）

該当する支援・介護度は幅広く分布しており、全体で「要支援２」は22.6％、それ以外の支援・介護度は１割台となっています。

障がい種別でみると、難病（26.2％）、身体障がい（23.1％）では「要支援２」が２割台、精神障がいでは「要介護１」が26.5％、高次脳機能障がいでは「要介護５」が24.2％とほかの障がい種別より高くなっています。



用語の説明

介護度	介護の必要性の程度等を判定したものです。「非該当」と判定される場合もあります。 ●要介護：（要介護1、要介護2、要介護3、要介護4、要介護5の5段階）継続して常時介護を必要とする状態であり、介護給付を利用できます。 ●要支援：（要支援1、要支援2の2段階）日常生活を営むのに支障があると見込まれる状態であり、今の状態を改善あるいは維持するための予防給付を利用できます。 ●非該当：総合事業を利用できます。

６　日中の過ごし方について

（１）平日の日中の過ごし方

問28　あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（○は１つ）

平日の日中の過ごし方は、全体で「自宅にいることが多い」（35.0%）、「働いている」（34.0%）が３割台半ばで高くなっています。

障がい種別でみると、知的障がいでは「福祉施設、作業所などに通っている」が44.6%、難病（41.3%）、発達障がい（38.0%）では「働いている」が高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、高次脳機能障がいでは「入所している施設や病院などで過ごしている」が18.9%、精神障がいでは「自宅にいることが多い」が46.2%とほかの障がい種別より高くなっています。

(%)

障がい種別＼平日の日中の過ごし方	調査数（n）	福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケア、リハビリテーションに通っている	働いている	幼稚園や保育施設、認定こども園に通っている	小学校、中学校、高校（通常の学級のみ）に通っている	小学校、中学校、高校（特別支援教室、きこえ・ことばの教室）にも通っている	小学校、中学校、高校（特別支援学級、特別支援学校）に通っている	大学、専門学校に通っている	入所している施設や病院などで過ごしている	自宅にいることが多い	その他	無回答
全　体	1,751 100.0	10.3	5.3	34.0	0.2	0.4	0.2	0.6	1.5	4.2	35.0	3.3	5.1
身体障がい	913 100.0	9.1	5.5	32.4	0.1	0.5	－	0.3	2.5	3.9	35.8	3.6	6.1
知的障がい	314 100.0	44.6	1.3	22.3	－	－	1.0	3.2	－	7.0	14.0	1.0	5.7
発達障がい	129 100.0	24.0	0.8	38.0	1.6	1.6	－	1.6	1.6	4.7	20.2	0.8	5.4
精神障がい	305 100.0	6.6	8.5	25.6	－	－	－	－	0.3	5.2	46.2	3.9	3.6
高次脳機能障がい	74 100.0	10.8	9.5	14.9	－	－	－	－	－	18.9	39.2	2.7	4.1
難病	409 100.0	3.4	5.4	41.3	－	－	－	－	1.0	3.9	38.1	3.7	3.2
その他	62 100.0	11.3	6.5	27.4	－	－	－	－	－	3.2	41.9	6.5	3.2

（２）園や学校生活での困りごと

【問28で「幼稚園や保育施設、認定こども園に通っている」から「大学、専門学校に通っている」のいずれかを選んだ方におうかがいします。】

問29　幼稚園や保育施設、認定こども園、学校などに通っていて困っていることはありますか。
（○はいくつでも）

園や学校生活での困りごとは、全体で「通うのが大変」と「障がいに対する理解や配慮が引き継がれない」がともに14.0%、「先生の理解や配慮が足りない場合がある」が12.0%となっています。一方、「特に困っていることはない」は68.0%と最も高くなっています。

(%)

障がい種別＼園や学校生活での困りごと	調査数（n）	通うのが大変	トイレなどの施設が整っていない	先生の理解や配慮が足りない場合がある	障がいに対する理解や配慮が引き継がれない	まわりの児童・生徒たちの理解が得られにくい	医療的なケアが受けられない	その他	特に困っていることはない	無回答
全　　体	50 100.0	14.0	2.0	12.0	14.0	8.0	2.0	2.0	68.0	2.0
身体障がい	32 100.0	12.5	3.1	15.6	18.8	6.3	3.1	3.1	68.8	－
知的障がい	13 100.0	15.4	－	－	7.7	－	－	－	76.9	7.7
発達障がい	8 100.0	12.5	－	－	12.5	25.0	－	－	62.5	－
精神障がい	1 100.0	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－
高次脳機能障がい	－ －	－	－	－	－	－	－	－	－	－
難病	4 100.0	25.0	－	25.0	25.0	25.0	－	－	50.0	－
その他	－ －	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

（３）学校教育に望むこと

【問28で「幼稚園や保育施設、認定こども園に通っている」から「大学、専門学校に通っている」のいずれかを選んだ方におうかがいします。】
問30　現在もしくは将来、学校教育に望むことはどのようなことですか。（○はいくつでも）

学校教育に望むことは、全体で「障がいに対する理解や配慮を職員間で引き継いでほしい」が42.0％と最も高く、次いで「就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい」（32.0％）、「能力や障がいの状況に合った指導をしてほしい」（30.0％）が３割台と高くなっています。一方、「特に望むことはない」は20.0％となっています。

（％）

障がい種別＼学校教育に望むこと	調査数（n）	就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい	能力や障がいの状況に合った指導をしてほしい	障がいに対する理解や配慮を職員間で引き継いでほしい	施設、設備、教材を充実してほしい	通常の学級との交流の機会を増やしてほしい	可能な限り通常の学級で受け入れてほしい	インクルージョン教育を浸透させてほしい	その他	特に望むことはない	無回答
全　　体	50 100.0	32.0	30.0	42.0	20.0	8.0	18.0	26.0	2.0	20.0	2.0
身体障がい	32 100.0	21.9	31.3	40.6	25.0	6.3	21.9	21.9	3.1	25.0	3.1
知的障がい	13 100.0	69.2	46.2	53.8	7.7	15.4	23.1	53.8	－	7.7	－
発達障がい	8 100.0	25.0	25.0	37.5	12.5	12.5	25.0	37.5	－	12.5	－
精神障がい	1 100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
高次脳機能障がい	－ －	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
難病	4 100.0	25.0	－	75.0	25.0	25.0	25.0	50.0	－	－	－
その他	－ －	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

用語の説明

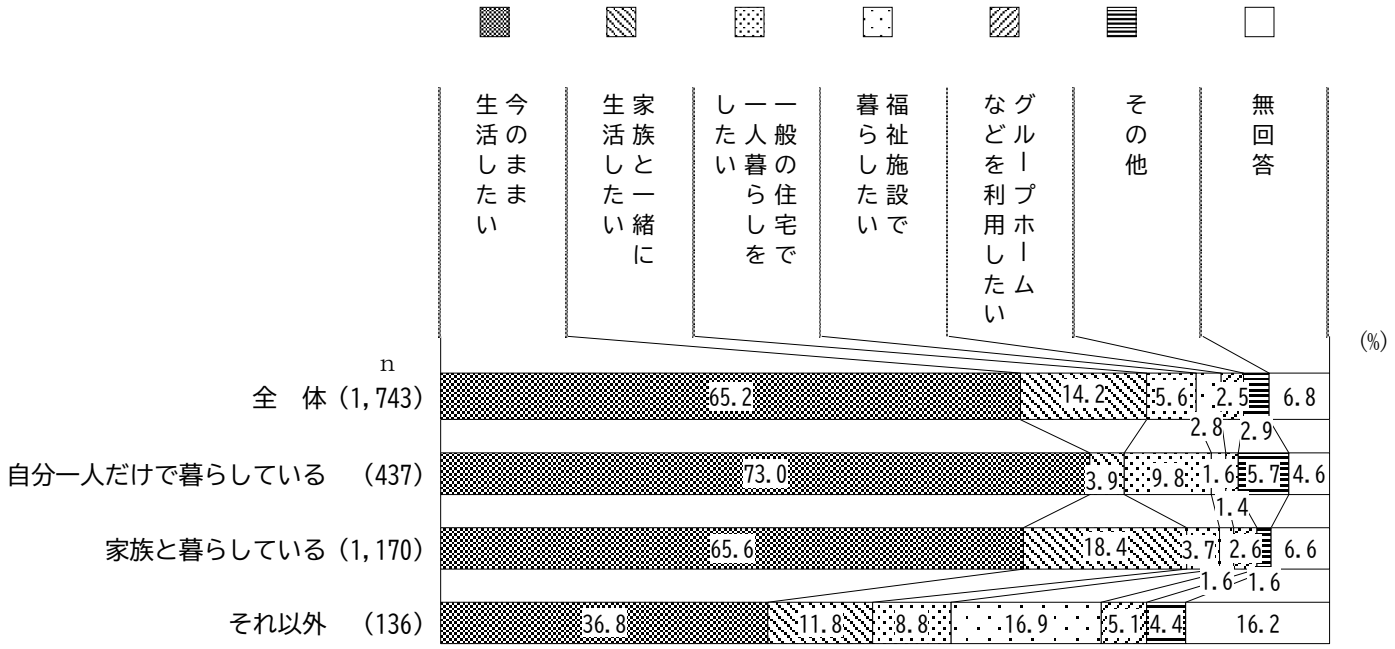
インクルージョン教育	障がいのある方とない方とが共に学ぶ仕組みのことです。

（４）今後３年以内に希望する暮らし

問31　あなたは、今後３年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。（○は１つ）

今後３年以内に希望する暮らしは、全体で「今のまま生活したい」が65.2%と最も高くなっています。

居住形態別でみると、「自分一人だけで暮らしている」人では「今のまま生活したい」（73.0%）と「一般の住宅で一人暮らしをしたい」（9.8%）が高く、「家族と暮らしている」人では「今のまま生活したい」（65.6%）と「家族と一緒に生活したい」（18.4%）が高くなっています。いずれも現状維持を望む人が多い傾向がうかがえます。



「それ以外」に含まれる選択肢
「グループホームで暮らしている」、「福祉施設で暮らしている」、「病院に入院している」、「その他」

（５）希望する暮らしのために必要な支援

問32　希望する暮らしをするためには、どのような支援があればよいと思いますか。
（○はいくつでも）

希望する暮らしのために必要な支援は、全体で「経済的な負担の軽減」が52.3％と最も高く、次いで「必要なサービスが適切に利用できること」が48.4％となっています。

障がい種別でみると、発達障がい（64.3％）、精神障がい（60.7％）、難病（60.4％）では６割台、身体障がいが49.0％と「経済的な負担の軽減」が最も高くなっています。高次脳機能障がい（60.8％）、知的障がい（56.4％）では「必要なサービスが適切に利用できること」が最も高くなっています。

（％）

障がい種別＼希望する暮らしのために必要な支援	調査数（ｎ）	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること	障がい者に適した住宅の確保	必要なサービスが適切に利用できること	生活訓練などの充実	経済的な負担の軽減	相談対応などの充実	地域住民などの理解	コミュニケーションについての支援	その他	無回答
全　　体	1,751 100.0	22.9	21.6	48.4	8.7	52.3	26.0	11.7	12.1	4.4	10.3
身体障がい	913 100.0	24.2	24.4	48.6	8.3	49.0	24.0	10.1	9.9	4.3	10.0
知的障がい	314 100.0	15.6	32.2	56.4	15.3	42.0	31.8	24.5	19.1	5.7	11.8
発達障がい	129 100.0	14.7	32.6	54.3	11.6	64.3	45.0	24.0	27.9	4.7	9.3
精神障がい	305 100.0	21.6	21.0	45.6	9.5	60.7	34.8	13.4	16.1	5.2	11.1
高次脳機能障がい	74 100.0	32.4	23.0	60.8	14.9	51.4	28.4	10.8	14.9	4.1	9.5
難病	409 100.0	31.8	14.4	50.4	7.8	60.4	23.7	8.1	7.6	4.6	8.3
その他	62 100.0	19.4	14.5	53.2	6.5	46.8	27.4	9.7	9.7	8.1	14.5

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

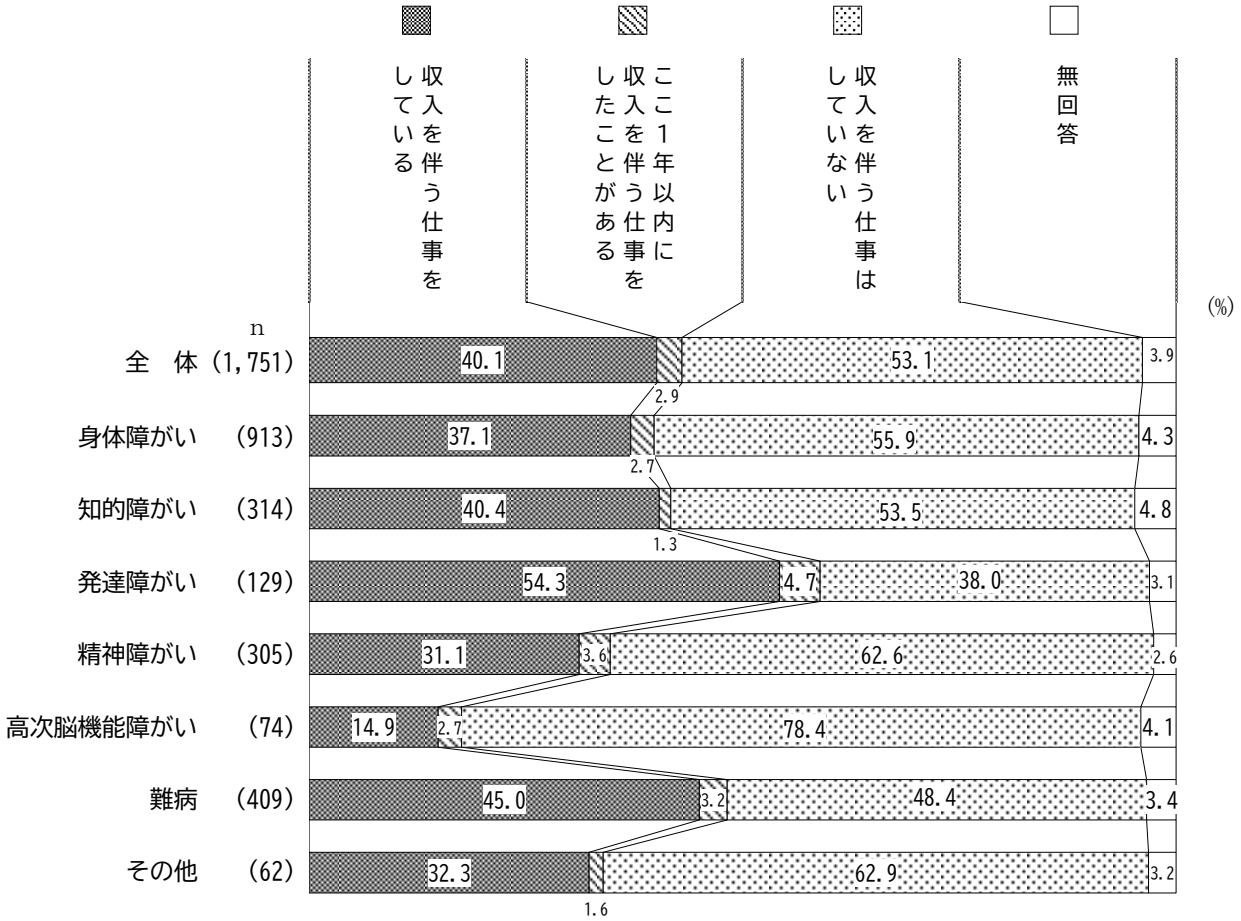
７　就労の状況について

（１）収入を伴う仕事の状況

問33　現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

収入を伴う仕事の状況は、全体で「収入を伴う仕事はしていない」が53.1％と最も高く、次いで「収入を伴う仕事をしている」は40.1％、「ここ１年以内に収入を伴う仕事をしたことがある」は2.9％となっています。

障がい種別でみると、発達障がいでは「収入を伴う仕事をしている」が54.3％と最も高く、次いで難病（45.0％）、知的障がい（40.4％）が４割台となっています。一方、高次脳機能障がいでは「収入を伴う仕事はしていない」が78.4％を占め、精神障がいも62.6％とほかの障がい種別より高くなっています。



（２）仕事の形態

【問33で「収入を伴う仕事をしている」又は「ここ１年以内に収入を伴う仕事をしたことがある」と答えた方におうかがいします。】

問34　仕事の形態は次のうちどれですか。（○はいくつでも）

仕事の形態は、全体で「正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない」が37.7％と最も高く、次いで「アルバイト・パートなどの非常勤職員、派遣職員」が28.2％となっています。

障がい種別でみると、難病（51.8％）、身体障がい（45.3％）では「正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない」が高くなっています。精神障がい（50.0％）、発達障がい（34.2％）では「アルバイト・パートなどの非常勤職員、派遣職員」が高くなっています。知的障がいでは「就労継続支援（Ａ型・Ｂ型）などの福祉的就労」が43.5％と最も高くなっています。

（％）

障がい種別＼仕事の形態	調査数（ｎ）	自営業（家業の手伝いを含む）	正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない	正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある	アルバイト・パートなどの非常勤職員、派遣職員	就労継続支援（Ａ型・Ｂ型）などの福祉的就労	内職	その他	無回答
全　　体	753 100.0	8.9	37.7	10.6	28.2	9.8	0.4	5.7	2.1
身体障がい	364 100.0	11.3	45.3	12.6	21.2	5.8	0.8	5.5	1.9
知的障がい	131 100.0	1.5	9.9	16.8	18.3	43.5	－	7.6	3.8
発達障がい	76 100.0	7.9	15.8	18.4	34.2	17.1	－	5.3	5.3
精神障がい	106 100.0	6.6	15.1	7.5	50.0	15.1	－	8.5	0.9
高次脳機能障がい	13 100.0	7.7	38.5	23.1	23.1	－	－	7.7	－
難病	197 100.0	10.7	51.8	4.1	30.5	2.0	－	3.6	0.5
その他	21 100.0	－	42.9	4.8	28.6	14.3	－	9.5	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（３）仕事上での困りごと

【問33で「収入を伴う仕事をしている」又は「ここ１年以内に収入を伴う仕事をしたことがある」と答えた方におうかがいします。】
問35　仕事をする上で困っていることは何ですか。（○はいくつでも）

仕事上での困りごとは、全体で「給与・工賃などの収入が少ない」が31.1％と高く、次いで「職場の人間関係」が19.3％、「通勤が大変」が15.8％となっています。一方、「特に困っていることはない」が38.1％と最も高くなっています。

障がい種別でみると、精神障がい（43.4％）、知的障がい（41.2％）が４割台、発達障がいが36.8％と「給与・工賃などの収入が少ない」が高くなっています。一方、身体障がいと難病（ともに42.6％）では「特に困っていることはない」が最も高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、発達障がい（34.2％）、知的障がい（30.5％）、精神障がい（30.2％）では「職場の人間関係」が３割台とほかの障がい種別より高くなっています。

（％）

障がい種別＼仕事上での困りごと	調査数（ｎ）	給与・工賃などの収入が少ない	勤務時間、日数が多く体力的に不安	通勤が大変	業務内容が合わない	職場の人間関係	職場の設備が障がいに対応していない	障がいに対する職場の理解不足	職場外で相談相手がいない	その他	特に困っていることはない	無回答
全　　体	753 100.0	31.1	13.0	15.8	5.6	19.3	5.6	13.7	5.4	4.2	38.1	2.4
身体障がい	364 100.0	27.5	11.8	16.2	4.9	13.2	6.9	14.3	5.2	3.6	42.6	2.5
知的障がい	131 100.0	41.2	6.1	13.7	8.4	30.5	3.8	9.2	8.4	1.5	33.6	3.1
発達障がい	76 100.0	36.8	9.2	17.1	13.2	34.2	7.9	17.1	6.6	7.9	21.1	3.9
精神障がい	106 100.0	43.4	17.9	19.8	11.3	30.2	6.6	24.5	10.4	9.4	17.0	2.8
高次脳機能障がい	13 100.0	23.1	－	30.8	7.7	15.4	7.7	15.4	15.4	7.7	46.2	－
難病	197 100.0	23.4	19.8	15.7	3.0	16.2	6.1	12.7	3.6	4.1	42.6	2.5
その他	21 100.0	19.0	19.0	23.8	4.8	14.3	4.8	9.5	－	14.3	38.1	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（４）仕事をしていない理由

【問33で「収入を伴う仕事はしていない」と答えた方におうかがいします。】
問36　仕事をしていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

仕事をしていない理由は、全体で「障がいや病気のために働くことができる状態でない」が46.6%と最も高く、次いで「高齢だから」が36.7%となっています。

障がい種別でみると、すべての障がい種別で「障がいや病気のために働くことができる状態でない」が最も高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、精神障がい（30.9%）、発達障がい（24.5%）では「働く自信がないから」がほかの障がい種別より高くなっています。

（%）

障がい種別＼仕事をしていない理由	調査数（n）	就職に向けて、企業面接を受けるなど、活動中である	現在、就職のために学校に通ったり、訓練をしている	障がいや病気のために働くことができる状態でない	働く自信がないから	希望に合った求人が見つからないから	医師や家族に止められているから	高齢だから	働く必要がないから	その他	特に理由はない	無回答
全　　体	929 100.0	3.3	3.1	46.6	15.0	7.3	5.4	36.7	11.5	10.3	4.1	2.9
身体障がい	510 100.0	3.1	2.5	48.2	11.4	6.9	2.7	37.8	11.4	9.0	3.7	3.1
知的障がい	168 100.0	3.6	4.2	61.3	8.9	3.0	3.6	17.3	5.4	11.9	3.0	3.6
発達障がい	49 100.0	8.2	8.2	61.2	24.5	12.2	12.2	12.2	8.2	14.3	4.1	4.1
精神障がい	191 100.0	4.2	4.2	59.7	30.9	11.5	15.7	31.9	7.9	13.1	3.7	2.1
高次脳機能障がい	58 100.0	3.4	1.7	63.8	1.7	1.7	－	39.7	12.1	1.7	3.4	3.4
難病	198 100.0	1.5	1.5	43.4	14.6	7.6	6.6	39.9	13.1	10.6	5.6	2.5
その他	39 100.0	－	－	30.8	15.4	－	2.6	51.3	12.8	10.3	10.3	2.6

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

（５）障がいのある人の就労支援として必要なこと

問37　あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
（○はいくつでも）

障がいのある人の就労支援として必要なことは、全体で「職場の障がい者理解」（42.2%）、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」（40.7%）が４割台、「勤務時間や日数が体調に合わせて変更できること」（36.4%）、「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」（32.4%）、「短時間勤務や勤務日数などの配慮」（31.1%）が３割台と高くなっています。

障がい種別でみると、発達障がい（57.4%）、知的障がい（49.0%）、精神障がい（46.2%）、身体障がい（41.5%）では「職場の障がい者理解」が高くなっています。高次脳機能障がいでは「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が36.5%、難病では「勤務時間や日数が体調に合わせて変更できること」が50.9%と高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、発達障がいでは「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」も35.7%とほかの障がい種別より高くなっています。

(%)

障がい者の就労支援として必要なこと ＼ 障がい種別	調査数（n）	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮	短時間勤務や勤務日数などの配慮	勤務時間や日数が体調に合わせて変更できること	在宅勤務の拡充	職場の障がい者理解	職場の上司や同僚に障がいの理解があること	職場で介助や援助などが受けられること	具合が悪くなった時に気軽に通院できること	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	無回答
全　　体	1,751 100.0	26.4	21.4	31.1	36.4	25.4	42.2	40.7	16.7	32.4	19.1	12.9	18.4	6.1	20.8
身体障がい	913 100.0	30.0	26.5	30.1	32.6	27.8	41.5	40.1	17.1	29.2	16.0	11.4	15.7	6.8	21.7
知的障がい	314 100.0	23.6	18.2	21.3	25.8	11.5	49.0	42.0	22.3	25.8	23.6	12.1	21.0	7.0	24.2
発達障がい	129 100.0	23.3	15.5	34.1	38.8	25.6	57.4	52.7	24.8	33.3	35.7	17.1	29.5	6.2	12.4
精神障がい	305 100.0	25.9	14.1	36.1	43.9	29.2	46.2	45.2	17.0	38.7	26.9	16.4	23.9	7.5	19.0
高次脳機能障がい	74 100.0	21.6	14.9	20.3	16.2	16.2	27.0	36.5	18.9	13.5	17.6	6.8	13.5	8.1	40.5
難病	409 100.0	30.6	26.9	37.9	50.9	30.1	41.3	42.8	17.6	44.0	20.8	15.2	17.8	3.9	16.9
その他	62 100.0	24.2	14.5	21.0	24.2	12.9	32.3	30.6	14.5	27.4	11.3	12.9	14.5	11.3	33.9

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

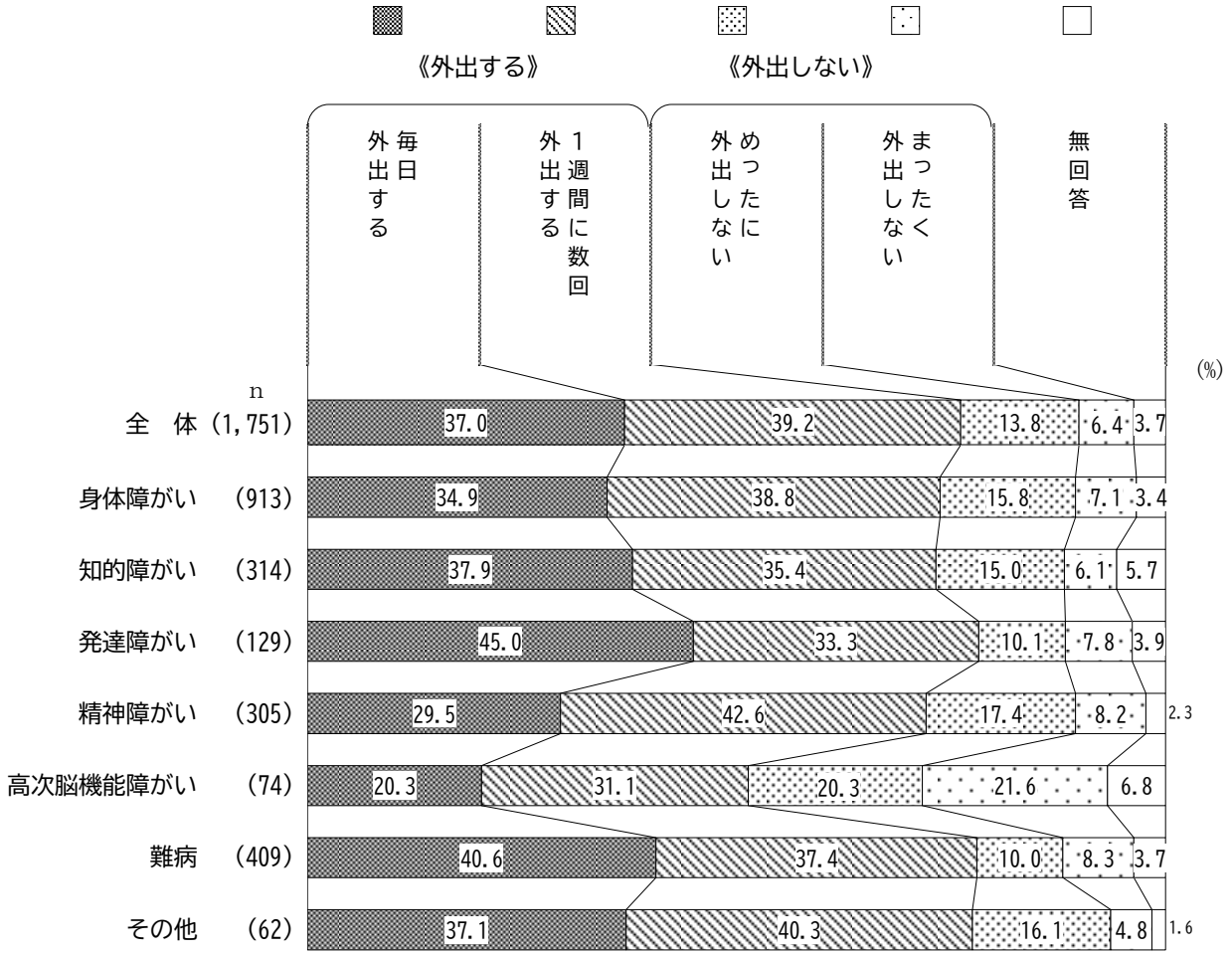
８　外出や余暇の過ごし方について

（１）１週間の外出頻度

問38　あなたは、１週間にどの程度外出しますか。（○は１つ）

一週間の外出頻度は、全体で「毎日外出する」（37.0％）、「１週間に数回外出する」（39.2％）を合わせた「外出する」は76.2％となっています。一方、「めったに外出しない」（13.8％）、「まったく外出しない」（6.4％）を合わせた「外出しない」は20.2％となっています。

障がい種別でみると、発達障がい（78.3％）、難病（78.0％）、身体障がい（73.7％）、知的障がい（73.3％）、精神障がい（72.1％）では「外出する」が７割台となっており、高次脳機能障がいでは「外出しない」が41.9％と特に高くなっています。



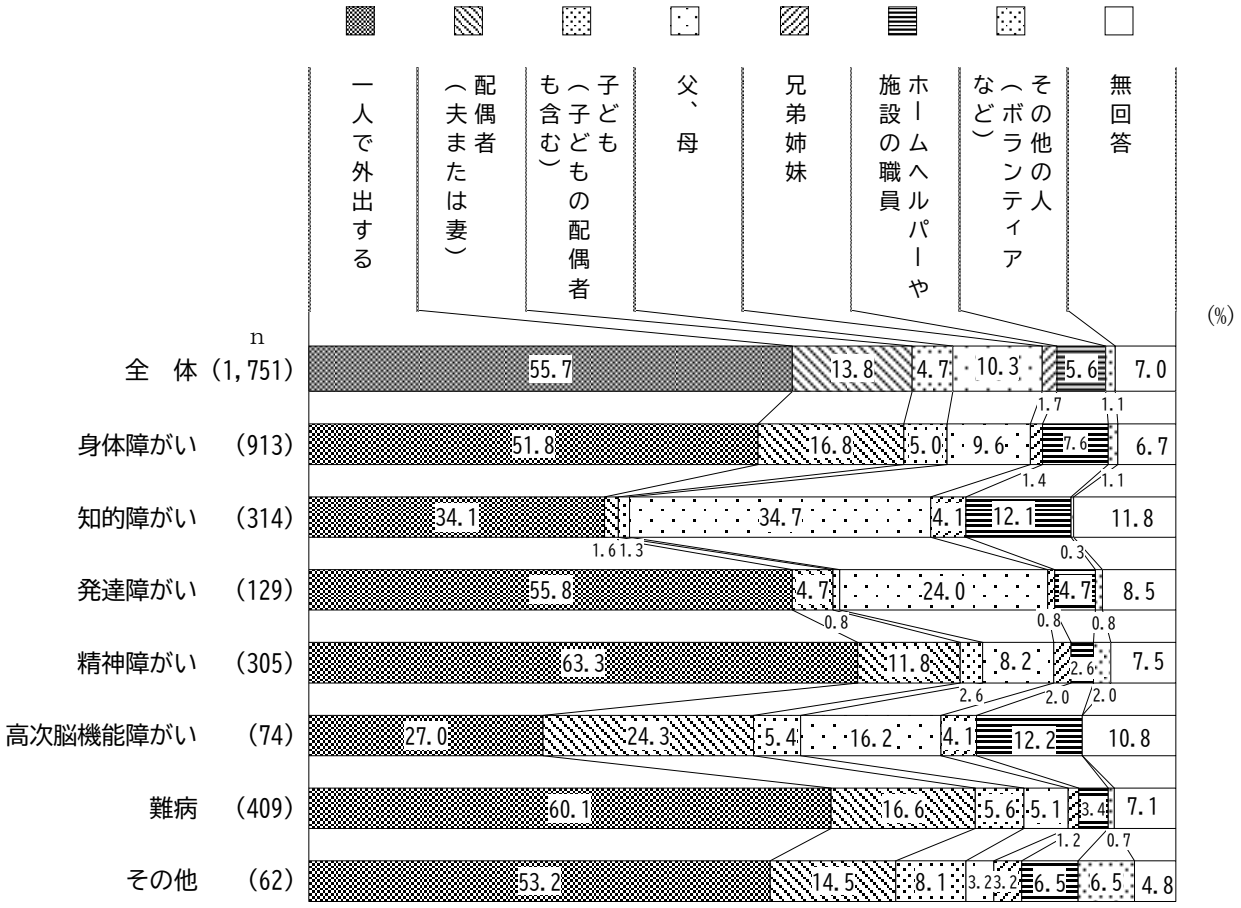
（２）外出する際の主な同伴者

問39　あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。（○は１つ）

外出する際の主な同伴者は、全体で「配偶者（夫または妻）」が13.8％と高く、次いで「父、母」が10.3％となっています。一方、「一人で外出する」は55.7％と最も高くなっています。

障がい種別でみると、精神障がい（63.3％）、難病（60.1％）では「一人で外出する」が６割台、知的障がいでは「父、母」が34.7％と高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、高次脳機能障がいでは「配偶者（夫または妻）」が24.3％とほかの障がい種別より高くなっています。



（３）一人で外出できない場合の外出手段

問40　一人で外出できない場合、どのように外出していますか。（○はいくつでも）

一人で外出できない場合の外出手段は、全体で「家族に付き添ってもらっている」が34.3％と最も高くなっています。一方、「外出しない」は28.8％となっています。

障がい種別でみると、知的障がい（53.8％）、発達障がい（43.4％）、高次脳機能障がい（41.9％）では「家族に付き添ってもらっている」が高くなっています。精神障がい（37.7％）、難病（35.7％）、発達障がい（31.0％）では「外出しない」が３割台となっています。

（％）

障がい種別＼一人で外出できない場合の外出手段	調査数（ｎ）	ホームヘルパーなどの福祉サービスを利用している	福祉タクシーなどの有料サービスを利用している	家族に付き添ってもらっている	友人や知人、ボランティアなどに付き添ってもらっている	その他	外出しない	無回答
全　　体	1,751 100.0	6.7	7.0	34.3	4.1	5.8	28.8	23.8
身体障がい	913 100.0	7.6	11.2	35.9	4.4	5.8	26.5	22.5
知的障がい	314 100.0	15.6	5.7	53.8	2.2	3.2	15.3	22.3
発達障がい	129 100.0	7.8	3.1	43.4	3.9	4.7	31.0	19.4
精神障がい	305 100.0	4.3	3.9	27.9	4.3	3.9	37.7	24.3
高次脳機能障がい	74 100.0	9.5	6.8	41.9	2.7	5.4	27.0	18.9
難病	409 100.0	3.9	5.4	30.6	2.9	7.1	35.7	21.5
その他	62 100.0	8.1	4.8	30.6	11.3	9.7	16.1	29.0

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（４）外出する目的

問41　あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（○は１つ）

外出する目的は、全体で「通勤・通学・通所」が31.2％と最も高く、次いで「医療機関への受診」（19.4％）、「買い物に行く」（19.3％）が約２割となっています。

障がい種別ごとに比較すると、知的障がい（41.7％）、発達障がい（41.1％）では「通勤・通学・通所」が４割台、身体障がい（22.1％）、精神障がい（21.6％）では「医療機関への受診」が２割台、高次脳機能障がいでは「散歩に行く」が14.9％とほかの障がい種別よりそれぞれ高くなっています。

（％）

障がい種別＼外出する目的	調査数（ｎ）	通勤・通学・通所	訓練やリハビリに行く	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	グループ活動に参加する	散歩に行く	ボランティア活動	その他	無回答
全　　体	1,751 100.0	31.2	2.3	19.4	19.3	1.4	3.1	0.3	6.7	0.3	1.9	14.0
身体障がい	913 100.0	30.7	3.1	22.1	18.9	1.4	2.2	0.1	6.7	0.4	2.1	12.3
知的障がい	314 100.0	41.7	0.6	12.4	11.8	－	3.2	1.0	7.6	－	1.3	20.4
発達障がい	129 100.0	41.1	0.8	13.2	12.4	1.6	2.3	－	3.1	0.8	3.1	21.7
精神障がい	305 100.0	21.0	1.3	21.6	21.3	1.6	4.3	0.7	7.9	－	3.0	17.4
高次脳機能障がい	74 100.0	13.5	9.5	16.2	17.6	1.4	2.7	－	14.9	－	8.1	16.2
難病	409 100.0	32.8	2.0	19.6	19.1	1.0	3.2	－	4.4	0.2	2.0	15.9
その他	62 100.0	27.4	1.6	27.4	22.6	－	－	1.6	4.8	1.6	1.6	11.3

（５）外出の際の困りごと

問42　外出の際に困っていることはありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることは、全体で「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」（16.2%）が高く、次いで「他人との会話が難しい」（11.8%）、「障がい者でも使えるトイレや移動しやすい通路などの情報がない」（11.7%）が１割台となっています。一方、「特に困っていることはない」が41.4%と最も高くなっています。

障がい種別でみると、発達障がい（31.8%）、知的障がい（28.0%）では「他人との会話が難しい」、発達障がい（27.1%）、精神障がい（24.9%）では「他人の視線が気になる」がほかの障がい種別よりそれぞれ高くなっています。

(%)

障がい種別＼外出の際に困っていること	調査数（n）	障がい者でも使えるトイレや移動しやすい通路などの情報がない	イベントなどが、障がいに対応しているかわからない	付き添ってくれる人がいない	他人との会話が難しい	他人の視線が気になる	必要なときに、まわりの人の手助け・配慮が足りない	バリアフリーの通路が少ない	車を駐車するところがない	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい	その他	特に困っていることはない	無回答
全　　体	1,751 100.0	11.7	6.6	6.5	11.8	9.7	7.8	7.9	7.0	16.2	6.4	41.4	11.4
身体障がい	913 100.0	17.2	9.1	7.7	9.1	5.7	8.8	12.7	9.0	19.5	7.8	36.0	10.8
知的障がい	314 100.0	15.0	8.6	9.6	28.0	13.4	11.5	9.2	10.5	19.1	5.1	27.4	14.3
発達障がい	129 100.0	8.5	3.9	7.8	31.8	27.1	9.3	7.0	4.7	17.8	7.8	25.6	11.6
精神障がい	305 100.0	6.2	6.6	9.5	19.0	24.9	10.2	3.3	3.9	17.4	5.9	35.4	14.1
高次脳機能障がい	74 100.0	12.2	9.5	4.1	10.8	5.4	9.5	13.5	9.5	18.9	12.2	33.8	18.9
難病	409 100.0	10.8	4.4	4.9	3.7	4.2	5.4	6.8	6.8	15.4	6.6	51.3	10.5
その他	62 100.0	11.3	4.8	3.2	4.8	8.1	3.2	3.2	3.2	11.3	8.1	53.2	11.3

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

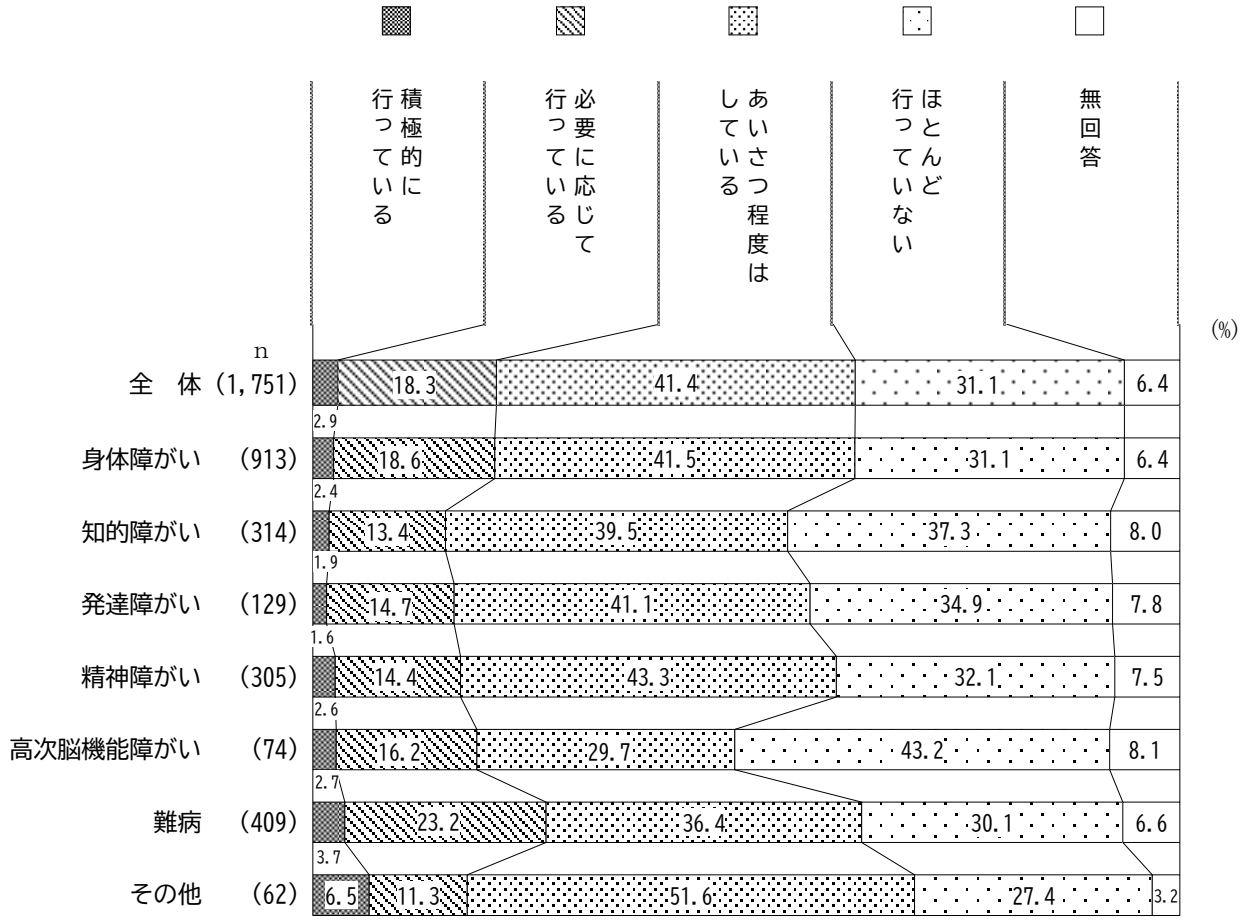
（６）地域の人との交流

問43　地域の人との交流は、次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

地域の人との交流は、全体で「あいさつ程度はしている」が41.4％と最も高く、次いで「ほとんど行っていない」は31.1％、「必要に応じて行っている」は18.3％、「積極的に行っている」は2.9％となっています。

障がい種別でみると、高次脳機能障がいでは「ほとんど行っていない」が43.2％と最も高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、難病では「必要に応じて行っている」が23.2％とほかの障がい種別よりやや高くなっています。



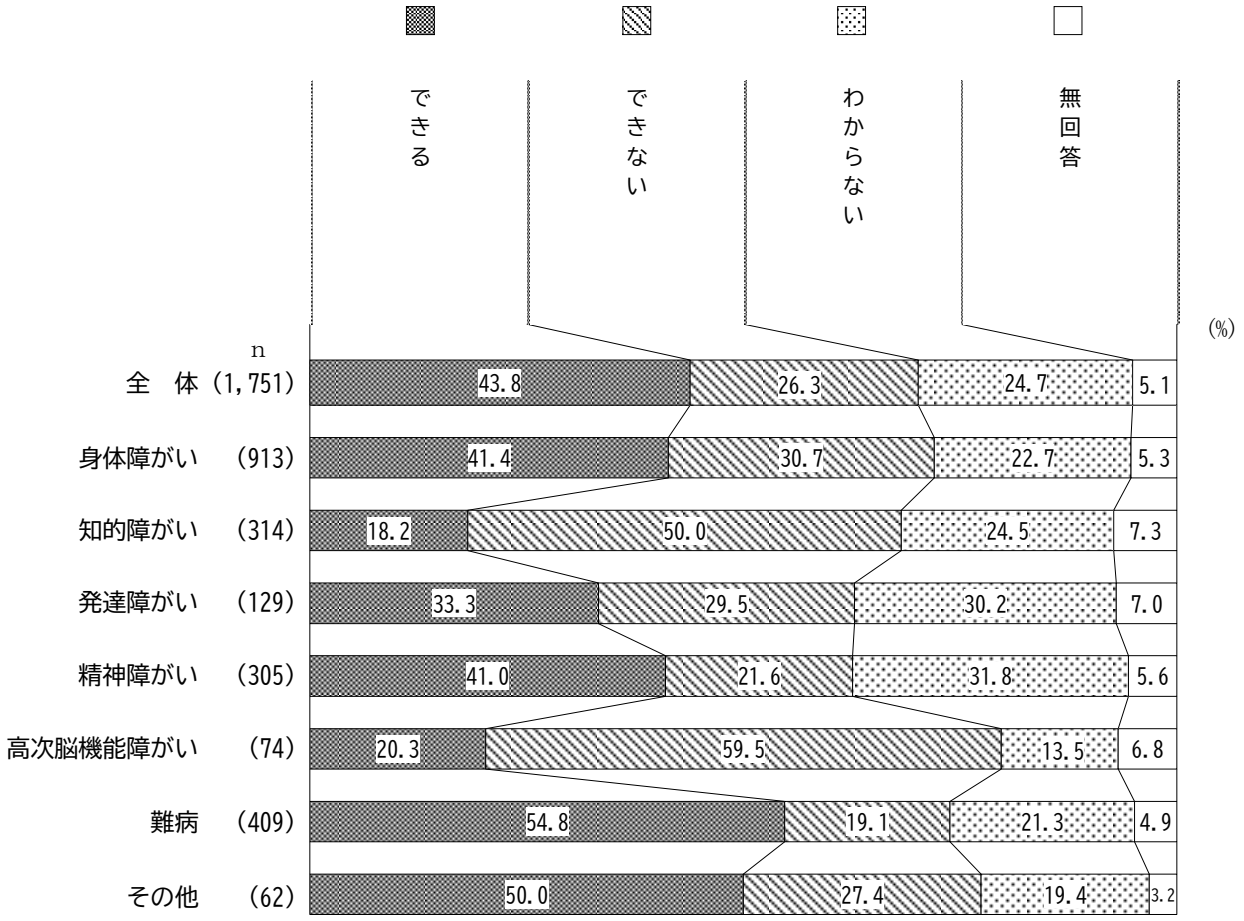
９　災害時の避難などについて

（１）災害時に一人での避難の可否

問44　あなたは、火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。（○は１つ）

災害時に一人での避難は、全体で「できる」と答えた人が43.8％、「できない」と答えた人は26.3％、「わからない」と答えた人は24.7％となっています。

障がい種別ごとに比較すると、難病では「できる」と答えた人が54.8％と最も高く、身体障がい（41.4％）、精神障がい（41.0％）が約４割となっています。一方、高次脳機能障がいでは「できない」と答えた人が59.5％とほかの障がい種別より高く、次いで知的障がいが50.0％となっています。

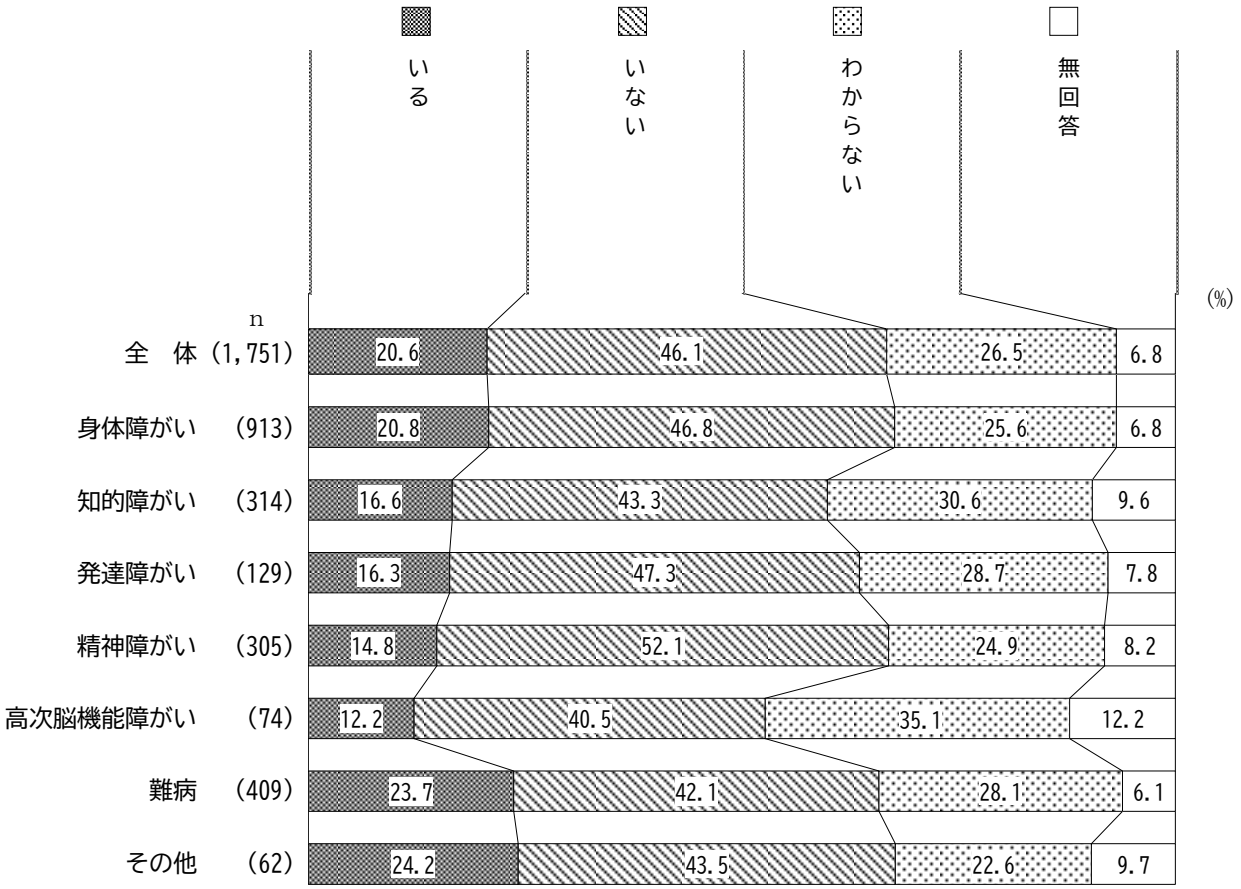


（２）一人でいるときの近所の支援者の有無

問45　家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。
（○は１つ）

一人でいるときの近所の支援者は、全体で「いない」と答えた人が46.1％と最も高く、「いる」と答えた20.6％を大きく上回っています。一方、「わからない」と答えた人は26.5％となっています。

障がい種別ごとに比較すると、難病（23.7％）、身体障がい（20.8％）では「いる」と答えた人が２割台とほかの障がい種別より高くなっています。一方、精神障がいでは「いない」と答えた人が52.1％と最も高く、その他の障がい種別は４割台となっています。高次脳機能障がいでは「わからない」と答えた人が35.1％とほかの障がい種別より高くなっています。



（３）災害時の困りごと

問46　火事や地震などの災害時に困ることは何ですか。（○はいくつでも）

災害時に困ることは、全体で「投薬や治療が受けられない」が50.0％と最も高く、次いで「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」が44.8％、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が37.3％となっています。

障がい種別でみると、難病（67.0％）、精神障がい（61.0％）では「投薬や治療が受けられない」が６割台、高次脳機能障がい（51.4％）、知的障がい（51.3％）では「安全なところまで、迅速に避難することができない」が５割台、発達障がい（49.6％）、知的障がい（48.1％）、身体障がい（47.6％）では「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」が４割台と高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、知的障がい、発達障がいでは「周囲とコミュニケーションがとれない」、「救助を求めることができない」がほかの障がい種別より高くなっています。

（％）

障がい種別＼災害時の困りごと	調査数（ｎ）	投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる	補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難することができない	被害状況、避難場所などの情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安	その他	特にない	無回答
全　　体	1,751 100.0	50.0	7.5	9.4	18.1	37.3	19.4	18.0	44.8	5.0	11.5	6.5
身体障がい	913 100.0	47.4	11.3	12.7	18.2	44.5	19.9	14.6	47.6	5.8	10.5	6.2
知的障がい	314 100.0	34.1	5.7	8.6	39.8	51.3	30.9	41.7	48.1	7.6	8.0	8.3
発達障がい	129 100.0	44.2	5.4	9.3	35.7	34.9	19.4	45.7	49.6	6.2	9.3	6.2
精神障がい	305 100.0	61.0	3.0	6.6	16.4	28.9	20.7	24.3	46.2	4.9	11.1	7.9
高次脳機能障がい	74 100.0	41.9	20.3	17.6	28.4	51.4	21.6	14.9	43.2	5.4	6.8	10.8
難病	409 100.0	67.0	6.1	7.8	11.7	30.8	11.7	7.3	47.9	5.1	9.0	5.6
その他	62 100.0	45.2	8.1	12.9	17.7	38.7	17.7	16.1	41.9	4.8	14.5	8.1

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

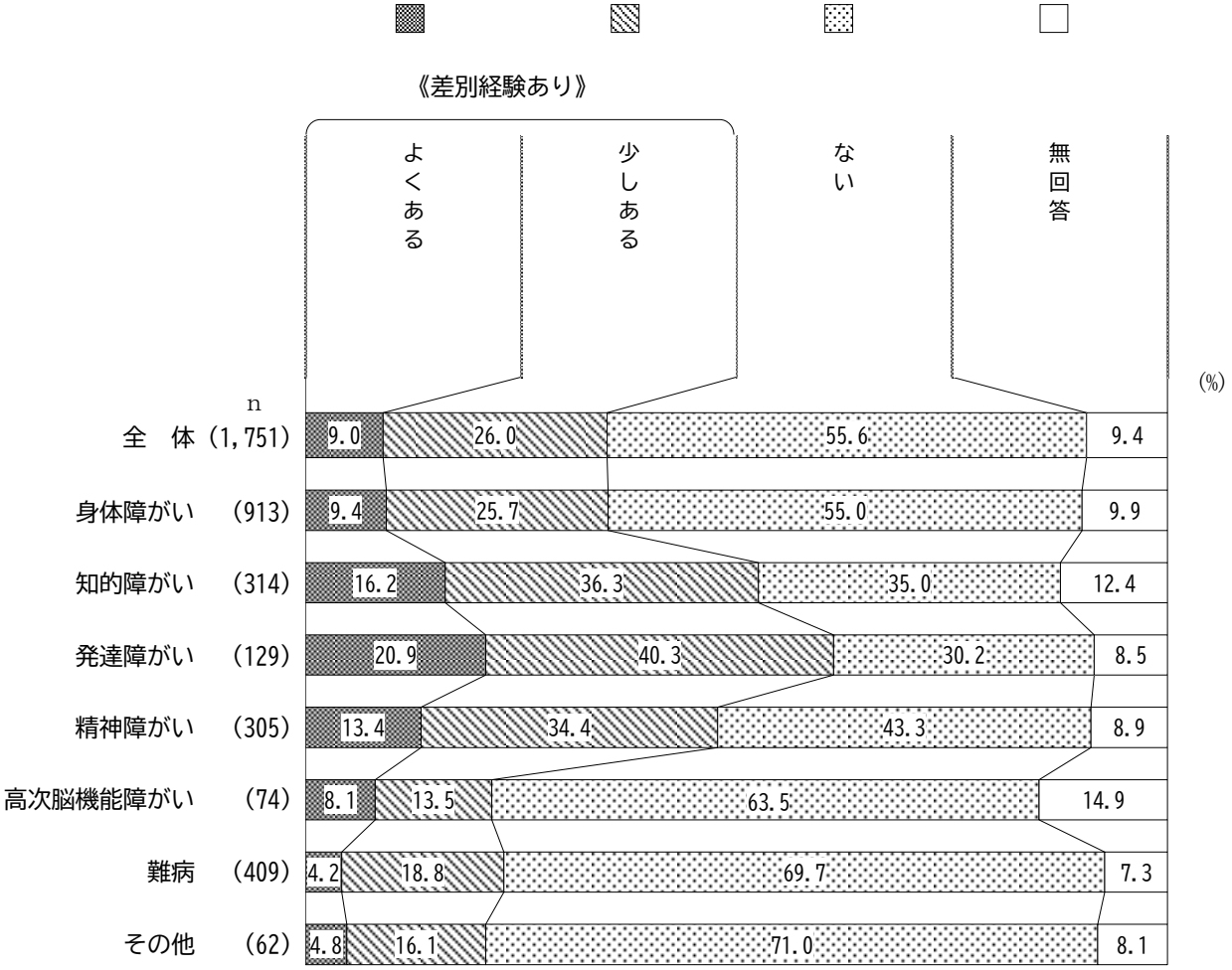
10　差別や権利擁護などについて

（１）障がい者差別の経験

問47　障がいがあることで、差別を感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。（○は１つ）

障がい者差別の経験は、全体で「よくある」（9.0%）、「少しある」（26.0%）を合わせた「差別経験あり」は35.0%となっています。一方、障がい者差別の経験が「ない」と答えた人は55.6%となっています。

障がい種別ごとに比較すると、発達障がいでは「差別経験あり」が61.2%と最も高く、次いで知的障がい52.5%、精神障がいが47.8%となっています。難病（69.7%）、高次脳機能障がい（63.5%）では障がい者差別の経験が「ない」と答えた人がほかの障がい種別より高くなっています。



（２）差別を受けた場面（具体的内容）

【問47で「よくある」又は「少しある」と答えた方におうかがいします。】
問48　具体的には、どのようなときに差別を感じたり、嫌な思いをしましたか。（形式自由）

差別を受けたことがあると回答した方に受けた差別の具体的内容を聞いたところ、回答者 274 名から延べ 305 件の意見がありました。

主な意見内容として、「見た目や行動、障がいの開示で」（77 件）が特に多く、次いで「職場・仕事探しで」（46 件）、「外出時・移動時に」（29 件）となっています。

以下、寄せられた回答の中からご意見を抜粋しました。

■見た目や行動、障がいの開示で（77 件）

・発病当時、近所の人から歩きの練習をしていると、「かわいそうに」と言われ、ショックでした。今は外出は車イスですが、声かけしてくれたり、皆さん親切な方が多いと思います。
・先天性疾患の為身体に奇形があります。車イスに乗って外出したりしますが、回りの方々に好奇の目で見られる事が度々あります。

■職場・仕事探しで（43 件）

・会社での仕事の配慮をわがままや、ひいきと思われていたことがある。産まれてくる子供が障がい者になると言われた。
・障害者雇用で長年働いているが、厳しくされたほうがありがたく、逆にネコなで声をかけられるほうがバカにされた気持ちになる。無視されたりは散々経験があるが、それは正直な対応であり、ネコなで声よりはマシに感じた程である、私はいつも特別扱いが大キライで普通に接してほしく思っている、普通がそんなにむずかしいですかと、皆に問いたい。

■外出時・移動時に（28 件）

・ヘルプマークを付けているのに、認知度が低いのか、特にバスではヘルプマークが表示されてないので席をゆずってもらえない。
・やはり障害者手帳を見せる時、見せた時。障害者駐車スペースにいる時などに他人が気になり不快になる。

■交通機関（27 件）

・公共の乗り物での、臨機応変な行動(急いで乗り換えが必要な時に走る、混んでいる車内での人との距離や体の向き等)が出来ないときに、背中を押されたり暴言をはかれる。
・都バスに乗る際に無料パスを提示したら嫌な顔をされました。国際興業バスの半額対応で嫌なことは１度もないです。

■保育・教育の場で（18 件）

・子供が小学生の時、特別支援学級に通っていたが、他のクラスの子にバカにされたり、他の子の親が子供に「言う事聞けないなら特別支援学級に入れるよ」と注意したりしているのを聞いて、障がい者と無関係な人達にとっては差別の対象でしかないのだなと感じた。

・特別支援学級のことを良かれと思って「さん」付けで呼ばれることが差別だと感じる。

■店などの民間施設、習い事やジム等利用時に（18 件）

・お店のレジで聴こえない事を伝えるとあからさまに嫌な顔をされる、中途失聴なので、普通に話す事は出来るので、特に不思議そうな顔で見られる事が多い。病院や公共の場などもそういうことはあります。聴覚障がい＝手話ではないので、その辺の細かい部分が伝わらず、嫌な思いは、かなりしています。

・聞こえないという理由で、習い事を断られた事がある。

■健常者だと勘違いされたときに（15 件）

・外見から健常者ではないことがわからないため、周囲の理解が得られない。攻撃的な言葉を言われる。必要な支援が得にくい。

・時々、周囲から一線を引かれるような対応をされたりすることがある（例えば、親しくしていた方々でも、こちらが精神障がい者だと分かると急によそよそしくなる等）。また、一見健常者にみえるので日常生活の動作や仕事の遂行能力に多少の問題があっても周囲から理解されにくく、周囲が望むような行動がきちんと達成できないと普通に叱責されたりする。

■医療機関（10 件）

・近くの医者に通っている時、先生が私の順番を早くしてしまったのに、となりの処理室で「今の人は精神の人なので待てないのよ。」とうそを言っていた。他の人にも「精神の人ってあつかいがわからないのよ。」と言っていたのが聞こえた。それからそこには行かないようにした。

・例えば医療制度（福祉制度）を受ける時に、時々病院、受付などにあからさまに嫌な態度やきつい言葉での対応をされる等。

■行政・制度、公共施設（10 件）

・タクシーに乗車した際に、身体障がい者は割引できるが精神障がい者は割引できないと言われた。同じ障がい者で体調が悪いのに割引してもらえないことに憤りを感じた。

・生まれて間もない頃に、福祉センターの窓口で差別的な発言をされた。手当の受給手続きの際に、「障害者が生まれて良かったね」と。こんな人、いるんだなと感じた。福祉の窓口なのに。基本的に年配者は、若い人に対してモラルが無い。

■他人との会話時に（９件）

・仲間に入りにくい（他の方がおしゃべりしているのに聞こえてないからと、ききかえすと場がしらけてしまうとかが嫌なので）。

・差別を受けたり、嫌なことをされることはほとんどありませんが(懇親会などの場で)、他の人がコミュニケーション取れている中で自分はコミュニケーションがあまり取れないという状況になると少し気が滅入ることはあります。

■家庭・家族内で（７件）

・家族と生涯トラウマになるようなケンカをした時に、浴びせられた言葉がひどかった。彼の怒りが適当と思ったのは最初だけで、そのあとに続いたのは「ただ自分がムシャクシャしたから」という罵詈雑言であったと思う。ＴＶやＷｅｂでも「キチガイ」扱いが人を傷つける手段になっている。

・障害があるとわかった時に家族の理解を得るまでに時間がかかり、嫌な思いをしました。他人に理解を得るまでは時間かかかると思います。

■インターネットやＴＶ放送で（５件）

・ネットでは障がい者に対してひどい暴言を見ることがよくある。

・自分向けではないが、SNS 等で障がい者を非難する人がいると自分の心も滅入る。

■障害者手帳を持っていることで（４件）

・障害者手帳を人に見られそうになった時に、障害者だと思われるのが嫌な気持ちになりました。

・障害手帳を持っていることをネタにされて自分のいないところで笑い話になっていたのが辛かった。

■その他（39 件）

・何らかのトラブルを起して世間を騒がせている有名人が、ＡＳＤやＡＤＨＤを安易にカミングアウトしてしまうこと。これまでの過ちを障害のせいにして、気軽に許しを請うている姿勢が許せない。

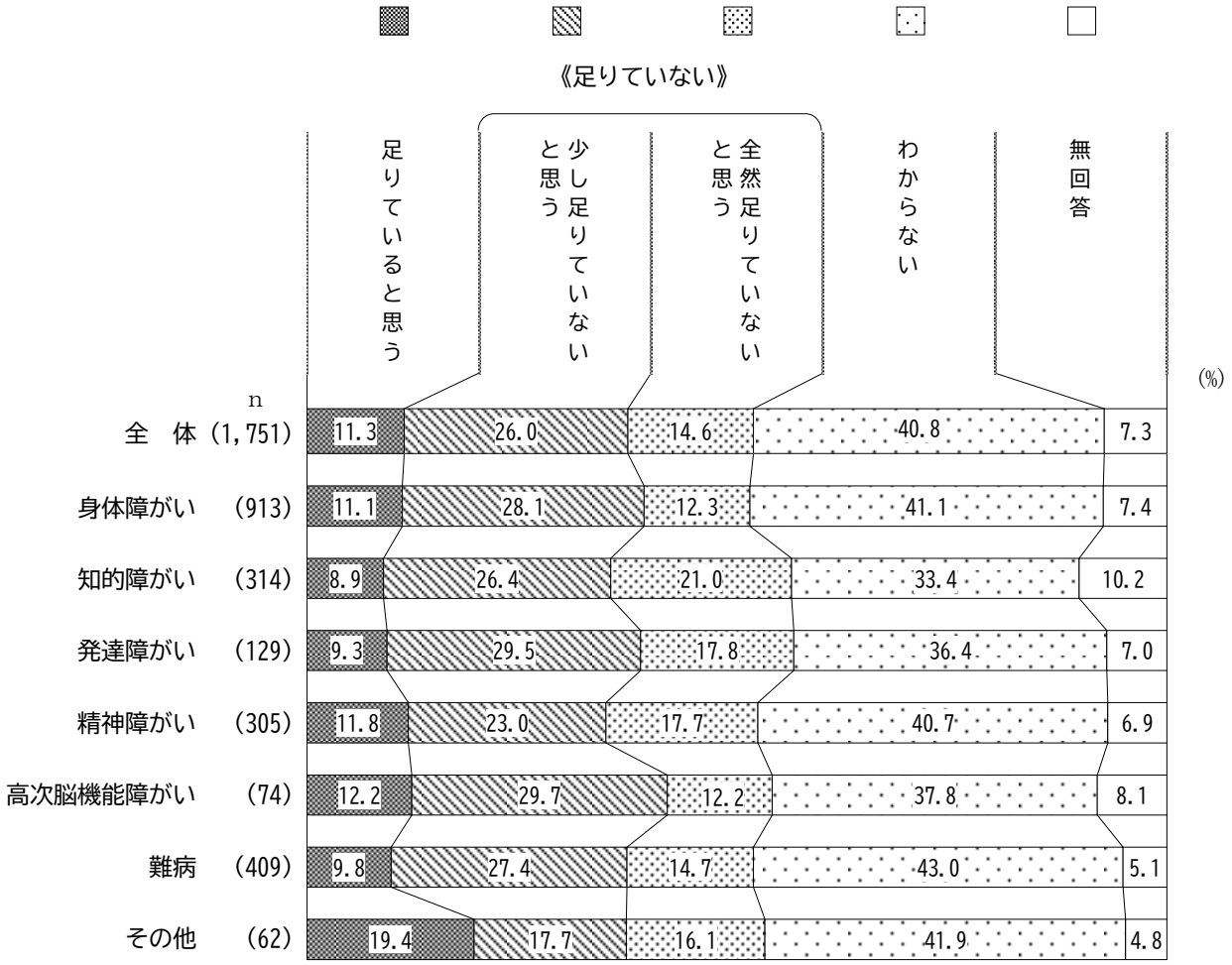
・近所の人に無視されています。災害時には家族以外には助けてもらえません。しかたないと思っています。

（３）障がいのある人への区民の対応や理解度

問49　あなたは、区民の、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。
（○は１つ）

障がいのある人への区民の対応や理解度は、全体で「足りていると思う」と答えた人が11.3％となっています。一方、「少し足りていないと思う」（26.0％）、「全然足りていないと思う」（14.6％）を合わせた「足りていない」は40.6％となっています。「わからない」と答えた人は40.8％となっています。

いずれの障がい種別でも、区民の対応や理解度が「足りていない」と答えた人が４割台と高くなっています。

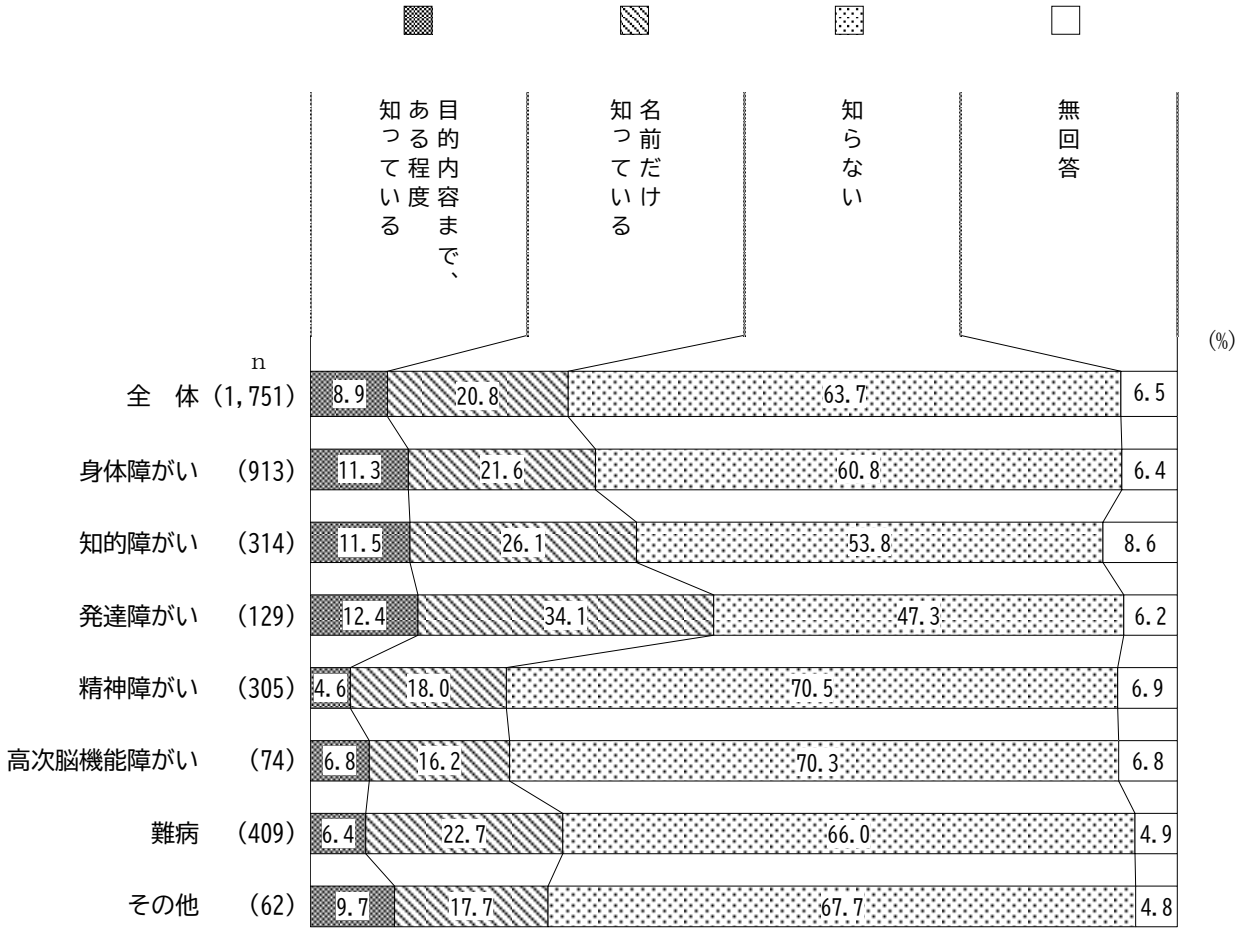


（４）「障害者差別解消法」の認知度

問50　障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、平成28年４月１日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。（○は１つ）

障害者差別解消法の認知度は、全体で「知らない」が63.7％と最も高く、次いで「名前だけ知っている」は20.8％、「目的内容まで、ある程度知っている」は8.9％となっています。

障がい種別ごとに全体と比較すると、精神障がい（70.5％）、高次脳機能障がい（70.3％）、難病（66.0％）では「知らない」が高くなっています。



（５）共生社会の実現のために力を入れるべきこと

問51　障がいのある人もない人も、共に支え合いながら暮らすことができるように、地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思いますか。（○は３つまで）

共生社会の実現のために力を入れるべきことは、全体で「障がい者の一般企業への就労の促進」が42.4%と最も高く、次いで「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が38.3%、「地域行事への障がい者の参加を促進するなど、地域住民などとの交流の場を増やすこと」が25.4%となっています。

障がい種別ごとに比較すると、発達障がい（48.1%）、難病（44.5%）、知的障がい（42.7%）では「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が４割台とほかの障がい種別より高くなっています。

（%）

障がい種別＼共生社会の実現のために力を入れるべきこと	調査数（n）	地域行事への障がい者の参加を促進するなど、地域住民などとの交流の場を増やすこと	学校での障がいに関する教育や情報の提供	障がいについての正しい知識の普及啓発のための講演会などの開催	障がい者作品展や障がい者と交流するイベントの開催	通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進	障がい者の一般企業への就労の促進	その他	特にない	無回答
全　　体	1,751 100.0	25.4	38.3	23.0	8.2	20.4	42.4	4.0	13.9	11.0
身体障がい	913 100.0	24.6	39.1	21.7	7.9	20.9	41.8	4.8	13.3	11.1
知的障がい	314 100.0	29.3	42.7	25.5	13.1	24.8	35.4	2.9	9.2	14.6
発達障がい	129 100.0	31.8	48.1	29.5	9.3	23.3	42.6	3.9	5.4	9.3
精神障がい	305 100.0	18.0	33.1	27.9	7.2	18.0	44.9	4.3	16.1	11.5
高次脳機能障がい	74 100.0	28.4	27.0	13.5	8.1	12.2	36.5	6.8	16.2	10.8
難病	409 100.0	26.7	44.5	23.0	6.8	22.2	43.8	4.2	14.4	7.3
その他	62 100.0	33.9	24.2	25.8	12.9	24.2	33.9	8.1	14.5	12.9

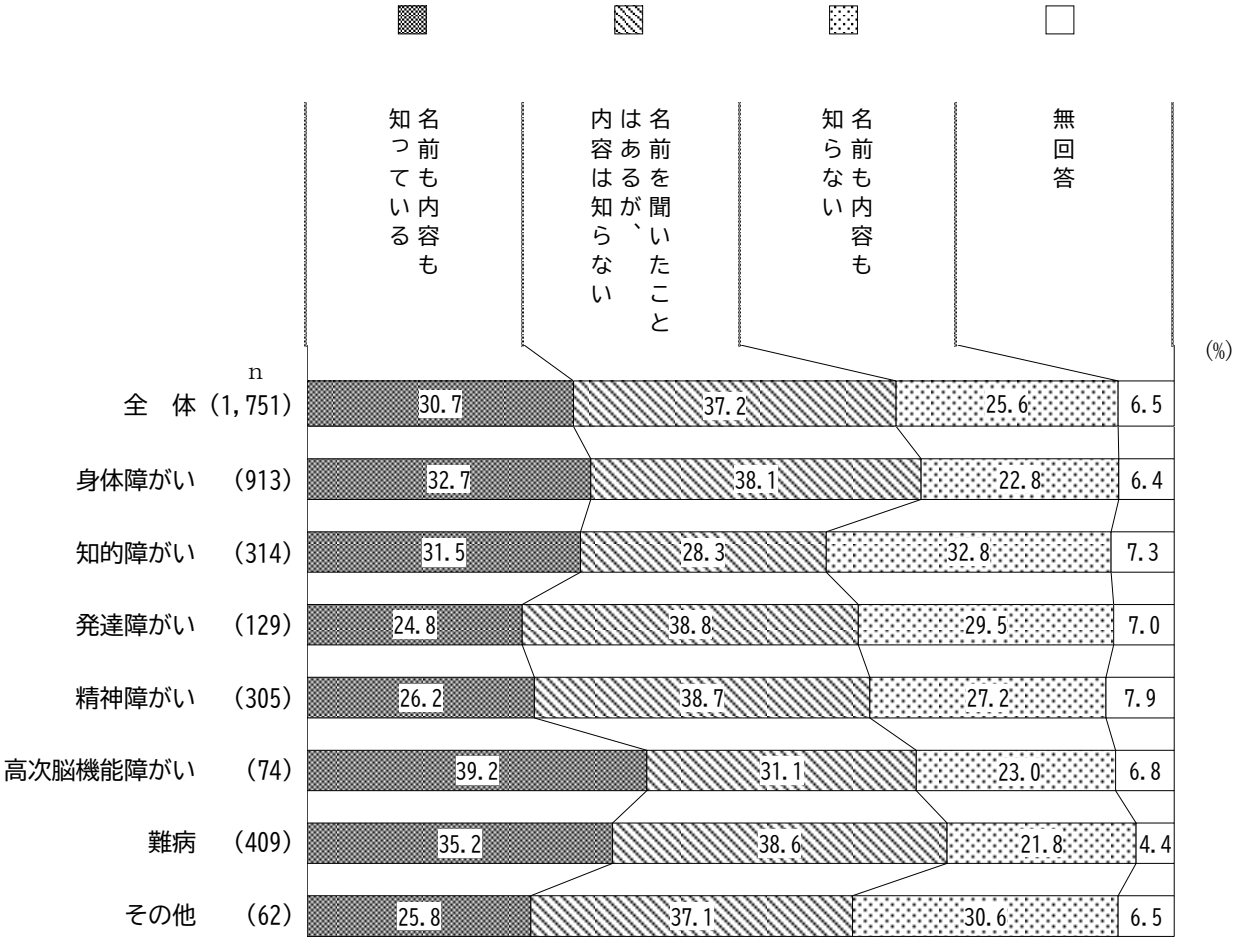
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

（６）「成年後見制度」の認知度

問52　成年後見制度とは、認知症や知的障がい、精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。（○は１つ）

成年後見制度の認知度は、全体で「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が37.2％と最も高く、次いで「名前も内容も知っている」は30.7％、「名前も内容も知らない」は25.6％となっています。

障がい種別でみると、高次脳機能障がいでは「名前も内容も知っている」が39.2％、知的障がいでは「名前も内容も知らない」が32.8％と最も高くなっています。



（７）自由意見

問53　最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことがありましたら、自由にお書きください。

自由意見としては、「サービス・制度に関して」が最も多く103件、次いで「アンケート調査に関して」が77件、「情報提供・相談支援体制に関して」が63件となっています。

以下、寄せられた回答の中からご意見を抜粋しました。

■サービス・制度に関して（103 件）

・私は指定難病で医療費の補助を受けています。この制度がなければ、今の治療は受けられないので、とてもありがたいです。今後、難病指定の取り消しなどの話を聞く事もありますが、このまま継続していただきたいです。

・利用できるサービスが、区によって使えたり、使えなかったりとか、車いすで移動していてトイレを使いたいのに何でもない人が使っていて、その中でパソコンを出して仕事をしていたりして長時間使えないとか、色々ありすぎて書けません。障がい者というのを前面に出しすぎると、嫌がられるし、なかなかむずかしい世の中です。

・聴覚障がいは目で見てわからない障がいなので、なかなか理解されない。私たち聞こえない人が望んでいることと聴者が思い描いているニーズが全く合っていないと感じることが多いです。手話通訳…遠隔通訳サービスを導入してほしい。選挙の際は必ず手話ができる人を設置してください！コミュニケーションボードや筆談ボート設置しているのにも関わらず出してくれませんでした。耳がきこえないので筆談してほしいと伝えても一方的に話されて大変困っています。置いていないのでしたら、ＨＰに掲載されているのはウソになるので直ちに改善してください。耳がきこえないってどんなことなのか？区役所で働いている皆さんが勉強して下さい。

■アンケート調査に関して（77 件）

・アンケート調査は、２回目の協力です。できれば、以前のアンケートの結果、今回のアンケートの結果を、板橋区の広報誌に載せるとかしてほしい。福祉団体、事業所等にもアンケートの実施をしてほしい。ヘルパーさんの声を聞いてほしい、細々な事ですが色んな方と、協力して生活しています。

・知的・精神障がいと身体障がいは別物です。このアンケートの設問を拝読して、どちらに向けて質問しているのかわからず、回答に迷うことが数回ありました。アンケートを出す側の皆さんが一緒くたに考えていらっしゃるのではないか、と最後までモヤモヤした気持ちが残りました。このアンケートが少しでも有効に使われることを祈っています。

・アンケートが多く長時間かかりとても大変です。障がい者にはつらいです。

■情報提供・相談支援体制に関して（63件）

・10年以上メンタルクリニックに通っていて、病院も４つ目ですが色々なサービスがあるのを全く知らなくて身近に障がい者の方もいなくて情報を得る事も出来ませんでした。自分がそのようなサービスを受けられる状態なのも気付きませんでした。現在は色々なサービスを受けられてありがたいですが、障がい者の方と知りあわなければ現在も何も受けてなかったと思います。病院で今までこういうサービスがありますよとかの説明も受けた事も無いので、自分から調べないといけないので、誰かが教えてくれればもっと早く生きやすかったと思います。今も何も知らないで困っている方がいると思うので、病院で症状がある方には、区に相談した方がいいですよぐらいは言って欲しいと思います。

・相談できる場所があることをこのアンケートで知りましたが、障がい手帳を使って受けられるサービス施設等が乗っているリーフレットやホームページがあると日常がもっと活動的に過ごせると思います。お金の事も心配で、例えば銀行や信用金庫などで受けられる制度などがあると良いと思います。

・健康福祉センターへ障害者手帳を申請した際に障害者福祉のしおりをもらい、その中に相談窓口なども紹介されていましたが、担当分野が分かれていて総合的にアドバイスをしてくれる場所がなく、とても困りました。結局、民間企業が総合的かつ長期的に相談にのってくれることが分かり、今はそこに頼っています。区の施設にも総合的に相談を受けてくれる場所があると助かります。

■経済的問題・支援に関して（61 件）

・タクシーで通院する際に、緊急時で、起き上がるのがやっとで歩行が無理な状態なのでタクシーを利用したいと福祉事務所に電話したらタクシー代の支給は認めることはできないと言われました。私は極度の血圧降下であやうく生死をさまようところでした。看護師にも至急受診をすすめられました。私は生活保護の為、タクシー代を払う余裕がなくしかたがなく病院まで歩いて行きました。命にかかわるような緊急性がある場合はタクシー代を支給して欲しいです。

・体調の事も心配なのでフルタイムで働けません。今もですが、今後等の経済的不安があります。ｉＤｅＣｏは会社に書類を書いてもらわないといけないため、ハードルが高いです。この書類を区で（行政で）発行してくれるシステムにしてもらえないか。（障がい福祉のサービスを受けている人のみなど）これが全ての解決策ではありませんが１つの案として。

・身体の一部でありその人に合った補聴器は場合により高額です。私的事ですが両耳で約１００万円です。区での低額なサポートでは自分に合った物が使用出来まず毎日つらい思いをしています。クレジットカードを使用すれば利息で高くなり返金が大変です。（低収入の為）５０％のサポートと利息が付かずに講入出来れば身近に安心して生活出来るのにと思っています。今後、年齢とともに耳が悪くなると考えると。改善して欲しいです。これから年齢とともに収入も無くなりますので早急にお願いしたいです。

■障がい者・児とその家族の理解・啓発、差別撤廃に関して（56件）

・障がいのある人も、そうでない方も、〝自分〟や〝自分の家族〟が当事者だったら、どう思うのかを考えてみてほしいです。幼い頃から、そういった教育は、本当に必要なのだと思います。〝思いやり〟が大切です。自身が大変でも、他の人に対する、思いやりや優しさは、本当に大切なのだと、この年になり分かり始めました。私も他の人々の為に少しでも頑張ります！！

・入居しているアパートの大家が常に「障がい者と高齢者は受け入れない追い出したい」と言っている。幸か不幸か私は精神なのでバレてはいないが入居の際・打ち明けるつもりだったので冷や汗が出た。万一バレたなら町中にうわさは広がる恐怖を覚える。世の中はこういう人たちばかりであるのが現実であることを知ってほしい。このような経験の積み重ねから障害は伏せた方が生き易い世の中であること、根こそぎ改善して下さい。

・耳が聞こえず大声を家族の人が出す。そのことを知らない周りの人は虐待していると通報されて区の職員が来た。本人の生活を聞くだけでなく家族の方がどう接しているか考えてほしい。（耳が聞こえず補聴器購入して渡しても本人が嫌がり捨ててしまう。そうすると家族は大声を出すしかなくて困る、そんな些細な点も本人だけでなく家族に聞いて欲しい）（本人の我が強く、こちらが声掛けしても反発する。そうすると家族が大変本人身体が大きく1人で身体を動かすのは容易ではない）

■福祉全般・施策に関して（51 件）

・高齢者の一人暮らしが増えている中、健康な方々のボランティア活動の意識向上、人員増加が出来るようなシステムを作っていく事が必要だと思う。沢山の人で少しずつのヘルプを作っていく社会になってほしいです。

・身体障がい者や知的障がい者、精神障がい者でも度合いによって助けて欲しいこと、困っていることはそれぞれなので程度に合わせたサポートをしてほしい。このアンケート自体が大枠すぎて、私自身は付き添いが必要なレベルではなく普通に生活できるレベルのちょっと助けて欲しい精神障がい者ですが、ほとんど回答欄には当てはまらなかった。例えば、私は自分で困っているから調べて相談に行くことができるが、世の中には調べることまで至らない人もいるし、相談に行くことができない人もいるし、現実的には自発的に動かないとサポートまで至らない。見える障がいは分かりやすくサポートして貰えるが、本当にサポートが届いて欲しいのは調べたり相談すること、支援が必要なレベルだと自覚がない人、支援を受ける権利があることを自覚出来ていない人だと思う。老後・介護・障がい・育児など関係なく、福祉という総合枠でそれぞれに行政とパイプラインを繋げられるシステムをもっと分かりやすく作って欲しいと思う。また、申請の時の対応が手際が悪く何度も足を運ぶことになるので、担当される方は知識をもって1度で分かりやすく伝わるように対応して頂きたいです。

・本人は障害と向き合って日々努力していますがやはり社会との壁が大きく中々上手くいかない状態です。精神障害なので外側からひと目見ただけでは症状が分からないこともあり、本人も頑張ってしまうため外に出て家に帰ると非常に疲れてしまっています。行政の力でなんとかできるようになって欲しいところですが、福祉にのみ力を割くのは難しい状況なのも理解できるので少しずつ良くなって欲しいなと思っています。

■施設・設備の充実に関して（48 件）

・親が生活全部の世話・面倒を見ていますが、親の高齢化や病気の場合に施設入所を考えています。聞くところによると、入所施設に空きが無い、見つかっても簡単には会いに行けないよう、遠く離れた施設しかない、との事。また、区内の入所施設はおそろしく評判が悪く「あんな所に入れたら廃人にされてすぐ死んでしまう」とも聞きました。親子で将来に強く不安を感じます。親に何かあった時（特に母親）誰が障がいのある子を守って世話をしてくれるのか、とても心配です。

・親としての希望ですが、将来的にはグループホームに入ってもらいたいと思っています。まだ十分にあるわけではないので、区内に数を増やしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

・ショートステイを利用（ココロネ）にいますが、１泊２日が限度です。１０日位預かって頂けるようになれば、介護者の休養もとれ、さまざまな用事もできると思います。ココロネ以外にも重度障がい者（医療的ケアも含む）の受け入れをしてほしいと思います。軽度の方のショートステイはたくさんあり、必要なのは重度障がい者のショートステイです。

■就労・職場に関して（44 件）

・自身は障がいが軽い方なので特に困っていることはありませんが、自分の職場に精神障がいの方が昨年度担当者付きで来ていました。しかし職場の人が障がいについて理解していなければ様子から見てたださぼっている、やる気のない人などと見られます。結局半年ほどでやめさせることになりましたが、職場のマッチングなども含めていろいろ見てあげないと難しい部分はあると思います。（板橋区ではないてすが）障がい者の方と一般の方が地域で関わる機会がもう少しあればと思います。お祭などが出来るようになったら、そういった場で楽しく関わり障がい者を知る機会があればよいなと思います。軽い障がい～重い障がいまで！

・障がいがある、無いにかかわらず〝同一労働同一賃金〟を徹底して欲しい。働きかけ（企業への）を強化して欲しい。

・以前ハローワークで障がい者の就職援助を受けようとした時、池袋ハローワークの職員から「就労支援センターに通うことが必須」と言われ、区内の支援センターに予約をして行ったことがあるのですが、支援センターの職員からは「別に必須ではないし、通わなくても良いのでは」と言われ、混乱したことがあります。区の問題ではないかとは思いますが、都と区でちゃんと足並みを揃えてほしいと思った出来事でしたしあるいは、都ではなくそのハローワーク職員個人の問題かもしれませんが…）。

■更新・手続きに関して（32 件）

・障害者年金の受給のハードルの高さ。資料をそろえることのムズかしさや記入する内容がムズかしく、担当医と意思が取れていなかったり、文章で上手く伝えられない場合、困っているにも関わらず、助けを得られない感覚がある。

・精神障害者保健福祉手帳を所持していますが、２年に１度の更新なので、困ります。自閉症なのでコミュニケーション力が低く、更新の為の病院の予約や診断書の代金の負担も大きい

です。親亡き後はどうすればいいのかと考えます。他の手帳を考えてもらえたり、生来の障がいであれば更新がなくなるとかになればと思います。

・各種手続きや相談のため、遠い福祉事務所まで行かなければならないのを何とかして欲しい。サービスを利用したくても、手続きの面倒さを考えると断念してしまう。

■外出やバリアフリー等に関して（30 件）

・医療機関へ通う迄にバスや電車が利用しづらい為、ぜひ利用出来る様な取り組みをお願い致します。今、現在は配偶者に面倒を見てもらっておりますが、配偶者も高齢の為、ぜひサービスの向上をお願い致します。

・多目的トイレでも折り畳みベッドがない所がある。ひとりで立てないため、寝てオムツ替えになるが、小学生以上になるとベビー用ベッドではできないので大変不便。外出に躊躇してしまう。広さが必要なので、難しい場所もあるかもしれないが少しでも増やしてもらえると嬉しいです。

・公共施設の足の不自由な人への配慮があまりないかなと思います。駅の階段が速く降りられないので、エレベーターもしくはエスカレーターが欲しいのですが、私の最寄りの駅はエレベーターがあってもとても遠いので、電車に遅れてしまう事もあります。だからみんなと同じように階段で一歩一歩降りるのですが、急ぐ人にせっつかれる事もあります。

■区役所・福祉関連職員の対応に関して（21 件）

・冬に実家（都外）へ帰省し、透析を受け現地で支払った医療費の手続きをする為区役所に行ったら、（都）と（障）で窓口が別で（都庁まで行かなくてはいけない）繁雑。区や都のそれぞれの管轄があるとは思うのですが、できることなら窓口はひとつでもっとわかりやすくして欲しい。福祉事務所と健康福祉センターの区別もよくわからない。以前、区役所の人に健康福祉センターで手続きするよう言われたのでセンターに行くと、福祉事務所の方で手続きするよう言われた事もある。役所の人ですら、よく知らない人が少なくないのではないか？

・以前、板橋サポートステーションへ行っていたのですが、担当の相談員が何回も変わるので、行かなくなってしまった。人に慣れるのに時間がかかるので、何回も変わるのは困ります。

・赤塚健康福祉センターの職員さんに、親身に 相談にのってもらったことがあり、とても感謝しています。

■将来の不安（親亡き後など）に関して（21 件）

・若い人達も生活する事で大変だと思います。仕事や生活にゆとりが出来れば高齢者が殆んどでも力になってくれると思います。若い力が頼りです。自分の事は出来るだけがんばって生活したい。動けなくなった時はよろしくお願いします。耳も眼も遠くなりました。頭も。成年後見の事は新聞やテレビで依頼している人の財産をつかい込んだとか費用が高額とかあまり良い話を見聞きしません。不安です。

・親なき後の息子が心配です。今は一緒に生活していますが、年老いていく両親にとってだんだん困難になっています。私たち両親に余力のあるうちに、息子の将来を託す道を見つけたいと願っています。

・就労を控え（令和６年度）学校選び等の情報が沢山ほしいと思っていますがうまく探せていません。どこにアドバイスを求めればよいかもよく分かりません。就学後の生活にも心配が尽きません。現在、児童発達支援施設に通っていますが、送迎の面談など対応などで安定して働けないことも将来に不安を感じています。

■医療・健康・保健に関して（16 件）

・電車のシルバーシートを利用したいのですが、対象外と思われる人が使っていることが多いので、区でも啓発活動をしてほしい。災害時に利用できる透析施設のある医療機関の情報がほしい。（通常、利用しているクリニックが遠方なため）。

・医療に一人で受診できないので姉の介助で姉の住む他区の医療機関で行なっている。健康診査などをせめて都区内で行えるようにしてほしい。今は大体受診できていない。コロナワクチンは大手町の集団接種で受けている。

・病院の医療ミスや誤診等、電話だけでなくインターネットでも相談出来る状況の確保をお願いします。 中度の難聴で難聴障がいが申請出来ない為、電話だと聞き取れない事も。 電話はつながらない事も多いし、相談時間が限られているので。

■災害時の支援体制に関して（11 件）

・呼吸器使用者向けの「災害時支援計画」について、板橋区は他区に比べて作成が遅れています。保健師も他人事です。これを作らないと、非常用電源の助成も受けられないので困ります。

・近年自然災害が多発しておりますので、障がい者とその家族専用の避難所を設けてほしいです。又もしすでにあるのでしたら、もっと大きく知らせていただきたいです。一般の方と同じ避難所へ行ったり、支援物資を頂きに行くのはとても難しいです。どうぞご検討をよろしくお願いします。

・今一番心配しているのは災害時に関することです。 基本自宅避難で準備していますが、火災などで自宅避難出来なかったらどうするのか? 車いすで知的障害もあり、マスクも出来ず言葉で言ってもわからないため、避難所は無理だし、地方のように広い場所でテント泊なども出来ず、情報も無い、大勢の区民がいるので、大変だと思いますが、 防災計画にちょっとでも盛込んでほしいです。

■療育・教育に関して（10 件）

・発達支援センターの予約、療育に通所するまで、かなりの期間がかかりました。療育も待機ばかりでなかなか見付からず小さい子を連れていろんな療育に見学に行き泣かれて、部屋に入ってくれない等親がおいつめられていくようでした。人によりますが、保健師さんも追い

討ちをかけるような言葉を言ったり、寄りそってくれず、「泣いた」「つらかった」という声を何人もの人から聞きました。私自身もその一人です。何年も怖くて、区の人には相談できなくなっていました。子育ての窓口である保健師さんには、不安をあおるような事、心配、気になることを母親に伝える時は気遣って下さるとありがたいと思います。

・肢体不自由でも知的に問題ない子供達が学べる特別支援学校を増やしてほしい。通常の学校では 介助が必要だったり、身体面でスピードについて 行けなかったり難しい。ほとんどの肢体不自由特別支援学校は普通級もあるが人数が少なく同年代との関わり方など学ぶ事が難しい。

・障がい者支援に関する理解が遅れていると思います。 自閉症スペクトラムで普通級に通っていた時、授業に支援が必要であると判断されたにも関わらず、区は人を派遣出来ないと言い、家族に丸投げでした。

■住まいに関して（グループホーム以外）（10 件）

・近所がうるさく夜ねむれないので１０数回都営住宅入居募集に応募したのに当選しません。病院の先生に診断書を書いてもらいました。ケースワーカーに提出したのですが、回答がなく、静かな住宅に引っ越したいのですがよい返事がありません。今年の夜は外で寝ていました。早く静かな住宅に引っ越したいです。この事を要望します。

・障がい者本人又は障がい者が居る家族などが優先的に都営住宅に入居出来るようなシステムなどがあれば、暮らしやすくなるのではないかと思います。

・年をとっていますので、もしもの時に移動、住みかえを出来ることを心配しています。住みかえがスムーズに出来ますことをお願いいたします。力になってください。毎日心配して生活しています。

■交流に関して（10 件）

・だれでもいいから福祉園やグループホーム以外の人達ともっと話をしてみたい、会いたい、友達になりたい。駅のロータリーに日帰り温泉の送迎バスがとまっていてヘルパーさんと散歩のとき毎日ずっとみていたら話しかけて下さって親しくなりました。その方に会うのが楽しくて、お話もするようになり、高等部を卒業するときには、メッセージを下さって２人の交流はその後も続いていました。コロナ禍で会えなくなりが最近亡くなったときいてがっくりしています。このように地域で話せる人が欲しいようです。

・区内の地域住民との交流が少ないので、行事などがあれば開催してほしい。

・板橋区には感謝しかないのですが、障害者同士の交流をする機会が少なく感じます。いつでも訪問して交流出来るような施設があると孤立感がなくなり良いと思います。イメージ的には声を出せる図書館のような感じですが…もしあれば嬉しいです。

■難病認定・申請に関して（５件）

・今は障害者手帳も５級ですし、生活も仕事も支障なく暮らしていますが、進行性の難病です。視力を失い家族も高齢になった時、自分に何が出来るか不安でいっぱいです。先日、福祉センターに難病指定の用紙をもらいに行くと、総務省のホームページからコピーが出来ます。と言われ別の福祉センターでは、丁寧に書き方の指導までしてくれました。同じ健康福祉センターだと思っていたのに同じサービスが受けられないのは残念です。また、手続きの更新や諸々の申請が郵送で出来たら、良いなと思います。

・身体が不自由ではないので、なかなか答えづらい設問もありましたが、一人でもある程度できる様な環境作りは必要な様な気が致します（介助者がいないとできないことは大変）。別のことになりますが、難病の書類の記載の負担や、準備や手続きが毎年大変です。

■その他（56 件）

・福祉事務所の担当者が家庭訪問するなどして障がい者の状況の把握に積極的になってくれることを切望します。

・障害者スポーツが五輪で注目されましたが、多くの普通の障害者にとって特別支援教育を卒業後の体力作りの場は健常者に比べて非常に限られてくる。街にあふれているジムへ１人で行き利用するのはとても困難。子供の時は、遠くの施設でも親の努力（！！）で行くことも出来たが、親も年を経て、段々厳しくなって来ます。せめて近くの区立体育館やプールで常時利用できる教室やサービスがあればいいと思います。（現在の区プール教室は各プールを巡るので、遠いところへ行くのは大変です）

・現在のところ満足しております。今後、家族の高齢化と体力低下、及び知的活動の低下で今までできていた介助ができなくなったり、入所という選択をしなくてはならない状況に入ったら、いろいろな機関に相談したいと思います。

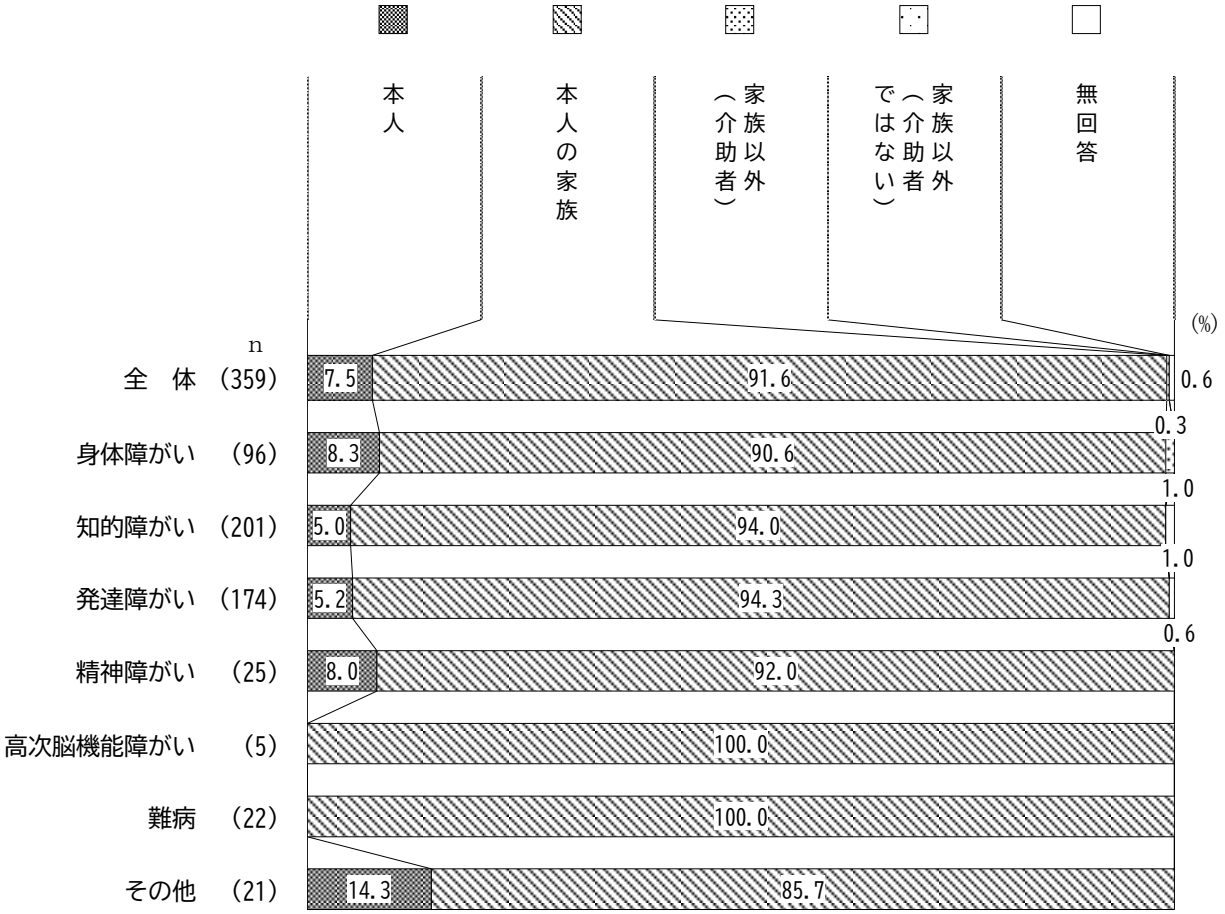
Ⅱ．障がい児

１　基本属性

（１）回答者

問１　お答えいただくのはどなたですか。（○は1つ）

調査票の回答者は、全体で「本人の家族」が最も高く91.6%となっています。
障がい種別でみると、いずれの障がい種別でも「本人の家族」が９割以上を占めています。

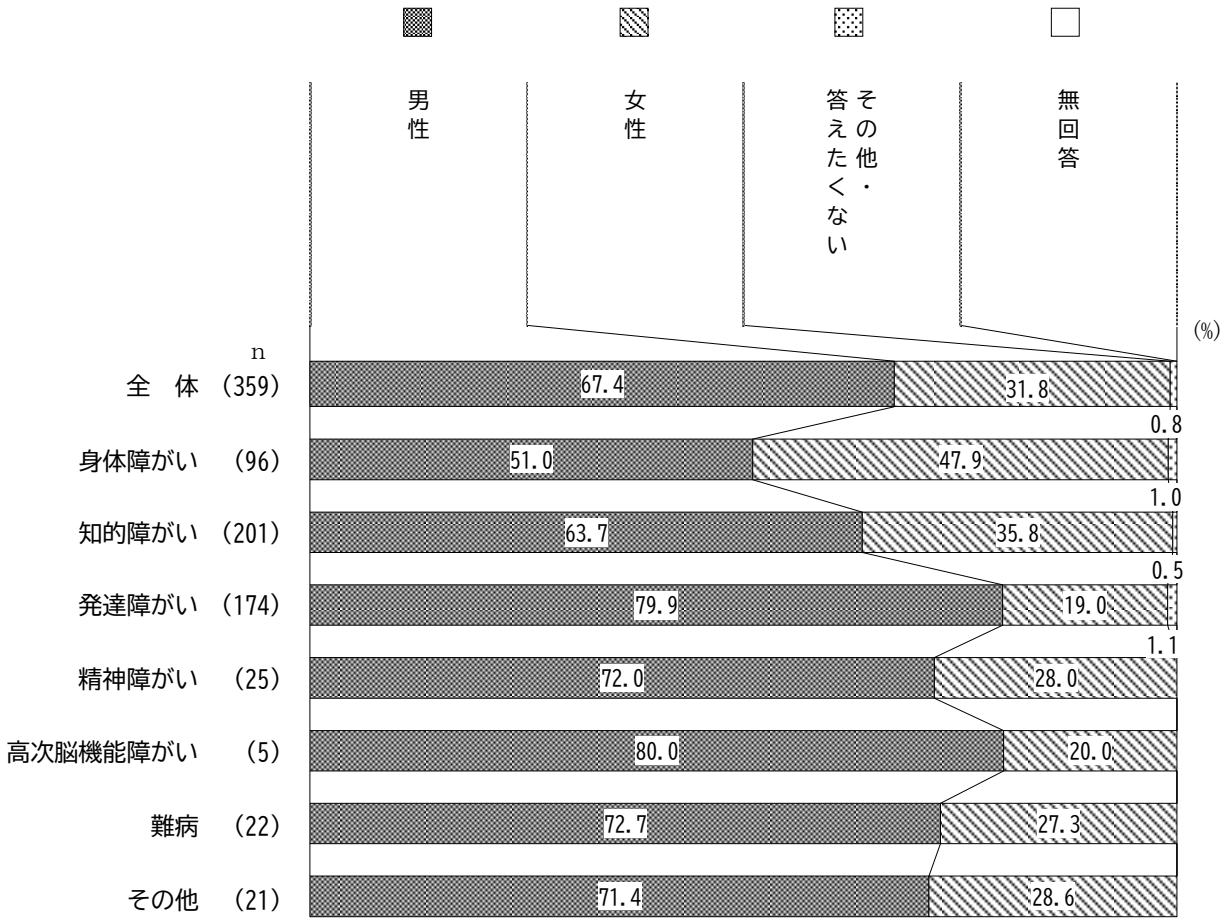


（２）性別

問２　あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

性別は、全体で「男性」が67.4%、「女性」が31.8%となっています。

障がい種別ごとに全体と比較すると、「男性」は発達障がいが79.9%と高く、「女性」は身体障がい（47.9%）と知的障がい（35.8%）が高くなっています。

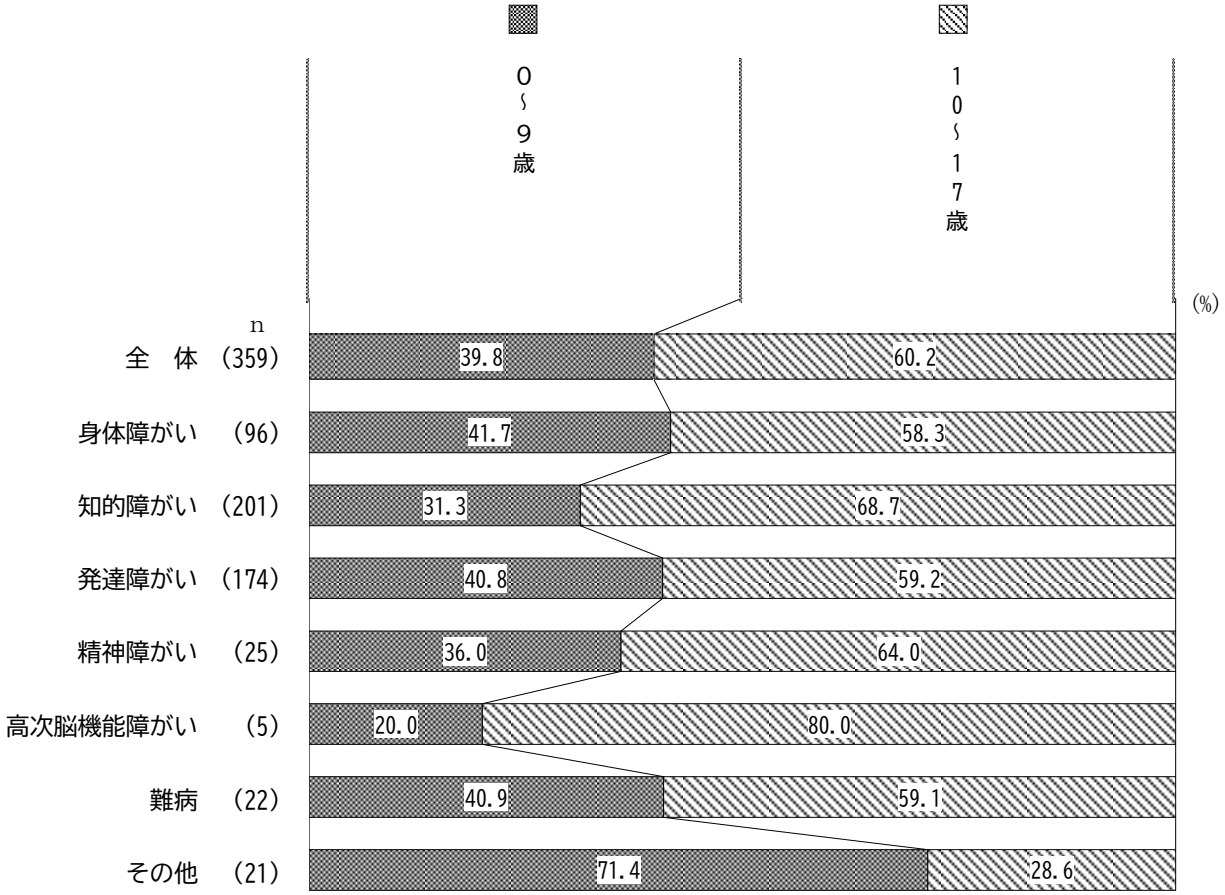


（３）年齢

問３　あなたの年齢（令和４年９月１日時点）をお答えください。（○は１つ）

年齢は、全体で「10～17歳」が60.2％を占め、「0～9歳」は39.8％となっています。

障がい種別ごとに全体と比較すると、「10～17歳」は知的障がいが68.7％と高く、「0～9歳」は身体障がい（41.7％）と発達障がい（40.8％）が高くなっています。



（４）居住形態

問４　あなたは現在、どのように暮らしていますか。（○は１つ）

居住形態は、全体で「家族と暮らしている（配偶者、子ども、父母、兄弟姉妹など）」が99.7％を占めています。

障がい種別でみると、「家族と暮らしている（配偶者、子ども、父母、兄弟姉妹など）」は身体障がい以外の全ての区分で全数を占め、身体障がいは99.0％となっています。

（％）

障がい種別＼居住形態	調査数（ｎ）	自分一人だけで暮らしている	家族と暮らしている（配偶者、子ども、父母、兄弟姉妹など）	グループホームで暮らしている	福祉施設で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答
全　体	359 100.0	－	99.7	－	0.3	－	－	－
身体障がい	96 100.0	－	99.0	－	1.0	－	－	－
知的障がい	201 100.0	－	100.0	－	－	－	－	－
発達障がい	174 100.0	－	100.0	－	－	－	－	－
精神障がい	25 100.0	－	100.0	－	－	－	－	－
高次脳機能障がい	5 100.0	－	100.0	－	－	－	－	－
難病	22 100.0	－	100.0	－	－	－	－	－
その他	21 100.0	－	100.0	－	－	－	－	－

２　あなたの障がいの状況について

（１）障がい種別

問５　あなたの障がいは何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

障がい種別は、全体で「知的障がい」が56.0％と最も高く、次いで「発達障がい」が48.5％、「身体障がい」の「肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）」が15.3％となっています。

複数の障がいがあると回答した人で、「身体障がい」、「発達障がい」があると回答した人では、「知的障がい」もある人の割合が高くなっています。「知的障がい」があると回答した人では、「発達障がい」もある人の割合が高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、「精神障がい」、「高次脳機能障がい」があると回答した人でも、回答した障がいに次いで「発達障がい」もある人の割合が高い傾向にあります。「難病」があると回答した人では、「身体障がい」もある人の割合が高い傾向にあります。

（％）

障がい種別 ＼ 複数の障がい種別とその内訳	調査数（ｎ）	身体障がい	（内訳）視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）	内部障がい（内臓などの障がい）	知的障がい	発達障がい	精神障がい	高次脳機能障がい	難病（特定疾病）	その他
全　体	359 100.0	26.7	3.9	4.2	0.3	4.2	15.3	4.7	56.0	48.5	7.0	1.4	6.1	5.8
身体障がい	96 100.0		14.6	15.6	1.0	15.6	57.3	17.7	44.8	13.5	1.0	1.0	15.6	2.1
知的障がい	201 100.0	21.4	4.0	2.0	0.5	6.5	14.4	2.5		43.3	5.5	－	6.0	3.5
発達障がい	174 100.0	7.5	1.1	0.6	0.6	4.0	2.9	1.1	50.0		10.3	2.3	2.9	2.3
精神障がい	25 100.0	4.0	－	－	－	－	4.0	－	44.0	72.0		－	8.0	8.0
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	－	－	－	－	20.0	－	－	80.0	－		－	－
難病	22 100.0	68.2	－	－	－	4.5	50.0	18.2	54.5	22.7	9.1	－		－
その他	21 100.0	9.5	4.8	4.8	－	9.5	4.8	－	33.3	19.0	9.5	－	－	

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（２）高次脳機能障がいの関連障がい

【問５で「高次脳機能障がい」と答えた方におうかがいします。】
問６　その関連障がいをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

高次脳機能障がいの関連障がいは、サンプル数が30件未満のため、傾向を見出すのは困難となり、分析の対象から除外しています。

（%）

	調査数（n）	視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）	内部障がい（内臓などの障がい）	認知障がい	その他	無回答
全　体	5 100.0	－	－	20.0	20.0	20.0	－	80.0	20.0	－

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

（３）障がい手帳の種別

問７　あなたがお持ちの手帳の種類と等級はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

持っている障がい手帳の種別は、全体で「愛の手帳（療育手帳）」が56.3％と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が24.8％、「精神障害者保健福祉手帳」が13.6％となっています。一方、「手帳は持っていない」は11.4％となっています。

障がい種別でみると、知的障がいは「愛の手帳（療育手帳）」の保持に加え「身体障害者手帳」が17.4％、身体障がいは「身体障害者手帳」の保持に加え「愛の手帳（療育手帳）」が32.3％と高くなっています。発達障がいは「愛の手帳（療育手帳）」が58.0％、「精神障害者保健福祉手帳」が25.3％と高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がいは「精神障害者保健福祉手帳」の保持に加え「愛の手帳（療育手帳）」が、難病は「身体障害者手帳」がそれぞれ高い傾向にあります。

（％）

障がい種別＼手帳の種別	調査数（ｎ）	身体障害者手帳	愛の手帳（療育手帳）	精神障害者保健福祉手帳	手帳は持っていない	無回答
全　体	359 100.0	24.8	56.3	13.6	11.4	0.6
身体障がい	96 100.0	85.4	32.3	1.0	1.0	1.0
知的障がい	201 100.0	17.4	86.6	2.5	4.0	0.5
発達障がい	174 100.0	3.4	58.0	25.3	14.9	1.1
精神障がい	25 100.0	12.0	44.0	48.0	4.0	－
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	40.0	60.0	－	－
難病	22 100.0	72.7	45.5	－	－	－
その他	21 100.0	9.5	47.6	－	47.6	－

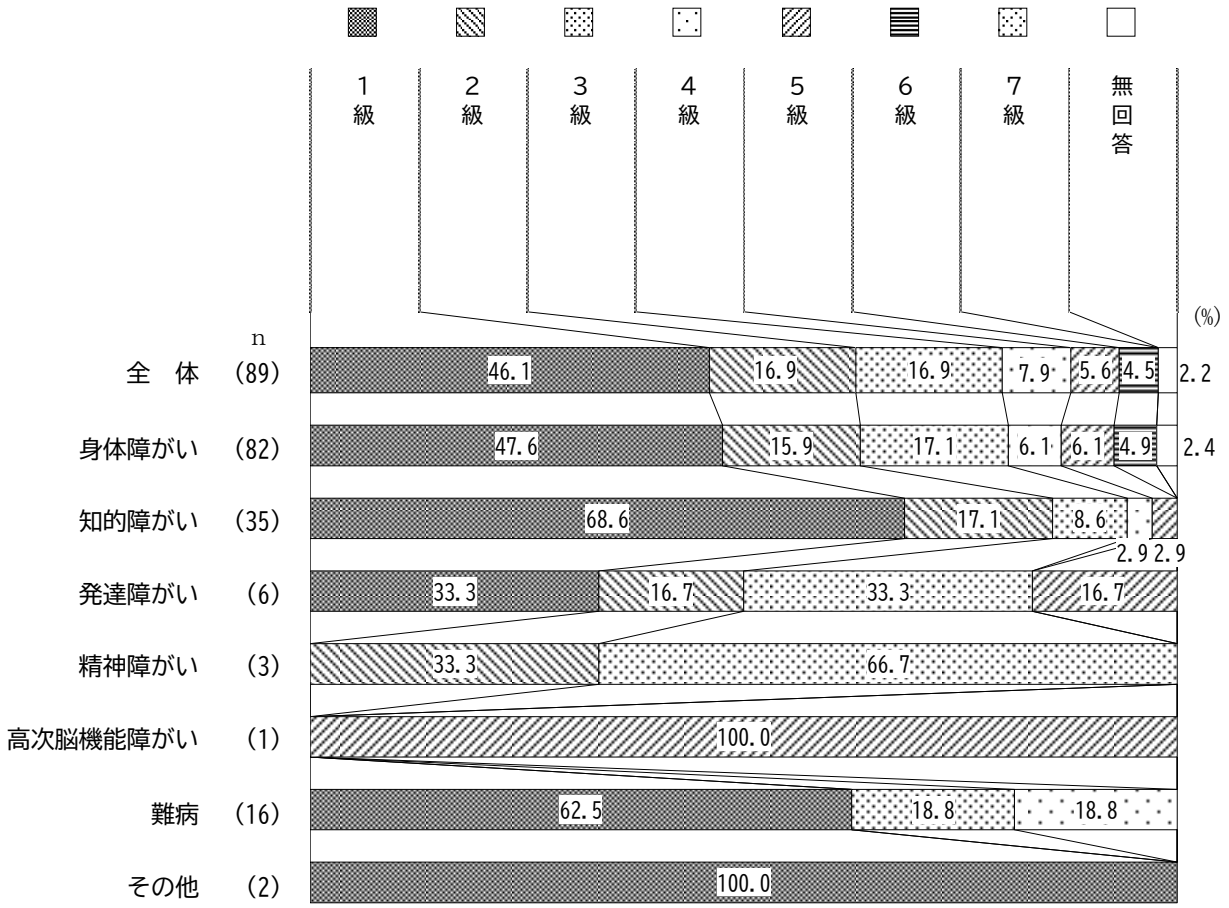
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

身体障害者手帳の等級

身体障害者手帳の等級は、全体で「１級」が46.1％と最も高く、次いで「２級」と「３級」がともに16.9％となっています。

障がい種別でみると、「１級」は知的障がいが68.6％と最も高く、次いで身体障がいが47.6％となっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病は「１級」が高い傾向にあります。



用語の説明

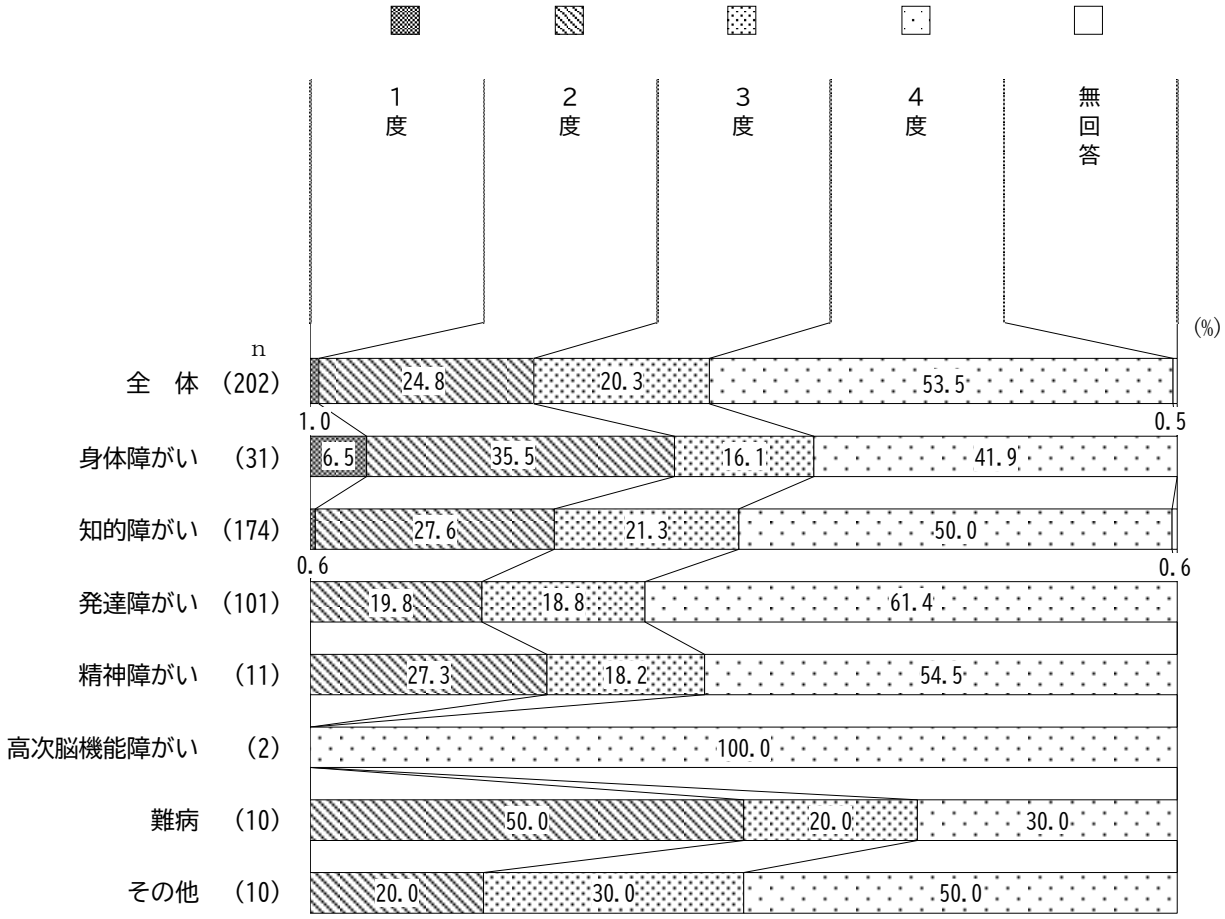
身体障害者手帳	身体上の障がいのある方に交付されるもので、1級から7級の等級に分類されています。等級は、1級に近いほど障がいの程度が重く、7級に近いほど障がいの程度が軽くなります。

愛の手帳（療育手帳）の等級

愛の手帳（療育手帳）の等級は、全体で「４度」が53.5％と最も高く、次いで「２度」が24.8％、「３度」が20.3％となっています。

障がい種別でみると、「４度」は発達障がいが61.4％と最も高く、次いで知的障がいが50.0％、身体障がいが41.9％となっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病は「１度」が高い傾向にあります。

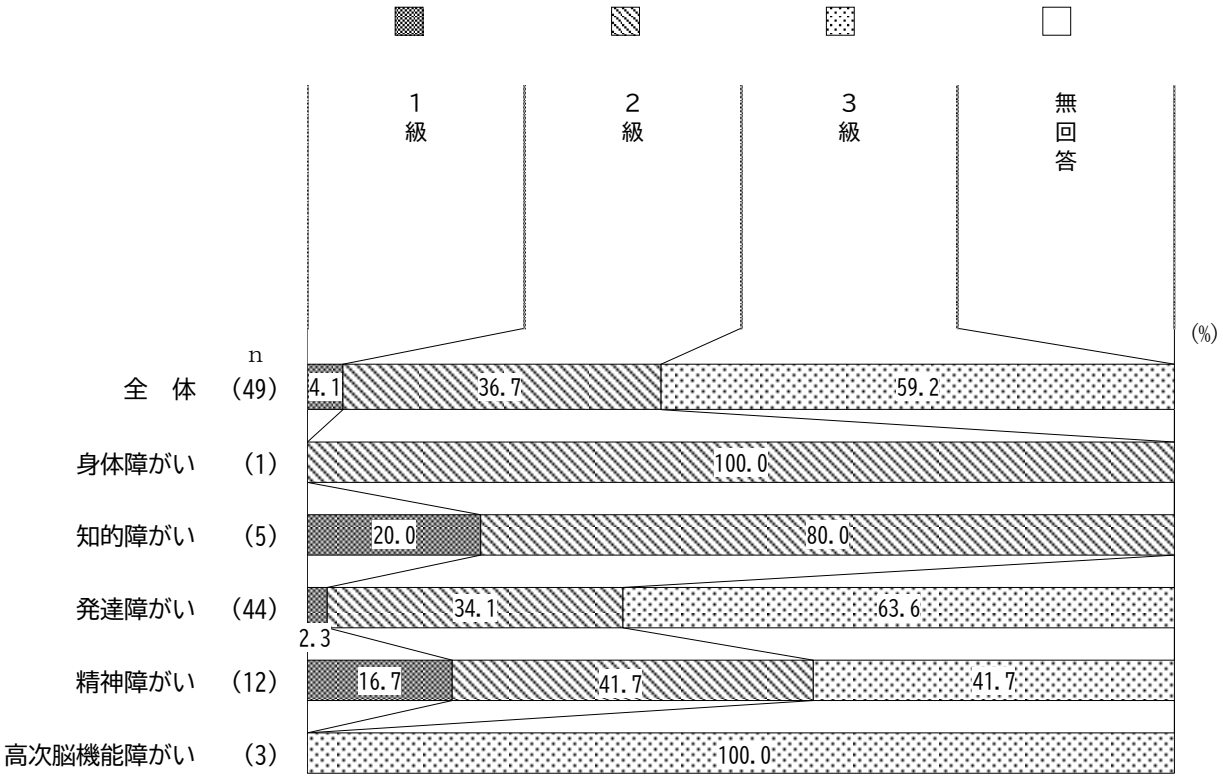


用語の説明

愛の手帳（療育手帳）	知的障がいのある方に交付されるもので、東京都の判定基準に該当する方に、障がいの程度によって1度から4度の等級に分類されます。等級は、1度に近いほど障がいの程度が重く、4度に近いほど障がいの程度が軽くなります。

精神障害者保健福祉手帳の等級

精神障害者保健福祉手帳の等級は、全体で「３級」が59.2％と最も高く、次いで「２級」が36.7％となっています。



「難病」及び「その他」のサンプル数は０件のため非表示

用語の説明

精神障害者保健福祉手帳	精神障がいのある方に交付されるもので、1級から3級の等級に分類されます。等級は、1級に近いほど障がいの程度が重く、3級に近いほど障がいの程度が軽くなります。

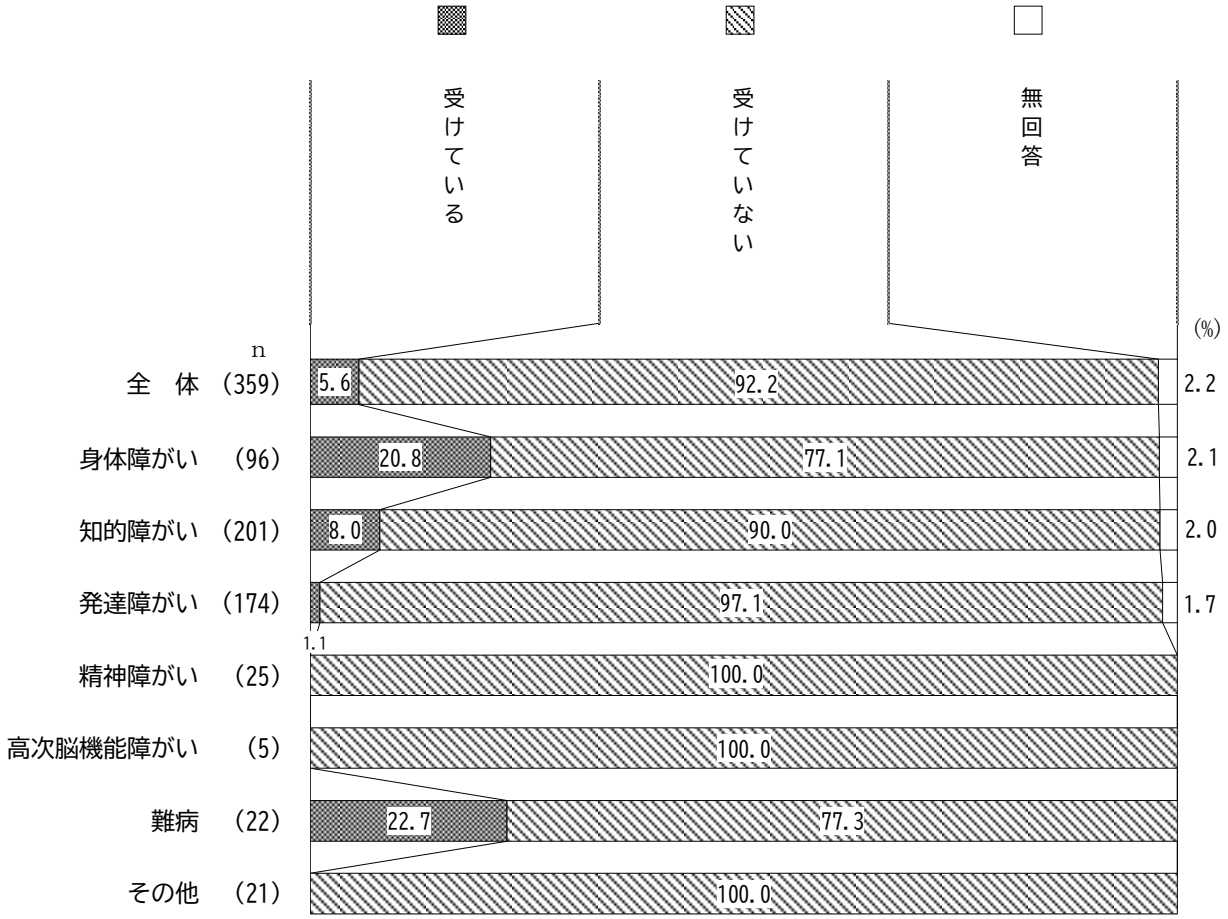
（４）重症心身障がいの認定の有無

【問８は、18歳未満の方のみお答えください。】
問８　あなたは重症心身障がい※の認定を受けていますか。（○は１つ）
※重症心身障がいとは、重度の肢体不自由と重度の知的障がいが重複した状態のことを言います。

重症心身障がいの認定は、全体で「受けていない」が92.2%を占めています。

障がい種別でみると、身体障がいでは「受けている」が20.8%とほかの障がい種別より高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「受けている」が高い傾向にあります。

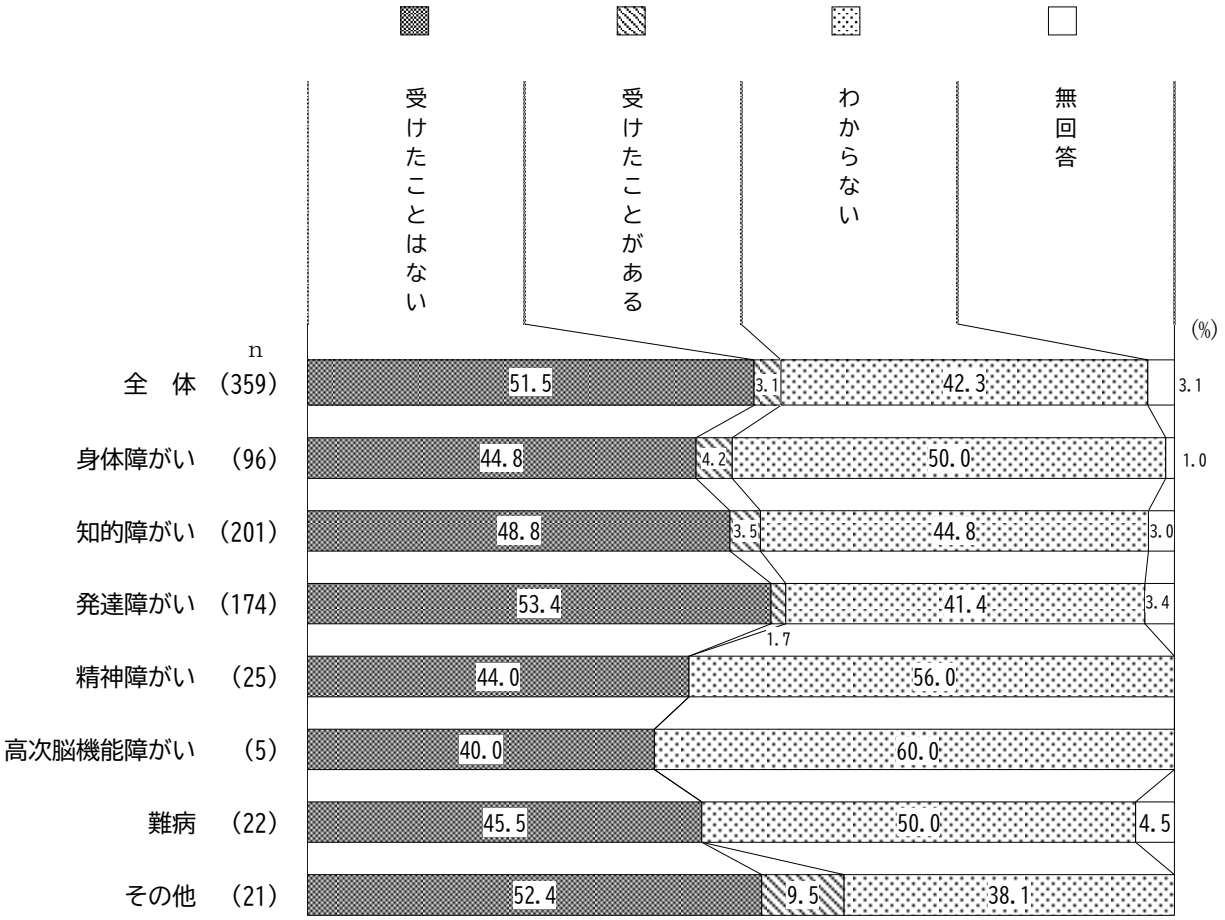


（５）「障害支援(程度)区分」の認定の有無

問９　あなたは、「障害支援(程度)区分」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、一番直近で受けていた認定区分にも○をつけてください。（○は１つまたは２つ）

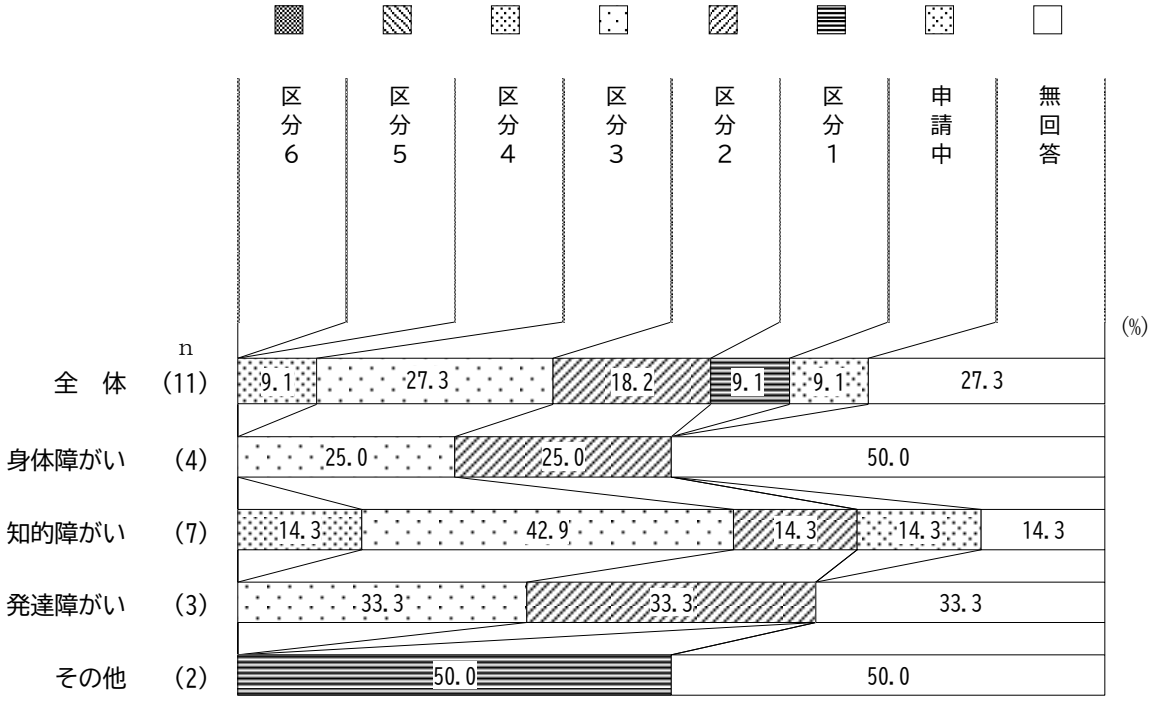
「障害支援(程度) 区分」の認定は、全体で「受けたことはない」が51.1％と最も高く、「受けたことがある」は3.1％となっています。一方、「わからない」は42.3％となっています。

いずれの障がい種別でも、「受けたことがある」は５％未満と低くなっています。



障害支援(程度)区分

「障害支援(程度)区分」は、サンプル数が30件未満のため、傾向を見出すのは困難となり、分析の対象から除外しています。



「精神障がい」、「高次脳機能障がい」、「難病」のサンプル数は０件のため非表示

用語の説明

障害支援（程度）区分	障がいの多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すものとして、区分1から区分6までの6段階の区分で示されるものです。必要とされる支援の軽いものから区分1、区分2、区分3、区分4、区分5、区分6となります。障害支援(程度)区分に応じて障がい福祉サービスを受けることができます。

（６）障がいについての相談のきっかけ

【問10は、ご本人が40歳以下で同居されている保護者の方におうかがいします。】
問10　保護者がご本人の障がいや発達、行動などについて相談された直接のきっかけは何でしたか。（○は３つまで）

障がいについての相談のきっかけは、全体で「子どもを見て違和感を感じたから」が37.6％と最も高く、次いで「健康診査で声をかけられたから」（25.1％）、「医療機関からのアドバイスがあったから」（22.6％）、「兄弟や他の子どもとの違いを感じたから」（22.0％）が２割台となっています。

障がい種別でみると、発達障がいでは「子どもを見て違和感を感じたから」が49.4％と最も高く、次いで「健康診査で声をかけられたから」が32.8％と高くなっています。身体障がいでは「医療機関からのアドバイスがあったから」が36.5％と最も高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「医療機関からのアドバイスがあったから」が高い傾向にあります。

（％）

障がいについての相談のきっかけ ＼ 障がい種別	調査数（n）	兄弟や他の子どもとの違いを感じたから	子どもを見て違和感を感じたから	健康診査で声をかけられたから	区が作成したハンドブックなどを見たから	医療機関からのアドバイスがあったから	幼稚園、保育施設、認定こども園、学校の先生からのアドバイスがあったから	障がいに関する情報を見て子どもと似ていると思ったから	その他	相談していない	無回答
全　体	359 100.0	22.0	37.6	25.1	0.3	22.6	17.0	8.6	15.9	3.9	4.2
身体障がい	96 100.0	10.4	22.9	16.7	1.0	36.5	7.3	5.2	20.8	8.3	7.3
知的障がい	201 100.0	24.4	41.3	26.4	－	24.4	15.4	9.0	15.9	4.5	3.0
発達障がい	174 100.0	28.7	49.4	32.8	－	16.1	21.8	12.6	9.2	1.1	2.3
精神障がい	25 100.0	32.0	48.0	28.0	－	28.0	16.0	4.0	16.0	－	－
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	60.0	－	－
難病	22 100.0	9.1	27.3	13.6	－	31.8	－	－	27.3	13.6	－
その他	21 100.0	－	28.6	33.3	－	23.8	23.8	9.5	19.0	4.8	14.3

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

３　介助・支援の状況について

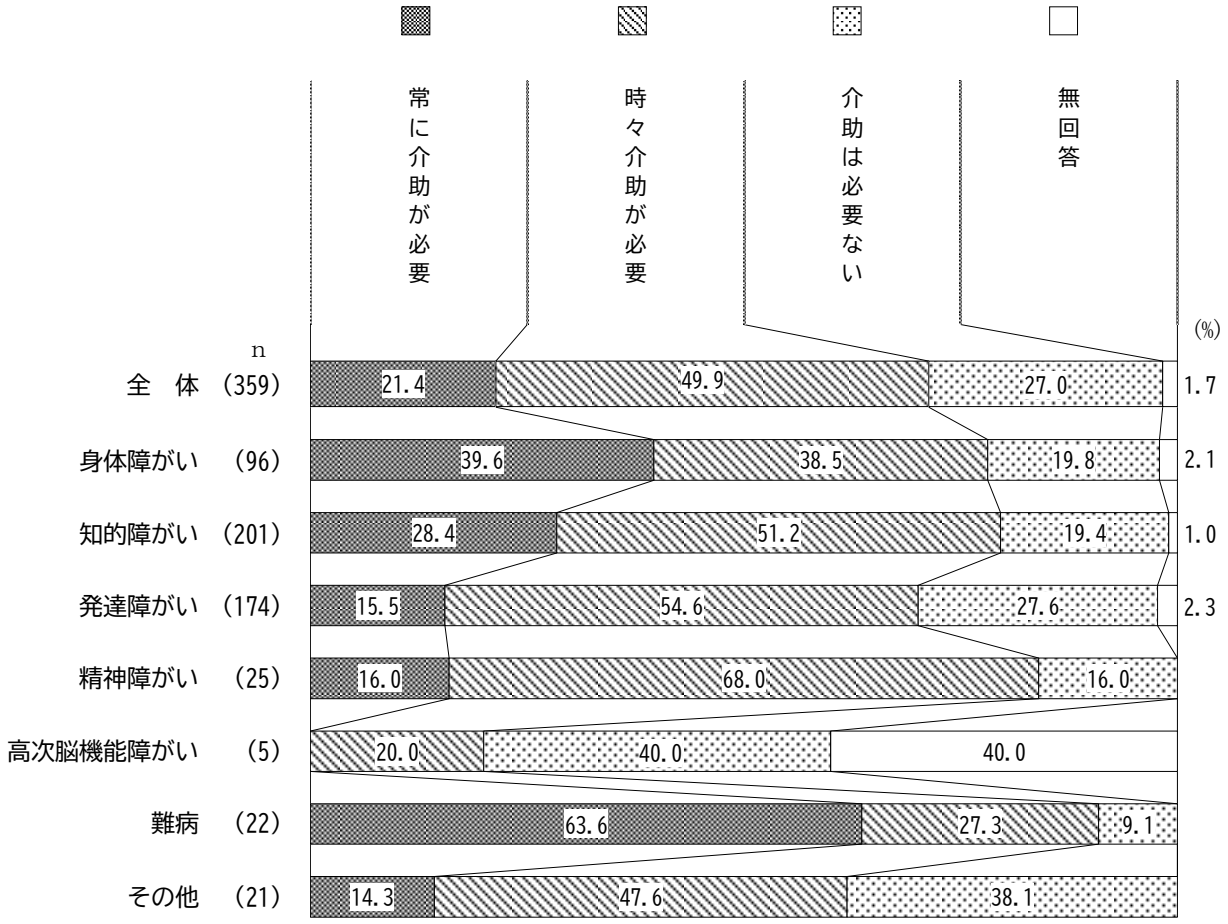
（１）日常生活での介助・支援の有無

問11　あなたは日常生活で介助・支援が必要ですか。（○は１つ）

日常生活での介助・支援は、全体で「時々介助が必要」が49.9％と最も高く、次いで「介助は必要ない」は27.0％、「常に介助が必要」は21.4％となっています。

障がい種別でみると、身体障がいでは「常に介助が必要」が39.6％と高く、発達障がい（54.6％）、知的障がい（51.2％）では「時々介助が必要」が５割台と高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「常に介助が必要」が高い傾向にあります。



（２）主な介助・支援者

【問11で「常に介助が必要」又は「時々介助が必要」と答えた方におうかがいします。】
問12　普段、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。（○は１つ）

主な介助・支援者は、全体で「父、母」が90.6%を占めています。
障がい種別でみると、いずれの障がい種別でも「父、母」が８割以上を占めています。

(%)

障がい種別＼主な介助・支援者	調査数（n）	父、母	配偶者（夫、妻）	子ども、子どもの配偶者	兄弟姉妹、親せき	ホームヘルパーなどの福祉サービス事業者	その他	誰もいない	無回答
全　体	256 100.0	90.6	0.4	1.2	1.2	－	1.2	0.4	5.1
身体障がい	75 100.0	93.3	1.3	1.3	－	－	1.3	－	2.7
知的障がい	160 100.0	88.8	0.6	0.6	1.9	－	1.3	0.6	6.3
発達障がい	122 100.0	88.5	0.8	1.6	2.5	－	1.6	－	4.9
精神障がい	21 100.0	90.5	－	－	4.8	－	－	－	4.8
高次脳機能障がい	1 100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	－
難病	20 100.0	95.0	－	－	－	－	－	－	5.0
その他	13 100.0	84.6	－	－	－	－	－	7.7	7.7

（３）主な介助・支援者不在の際の代理者

問13　あなたを主に介助・支援している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助・支援していますか。（○は３つまで）

主な介助・支援者が不在の際の代理者は、「同居している家族」が57.9％と最も高く、次いで「同居していない家族や親せき」が27.6％となっています。一方、「介助・支援してくれる人がいない」は13.9％となっています。

いずれの障がい種別でも、「同居している家族」が最も高くなっています。

（％）

障がい種別＼主な介助・支援者不在の際の代理者	調査数（n）	同居している家族	同居していない家族や親せき	近所の人や友人・知人	ボランティア	ホームヘルパー	施設に短期間入所して介助・支援を受ける	その他	介助・支援してくれる人がいない	無回答
全　体	359 100.0	57.9	27.6	1.4	－	3.6	3.6	5.8	13.9	8.9
身体障がい	96 100.0	56.3	29.2	2.1	－	8.3	9.4	9.4	13.5	5.2
知的障がい	201 100.0	60.2	27.4	1.5	－	3.5	4.5	7.5	12.9	7.5
発達障がい	174 100.0	60.9	30.5	1.1	－	2.9	3.4	6.3	10.9	11.5
精神障がい	25 100.0	56.0	28.0	4.0	－	－	8.0	8.0	12.0	4.0
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	20.0	－	－	－	－	－	－	60.0
難病	22 100.0	63.6	22.7	－	－	13.6	13.6	－	18.2	4.5
その他	21 100.0	57.1	23.8	－	－	4.8	－	－	19.0	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

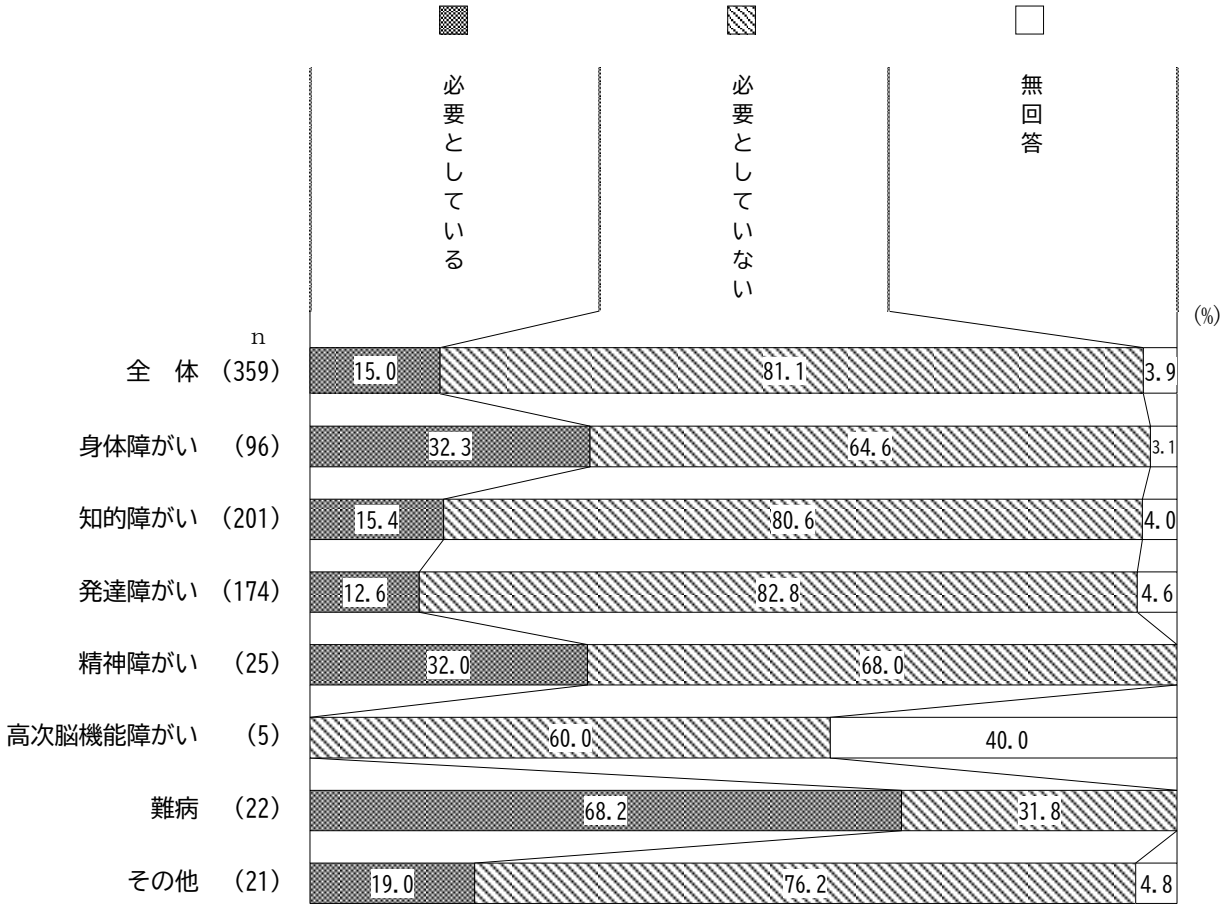
（４）医療的ケアの必要性の有無

問14　あなたは、普段の生活で医療的なケア※を必要としていますか。必要としている場合は、具体的な内容もお書きください。（○は１つ）
※医療的なケアとは、人工透析や胃ろう、ストマや服薬管理などのことを指します。

普段の生活での医療的ケアは、全体で「必要としている」が15.0％、「必要としていない」は81.1％となっています。

障がい種別ごとに比較すると、身体障がいでは「必要としている」が32.3％とほかの障がい種別より高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「必要としている」が高い傾向にあります。



医療的なケアの具体的な内容
経管(経鼻・胃ろう含む)、透析、中心静脈栄養、導尿（カテーテルの使用)、吸引、気管内挿管・気管切開、人工呼吸器、酸素吸入　　など

４　相談や情報入手の状況について

（１）悩みや心配事の相談先

問15　あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、まず相談するところはどこですか。
（○はいくつでも）

悩みや心配事の相談先は、全体で「家族、親せき」が78.8％と最も高く、次いで「医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）」（47.1％）、「幼稚園・保育施設・認定こども園・学校の先生」（45.7％）が４割台となっています。

障がい種別でみると、すべての障がい種別で「家族、親せき」が最も高く、身体障がいでは82.3％と特に高くなっています。また、身体障がいでは「医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）」が61.5％とほかの障がい種別より高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）」が高い傾向にあります。

（%）

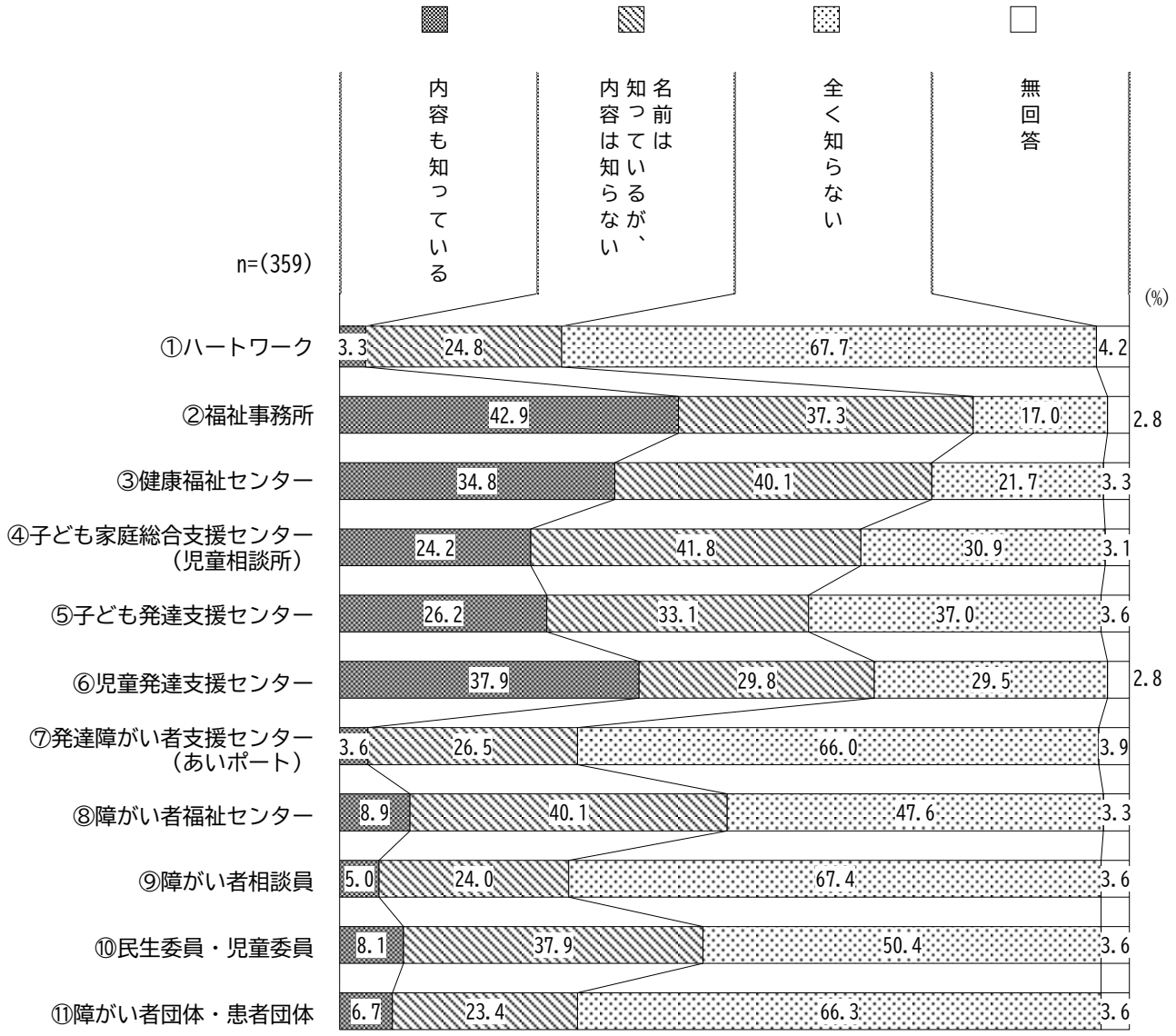
障がい種別＼悩みや心配事の相談先	調査数（n）	家族、親せき	友人・知人	医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）	医療機関（専門病院）	幼稚園・保育施設・認定こども園・学校の先生	スクールカウンセラー	教育支援センター・教育相談室	職場の上司・同僚（作業所などを含む）	福祉事務所・健康福祉センター	子ども家庭総合支援センター（児童相談所）	子ども発達支援センター	発達障がい者支援センター（あいポート）	障がい者福祉センター	（身体・知的）障がい者相談員	民生委員・児童委員	障がい者団体・患者団体	その他	相談できるところは特にない	誰かに相談することはまれである	無回答
全　体	359 100.0	78.8	21.7	47.1	16.4	45.7	4.7	3.9	0.6	6.4	2.2	5.6	－	1.7	0.8	－	2.8	10.3	2.8	1.9	2.5
身体障がい	96 100.0	82.3	26.0	61.5	17.7	45.8	4.2	1.0	－	10.4	2.1	1.0	－	3.1	2.1	－	1.0	12.5	－	－	3.1
知的障がい	201 100.0	77.6	23.4	44.3	15.9	48.8	2.0	2.0	－	5.5	2.0	3.5	－	2.5	1.5	－	5.0	12.4	3.5	3.0	2.5
発達障がい	174 100.0	76.4	19.5	46.0	16.7	46.0	6.9	6.3	1.1	5.2	2.9	8.0	－	0.6	0.6	－	1.7	10.9	4.6	1.1	2.9
精神障がい	25 100.0	80.0	12.0	56.0	12.0	24.0	12.0	4.0	4.0	8.0	－	－	－	－	－	－	－	16.0	－	－	－
高次脳機能障がい	5 100.0	60.0	20.0	40.0	－	60.0	20.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	20.0	－	－	20.0
難病	22 100.0	77.3	31.8	68.2	18.2	36.4	4.5	－	－	13.6	－	－	－	－	4.5	－	－	31.8	－	－	－
その他	21 100.0	71.4	19.0	38.1	33.3	33.3	－	4.8	－	9.5	－	14.3	－	4.8	－	－	4.8	19.0	9.5	－	－

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（２）相談先の認知状況

問16　悩みごとや心配ごとを相談する場として、知っているものはどれですか。
（①～⑪ごとに１つずつお答えください。）

相談先の認知状況は、「内容も知っている」では②福祉事務所が42.9％と最も高く、次いで⑥児童発達支援センター（37.9％）、③健康福祉センター（34.8％）で３割台、⑤子ども発達支援センター（26.2％）、④子ども家庭総合支援センター（児童相談所）（24.2％）で２割台となっています。「全く知らない」では①ハートワーク（67.7％）、⑨障がい者相談員（67.4％）、⑪障がい者団体・患者団体（66.3％）、⑦発達障がい者支援センター（あいポート）（66.0％）で６割台と高くなっています。

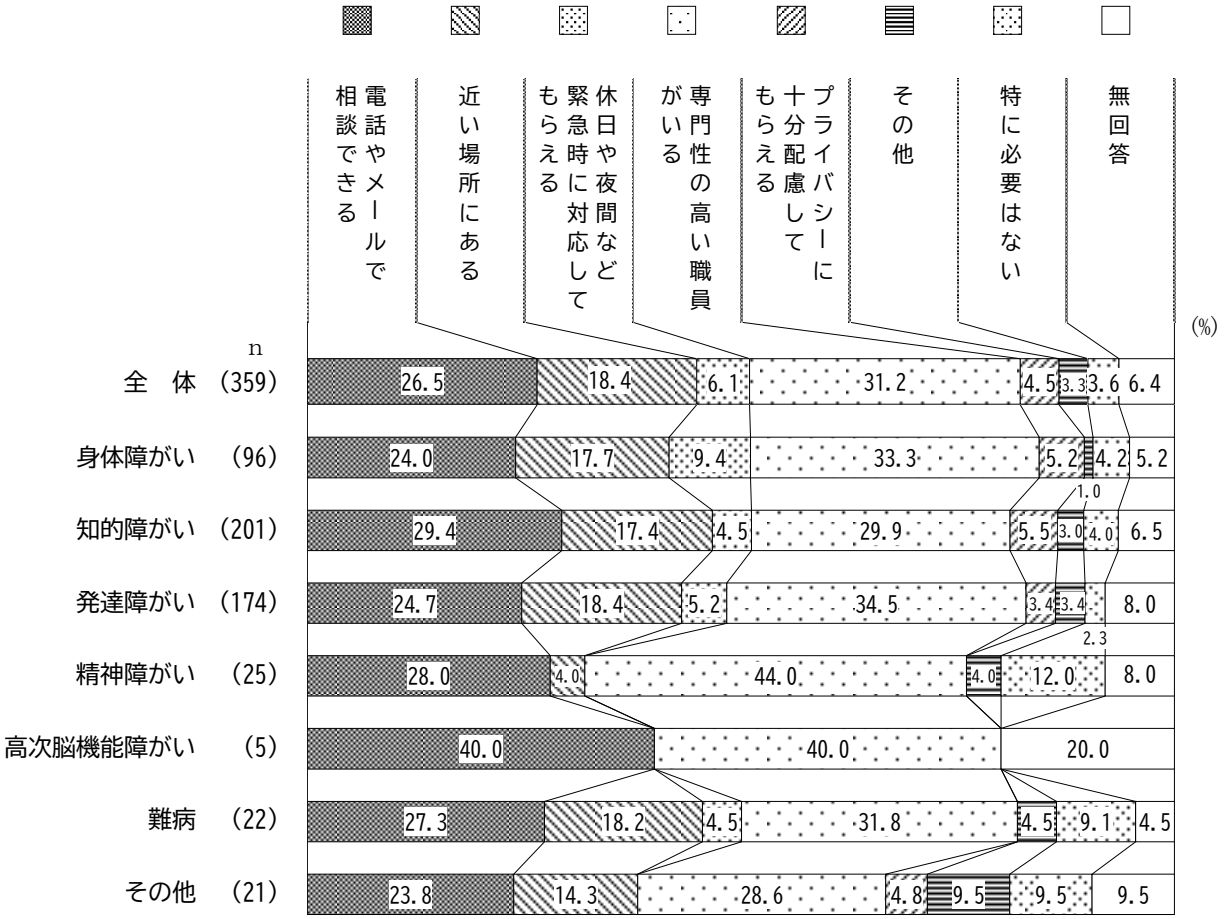


（３）気軽に相談するために必要なこと

問17　必要なときに気軽に相談するためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。
（○は１つ）

気軽に相談するために特に必要なことは、全体で「専門性の高い職員がいる」が31.2％と最も高く、次いで「電話やメールで相談できる」が26.5％、「近い場所にある」が18.4％となっています。

障がい種別でみると、すべての障がい種別で「専門性の高い職員がいる」が最も高く、知的障がいでは「電話やメールで相談できる」が29.4％とほかの障がい種別よりやや高くなっています。



（４）障がい支援に関する情報の入手先

問18　障がい支援に関する情報を主にどこから得ていますか。（○はいくつでも）

障がい支援に関する情報の入手先は、全体で「学校、職場、施設」が41.5%と最も高く、次いで「家族、友人・知人などの口コミ」（36.5%）、「障がい者福祉のしおり（区で作成した冊子、点字版・録音版を含む）」（30.1%）が３割台、「病院、診療所」（29.5%）、「区や都のホームページ」（28.1%）が２割台となっています。

障がい種別でみると、知的障がい（48.8%）、発達障がい（44.3%）では「学校、職場、施設」が４割台、知的障がい（40.8%）、身体障がい（39.6%）では「家族、友人・知人などの口コミ」が約４割と高くなっています。また、身体障がいでは「障がい者福祉のしおり」（45.8%）と「病院、診療所」（41.7%）が４割台とほかの障がい種別より高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「障がい者福祉のしおり」が高い傾向にあります。

(%)

障がい種別＼障がい支援に関する情報の入手先	調査数（n）	障がい者福祉のしおり（区で作成した冊子、点字版・録音版を含む）	区や都の広報紙	区や都のホームページ	テレビ、ラジオ、新聞	障がい者団体	学校、職場、施設	病院、診療所	民生委員・児童委員	家族、友人・知人などの口コミ	その他	わからない	無回答
全　体	359 100.0	30.1	8.6	28.1	6.4	7.2	41.5	29.5	－	36.5	8.6	11.1	2.2
身体障がい	96 100.0	45.8	7.3	27.1	8.3	8.3	35.4	41.7	－	39.6	7.3	8.3	3.1
知的障がい	201 100.0	37.8	10.9	28.4	6.0	11.4	48.8	23.9	－	40.8	7.5	12.4	2.0
発達障がい	174 100.0	21.8	10.9	27.0	8.0	3.4	44.3	28.2	－	32.8	10.3	13.2	1.7
精神障がい	25 100.0	20.0	8.0	28.0	4.0	－	28.0	36.0	－	40.0	8.0	16.0	－
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	40.0	－	20.0	－	20.0	40.0	－	40.0	40.0	－	20.0
難病	22 100.0	63.6	4.5	27.3	4.5	13.6	54.5	50.0	－	50.0	9.1	－	－
その他	21 100.0	4.8	4.8	38.1	4.8	4.8	38.1	19.0	－	28.6	23.8	9.5	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

（５）相談でのコミュニケーションや情報取得の際の困りごと

問19　相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。
（○はいくつでも）

相談でのコミュニケーションなどで困ることは、全体で「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」が30.1％と高く、次いで「複雑な文章表現がわかりにくい」（26.7％）、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」（20.3％）が約２割と高くなっています。一方、「特に困ることはない」が32.6％と最も高くなっています。

障がい種別でみると、知的障がい、発達障がいでは「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」、「複雑な文章表現がわかりにくい」、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」がそれぞれ高くなっています。身体障がいは「特に困ることはない」が35.4％と最も高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がいでは「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」が、難病では「特に困ることはない」が高い傾向にあります。

（％）

障がい種別＼相談でのコミュニケーションや情報取得の際の困りごと	調査数（ｎ）	案内表示がわかりにくい	音声情報が少ない	文字情報が少ない	問い合わせ先の情報にＦＡＸ番号やメールアドレスの記載がない	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	複雑な文章表現がわかりにくい	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	自分の伝えたいことを代弁してくれる支援者が少ない	パソコン、携帯電話、スマートフォンなどをうまく使いこなせない	その他	特に困ることはない	無回答
全　体	359 100.0	15.9	3.3	6.1	5.0	30.1	26.7	20.3	10.3	9.2	8.6	32.6	5.3
身体障がい	96 100.0	17.7	6.3	6.3	9.4	13.5	21.9	12.5	6.3	8.3	11.5	35.4	6.3
知的障がい	201 100.0	15.9	5.0	6.0	5.0	33.3	33.3	26.4	14.4	12.9	9.5	29.4	5.5
発達障がい	174 100.0	17.8	2.9	7.5	5.7	35.1	31.6	24.1	12.6	8.0	6.9	29.3	4.6
精神障がい	25 100.0	24.0	4.0	16.0	4.0	44.0	36.0	28.0	24.0	4.0	8.0	12.0	4.0
高次脳機能障がい	5 100.0	40.0	－	－	－	20.0	20.0	40.0	－	20.0	20.0	20.0	20.0
難病	22 100.0	13.6	4.5	－	－	－	27.3	13.6	9.1	9.1	9.1	50.0	－
その他	21 100.0	9.5	－	4.8	9.5	9.5	14.3	9.5	4.8	4.8	14.3	61.9	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

５　障がい福祉サービスについて

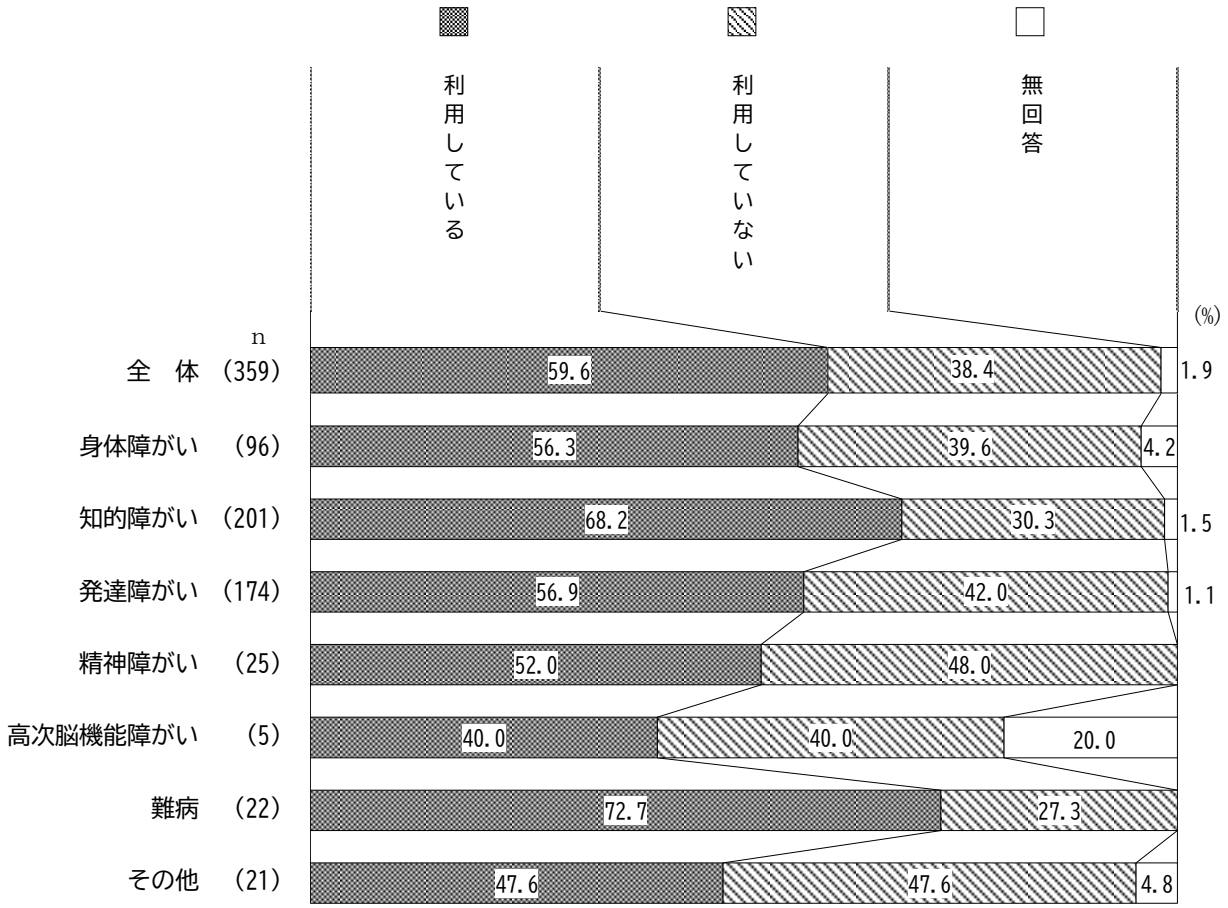
（１）障がい福祉サービスの利用の有無

問20　あなたは、障がい福祉サービスを利用していますか。（○は1つ）

現在、障がい福祉サービスを全体で「利用している」と答えた人は59.6%、「利用していない」と答えた人は38.4%となっています。

障がい種別でみると、知的障がいでは「利用している」と答えた人が68.2%と高く、発達障がい（56.9%）、身体障がい（56.3%）は５割台となっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病、精神障がいでも「利用している」が高い傾向にあります。



（２）障がい福祉サービスが必要な状況

【問20で「利用していない」と答えた方におうかがいします。】

問21　どのような状況になったら障がい福祉サービスを利用したい、または必要になると考えていますか。（○はいくつでも）

障がい福祉サービスが必要な状況は、全体で「身近に介助してくれる人がいなくなったら」が40.6％と最も高く、次いで「自身の身体状態が変化したら」（39.9％）が約４割と高くなっています。

障がい種別でみると、知的障がいでは「身近に介助してくれる人がいなくなったら」が49.2％と最も高く、身体障がいでは「自身の身体状態が変化したら」が50.0％と最も高くなっています。

（％）

障がい福祉サービスが必要な状況 ＼ 障がい種別	調査数（n）	自身の身体状態が変化したら	身近に介助してくれる人がいなくなったら	使いたいサービスの空きが出たら	使いたい事業所や施設がみつかったら	その他	無回答
全　体	138 100.0	39.9	40.6	9.4	27.5	12.3	5.1
身体障がい	38 100.0	50.0	42.1	13.2	28.9	5.3	5.3
知的障がい	61 100.0	32.8	49.2	9.8	32.8	18.0	3.3
発達障がい	73 100.0	31.5	38.4	12.3	32.9	13.7	5.5
精神障がい	12 100.0	8.3	41.7	8.3	8.3	33.3	－
高次脳機能障がい	2 100.0	－	50.0	50.0	50.0	－	－
難病	6 100.0	50.0	50.0	－	16.7	16.7	16.7
その他	10 100.0	40.0	10.0	10.0	10.0	20.0	10.0

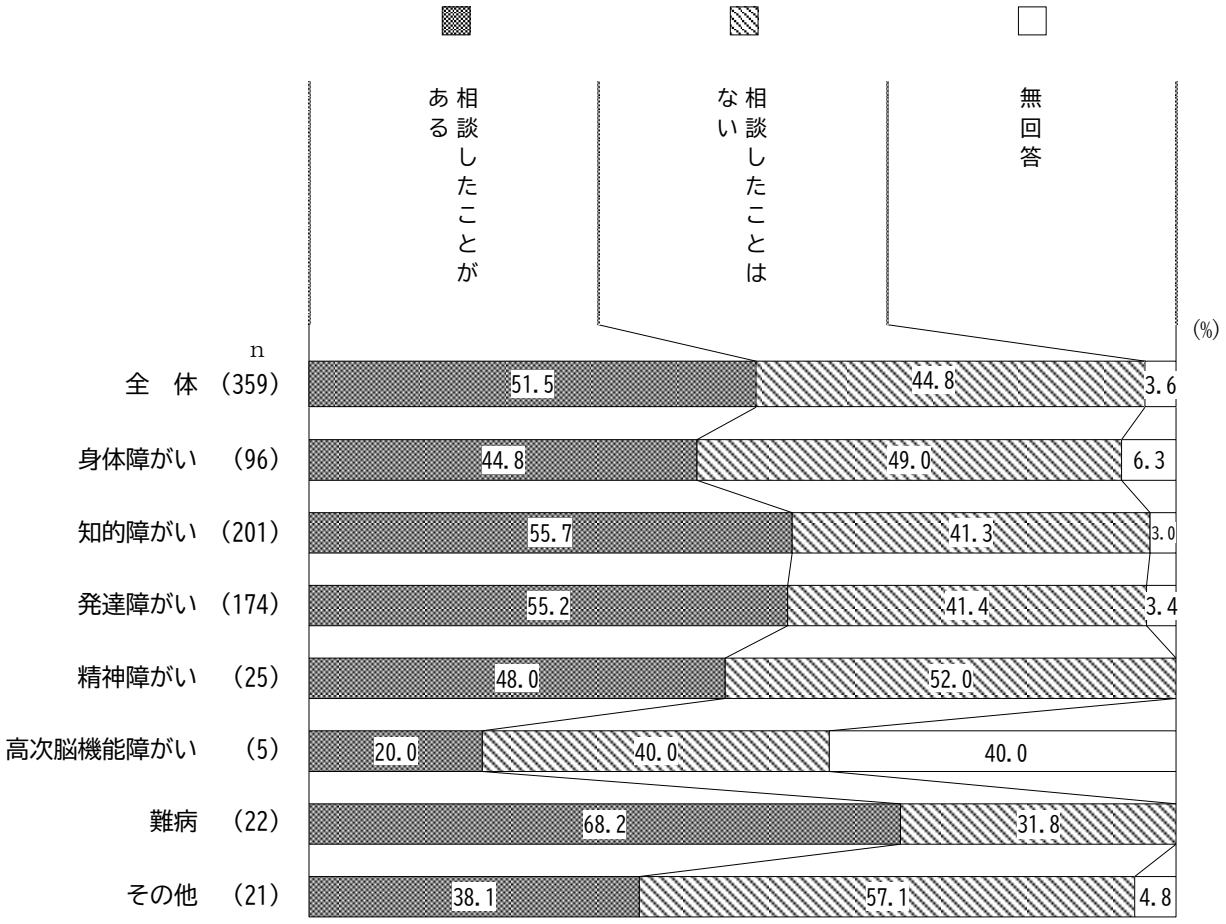
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（３）相談支援事業所への相談経験

問22　あなたは、障がい福祉サービスの利用に関して相談支援事業所に相談したことはありますか。（○は1つ）

相談支援事業所への相談経験は、全体で「相談したことがある」と答えた人が51.5%、「相談したことはない」と答えた人は44.8%となっています。

障がい種別でみると、知的障がい（55.7%）、発達障がい（55.2%）では「相談したことがある」と答えた人が５割台と高くなっています。一方、身体障がいでは「相談したことはない」と答えた人が49.0%と高くなっています。

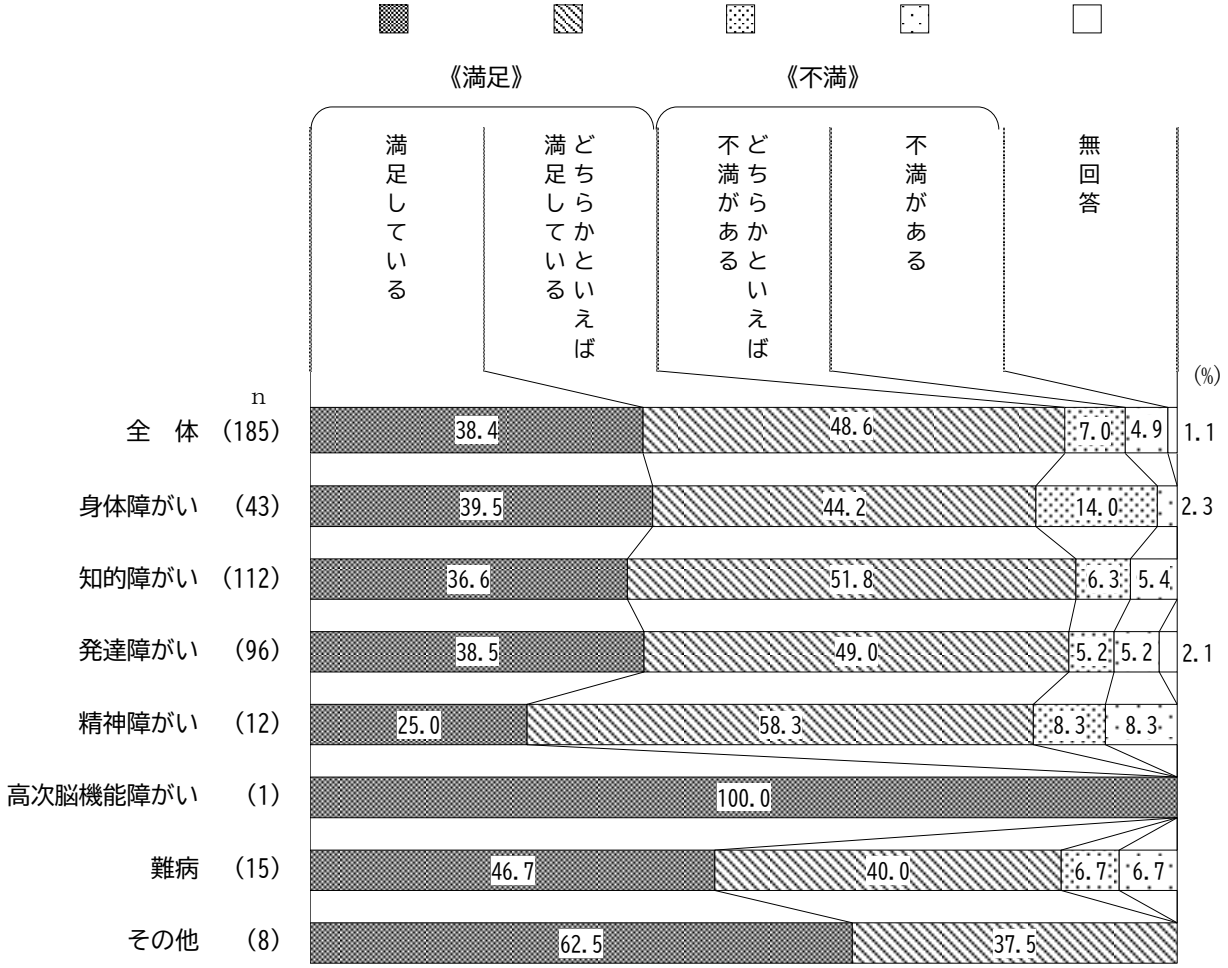


（４）サービス等利用計画の満足度

【問22で「相談したことがある」と答えた方におうかがいします。】
問23　サービス等利用計画の満足度はどうですか。（○は１つ）

サービス等利用計画の満足度は、全体で「満足している」（38.4%）、「どちらかといえば満足している」（48.6%）をあわせた「満足」は87.0%となっています。「不満がある」（4.9%）、「どちらかといえば不満がある」（7.0%）をあわせた「不満」は11.9%となっています。

障がい種別でみると、いずれの障がい種別でも「満足」は８割以上となっており、知的障がいでは88.4%と高くなっています。身体障がいでは「不満」が16.3%とほかの障がい種別よりやや高くなっています。



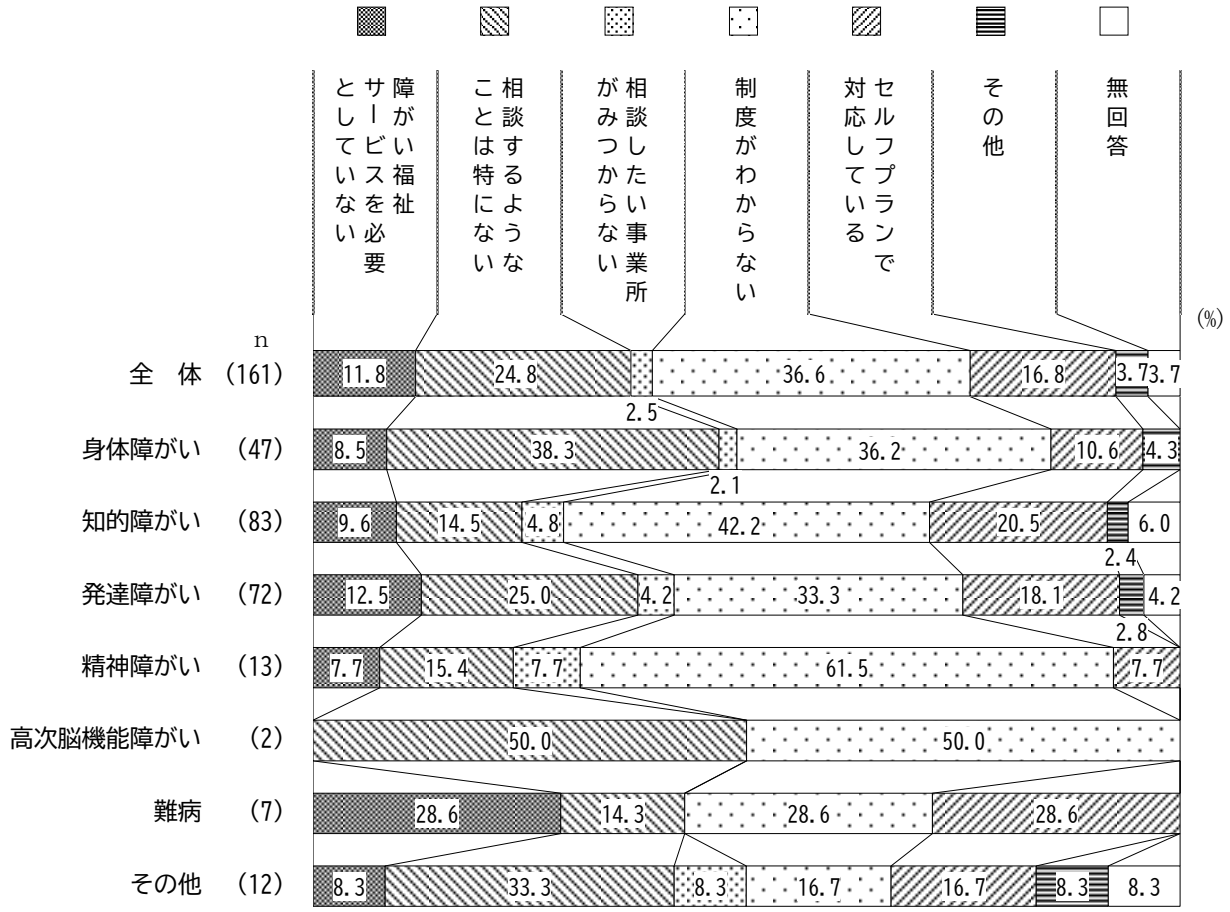
（５）相談支援事業所を利用していない理由

【問22で「２．相談したことはない」と答えた方におうかがいします。】
問24　相談支援事業所を利用していない理由は何ですか。（○は１つ）

相談支援事業所を利用していない理由は、全体で「制度がわからない」が36.6％と最も高く、次いで「相談するようなことは特にない」が24.8％、「セルフプランで対応している」が16.8％となっています。

障がい種別でみると、身体障がいでは「相談するようなことは特にない」が38.3％、知的障がいでは「制度がわからない」が42.2％とほかの障がい種別より高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がい、難病でも「制度がわからない」が高い傾向にあるほか、難病では「障がい福祉サービスを必要としていない」、「セルフプランで対応している」も高い傾向にあります。

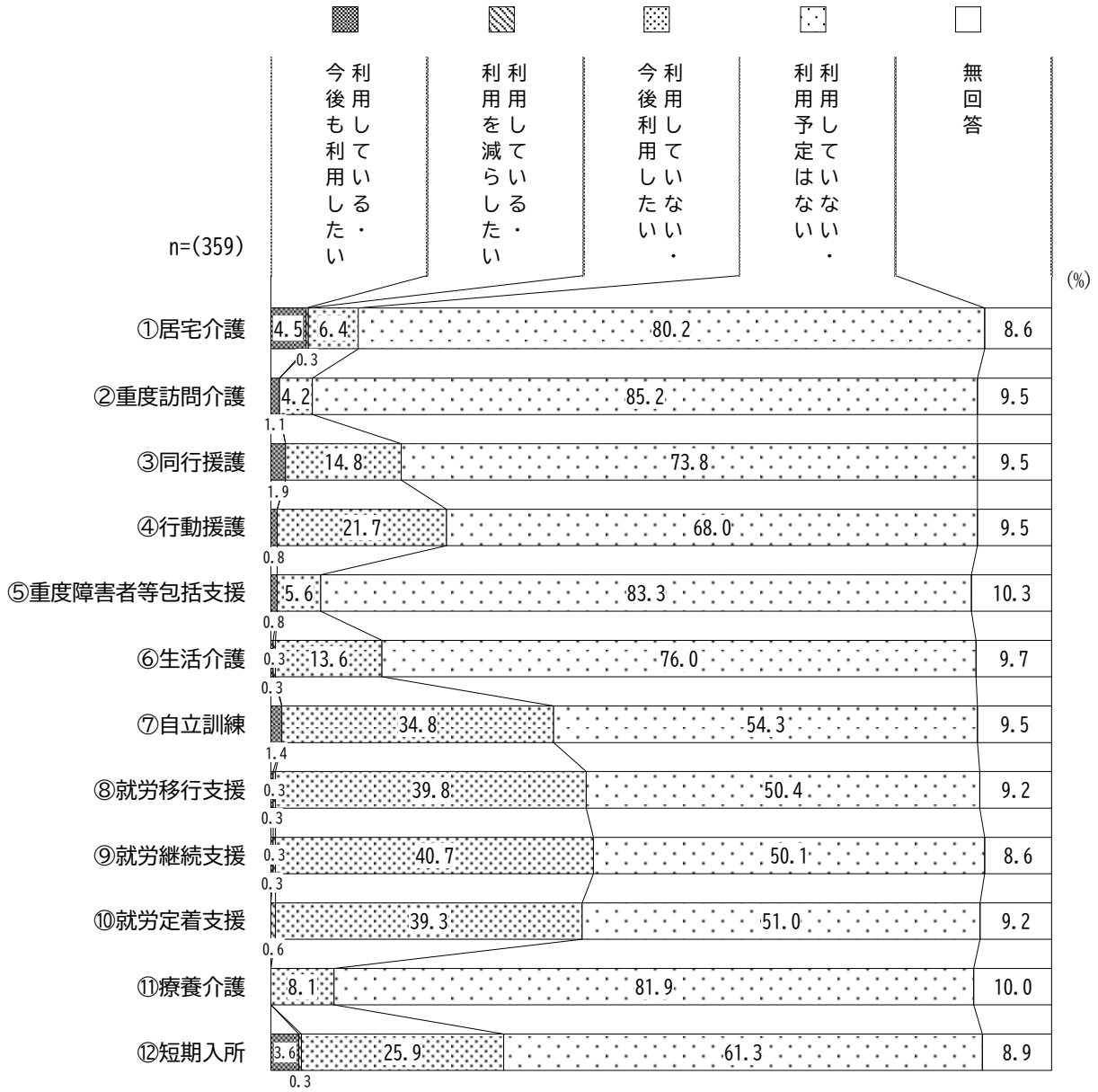


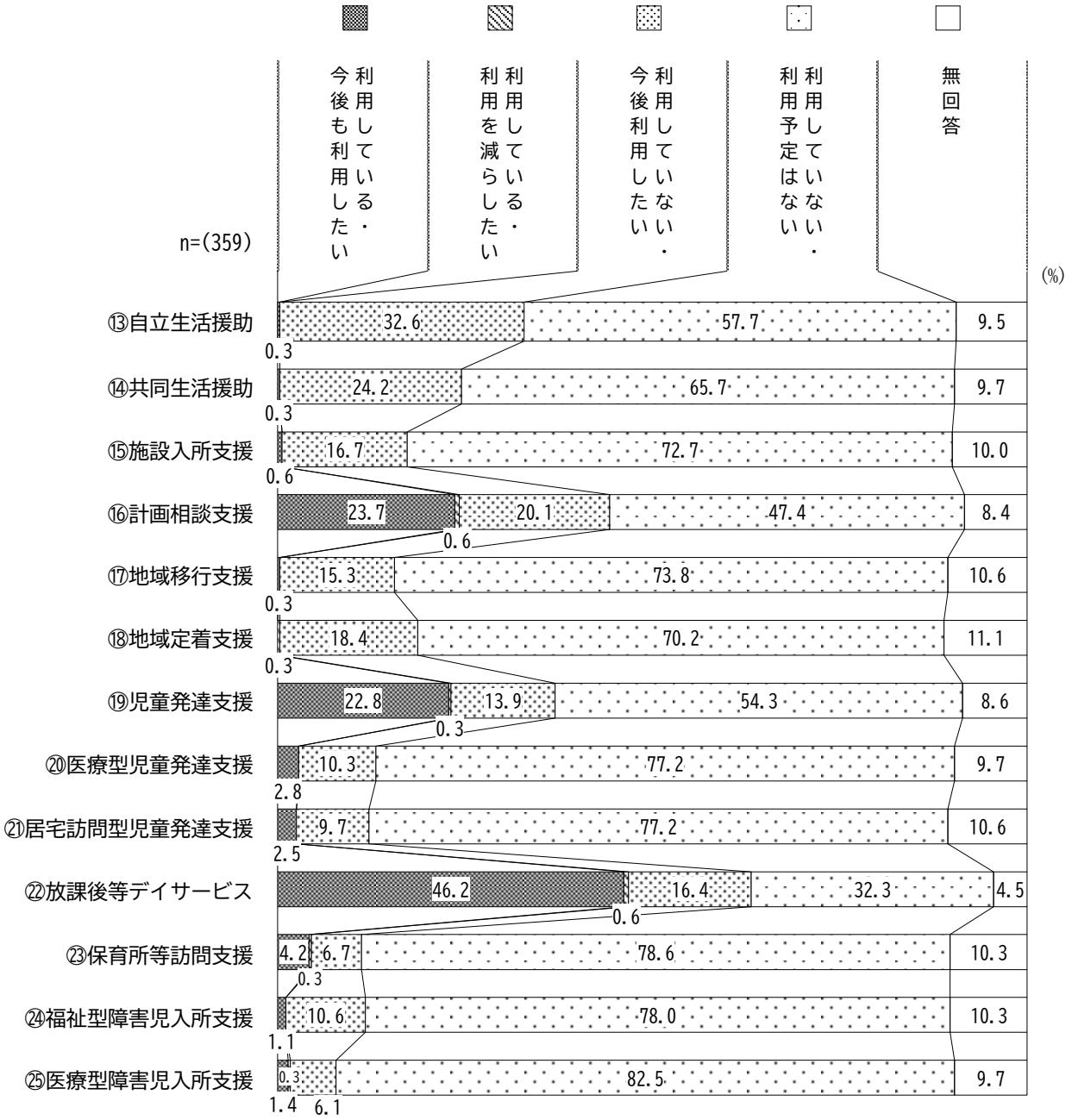
（６）障がい福祉サービスの利用状況・利用意向

問25　あなたは、次のような障がい福祉サービスを利用していますか。また、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。（①～㉕のサービスごとに１つずつお答えください。）

障がい福祉サービスの利用状況をみると、「利用している・今後も利用したい」では㉒放課後等デイサービスが46.2%と最も高く、次いで⑯計画相談支援（23.7%）、⑲児童発達支援（22.8%）が２割台と高くなっています。

「利用していない・今後利用したい」では⑨就労継続支援が40.7%と最も高く、⑧就労移行支援（39.8%）、⑩就労定着支援（39.3%）、⑦自立訓練（34.8%）、⑬自立生活援助（32.6%）が３割台、⑫短期入所（25.9%）、⑭共同生活援助（24.2%）、④行動援護（21.7%）、⑯計画相談支援（20.1%）が２割台となっています。




利用している・今後も利用したい
利用している・利用を減らしたい
利用していない・今後利用したい
利用していない・利用予定はない
無回答
n=(359)
(%)
⑬自立生活援助 32.6 57.7 9.5 0.3
⑭共同生活援助 24.2 65.7 9.7 0.3
⑮施設入所支援 16.7 72.7 10.0 0.6
⑯計画相談支援 23.7 20.1 47.4 8.4 0.6
⑰地域移行支援 15.3 73.8 10.6 0.3
⑱地域定着支援 18.4 70.2 11.1 0.3
⑲児童発達支援 22.8 13.9 54.3 8.6 0.3
⑳医療型児童発達支援 10.3 77.2 9.7 2.8
㉑居宅訪問型児童発達支援 9.7 77.2 10.6 2.5
㉒放課後等デイサービス 46.2 16.4 32.3 4.5 0.6
㉓保育所等訪問支援 4.2 6.7 78.6 10.3 0.3
㉔福祉型障害児入所支援 10.6 78.0 10.3 1.1
㉕医療型障害児入所支援 0.3 82.5 9.7 1.4 6.1

６　日中の過ごし方について

（１）平日の日中の過ごし方

問28　あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（○は１つ）

平日の日中の過ごし方は、全体で「小学校、中学校、高校（特別支援学級、特別支援学校）に通っている」が過半数となっています。

いずれの障がい種別でも、「小学校、中学校、高校（特別支援学級、特別支援学校）に通っている」が最も高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、知的障がいでは「小学校、中学校、高校（特別支援学級、特別支援学校）に通っている」が78.1％、身体障がいでは「小学校、中学校、高校（通常の学級のみ）に通っている」が18.8％、発達障がいでは「小学校、中学校、高校（特別支援教室、きこえ・ことばの教室）にも通っている」が13.8％とほかの障がい種別より高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「小学校、中学校、高校（特別支援学級、特別支援学校）に通っている」が高い傾向にあります。精神障がいでは「自宅にいることが多い」が高い傾向にあります。

（％）

障がい種別＼平日の日中の過ごし方	調査数（ｎ）	福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケア、リハビリテーションに通っている	働いている	幼稚園や保育施設、認定こども園に通っている	小学校、中学校、高校（通常の学級のみ）に通っている	小学校、中学校、高校（特別支援教室、きこえ・ことばの教室）にも通っている	小学校、中学校、高校（特別支援学級、特別支援学校）に通っている	大学、専門学校に通っている	入所している施設や病院などで過ごしている	自宅にいることが多い	その他	無回答
全　体	359 100.0	0.8	－	0.6	13.4	14.5	8.4	53.2	－	0.3	5.6	1.7	1.7
身体障がい	96 100.0	1.0	－	1.0	12.5	18.8	4.2	54.2	－	1.0	4.2	－	3.1
知的障がい	201 100.0	－	－	－	7.5	8.0	3.5	78.1	－	－	1.0	0.5	1.5
発達障がい	174 100.0	0.6	－	－	14.9	12.1	13.8	47.1	－	－	6.9	2.9	1.7
精神障がい	25 100.0	－	－	－	4.0	4.0	24.0	36.0	－	－	32.0	－	－
高次脳機能障がい	5 100.0	－	－	－	20.0	20.0	20.0	20.0	－	－	－	－	20.0
難病	22 100.0	－	－	－	－	18.2	4.5	68.2	－	－	9.1	－	－
その他	21 100.0	4.8	－	4.8	47.6	4.8	－	28.6	－	－	9.5	－	－

（２）園や学校生活での困りごと

【問28で「幼稚園や保育施設、認定こども園に通っている」から「大学、専門学校に通っている」のいずれかを選んだ方におうかがいします。】

問29　幼稚園や保育施設、認定こども園、学校などに通っていて困っていることはありますか。
（○はいくつでも）

園や学校生活での困りごとは、全体で「先生の理解や配慮が足りない場合がある」が23.4％と高く、次いで「障がいに対する理解や配慮が引き継がれない」（18.7％）、「通うのが大変」（18.1％）、「まわりの児童・生徒たちの理解が得られにくい」（15.0％）が１割台となっています。一方、「特に困っていることはない」は47.0％と最も高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、発達障がいでは「先生の理解や配慮が足りない場合がある」（32.7％）、「障がいに対する理解や配慮が引き継がれない」（24.2％）、「まわりの児童・生徒たちの理解が得られにくい」（21.6％）がそれぞれほかの障がい種別より高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がいでも「先生の理解や配慮が足りない場合がある」が高い傾向にあります。難病では「通うのが大変」が高い傾向にあります。

（％）

園や学校生活での困りごと／障がい種別	調査数（ｎ）	通うのが大変	トイレなどの施設が整っていない	先生の理解や配慮が足りない場合がある	障がいに対する理解や配慮が引き継がれない	まわりの児童・生徒たちの理解が得られにくい	医療的なケアが受けられない	その他	特に困っていることはない	無回答
全　体	321 100.0	18.1	2.8	23.4	18.7	15.0	0.9	7.5	47.0	5.0
身体障がい	86 100.0	22.1	3.5	18.6	14.0	10.5	3.5	5.8	48.8	3.5
知的障がい	195 100.0	21.5	3.1	20.0	15.4	11.3	0.5	6.2	49.7	4.6
発達障がい	153 100.0	15.7	2.6	32.7	24.2	21.6	－	9.8	42.5	5.2
精神障がい	17 100.0	23.5	－	47.1	35.3	29.4	－	17.6	17.6	11.8
高次脳機能障がい	4 100.0	－	－	25.0	25.0	75.0	－	25.0	25.0	－
難病	20 100.0	30.0	5.0	25.0	15.0	15.0	－	10.0	35.0	5.0
その他	17 100.0	－	5.9	23.5	11.8	11.8	－	－	64.7	11.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（３）学校教育に望むこと

【問28で「幼稚園や保育施設、認定こども園に通っている」から「大学、専門学校に通っている」のいずれかを選んだ方におうかがいします。】
問30　現在もしくは将来、学校教育に望むことはどのようなことですか。（○はいくつでも）

学校教育に望むことは、全体で「能力や障がいの状況に合った指導をしてほしい」（53.9%）、「障がいに対する理解や配慮を職員間で引き継いでほしい」（52.0%）、「就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい」（50.8%）が５割台と高くなっています。一方、「特に望むことはない」は6.2%となっています。

障がい種別ごとに比較すると、発達障がいでは「能力や障がいの状況に合った指導をしてほしい」（64.1%）、「障がいに対する理解や配慮を職員間で引き継いでほしい」（57.5%）がそれぞれほかの障がい種別より高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がいでも「能力や障がいの状況に合った指導をしてほしい」が高い傾向にあります。

(%)

障がい種別＼学校教育に望むこと	調査数（n）	就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい	能力や障がいの状況に合った指導をしてほしい	障がいに対する理解や配慮を職員間で引き継いでほしい	施設、設備、教材を充実してほしい	通常の学級との交流の機会を増やしてほしい	可能な限り通常の学級で受け入れてほしい	インクルージョン教育を浸透させてほしい	その他	特に望むことはない	無回答
全　体	321 100.0	50.8	53.9	52.0	32.4	19.3	15.3	41.4	9.3	6.2	7.2
身体障がい	86 100.0	45.3	46.5	53.5	31.4	19.8	15.1	40.7	9.3	7.0	3.5
知的障がい	195 100.0	52.8	54.4	48.2	34.4	24.1	11.3	41.0	9.7	5.6	6.7
発達障がい	153 100.0	55.6	64.1	57.5	37.3	20.3	14.4	45.1	8.5	3.3	8.5
精神障がい	17 100.0	47.1	70.6	58.8	35.3	11.8	11.8	23.5	5.9	5.9	17.6
高次脳機能障がい	4 100.0	75.0	100.0	75.0	50.0	－	50.0	75.0	25.0	－	－
難病	20 100.0	35.0	40.0	50.0	20.0	30.0	－	30.0	10.0	－	－
その他	17 100.0	58.8	47.1	52.9	41.2	17.6	23.5	23.5	－	11.8	17.6

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

用語の説明

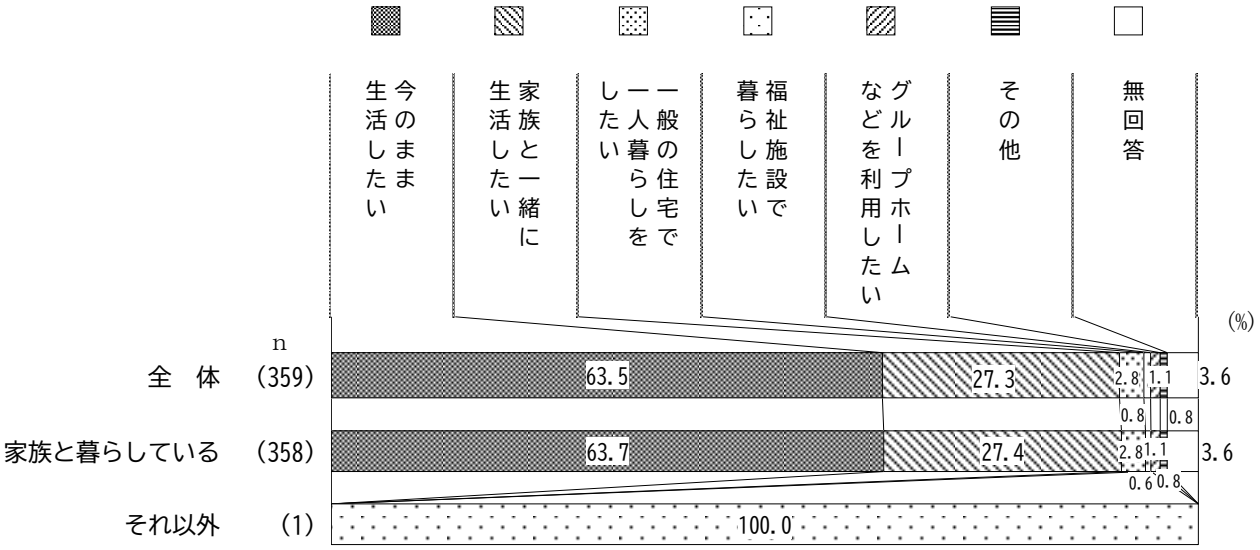
インクルージョン教育	障がいのある方とない方とが共に学ぶ仕組みのことです。

（４）今後３年以内に希望する暮らし

問31　あなたは、今後３年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。（○は１つ）

今後３年以内に希望する暮らしは、全体で「今のまま生活したい」が63.5％と最も高く、次いで「家族と一緒に生活したい」が27.3％となっています。

居住形態別でみると、「家族と暮らしている」人では「今のまま生活したい」（63.7％）と「家族と一緒に生活したい」（27.4％）が高く、現状維持を望む人が多い傾向がうかがえます。



「自分一人だけで暮らしている」のサンプル数は０件のため非表示

「それ以外」に含まれる選択肢
「グループホームで暮らしている」、「福祉施設で暮らしている」、「病院に入院している」、「その他」

（５）希望する暮らしのために必要な支援

問32　希望する暮らしをするためには、どのような支援があればよいと思いますか。
（○はいくつでも）

希望する暮らしのために必要な支援は、全体で「必要なサービスが適切に利用できること」が66.6％と最も高く、次いで「経済的な負担の軽減」が57.1％、「相談対応などの充実」が42.3％となっています。

障がい種別でみると、知的障がいでは「必要なサービスが適切に利用できること」が74.1％、発達障がいでは「相談対応などの充実」が51.7％と高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病では「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること」が高い傾向にあります。

（％）

障がい種別＼希望する暮らしのために必要な支援	調査数（ｎ）	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること	障がい者に適した住宅の確保	必要なサービスが適切に利用できること	生活訓練などの充実	経済的な負担の軽減	相談対応などの充実	地域住民などの理解	コミュニケーションについての支援	その他	無回答
全　体	359 100.0	6.7	23.7	66.6	29.2	57.1	42.3	22.6	37.0	3.6	3.1
身体障がい	96 100.0	19.8	28.1	70.8	24.0	62.5	36.5	22.9	31.3	1.0	3.1
知的障がい	201 100.0	8.0	31.8	74.1	32.8	61.7	43.8	27.9	33.8	4.5	2.5
発達障がい	174 100.0	3.4	21.8	66.7	32.8	58.6	51.7	25.3	44.8	4.6	2.9
精神障がい	25 100.0	4.0	24.0	60.0	20.0	68.0	52.0	24.0	40.0	12.0	－
高次脳機能障がい	5 100.0	－	20.0	60.0	40.0	80.0	60.0	40.0	40.0	－	20.0
難病	22 100.0	36.4	50.0	86.4	27.3	59.1	36.4	31.8	18.2	4.5	－
その他	21 100.0	9.5	23.8	76.2	19.0	28.6	28.6	14.3	42.9	4.8	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

７　就労の状況について

（１）障がいのある人の就労支援として必要なこと

問37　あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
（○はいくつでも）

障がいのある人の就労支援として必要なことは、全体で「職場の障がい者理解」が80.5％と最も高く、次いで「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が74.9％、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」が52.6％と高くなっています。

障がい種別でみると、発達障がい（85.6％）、知的障がい（83.6％）では「職場の障がい者理解」が８割台と高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がいと難病では「短時間勤務や勤務日数などの配慮」が高い傾向にあります。また、難病では「在宅勤務の拡充」も高くなっています。

（%）

障がい種別 ＼ 障がい者の就労支援として必要なこと	調査数（ｎ）	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮	短時間勤務や勤務日数などの配慮	勤務時間や日数が体調に合わせて変更できること	在宅勤務の拡充	職場の障がい者理解	職場の上司や同僚に障がいの理解があること	職場で介助や援助などが受けられること	具合が悪くなった時に気軽に通院できること	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	無回答
全　体	359 100.0	39.8	22.8	48.7	44.8	25.6	80.5	74.9	40.7	32.6	52.6	33.1	40.4	4.7	3.9
身体障がい	96 100.0	50.0	46.9	52.1	55.2	37.5	77.1	71.9	41.7	44.8	44.8	29.2	37.5	6.3	7.3
知的障がい	201 100.0	47.3	21.4	48.8	45.3	22.4	83.6	77.1	49.8	29.9	58.2	38.3	43.8	5.5	2.5
発達障がい	174 100.0	32.8	16.7	51.1	47.7	27.6	85.6	81.6	40.2	34.5	58.6	42.0	46.6	2.9	2.9
精神障がい	25 100.0	24.0	8.0	60.0	48.0	36.0	80.0	60.0	44.0	40.0	44.0	24.0	28.0	8.0	4.0
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	20.0	80.0	80.0	20.0	80.0	80.0	20.0	－	20.0	20.0	40.0	－	20.0
難病	22 100.0	59.1	54.5	63.6	59.1	59.1	81.8	81.8	50.0	63.6	59.1	45.5	40.9	9.1	4.5
その他	21 100.0	23.8	23.8	42.9	38.1	23.8	76.2	57.1	33.3	28.6	38.1	14.3	33.3	9.5	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

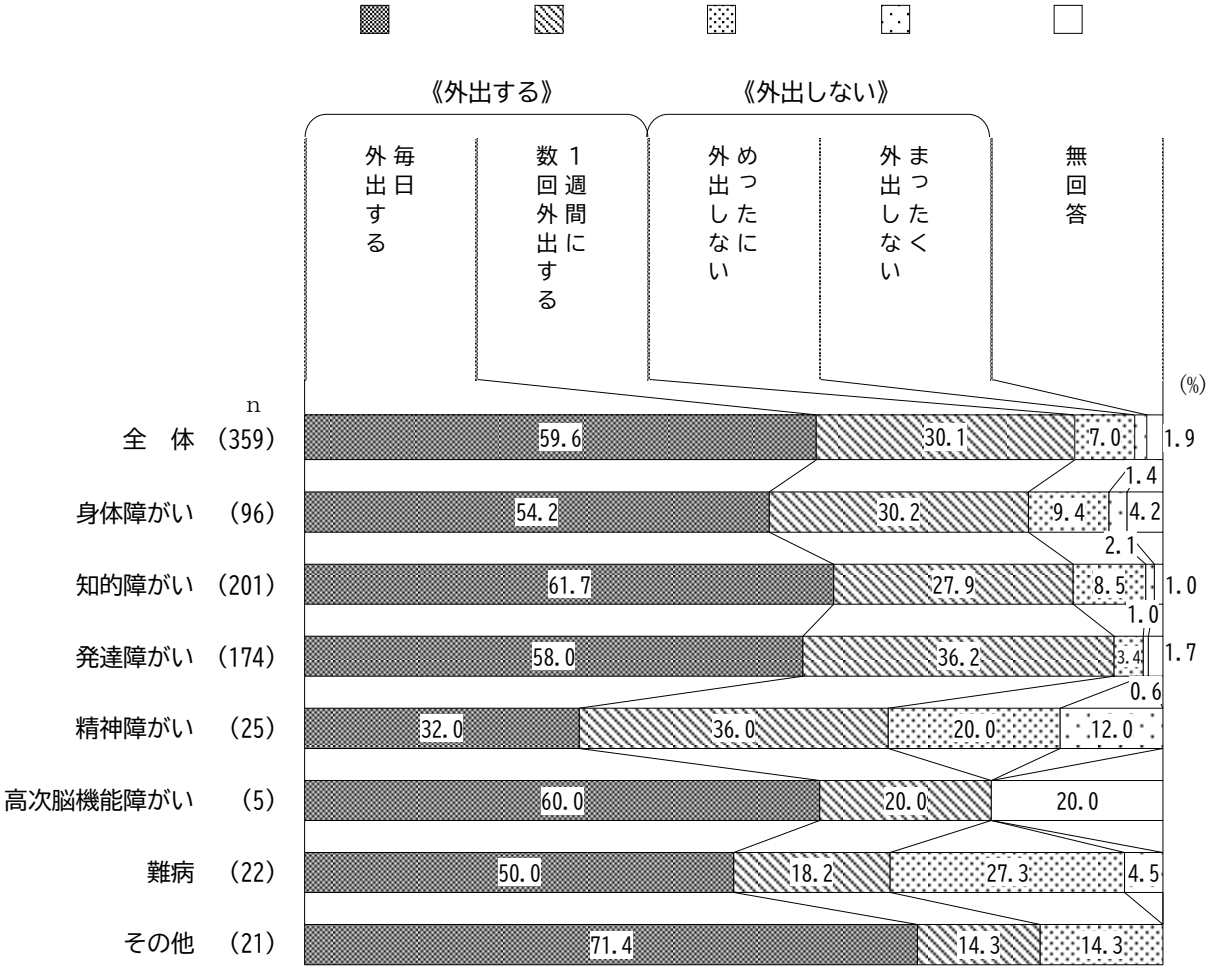
８　外出や余暇の過ごし方について

（１）１週間の外出頻度

問38　あなたは、１週間にどの程度外出しますか。（○は１つ）

一週間の外出頻度は、全体で「毎日外出する」（59.6％）、「１週間に数回外出する」が（30.1％）を合わせた「外出する」は89.7％となっています。一方、「めったに外出しない」（7.0％）、「まったく外出しない」（1.4％）を合わせた「外出しない」は8.4％となっています。

障がい種別でみると、「外出する」では発達障がいが94.2％、「外出しない」では身体障がいが11.5％とほかの障がい種別より高くなっています。



（２）外出する際の主な同伴者

問39　あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。（○は１つ）

外出する際の主な同伴者は、全体で「父、母」が73.0％を占めています。一方、「一人で外出する」は18.1％となっています。

障がい種別でみると、知的障がい（75.6％）、身体障がい（75.0％）、発達障がい（73.0％）では「父、母」が７割台と高くなっています。発達障がいでは「一人で外出する」が20.7％とほかの障がい種別よりやや高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「父、母」が高い傾向にあります。

（％）

障がい種別＼外出する際の主な同伴者	調査数（ｎ）	一人で外出する	配偶者（夫または妻）	子ども（子どもの配偶者も含む）	父、母	兄弟姉妹	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人（ボランティアなど）	無回答
全　体	359 100.0	18.1	0.8	0.6	73.0	0.8	0.8	－	5.8
身体障がい	96 100.0	14.6	－	－	75.0	－	1.0	－	9.4
知的障がい	201 100.0	14.4	1.0	0.5	75.6	1.0	1.0	－	6.5
発達障がい	174 100.0	20.7	0.6	1.1	73.0	0.6	－	－	4.0
精神障がい	25 100.0	16.0	－	－	72.0	4.0	－	－	8.0
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	－	－	60.0	－	－	－	20.0
難病	22 100.0	4.5	－	－	81.8	4.5	－	－	9.1
その他	21 100.0	9.5	4.8	－	85.7	－	－	－	－

（３）一人で外出できない場合の外出手段

問40　一人で外出できない場合、どのように外出していますか。（○はいくつでも）

一人で外出できない場合の外出手段は、全体で「家族に付き添ってもらっている」が67.1％と最も高くなっています。一方、「外出しない」は22.0％となっています。

障がい種別でみると、発達障がい（71.3％）、知的障がい（70.6％）では「家族に付き添ってもらっている」が７割台で高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がい、難病では「外出しない」が高い傾向にあります。

（％）

障がい種別＼一人で外出できない場合の外出手段	調査数（ｎ）	ホームヘルパーなどの福祉サービスを利用している	福祉タクシーなどの有料サービスを利用している	家族に付き添ってもらっている	友人や知人、ボランティアなどに付き添ってもらっている	その他	外出しない	無回答
全　体	359 100.0	3.9	1.1	67.1	2.8	2.8	22.0	7.2
身体障がい	96 100.0	5.2	2.1	68.8	3.1	2.1	21.9	8.3
知的障がい	201 100.0	5.5	2.0	70.6	3.0	1.5	22.9	3.5
発達障がい	174 100.0	3.4	1.1	71.3	2.3	2.9	16.7	8.6
精神障がい	25 100.0	4.0	－	60.0	－	－	32.0	8.0
高次脳機能障がい	5 100.0	－	－	20.0	－	－	40.0	40.0
難病	22 100.0	13.6	4.5	68.2	－	－	31.8	－
その他	21 100.0	－	－	52.4	－	9.5	28.6	9.5

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（４）外出する目的

問41　あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（○は１つ）

外出する目的は、全体で「通勤・通学・通所」が74.7％を占めています。
いずれの障がい種別でも、「通勤・通学・通所」が７割台と高くなっています。

（％）

障がい種別＼外出する目的	調査数（n）	通勤・通学・通所	訓練やリハビリに行く	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	グループ活動に参加する	散歩に行く	ボランティア活動	その他	無回答
全　体	359 100.0	74.7	0.6	2.2	3.9	0.8	1.4	－	2.8	－	1.1	12.5
身体障がい	96 100.0	72.9	1.0	4.2	3.1	1.0	－	－	5.2	－	－	12.5
知的障がい	201 100.0	76.1	－	2.0	3.5	0.5	2.0	－	3.0	－	－	12.9
発達障がい	174 100.0	75.3	0.6	2.3	4.0	1.1	1.1	－	2.9	－	1.1	11.5
精神障がい	25 100.0	60.0	－	4.0	12.0	－	4.0	－	4.0	－	4.0	12.0
高次脳機能障がい	5 100.0	80.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	20.0
難病	22 100.0	72.7	4.5	9.1	－	－	－	－	－	－	－	13.6
その他	21 100.0	61.9	－	4.8	－	－	－	－	14.3	－	4.8	14.3

（５）外出の際の困りごと

問42　外出の際に困っていることはありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることは、全体で「他人との会話が難しい」が34.3％と最も高く、次いで「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」が23.7％、「他人の視線が気になる」が18.4％となっています。一方、「特に困っていることはない」は30.9％となっています。

障がい種別でみると、知的障がい（41.3％）、発達障がい（39.7％）では「他人との会話が難しい」が４割前後と高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、身体障がいは「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」（40.6％）、「障がい者でも使えるトイレや移動しやすい通路などの情報がない」（32.3％）、「バリアフリーの通路が少ない」（25.0％）がほかの障がい種別よりそれぞれ高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がいでも「他人との会話が難しい」が高い傾向にあります。難病では「障がい者でも使えるトイレや移動しやすい通路などの情報がない」、「バリアフリーの通路が少ない」、「車を駐車するところがない」、「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」が高い傾向にあります。

（％）

障がい種別＼外出の際に困っていること	調査数（ｎ）	障がい者でも使えるトイレや移動しやすい通路などの情報がない	イベントなどが、障がいに対応しているかわからない	付き添ってくれる人がいない	他人との会話が難しい	他人の視線が気になる	必要なときに、まわりの人の手助け・配慮が足りない	バリアフリーの通路が少ない	車を駐車するところがない	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい	その他	特に困っていることはない	無回答
全　体	359 100.0	13.4	10.3	9.7	34.3	18.4	15.3	7.5	7.8	23.7	5.8	30.9	5.6
身体障がい	96 100.0	32.3	17.7	5.2	20.8	16.7	13.5	25.0	16.7	40.6	8.3	20.8	6.3
知的障がい	201 100.0	18.4	12.4	13.9	41.3	24.4	22.9	8.5	10.0	29.4	6.5	21.4	2.5
発達障がい	174 100.0	8.0	9.2	10.9	39.7	21.3	15.5	0.6	3.4	17.2	4.6	34.5	6.3
精神障がい	25 100.0	12.0	12.0	16.0	48.0	36.0	24.0	4.0	8.0	24.0	20.0	20.0	8.0
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	－	－	60.0	20.0	－	－	－	40.0	－	－	40.0
難病	22 100.0	31.8	18.2	4.5	22.7	22.7	22.7	31.8	36.4	45.5	4.5	22.7	－
その他	21 100.0	9.5	4.8	14.3	28.6	4.8	4.8	9.5	－	9.5	4.8	57.1	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

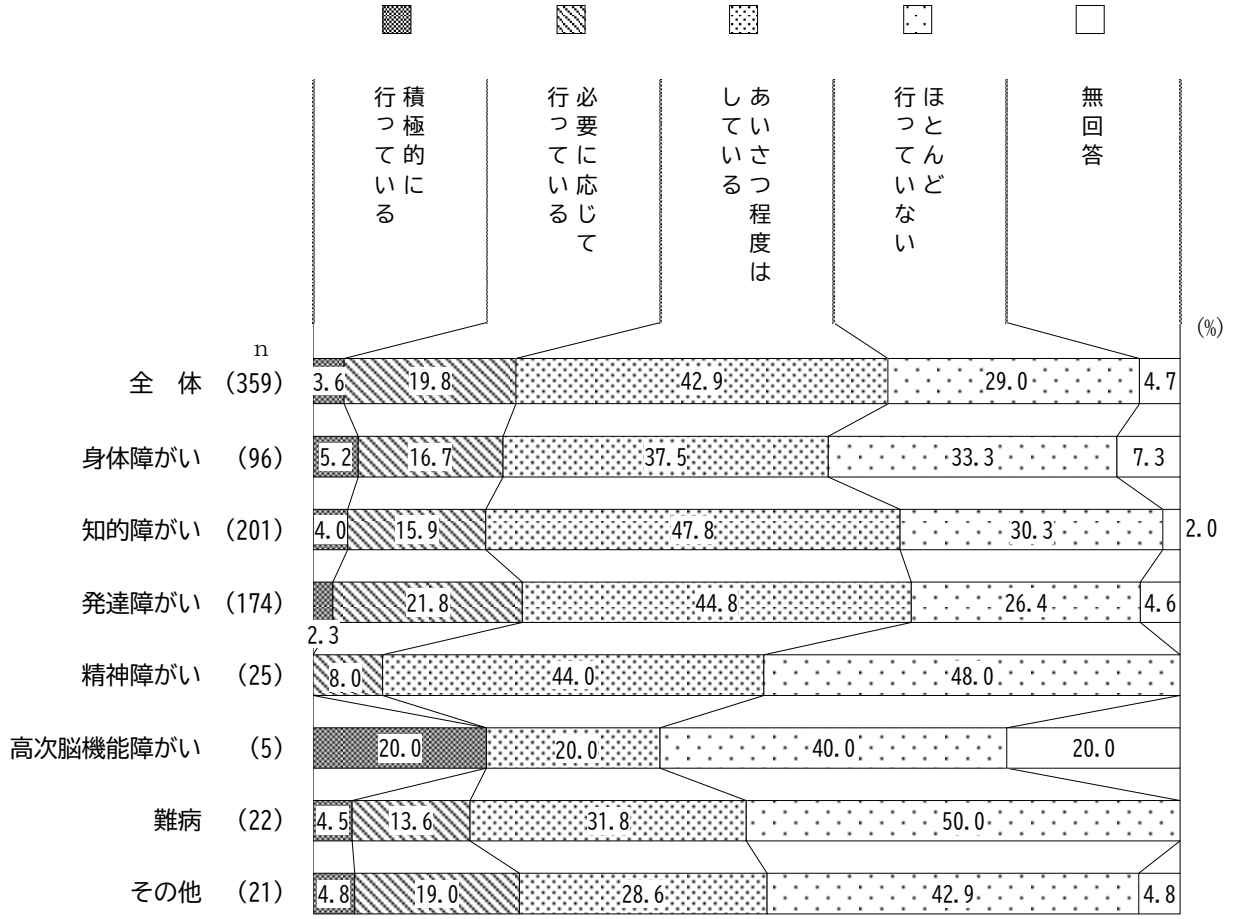
（６）地域の人との交流

問43　地域の人との交流は、次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

地域の人との交流は、全体で「あいさつ程度はしている」が42.9％と最も高く、次いで「ほとんど行っていない」は29.0％、「必要に応じて行っている」は19.8％、「積極的に行っている」は3.6％となっています。

障がい種別でみても、知的障がい（47.8％）、発達障がい（44.8％）、身体障がい（37.5％）では「あいさつ程度はしている」が最も高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がい、難病では「ほとんど行っていない」が高い傾向にあります。



９　災害時の避難などについて

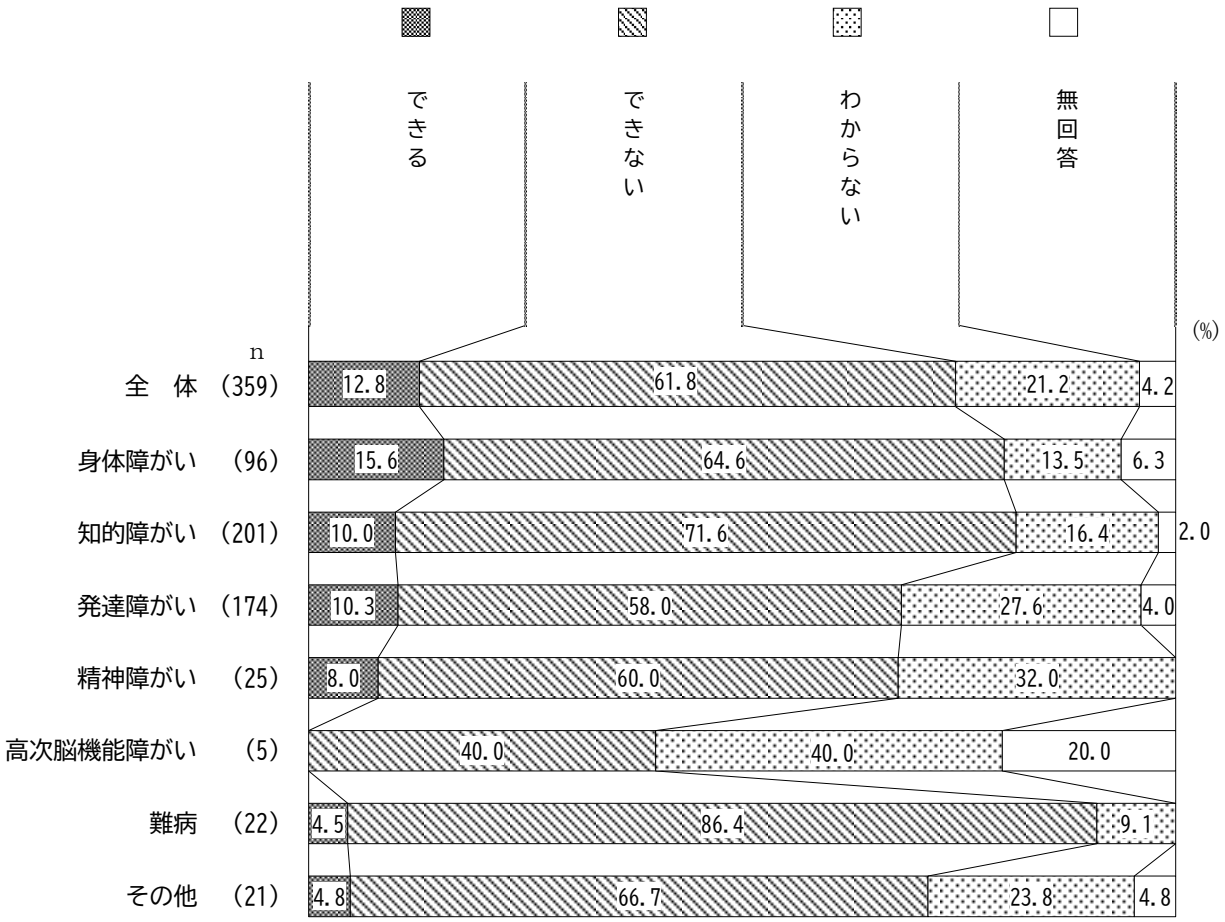
（１）災害時に一人での避難の可否

問44　あなたは、火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。（○は１つ）

災害時に一人での避難は、全体で「できる」と答えた人は12.8%にとどまり、「できない」と答えた人は61.8%、「わからない」と答えた人は21.2%となっています。

障がい種別ごとに全体と比較すると、知的障がい（71.6%）、身体障がい（64.6%）では、「できない」と答えた人が高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病でも「できない」が高い傾向にあります。



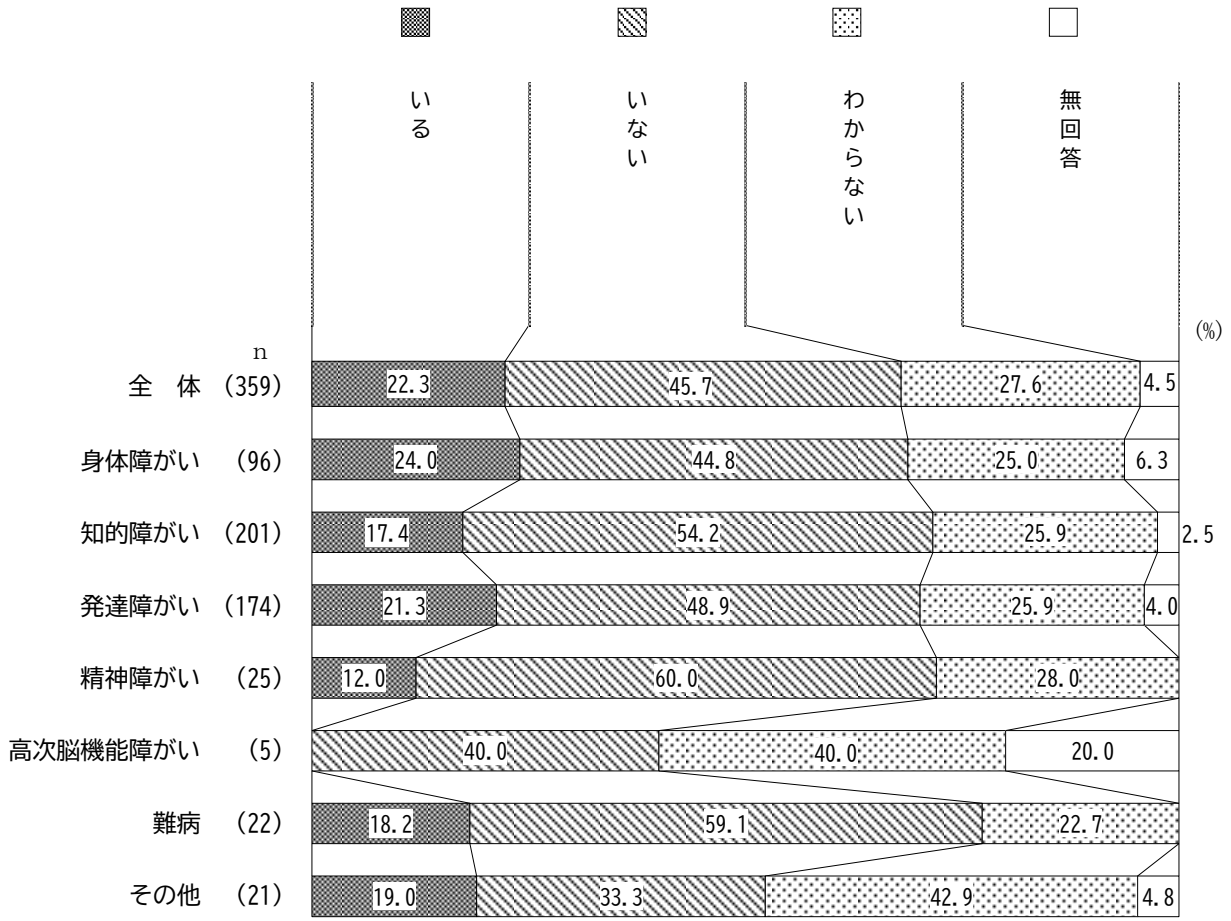
（２）一人でいるときの近所の支援者の有無

問45　家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。
（○は１つ）

一人でいるときの近所の支援者は全体で、「いない」と答えた人が45.7％と最も高く、「いる」と答えた人は22.3％となっています。一方、「わからない」と答えた人は27.6％となっています。

障がい種別ごとに比較すると、知的障がいでは「いない」と答えた人が54.2％と最も高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がい、難病でも「いない」が高い傾向にあります。



（３）災害時の困りごと

問46　火事や地震などの災害時に困ることは何ですか。（○はいくつでも）

災害時に困ることは、全体で「安全なところまで、迅速に避難することができない」（58.8%）、「周囲とコミュニケーションがとれない」（54.6%）が５割台と高く、次いで「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」（49.3%）、「救助を求めることができない」（42.1%）、「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」（40.9%）が４割台となっています。

障がい種別ごとに比較すると、知的障がいでは「安全なところまで、迅速に避難することができない」が70.1%、知的障がい（65.7%）、発達障がい（63.2%）では「周囲とコミュニケーションがとれない」が６割台と高くなっています。身体障がいは「投薬や治療が受けられない」（44.8%）、「補装具や日常生活用具の入手ができなくなる」（26.0%）がほかの障がい種別よりそれぞれ高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、難病では「投薬や治療が受けられない」、「補装具や日常生活用具の入手ができなくなる」、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が高い傾向にあります。

(%)

障がい種別＼災害時の困りごと	調査数（n）	投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる	補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難することができない	被害状況、避難場所などの情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安	その他	特にない	無回答
全　体	359 100.0	28.1	6.4	9.7	42.1	58.8	40.9	54.6	49.3	8.6	6.1	4.5
身体障がい	96 100.0	44.8	13.5	26.0	41.7	63.5	34.4	38.5	52.1	8.3	4.2	6.3
知的障がい	201 100.0	30.8	6.0	10.0	51.7	70.1	47.8	65.7	58.2	9.0	6.5	2.0
発達障がい	174 100.0	25.3	2.3	5.2	44.3	59.8	49.4	63.2	52.3	7.5	5.7	4.6
精神障がい	25 100.0	44.0	4.0	4.0	52.0	60.0	48.0	56.0	64.0	8.0	－	－
高次脳機能障がい	5 100.0	40.0	－	－	20.0	40.0	20.0	40.0	－	20.0	－	20.0
難病	22 100.0	77.3	18.2	36.4	50.0	81.8	40.9	59.1	77.3	13.6	－	－
その他	21 100.0	28.6	4.8	4.8	28.6	38.1	38.1	42.9	38.1	19.0	14.3	4.8

※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100%にはなりません。

10　差別や権利擁護などについて

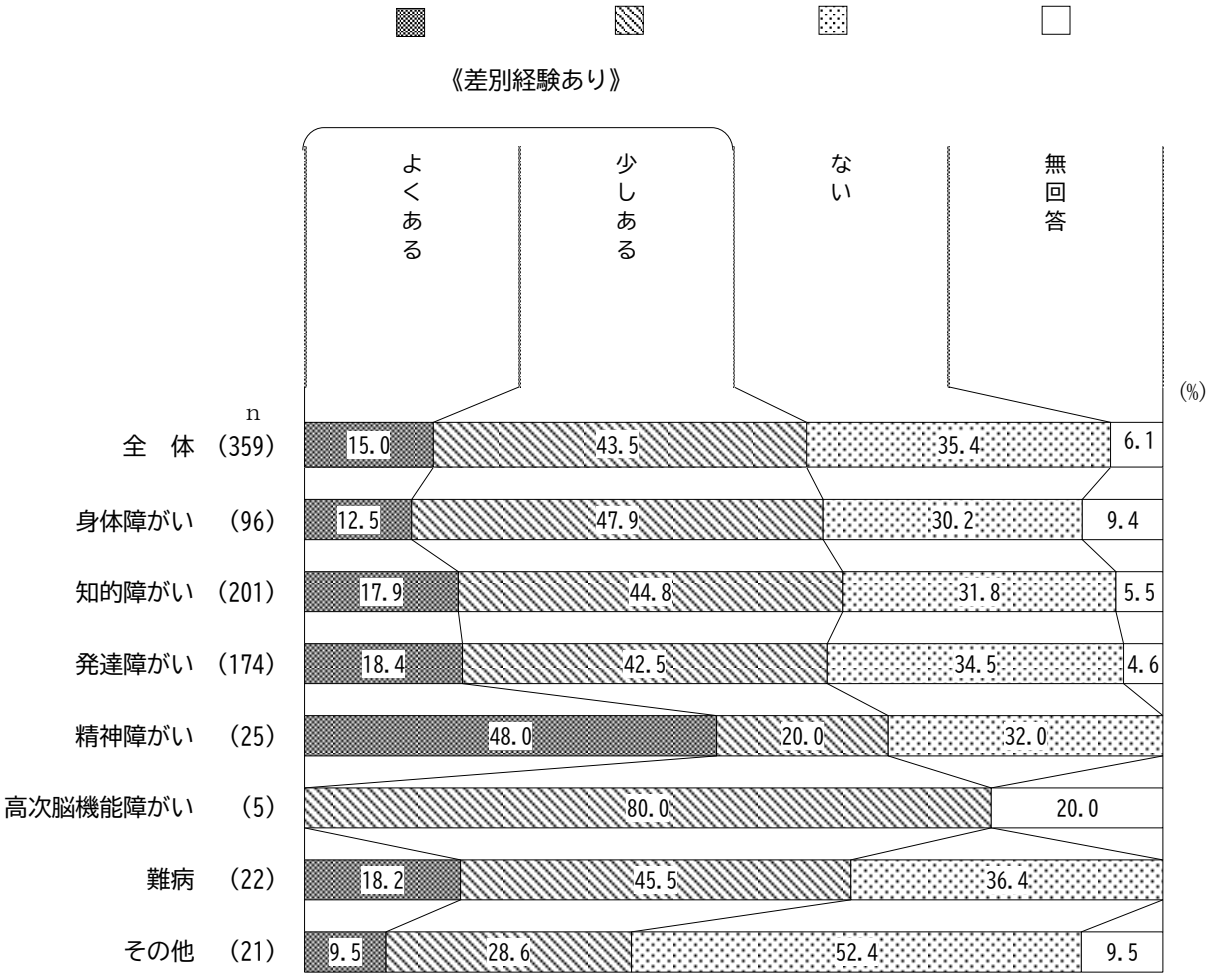
（１）障がい者差別の経験

問47　障がいがあることで、差別を感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。（○は１つ）

障がい者差別の経験は、全体で「よくある」（15.0％）、「少しある」（43.5％）を合わせた「差別経験あり」は58.5％となっています。一方、障がい者差別の経験が「ない」と答えた人は35.4％となっています。

障がい種別でみると、「差別経験あり」では知的障がい（62.7％）、発達障がい（60.9％）、身体障がい（60.4％）が６割台となっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、精神障がい、難病でも「差別経験あり」が高い傾向にあります。



（２）差別を受けた場面（具体的内容）

【問47で「よくある」又は「少しある」と答えた方におうかがいします。】
問48　具体的には、どのようなときに差別を感じたり、嫌な思いをしましたか。（形式自由）

差別を受けたことがあると回答した方に受けた差別の具体的内容を聞いたところ、回答者 95 名から延べ 115 件の意見がありました。

主な意見内容として、「保育・教育の場で」が 29 件、「見た目や行動、障がいの開示で」（27 件）が特に多くなっています。

以下、寄せられた回答の中からご意見を抜粋しました。

■保育・教育の場で（29 件）

・子供が車イスに乗っていることが珍しいので、立ち止まってみつめられる事が、出かけた時に必ずあります。学校の先生は昔にくらべて今の子の方が教育されているといいますが、私は小学校の時に特別支援学級がある学校で、児童館などで交流がありましたが直接かかわっていても差別している人はいました。間接的な勉強をしていたとしても、親の教育や環境で差別はなくならないと思います。

・学校で、体のこと（心臓病）の理解が足りず、無理をさせられ心不全が悪化し、手術になってしまい辛い思いをした。自分の意見を上手く言葉で表現できないので、相手になかなか伝わらない。見た目は普通に見えるので知的障がいがあることがわかりにくい。

■見た目や行動、障がいの開示で（27 件）

・周囲の状況に合わせられず、落ちつかない行動をとってしまったときなど、冷たい視線や言葉などに悲しい思いをしたことがあります。あたりまえのことができずにこまっているとき、周りの人からイヤミを言われたりすることがあります。障害手当をもらっているからといいねみたいなことを障害のない家庭の人に言われたりします。

・癇癪を起こして、騒いでしまった時に舌打ちをされてにらまれた。面と向かって「しつけもろくにできないの」と文句を言われた。（発達障がい児受け入れをしている幼稚園の職員からです。）

■外出時・移動時に（13 件）

・通りすがりの人に心ないことを言われた。（「（声を聞いて）犬が鳴いているのかと思ったわ。」「耳がきこえないんだったらよく神様にお祈りしないとね。そうしたら治るよ。」「この子はあなた（母親）を選んで産まれてきたのよ。」「変な声。なんだあいつ。あっちに行って良かった。」）など。

・言動が他の子供と違うのでジロジロ見られたり、嫌な言葉「気持ち悪い」「あれ？」などと言われる事が多いので、外出する時などに子供がかわいそうになる。偏見や差別を感じる。

■交通機関、公共施設（12 件）

・都営三田線の電車で無料のカードをみせると、障害手帳を見せるよういわれる。知的障がいで見た目はふつうだから、障害手帳と見比べられてすごくいやだ。

・歩行が少し困難だったり装具を装着する必要があるが、周囲からジロジロ見られたり電車の優先席を譲ってくれない時がある。

■店などの民間施設利用時、イベント等の参加時に（７件）

・外出先での会計時や何か物を選んだりする場面でもたもた時間がかかると嫌な目や変な目で見られる。決められない、手順が悪い、物や行動へのこだわりがあるため時間がかかってしまうが、本人の内面的な問題のため、理解されにくい。

・右半身麻痺を患っています。社会システムを含めたあらゆる事物が右利きの健常者向けに最適化されているのが大変不便です。衣服から自動改札、自動販売機、スマホ、歩道の歩き方まで右利き健常者向けになっています。嫌がらせに近い左利き差別を無くして欲しいです。レジやファストフード店の袋詰めセルフ化もこれ以上増えないで欲しいです。

■健常児だと勘違いされたときに（４件）

・ぱっと見で障害があることがわからないこともあるようで、「親のしつけが悪い」というような目で見られることが度々あった。

・健常者と同じことを要求された時に、身体障害の説明をしても言い訳と受け取られたり、できないことに対してハラスメントを受けることがある。

■職場・仕事探しで（４件）

・障害者雇用なのに、仕事に合理的配慮が受けられない。上司がその必要性を知らず、嫌な顔をして、頑なに断られた。障害者差別は、ほとんど日常的である。正式なヒヤリングもなしに、ないはずの、人間関係不全を言うし、理解がない状況です。

・てんかんの発作が起きる可能性があると履歴書に書き、面接を受けたが、いざ発作が起きたときに「聞いていない」と言われ、契約更新してもらえなかった。

■医療機関で（３件）

・病院等で病気のことを知らない人は根掘り葉掘り聞かれる。

・医師や教師から差別や理解のない言葉「大丈夫」と安易に言われる。

■その他（16 件）

・「納税者にならない障害のある子に手当てや支援をする必要はない」「いらない在存を増やした責任をとるべき」とネットで書かれました。

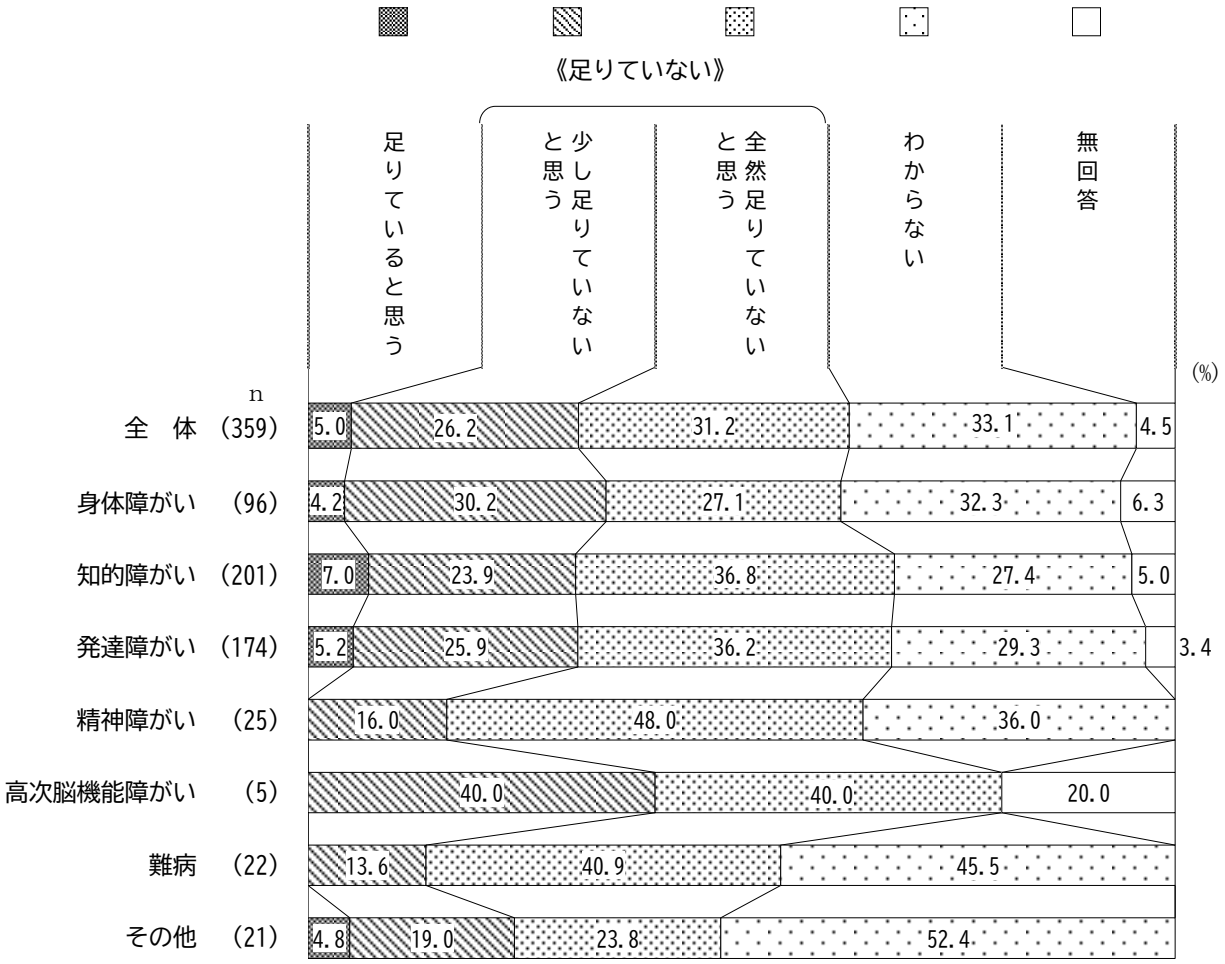
・ヘルプマークをみて、「これは何」と質問され、説明すると、「知らなかった。話しかけてごめんなさい」と会話をしてはいけない存在のような返事と対応が返ってきた。

（３）障がいのある人への区民の対応や理解度

問49　あなたは、区民の、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。
（○は１つ）

障がいのある人への区民の対応や理解度は、全体で「足りていると思う」と答えた人が5.0％となっています。一方、「少し足りていないと思う」（26.2％）、「全然足りていないと思う」（31.2％）を合わせた「足りていない」は57.4％となっています。「わからない」と答えた人は33.1％となっています。

いずれの障がい種別でも、区民の対応や理解度が「足りていない」と答えた人が５割以上と高くなっています。

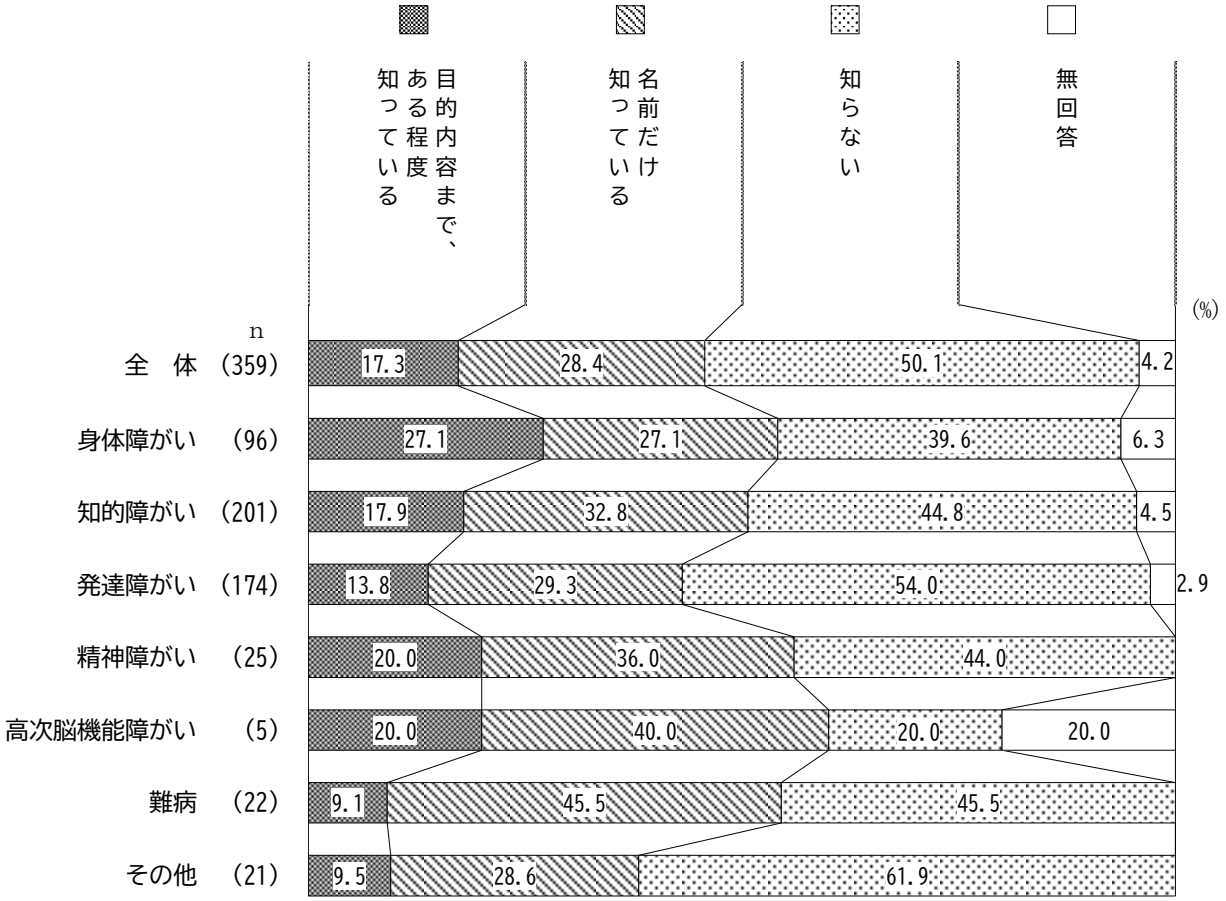


（４）「障害者差別解消法」の認知度

問50　障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、平成28年４月１日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。（○は１つ）

障害者差別解消法の認知度は、全体で「知らない」が50.1％と最も高く、次いで「名前だけ知っている」は28.4％、「目的内容まで、ある程度知っている」は17.3％となっています。

障がい種別でみると、発達障がいでは「知らない」が54.0％と高くなっています。身体障がいでは「目的内容まで、ある程度知っている」が27.1％とほかの障がい種別より高くなっています。



（５）共生社会の実現のために力を入れるべきこと

問51　障がいのある人もない人も、共に支え合いながら暮らすことができるように、地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思いますか。（○は３つまで）

共生社会の実現のために力を入れるべきことは、全体で「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が70.2％と最も高く、次いで「通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進」(46.0％)、「障がい者の一般企業への就労の促進」(42.6％）が４割台となっています。

障がい種別でみると、すべての障がい種別で「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が高くなっています。

障がい種別ごとに比較すると、発達障がいでは「障がい者の一般企業への就労の促進」が47.1％とほかの障がい種別より高くなっています。

(%)

障がい種別＼共生社会の実現のために力を入れるべきこと	調査数（n）	地域行事への障がい者の参加を促進するなど、地域住民などとの交流の場を増やすこと	学校での障がいに関する教育や情報の提供	障がいについての正しい知識の普及啓発のための講演会などの開催	障がい者作品展や障がい者と交流するイベントの開催	通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進	障がい者の一般企業への就労の促進	その他	特にない	無回答
全　体	359 100.0	20.1	70.2	17.0	8.6	46.0	42.6	7.0	2.8	7.8
身体障がい	96 100.0	20.8	69.8	13.5	10.4	46.9	38.5	9.4	3.1	7.3
知的障がい	201 100.0	25.9	71.1	16.4	11.9	39.8	40.8	6.0	2.0	8.0
発達障がい	174 100.0	19.0	73.0	20.1	6.9	49.4	47.1	5.7	1.1	9.2
精神障がい	25 100.0	12.0	72.0	12.0	－	44.0	32.0	－	8.0	8.0
高次脳機能障がい	5 100.0	－	80.0	60.0	－	60.0	40.0	－	－	20.0
難病	22 100.0	27.3	72.7	22.7	9.1	54.5	36.4	4.5	4.5	4.5
その他	21 100.0	23.8	66.7	9.5	4.8	42.9	33.3	9.5	4.8	4.8

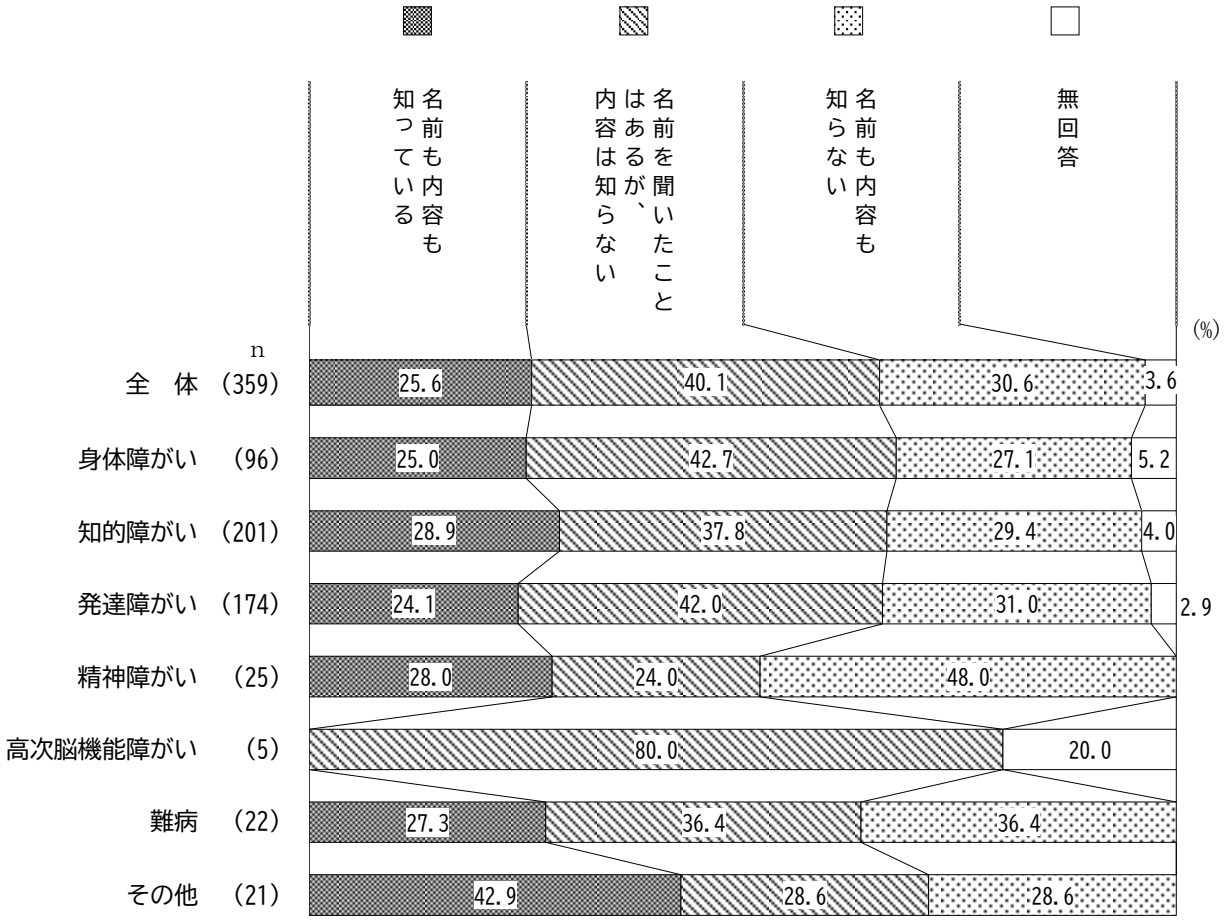
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（６）「成年後見制度」の認知度

問52　成年後見制度とは、認知症や知的障がい、精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。（○は１つ）

成年後見制度の認知度は、全体で「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が40.1％と最も高く、次いで「名前も内容も知らない」は30.6％、「名前も内容も知っている」は25.6％となっています。

障がい種別ごとに全体と比較すると、知的障がいでは「名前も内容も知っている」が28.9％とやや高くなっています。



（７）自由意見

問53　最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことがありましたら、自由にお書きください。

自由意見としては、「サービス・制度に関して」が最も多く38件、次いで「療育・教育に関して」が25件、「情報提供・相談支援体制に関して」が23件となっています。

以下、寄せられた回答の中からご意見を抜粋しました。

■サービス・制度に関して（38 件）

・結局使わずに終わりましたが、こどもの通学の付添を頼みたくて受給者証を発行して貰ったのに、引き受けてくれる事業所が一軒もありませんでした。これは困っている家庭が沢山あると思うので、何とかして改善してほしいです。

・児童発達支援に通っている人どうしでの交流の場や話が出来る場があったら嬉しい。すでにあるなら知りたい。児童発達支援サービスで通える箇所に限りがあるのを考え直してほしい。集団１つ、個別１つのくくりではなく、その子にとって広く、多くの刺激が成長につながるのならば、多くうけさせてほしい。もし「板橋区の枠がなくなり他の人が受けられなくなる」というのだったら区外なら増やしても良いなど救済を作ってほしい。多く通って混乱する子もいれば、多く刺激してあげないと伝わらない子もいる。他の区はそうではないとも聞いて正直この子の為に引っ越してちがう区で多く受けさせるべきか悩んでいます。

・区のサービスとして、未就学児をいざという時泊まりで見て頂けるサービスが練馬区にはある様ですが、板橋区にはなかった。いざという時、そういう所があると、安心できるなとは思います。

■療育・教育に関して（25 件）

・保育園小学校と子供が小さなうちから健常者障がい者との交流の場を多くもてるようにして欲しい。板橋区とかの問題ではなく、今の日本は子供が産まれた時から健常者・障害者のふり分けが行われ交わることが少ない。子供はみんな同じかわいい子供。互いに刺激を支え合うべき。

・いわゆるグレーゾーンの子供たちが通常学級から特別支援学級に籍をうつした場合、中学校卒業すると、その後の進路が、特別支援学校になることが多いです。しかし中学で特別支援学級をすごし、落ちついた場合は、必ずしも、特別支援学校でなくてもいいと思います。ただ、現状では、中学の支援級の先生方は、多くの生徒が特別支援学校へ進むため、それ以外の道をあまりすすめてくれませんし、詳しくありません。また、都立高校の入試では、ほとんどの学校で内申が必要となり、特別支援学級の通知表ではそれがつかないため、不利な点があります。どうぞ、軽度な知的障がいや、発達障がい、グレーゾーンの生徒たちの高校以上の進路、入試制度について見直して頂きたく思います。（また、通常級との交流もさらにあっていいと思います。現状はほぼありません）

・区立の保育園の先生、小学校の先生への、発達障害のある児童への対応について、教育や知識の普及を、行っていくべきだと思う。

■情報提供・相談支援体制に関して（23 件）

・中学校までは学校を通してなど、相談するところが分かるが、高校からは、困った時はどこに相談するか、など分かりづらい。また福祉のサービスはどういうサービスがあるか分からず利用しづらいので、自分から積極的に情報を集めなくてはならず大変。誰でも分かりやすいようにまとまった情報紙や、障害者手帳の申請の際に、情報提供があればと思う。

・障がい福祉サービスも色々ありますが、何をどこに相談するのか、何才位になるとこういった事をここに相談すると良い…といった事が分かる資料が欲しいです。外国ではまずここに電話をすれば必要なサービスを受けられるよう関係箇所へ繋いでくれるといったシステムもあるようです。日本だと違った所へ電話をしてしまうと、ここでの対応ではない…と断られて終わります。必要なサービスが受けられる所が分かりにくく、そこへたどり着くまでが大変です。友人、知人から聞く情報頼りです。

・支援、サービスの現場の方には細やかな対応をしてただいて大変感謝しています。 障がい福祉サービスの内容が多岐にわたり制度も複雑なので、様々な情報を得たり適切な支援にたどりつくのに多くの時間と労力がかかる場合が多いと感じます。一元的とまではいかなくても、もう少しわかりやすくまとまって相談や手続きが出来るとありがたいと思います。

■アンケート調査に関して（18 件）

・何度かアンケートに解答しておりますが、その結果改善されているのでしょうか。またアンケートの結果開示されたり、活用されたりしているのでしょうか。

・今回、障害者（児）へのアンケートですが、障害者（児）の家族へのアンケートもお願いしたいです、「親亡き後問題」で次にスポットが当たるのが「きょうだい児」だと思います。親が健常（定型）のきょうだいに後を託すという話を聞きますが、きょうだいは何も知らない（制度や施設の事など）、どうすれば良いか分からない方が多いように思います。その時に相談や頼れる機関があると助かると思います。

・一言で障害と言っても人それぞれだと思うので、一律でのアンケートでは無く、その人の状況を理解した上でアンケートを取る仕組み、または具体的な人物を想定した上でアンケートを取るなど、もう少し工夫が必要なのでは？

■障がい者・児とその家族の理解・啓発、差別撤廃に関して（18 件）

・どんなサービスがあるのか、わからない点が多いです。どんなものが利用出来るのか、紹介して欲しいです。どこで相談して良いのか、よくわかりません。通常学級に通う息子もいますが、通常級の先生は差別的発言が多くあります。先生の教育もお願い出来たら幸いです。

・見た目でわからない障がいは、からかいにあいやすいです。からかいがエスカレートするといじめにつながります。障がいは本人と家族にしか困り事がわかりません、だいたいの大人

は障がいのある人を見ても、大変そうとは思っても本当に何が大変で困まっているのか理解していません、そもそも理解しようとは思っていないと思います。だから、その子供にも理解は伝わらないと思います。インクルージョン教育をあたりまえにするためには算数や英語のように子供のころからあたりまえに障がいについての教育をする必要があると思います。いろいろな人種がいるのはあたりまえなように、いろいろな障がい者がいても「あたりまえ」になるよう教育をしてほしいと思っています。障がいや特性を知ることで、理解が広がりからかいやいじめも減っていくのではないでしょうか？障がいがあってもなくても人が人として幸せに生きていくために皆が知ることが一番良いことだと思います、そういう教育を願っています。

・自分の身近な人に障がい者がいないと理解なんてしてもらえないと常々諦めの気持ちが勝っています。インクルーシブ教育が板橋区で浸透するのはいつだろうと思っています。

■放課後デイサービス等に関して（15 件）

・放課後等デイサービスなどの発達支援の場が、もっと増えて通いやすい場所が選べるようになって欲しい。（定員がいっぱいで、遠くに通っているため）

・重心対応の放課後等デイサービスの空きがない為利用できず、家族の負担が多いので、施設を増やしてほしい。

・板橋区は放課後デイサービスや療育が少なく、あっても高島平の方など通いづらい、区のさかいの方の住民は区役所に行くのも大変だし、療育とかも他区へ行くしかないし、他区のサービス内容を聞くと、豊島区などは手厚いなと思ってしまう。もろもろ手続きする時、返信用封筒一つ入っていないので、切手やら何やらの用意もけっこう大変だ。療育から放デイに変わるにあたって、料金がかなり発生する事を知りびっくりしてしまった。物価高騰やらで家庭はけっこうひっぱくしてる方多く、働くのも大変な方も多いのに国や都はオリンピックやらどうでもいい国葬とかにお金つかうなら、もっと人々が生きやすくなる所に我々の大切な税金を使ってほしいものです。色々、お世話になり、ありがたいと思う反面、こういうアンケートではふだん言えない事を書いてしまいます。

■将来の不安（親亡き後など）に関して（12 件）

・ひとり親の母がコロナにかかったら子供は、どうするのだろう……。家賃が高い、公営住宅が当らない、母も精神障害である。多様な意味で周りに理解して欲しい。

・両親、またはどちらかが死亡した場合、生きていけない。もし、高校を卒業しどこにも入所できなかったら、どうすればいいのか？両親（家族）と共に生活ができなくなるのではないか？（両親も高齢となるし、不安だらけの将来しか見えない。）

・親がいなくなった後のことを考えると、弟も障害児なので、通院を始め、一人で暮していけるのかとても心配です。持病の心臓病もあるので、就労のことも心配です。グループホームなども考えた方が良いのかと思っています。ひとり親なので、親が体調を崩したり、身動きがとれなくなった時に、ショートステイなどの利用も検対中です。

■区役所・福祉関連職員の対応に関して（12 件）

・福祉事務所の担当の方にも、理解を深めて欲しいと感じました。手続きなどが遅れるとサービスの利用ができないと困るから早めに提出などしても担当の方が処理を忘れていたりして、結局困った事になったりします。現在は親が手続きをしていますが、いずれ「本人が手続きする」ようになるという事を理解して、手続きをして欲しいと感じます。また就学相談や副籍制度なども、知能指数のみで判断せず、「決まりですから」と突っぱねるのではなく、「個々に合わせた支援」を心掛けて下されば良いなと思います。

・小学生になるので（子）役所に相談もかねて行ったら流れ作業のように話しもちゃんと聞してもらえず「無理です」女性の方に言われてしまいました。不安で行ったのに、悲しかったです。せめてアドバイスこんな相談するとこもありますよとかお知えてもらえたらなとその日からどうしていいのかわかりません。携帯でひたすら探しますがわからないこともあります。誰にも相談できず前に進めません。

・「縦割り行政」が問題であると思う。 精神の管轄は保健所で、下肢不自由や視覚不自由の管轄は福祉事務所で対応しているため、たとえば、デイケアや作業所に通いたい、という最低限の人権さえ守られていないのが残念です。 保健所と福祉事務所が跨った事務所などは他の区では実現しているのでほかの区役所で出来ることが、何故だか板橋区役所では実現しないと言う点に対して些か懐疑的である。

■経済的問題・支援に関して（９件）

・精神の手帳３級です。支援のための経済的な援助がもう少しあればと思います。

・障害があることで、健常者並みに稼ぐことが難しく、また日常生活において自分でできない不足分をお金で補うために収入が多く必要であるにも関わらず、健常者とほとんど変わらない額の税金と保険料を持って行かれてしまう。障害者控除の額を上げて欲しいです。

・福祉手当の増額。板橋区は都内他の区と比較して金額が低額である。医療費の軽減も望みます。障碍者手帳1級2級は丸障制度で1割負担と軽減されているが、3級は全く軽減がなく、健常者と同じ3割負担となっております。健常者以上に医療費がかかっている状態であり、収入も無い中で大変負担が重く、困っています。1級2級と同じといわずとも、2割負担程度や、少額の医療費の一か月間の合算による医療費軽減措置など、医療費が負担になっている障害者は多数いると思います。

■就労・職場に関して（８件）

・まだ高等部通学中なので今のところ困っている事はないが、「就労継続支援Ｂ型」を利用したくても「一人通勤」が条件なのでその時点ではじかれて「生活介護」という道しか選べず残念に思う。病気もあり一人通勤は９９．９％無理なのですが、作業等大好きなのでやれたら卒業後も毎日楽しく過ごせるのでは？といつも考えます。

・自分のように日常生活に全く支障がないタイプは企業側に障害者と知られることでのデメリットしかないので、知らせるかどうかの選択しがほしい。　障害者になってから差別感ほどではないが、やはり無駄に気を遣われ敬遠されているのを感じる。

・障害者雇用について、合理的配慮が必要あることを管理職の人が知らない。障害者の権利条約に、批准している事や、障害者差別が法律で禁止されていて、障害者が人として憲法を始めとして、法によって、何重にも守られているから、今日の日本で、障害者が元気に生きられることを、誰も知らない。 今後は、経済的にも、同一労働同一賃金を始めとした、差別のない社会にしなければいけない。そのためには、学校でのインクルーシブ教育などの実現や、障害者の奴隷的な待遇をなくし、良い社会を。

■福祉全般・施策に関して（７件）

・サービス名が似通っているものが多く、わかりにくい。予算が無いのかもしれないが、「介護は家族が行うもの」という基本的な考え方が行政の側にあると思う。「どうしても家族で介護できない場合のみ利用できる」という方針であり、障害者およびその家族を助ける気が基本的には無いのだと思わされる。「どうしても家族で介護できない事情がある場合のみ」と示されると、真面目な人は、家族のために仕事を辞める・諦めるといった選択をするかもしれませんよ。そのような個人の犠牲を前提とした制度設計を改めて下さい。利用したい時に快く利用させて下さい。私は一度、居宅介護の申請を断られましたが、納得がいかず、ママ友に相談して申請時のアピールポイント等を教えてもらい再度申請しました。福祉事務所の方は、そういうこと教えてくれませんよね。障害者の側に立つのではなく、対立しているように感じます。そんなに不正利用者多いですか？却下のノルマとかあるんですか？そんな風に勘繰ってしまいます。

・障害者が普通に社会の中に（つながれる）溶け込めるような風土作りに役立つようなちょっとした活動をとにかくたくさんやって頂きたい。アイディアをどんどん出してもらって欲しい。

・区の予算の都合も理解出来るが以前と比べて、福祉に対する取り組みが後退した感が強く感じる。

■卒業後の受け皿、成人の活動場所に関して（７件）

・学校卒業後の進路についての情報や、施設が足りていないと思われる。施設から、地域へと、事だけは大きいが実態が伴っていないのではないか？親が働くことができない状況をなんとかしてほしいし、所得制限でいろいろなサービスが支給停止になるのはおかしいと思う。

・学校卒業後、行く場所、働く場所がないかもしれないと不安に思います。作業所など、待機なしで入れるようにしていただきたいです。

・高校卒業後（就職してから）の週末の余暇活動の場を増やしてほしい（放課後等デイサービス的な）。

■施設・設備の充実に関して（７件）

・最近医ケア児（いろう）になったばかりなので、どのようなサービスを使っていこうかまだ検討中なのですが、訪問看護、訪問介護をどんどん利用したいと考えています。学生のうち

は学校→放課後デイの流れで通えるので親は共働きでもなんとかなるのですが、１８歳以上になると週５で福祉園に通えない（しかも帰宅時間が早い）と聞いており、どうするべきか悩んでいます。なんとか１８歳以上でも朝８時～１８時くらいまであずけられるような施設を作ってほしいです。共働き世帯が増えているので必ず需要があるはずです。また、短期入所についてももっと気軽に利用できるような施設がほしいです。（今たとえば小茂根だと、２～３ヶ月前に予約申し込みが必要）２～３ヶ月先の予定なんて決まっていませんので大変使い勝手が悪いです。１週間前に申込みをすれば利用できるような施設があったら嬉しいです。

・発達に遅れがあったり、特性のある子を受け入れてくれて、温かい目で見守ってくれる幼稚園が少ない。受け入れてもらえても理解があまり無い。発達支援の事業所（療育施設）も少なく、希望通りに通えないことが多い。

・将来を考えると地域で安心して幸せに過ごして欲しいのでグループホームに30歳までには入りたいですが、グループホームを運営してくださる事業所は少なく情報もありません。

■更新・手続きに関して（７件）

・障がい者手帳、更新時に、医師の診断書を提出しましたが、２つの書類に別れていましたので、大学病院だった為診断書（@６０００円）×２を払わなければならず、３級の手帳取得では、とても高くつきました。２級から３級に下がったこともあり、そのような時は、別紙は不要である旨を病院の方へ伝える文章も添付してほしいと思います。障がい者手帳取得の為の診断書は、無料にしてほしいです。

・行政において、手続きや面談に時間がかかりすぎると思います。

・障害のある子供は自分でサービス等を探したり利用するまでの手続き（申請や相談など）をする事がかなり困難。そのため、そのような手続きは、ほとんどの場合、親（ほとんどが母親）がしているのが現実です。サービスをどのように使うのか、知識のない親はゼロから調べる、相談するのがあたり前になっています。障害のある子供、一人一人に、専属でソーシャルワーカー等の手続きを代行してくれる方が居ると大変助かります。気軽に自宅に来て、申請を手伝ってくれる、話を聞いてもらえる方が居れば、悲しい事件や災害時の対応も素早く対応できると感じます。ぜひ宜しくお願いします。

■外出やバリアフリー等に関して（３件）

・以前、美容室を予約の際に「車イス利用者ですが利用できますか？バリアフリーでしょうか？」と確認したところ「大丈夫です」との事でお店に伺ったところ店内はバリアフリーでしたがお店に入る手前に段差がありました。なかなか段差を越えられず困っていたところ通りすがりの方が手伝ってくださいました。介助する私がこんなに大変だと車イス利用者はもっと大変だと思いました。お店側も店の外のことまでは気付かないのかもしれません。お店側も１歩外まで出た状態を見て考えていただけたら嬉しいです。もちろん車イス利用者も予約の際の入口外の段差はないか？など念のため確認する努力はするべきだと思います。あと住んでいる付近に車イスで入れる飲食店がもう少し増えてくると嬉しいです。車イス利用

者を連れての外食はかなりハードルが高いです。車イス利用者１人でも気軽に外食できるお店が増えることを祈っています。

・ホームドアを全ての駅につけて欲しい。

■災害時の支援体制に関して（３件）

・聴こえないので災害時など文字でもイラストでもわかりやすくしてほしい。

・災害の多い現在において、防災と障害（今健康な人が今後負うかもしれない）は密接なので、既に障害のある人、災害で障害を負った人が必要な支援について、まとめたページを防災ブックに合体させたり、ＱＲコードを掲載して、専用サイトを作って欲しい。

■その他（６件）

・スポーツが好きなので地域で障害がある人もない人も一緒に参加できるイベンドがあったらうれしいです。本人にたずねながら、アンケートを本人の母が記入しました。息子は板橋区の高校（就業技術科）に通っています。現在、差別も困難を感じることもなく、本人も快適にすごせているように思います。卒業後もよりよくすごせるよう、家族以外にも相談できる場所としても障害者福祉サービスを利用したいと考えています。今回アンケートに回答する機会を頂き、嬉しく思っています。今後もお世話になります。宜しくお願い致します。

・障害のある人達の為に、様々なことを考え、整えてくださる方々がいるということが、本当にありがたく心強いです。 今後もどうぞよろしくお願いいたします。

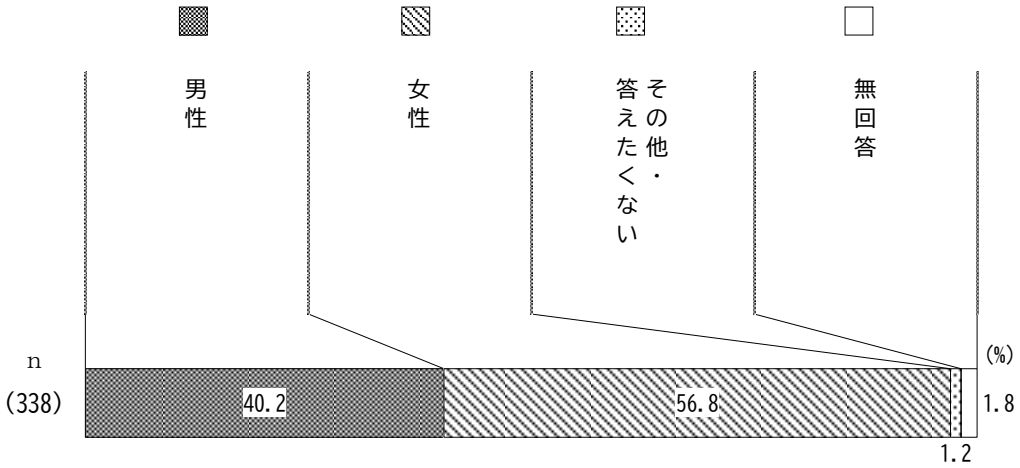
Ⅲ．一般区民

１　基本属性

（１）性別

問１　あなたの性別をお答えください。（○は1つ）

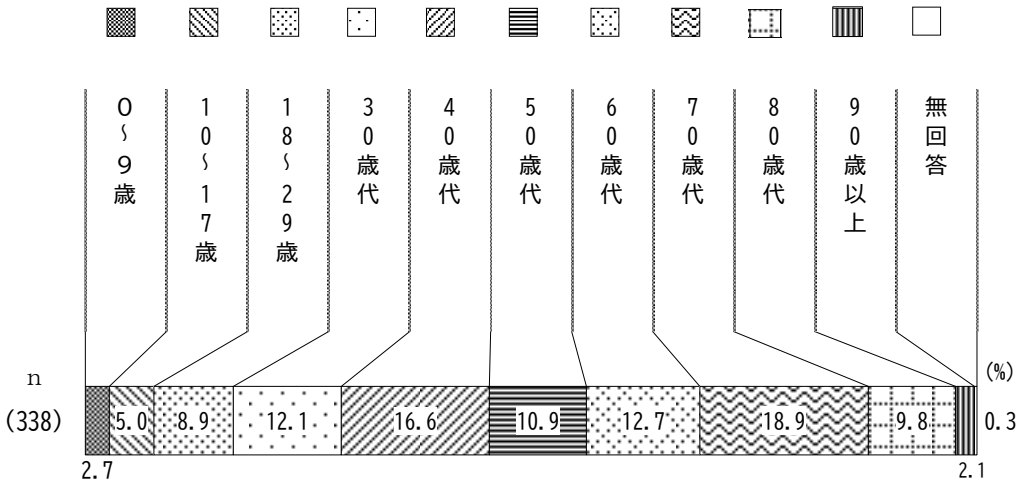
回答者の性別は、「男性」が40.2%、「女性」が56.8%と女性の割合が高くなっています。



（２）年齢

問２　あなたの年齢（令和４年９月１日時点）をお答えください。（○は１つ）

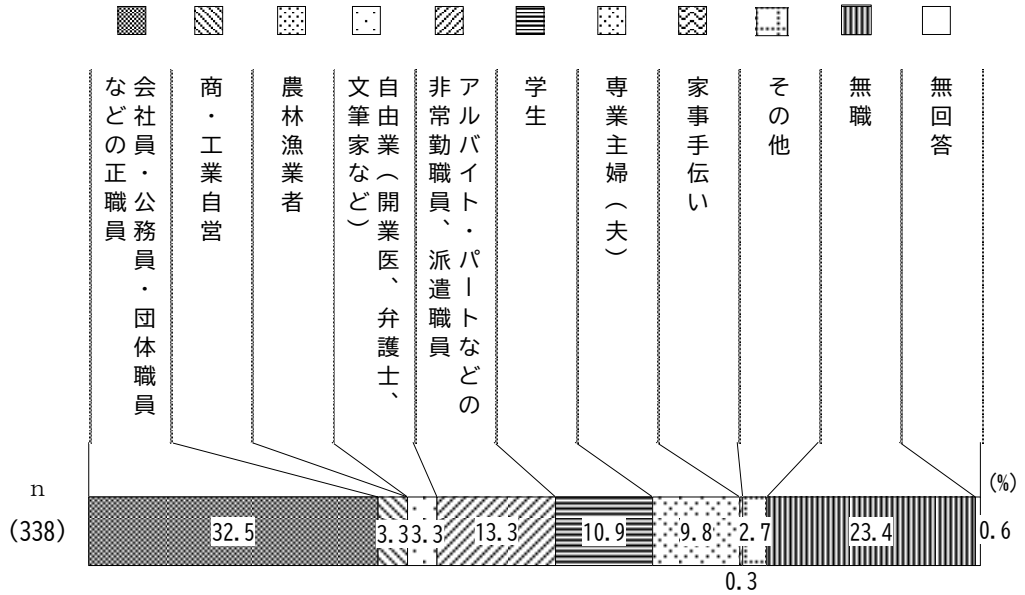
回答者の年齢は、「70歳代」が18.9%と最も高く、次いで「40歳代」が16.6%となっています。



（３）職業

問３　あなたの、現在のお仕事についておうかがいします。（○は１つ）

回答者の職種は、「会社員・公務員・団体職員などの正職員」が32.5％と最も高く、次いで「無職」は23.4％、「アルバイト・パートなどの非常勤職員、派遣職員」が13.3％となっています。

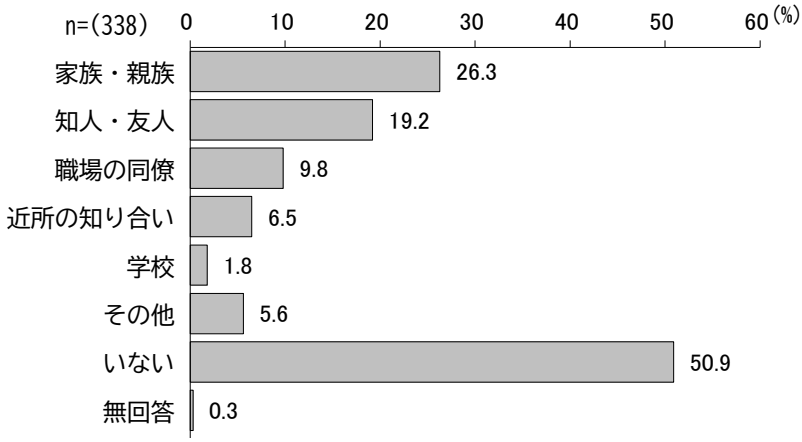


２　障がい福祉への関心について

（１）障がいのある知り合いの有無

問４　あなたは、知り合いに障がいのある人はいますか。（○はいくつでも）

回答者の障がいのある知り合いは、「家族・親族」が26.3％と高く、次いで「知人・友人」が19.2％となっています。一方、「いない」は50.9％と過半数となっています。



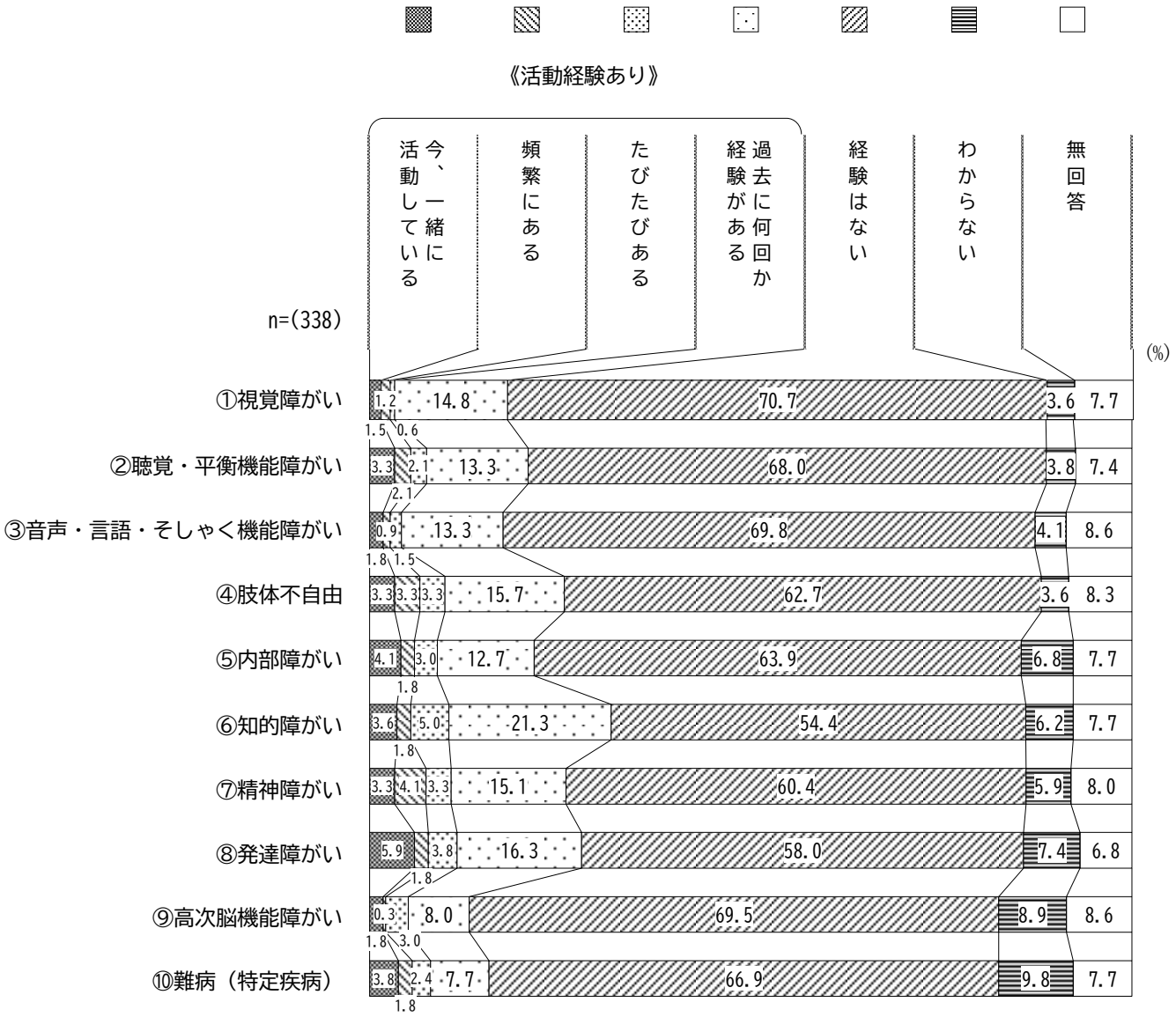
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（２）障がいのある人との活動経験

問５　あなたは、次の障がいについて、障がいのある人と一緒に活動をした経験をお持ちですか。（それぞれ、あてはまるものに１つだけ○をつけてください。）

障がいのある人との活動経験は、「活動経験あり」は「⑥知的障がい」が31.7％と最も高く、次いで「⑧発達障がい」（27.8％）、「⑦精神障がい」（25.8％）、「④肢体不自由」（25.6％）、「⑤内部障がい」（21.6％）、「②聴覚・平衡機能障がい」（20.8％）が２割台となっています。

※《活動経験あり》…「今、一緒に活動している」、「頻繁にある」、「たびたびある」、「過去に何回か経験がある」の合計



（３）一緒に活動した際に感じたこと

問６　問５で回答した障がいのある人といっしょに活動をした経験について、感じたことや印象深かったことをお書きください。

障がいのある人と一緒に活動をした経験があると回答した方に一緒に活動した際に感じたことを聞いたところ、回答者 133 名から延べ 152 件の意見がありました。

主な意見内容は、「障がいのある人に対する理解が深まった」が 36 件と最も多く、次いで「病気や障がいに関する意見」（34 件）、「関わり方が難しい」（21 件）となっています。

■障がいのある人に対する理解が深まった（36 件）

・障がいを持っていても、物事の考え方や仕事に取り組む意欲は健常者と遜色がないことを感じた。

・職業柄、幼児の肢体不自由や発達障がい児と関わったことがあり、個別対応の難しさを感じる事も多かったが、日々向き合いながら関わることで小さなステップだが成長を目の当たりにし、感慨深かった。

■病気や障がいに関する意見（34 件）

・人格によるものだと思っていたことがＡＤＨＤによる症状だとわかり、原因は理解できたが本人の生活のしづらさは変わらないのが障がいの難しいところだと思った。

・日常生活をおくることが大変不便であり、支援する必要があると感じた。例えば、外出時、トイレに行く事や段差のある道路を渡る事が大変不便でした。

■関わり方が難しい（21 件）

・どこまでフォローすべきかどうか、健常者と同じようにあまり気にしない方が当事者にとって良いのか悩むことがある。

・同じ障がいを持っている方でも個々での対応が求められるし、支援者の考えで対応方法も違うので統一感が持ちにくい。

■接するのが大変・ストレスを感じる（15 件）

・視覚障がいの方と１泊旅行に行き、緊張と責任で疲れた。５０代ぐらいの時だったので今は無理かも。お電話での心のケアはしてあげられる。

・仕方のないことかもしれないが、自分の体が上手く動かないことに対してのいら立ちなどを、舌打ちなどの表現で表されることにモヤッとする。

■支援の充実が必要だと感じる（14件）

・障がいがある人に対しての設備の充実面、金銭面のフォロー等国で考えていただきたい。

・障がい者を抱えている家庭を孤立させない、障がい者を抱えている家族の不安・ストレス・経済的不安に寄り添う体制・政策づくりが必要。

■特に何も感じない・変わらない（11 件）

・仕事だったので特に何も感じない。

・耳が聞こえない方と遊んだことがあるが特に何かを感じたことはない。障がいのある人（ない人とでも）と一緒に活動する際は極端に苦手な要素がある物は除くようにしている。そういった意味で障がいのあるなしで区別すること自体をしていない。

■理解するのは難しい（７件）

・クラスに１人いたが、障がいを盾にわがまま放題だった。親もそれを言い訳していた。都合よく障がい者というものを使っていて、なんだかなあと思った。

・こちらが予想できない行動をすることがある。 言葉を発することができない相手の場合、気持ちを想像するのが難しい。

■その他（14 件）

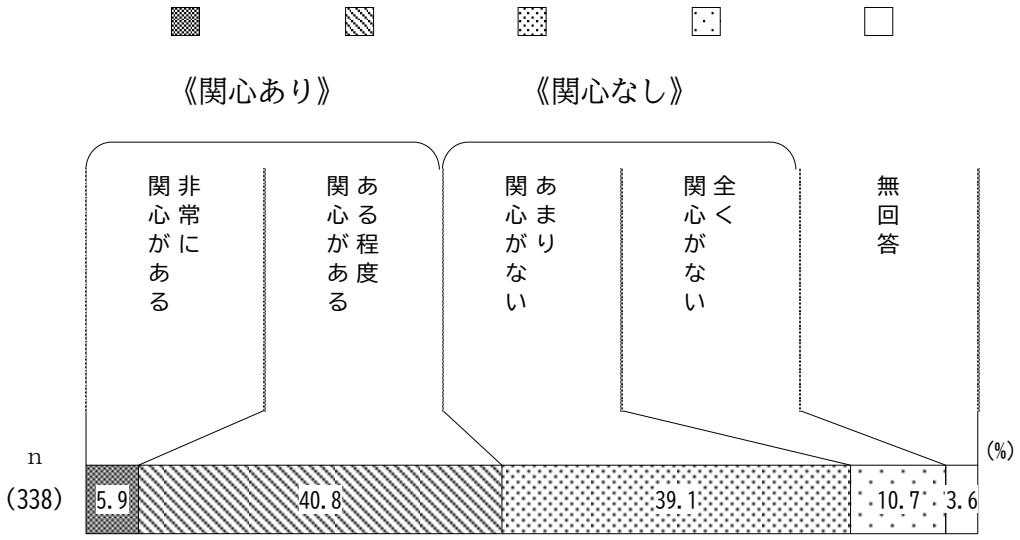
・子供の頃の記憶ですがイジメの対象になっていたと思います。難しいと思いますが偏見が少しでも無くなれば良いと思っています。

・本人に言われるまで、わからなかった。

（４）福祉ボランティア活動への関心度

問７　あなたは、福祉に関するボランティア活動に関心がありますか。（○は１つ）

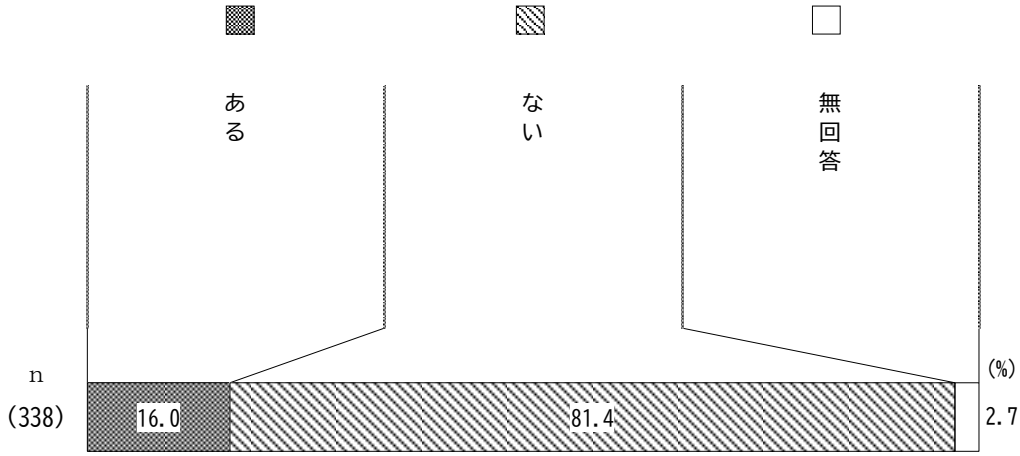
福祉に関するボランティア活動について、「非常に関心がある」（5.9%）、「ある程度関心がある」（40.8%）を合わせた「関心あり」は46.7%となっています。「あまり関心がない」（39.1%）、「全く関心がない」（10.7%）を合わせた「関心なし」は49.8%となっています。



（５）福祉ボランティア活動経験の有無

問８　あなたは、福祉に関するボランティア活動をしたことがありますか。（○は１つ）

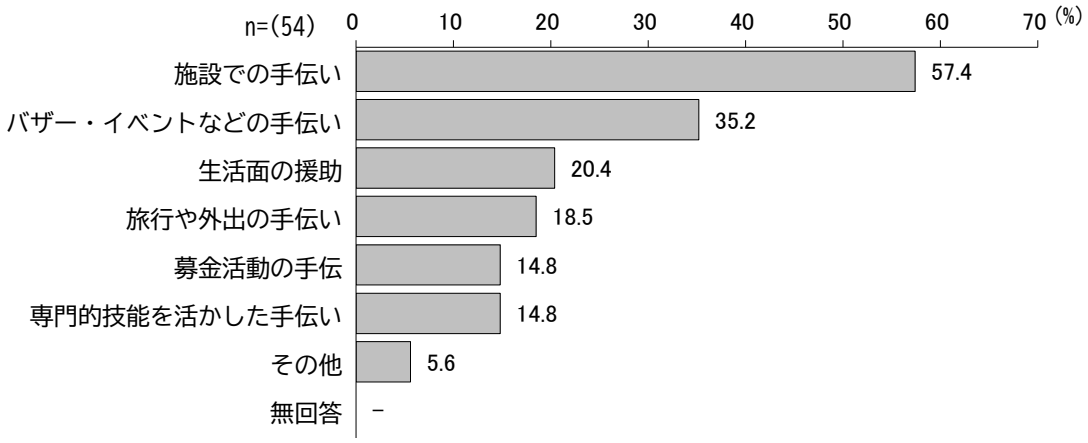
福祉に関するボランティア活動経験が「ある」と答えた人は16.0%、経験が「ない」と答えた人は81.4%を占めています。



（６）福祉ボランティア活動の内容

【問８で「ある」と答えた方におうかがいします。】
問９　それは、どのような活動ですか。（○はいくつでも）

福祉に関するボランティア活動の内容は、「施設での手伝い」が57.4％と最も高く、次いで「バザー・イベントなどの手伝い」が35.2％、「生活面の援助」が20.4％となっています。

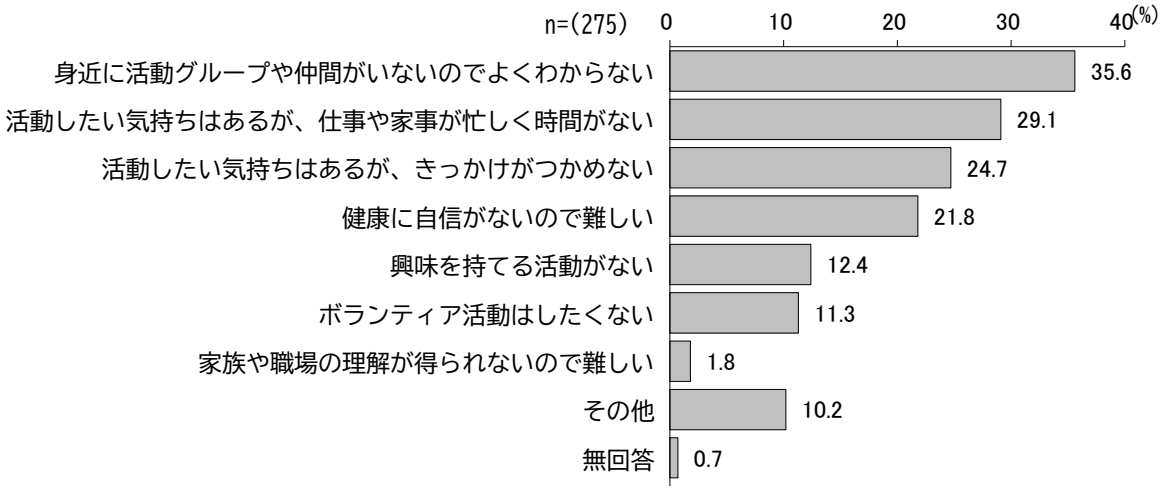


※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（７）福祉ボランティア活動をしていない理由

【問８で「ない」と答えた方におうかがいします。】
問10　ボランティア活動について、したことがない理由は何ですか。（○はいくつでも）

福祉に関するボランティア活動をしていない理由は、「身近に活動グループや仲間がいないのでよくわからない」が35.6％と最も高く、次いで「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事が忙しく時間がない」が29.1％、「活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない」が24.7％となっています。

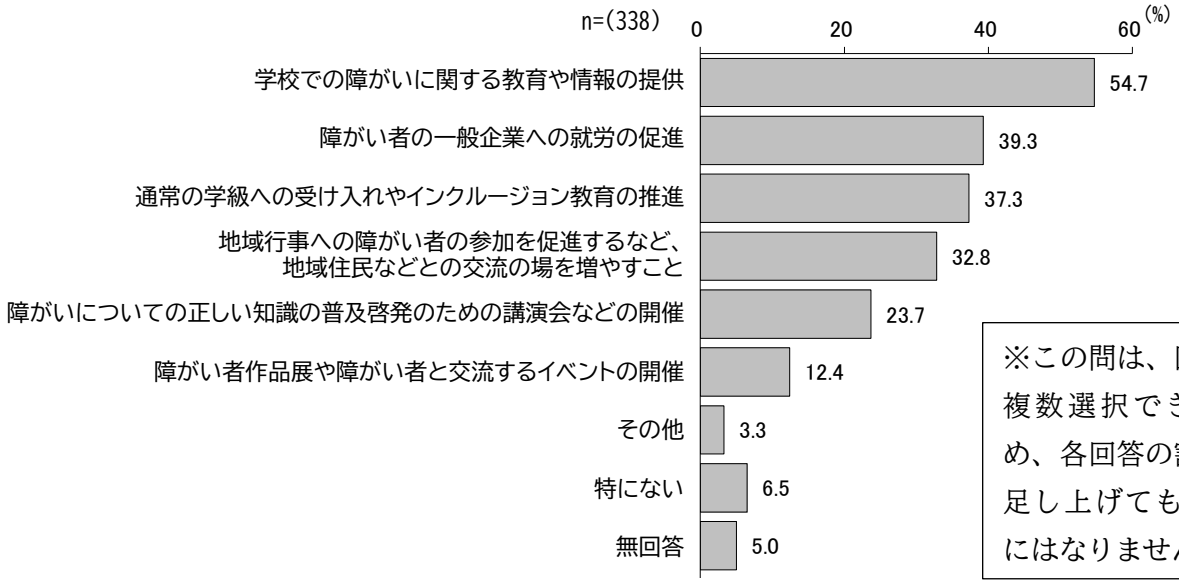


※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（８）共生社会の実現のために力を入れるべきこと

問11　障がいのある人もない人も、共に支え合いながら暮らすことができるように、地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思いますか。（○は３つまで）

共生社会の実現のために力を入れるべきことは、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が54.7％と最も高く、次いで「障がい者の一般企業への就労の促進」が39.3％、「通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進」が37.3％となっています。



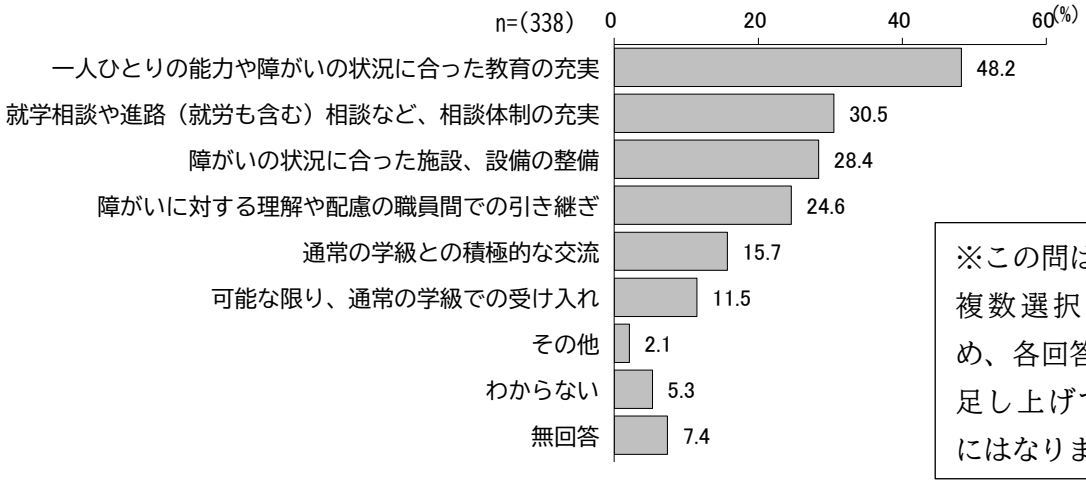
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

３　障がいのある人への教育・就労などについて

（１）障がいのある児童・生徒の教育に必要なこと

問12　あなたは、障がいのある児童・生徒の教育に関し、どのようなことが必要であると思いますか。（○は２つまで）

障がいのある児童・生徒の教育に必要なことは、「一人ひとりの能力や障がいの状況に合った教育の充実」が48.2％と最も高く、次いで「就学相談や進路（就労も含む）相談など、相談体制の充実」が30.5％、「障がいの状況に合った施設、設備の整備」が28.4％となっています。

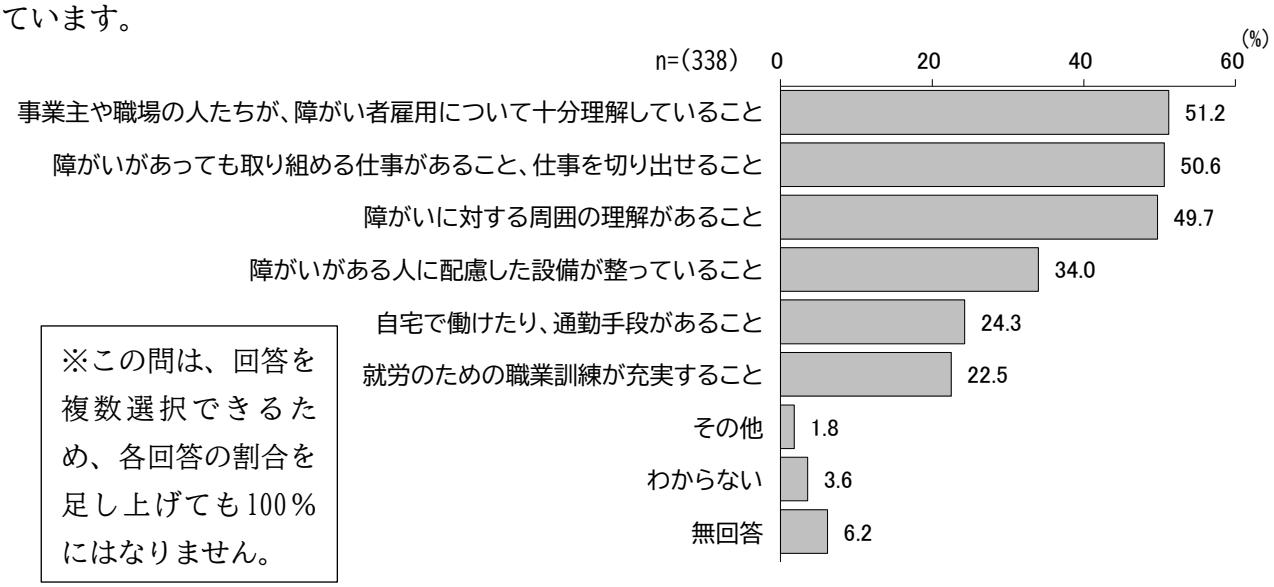


※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（２）障がいのある人の就労に必要な条件

問13　現在、障がいのある人への就労支援施策が推進されています。あなたは、障がいのある人が働くために、どのような条件が必要だと思いますか。（○は３つまで）

障がいのある人の就労に必要な条件は、「事業主や職場の人たちが、障がい者雇用について十分理解していること」が51.2％と最も高く、次いで「障がいがあっても取り組める仕事があること、仕事を切り出せること」が50.6％、「障がいに対する周囲の理解があること」が49.7％と高くなっています。



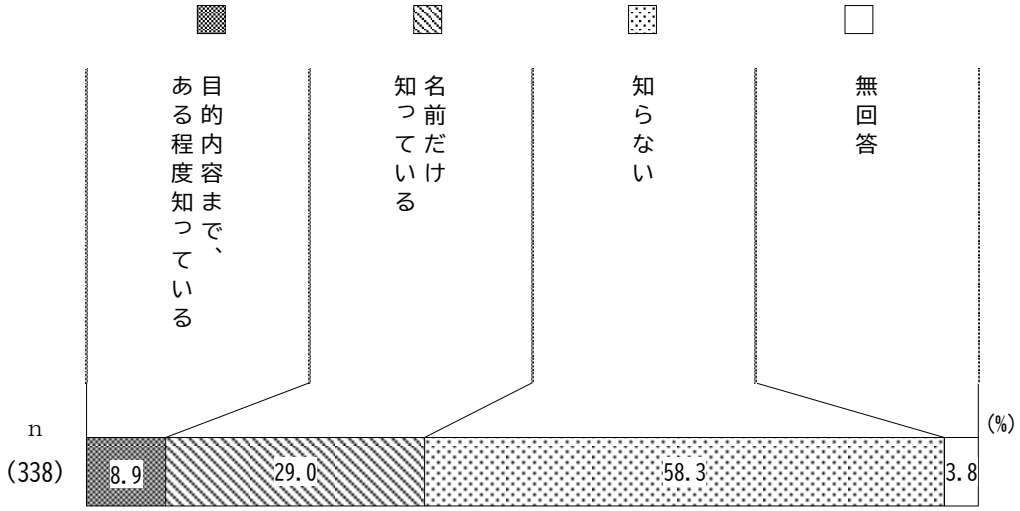
※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

４　障がいのある人に対する理解について

（１）「障害者虐待防止法」の認知度

問14　障がい者に対する虐待を防ぐため、平成24年10月１日に「障害者虐待防止法」が施行されましたが、このことを知っていますか。（○は１つ）

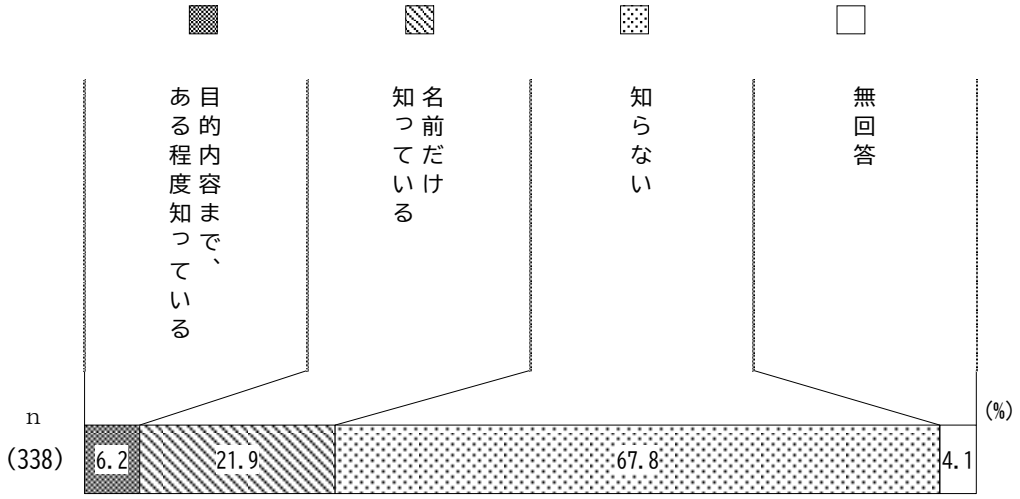
障害者虐待防止法の認知度は、「知らない」が58.3％と最も高く、次いで「名前だけ知っている」は29.0％となっています。一方、「目的内容まで、ある程度知っている」は8.9％と低くなっています。



（２）「障害者差別解消法」の認知度

問15　障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、平成28年４月１日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。（○は１つ）

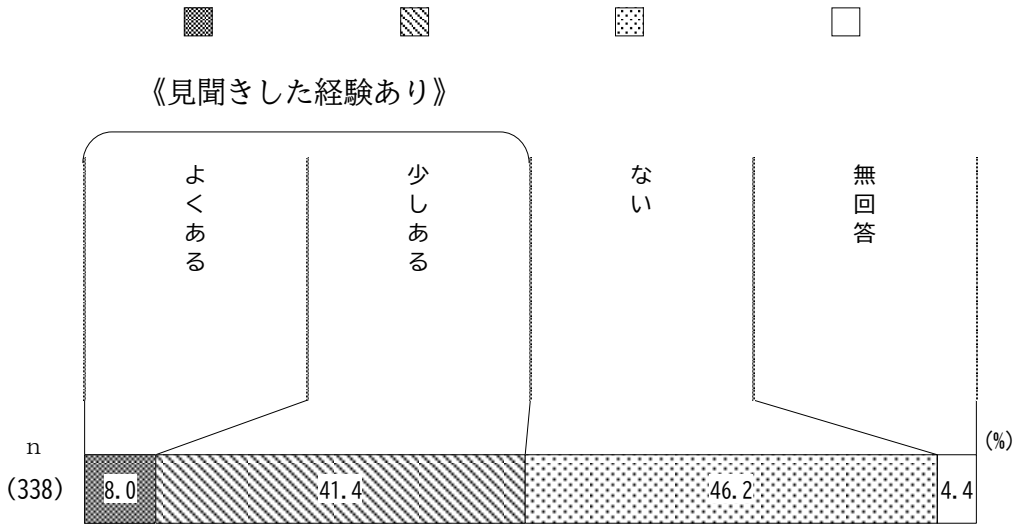
障害者差別解消法の認知度は、「知らない」は67.8％と最も高く、次いで「名前だけ知っている」は21.9％となっています。一方、「目的内容まで、ある程度知っている」は6.2％と低くなっています。



（３）差別や偏見の見聞きの有無

問16　あなたは、障がいのある人に対する、障がいを理由とする差別や偏見を直接見聞きしたことがありますか。（○は１つ）

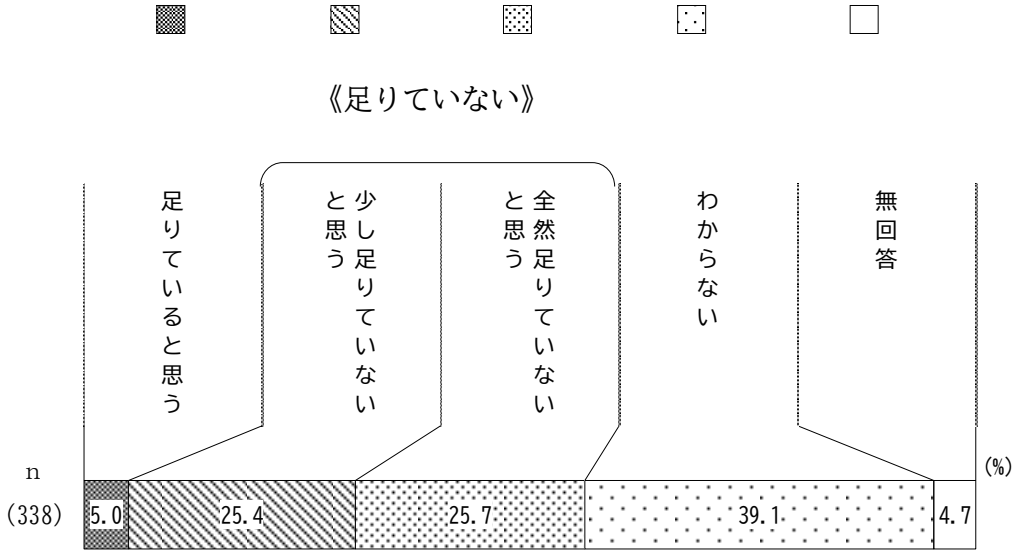
差別や偏見を見聞きした経験が「よくある」（8.0％）、「少しある」（41.4％）を合わせた「見聞きした経験あり」は49.4％となっています。一方、見聞きの経験が「ない」と答えた人は46.2％となっています。



（４）障がいのある人への区民・地域の対応や理解度

問17　あなたは、区民や地域の、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。
（○は１つ）

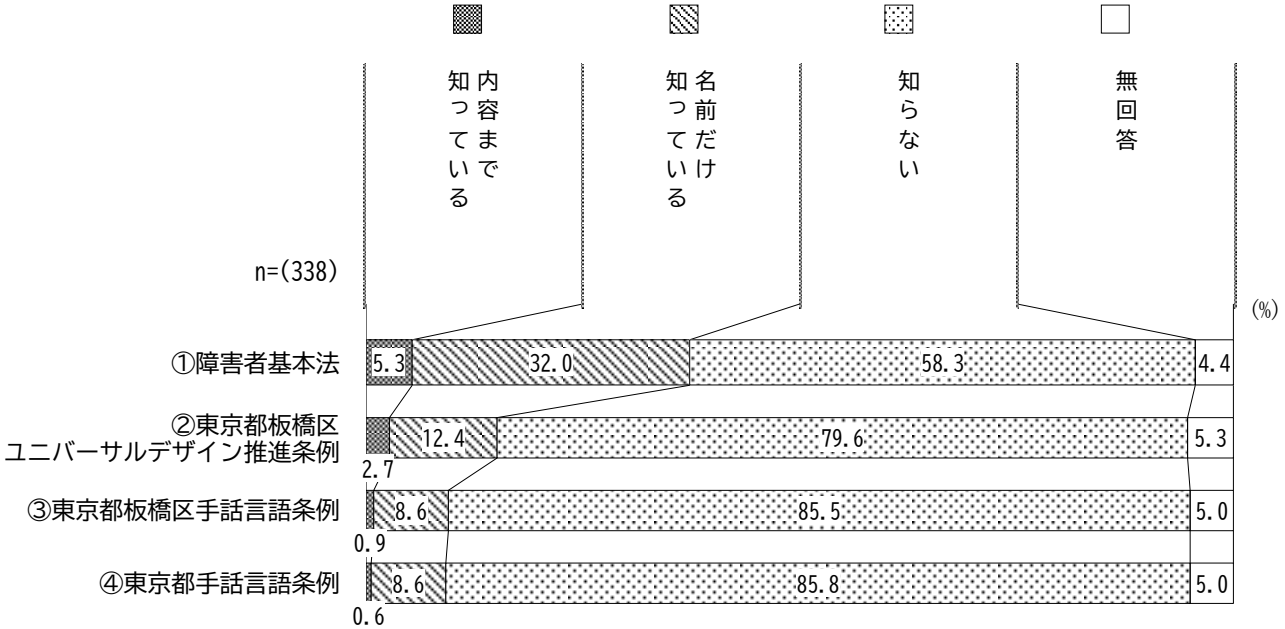
障がいのある人への区民・地域の対応や理解度が「少し足りていないと思う」（25.4%）、「全然足りていないと思う」（25.7%）を合わせた「足りていない」（51.1%）は過半数となっています。一方、「足りていると思う」と答えた人は5.0%と低くなっています。



（５）障がいなどに関する法律や条例の認知度

問18　障がいなどに関する次の法律や条例を知っていますか。（○はそれぞれ１つ）

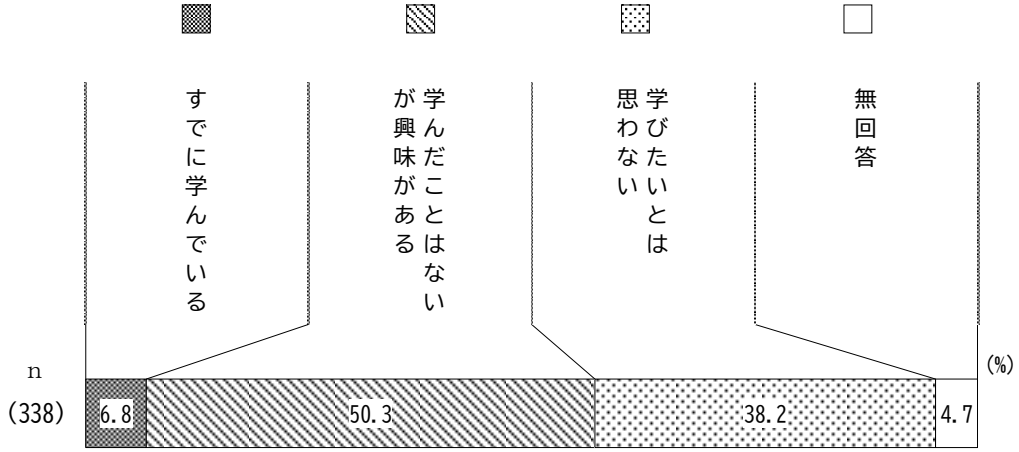
障がいなどに関する法律や条例の認知度は、「内容まで知っている」はいずれの項目も１割を下回っています。「名前だけ知っている」は①障害者基本法が32.0%、②東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進条例が12.4%となっています。



（６）手話を学ぶ意欲の有無

問19　あなたは、手話を学んでみたいと思いますか。（○は１つ）

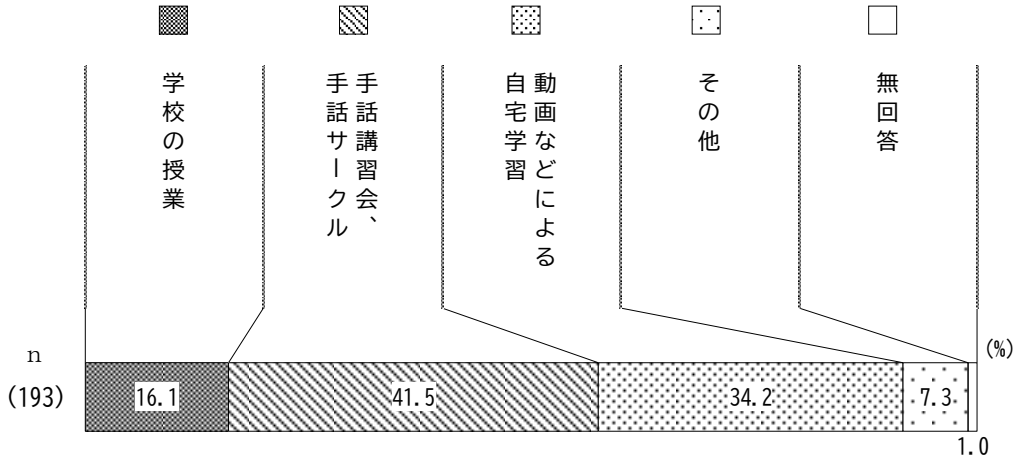
手話を学ぶことについて、「学んだことはないが興味がある」が50.3%と最も高く、過半数となっています。一方、「学びたいとは思わない」は38.2%となっています。



（７）手話の学習方法

【問19で「すでに学んでいる」又は「学んだことはないが興味がある」と答えた方におうかがいします。】
問20　どのような方法で学んでいますか、または学びたいですか。（○は１つ）

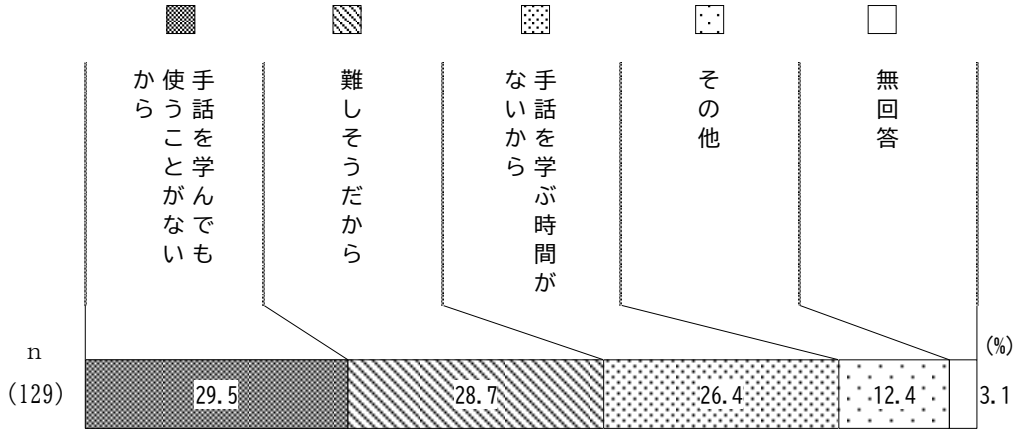
手話の学習方法は、「手話講習会、手話サークル」が41.5%と最も高く、次いで「動画などによる自宅学習」が34.2%、「学校の授業」が16.1%となっています。



（８）手話を学びたいと思わない理由

【問19で「学びたいとは思わない」と答えた方におうかがいします。】
問21　手話を学びたいと思わない理由として、もっともあてはまるのはどれですか。
（○は１つ）

手話を学びたいと思わない理由は、「手話を学んでも使うことがないから」が29.5%と最も高く、次いで「難しそうだから」が28.7%、「手話を学ぶ時間がないから」が26.4%となっています。

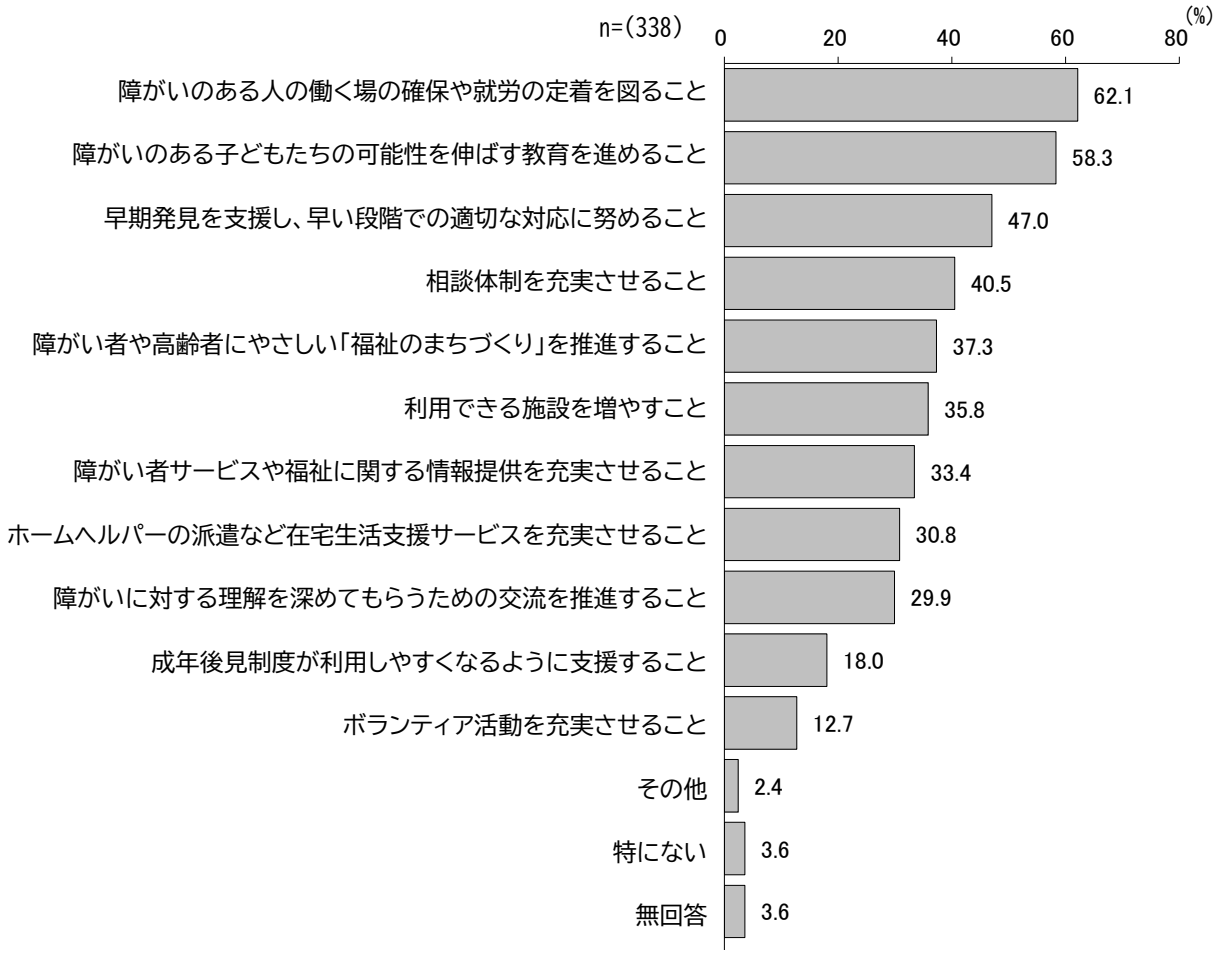


５　まちの環境や福祉施策について

（１）障がい者施策において区に求めること

問22　今後、障がい者施策を進めていくにあたって、区は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。（○はいくつでも）

障がい者施策において区に求めることは、「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が62.1％と最も高く、次いで「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」が58.3％、「早期発見を支援し、早い段階での適切な対応に努めること」が47.0％となっています。



※この問は、回答を複数選択できるため、各回答の割合を足し上げても100％にはなりません。

（２）自由意見

問23　最後に、区の障がいのある人への福祉施策について、ご意見やご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。（形式自由）

自由意見としては、「支援の充実・あり方に関して」が最も多く31件、次いで「障がい者の理解に関して」が21件、「療育・教育に関して」が17件となっています。

以下、寄せられた回答の中からご意見を抜粋しました。

■支援の充実・あり方に関して（31 件）

・どこまでも障がい者本人の希望に添った援助のあり方が必要だと思います。

・現在、私の伯父の面倒を見ていますが、幸い特別養護老人ホームに入れて、助かっていますが、色々の手続をするのに成年後見制度の手続が無いと書類関係などがめんどうで、大変でした。５年間も面倒を見て、その後特養に入れたので良かったですが、血のつながりのない伯父なので、これからもいろいろありそうです。

・理想は第一に自立（自助）第二に族助（家族・親族ｅｔｃからの助け）第三に公助（区や都ｅｔｃからの助け）の順であって欲しいと考えています。本人が負い目を感じることなく生活できるにこしたことはありません。公からの支援は重要で欠かせないものと思いますが、最終的には自立につながる大きな広い視点に立ったものであって欲しいと思います。

■障がい者の理解に関して（21 件）

・障がい者でも高齢者でも、何の差別をもっていない小さいころから自然と触れあえることが大切と思う。触れ合う中で、自然と受け入れられていくことが多いと思う。特別視をしない社会になる様な工夫をして欲しい。

・毎朝、車いすで駅まで通勤されている方を見かけますが、お声かけしたい時もありますがなかなか話す勇気がありません。地域の人たちが障がいについて理解を深められ、交流が上手に出来ていけたらいいなと思っています。

・障がいのある・なしに関わらず、全ての人に 「自分とは違う人がいる」「自分にもできないことがある」「自分のできることを伸ばしていく」「人のできないことを補う」「いずれ自分もできないことが増える（障がいを持つ）可能性がある」ということなどを啓発していってほしいと思います。

■療育・教育に関して（17 件）

・私もそうですが、あまり障がいについて知らないので、学生も理解できるような区になるために、学校で学べたらいいのではないかなと思います。

・先日、小学５年生の息子が「今日、学校に耳がきこえなくて目が見えない人が来て、お話して楽しかった」と嬉しそうに話していました。普段、交流する機会がほとんど無いので、大

変かとは思いますが、息子の小学校に年に数回お越しいただきたいです。１年生の時は同学年の車椅子の子が来て会話させていただいたそうです。「あの子、元気かな？また会いたいな…」と申しております。交流の機会を増やしていただきたいです。

・福祉施策についての理解が自身不足している為意見がまとまりませんが、教育が大事で親も子も学んで欲しいと思います。本人に会う機会はとても大切だと思っていて、地域の中で声がかけ合えるような板橋区だと幸せです。いろいろ行なっているのだろうけれど知られていないのではないだろうか？町会に１人担当を決めるなどピラミッドの底の部分を広げたいですよね。手話などは学校の中でも充分学べる時間があるのではないだろうか手話ソングとかから入って行けば楽しく学べる。工夫はいっぱいできる、やるか、やらないかですかね。

■バリアフリーに関して（13 件）

・障がい者だけでなく、認知症や難病や長い間病気の親たちの介護をしている家族によりそう体制をはやく構築し、家族の健全を大切にすることが大事です。家族の孤立化をふせいでほしいです。だれにもやさしい福祉の街づくりを願っています。（どんな障がいがあっても行動できる、道路などの整備は早急です）

・公共交通機関のバリアフリー化が進んでほしい。各企業によるサービスなので難しいことはわかるが、鉄道やバスに車いすでも１人で乗れるような環境になればいいのにと思う。近くの大山駅に出入口が狭かったり線路をわたる手段が歩道橋や地下にもぐる通路だったり、車いすやベビーカーはかなり不便だろうと感じる。

・障がいがある人への配慮の一つとして、自転車のマナー違反をもっとしっかりやるべき。それと特に駅周辺は人も多いので電柱の地下への移設をしっかりとして歩道を確保。そもそも、踏切も無くすべきでこのことだけでも事故はかなり無くせる。近年、交通事故死は減らせているようだが、事故に寄る障がい者はむしろ増えていると聞く。事故での障がいを負うことは誰しもあることを普段から認識していくべき。

■アンケート調査に関して（８件）

・身近に障がいを持つ人がいないので、区の福祉施策について深く考えたことはありませんでしたがこのように区民にアンケートを取ってよりよくしようとする取り組みは素晴らしいと思います。頑張ってください！

・学生時代に障がい者について少し学びましたので、理解や知識は、ある程度あると思っていますが、現実的に今何かできている訳ではないので、今回のアンケートは考えるきっかけを作っていただいたと思い、今後何か出来ることはないかと考えたいと思いました。

・このアンケートの「障がいのある人」が、どの年齢帯の人達を指しているのかがよく分からなかった。学齢期の人達と高齢者では答えは違ってくる。 対象は若年層と捉えて、回答した。

■情報提供・相談支援体制に関して（７件）

・障がいのある人のいる家庭では区の施策や、障がい者への理解が深いのに、いない家庭では、家族、地域で障がいのある人への対応も何も、知らない、考えた事がない、という人がほとんどだと思う。もっと、１人１人が障がいなどについて、考える啓蒙運動を区で推進するべきでは。とくに幼児から教育。（障がいを身近に感じる大切）

・様々な障がいに対して、（特に精神発達）、区は学校や地域での正しい知識の普及・啓発の為の講演会を、開催すべきだと、考えます。

・障がいのある方に対する協力をしたい気持ちはあるのですが、出会いの機会や、ニーズを知ることができません。マッチングするしくみを区で運営できないものでしょうか？ボランティアに参加する人のハードルを下げるため、匿名での参加ができるようにする（ただし運営側は参加者の個人情報は掌握する）とより参加者が増えると思います。

■就労に関して（６件）

・就労支援についてはハローワークと積極的に協力し、それを外に発信することが重要。一般企業就労でどうしても難しい方は、区の福祉施設を充実させ、自宅で何もしていない方をなくしていくこと。

・学生の時は勉強に重点を置きますが、長い人生、本人が生きている間、一番長く過ごすのは就労。学生の時のサポートは身近にありますが、その後（学生終ってから）サポートの場所、障がいを持つ人の回りの人のサポートの仕方を教えて頂きたいです。

・企業の積極的な障がい者雇用、作業場などで働く方の賃金見直し（アップ）、企業で途中で障がい者になった方も継続して雇用すること。私は職場も板橋区です。職場の障がい者の方と接することがあります。 区として、後押ししていただきたいです。

■その他（16 件）

・今日初めて、資料いただいたので意見はありませんが、少しでも興味をもって、考えたいと思います。

・障がいがあるないにかかわらず、皆んなが楽しく日々の生活が出来るような、社会地域になってほしい。

・他力本願というわけではありませんが、プロにお任せします。親が福祉関係の仕事をしていたので、大変さがわかります、ご苦労様です。

・一般の人だと交流する機会があまりないと思われますので、区役所の皆さんが、一人でも多くの方に前向きに、なれるよう触れ合ってくださればと存じます。

板橋区障がい者実態調査

調査報告書

刊行物番号
R04-164

令和５年３月

【編集・発行】〒173-8501 板橋区板橋二丁目66番１号
TEL 03-3579-2361　FAX 03-3579-4159
f-keikaku@city.itabashi.tokyo.jp